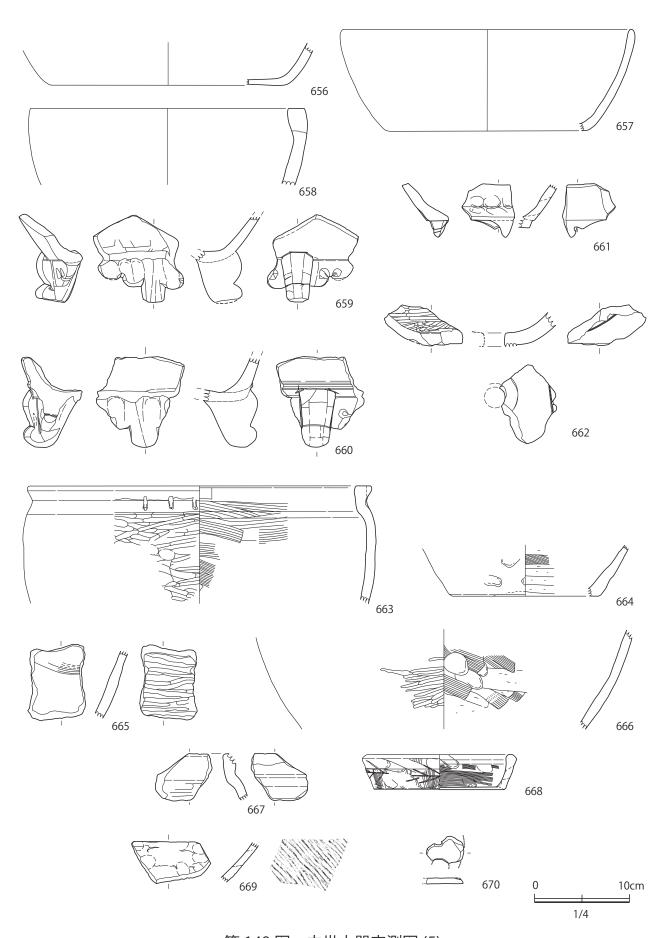
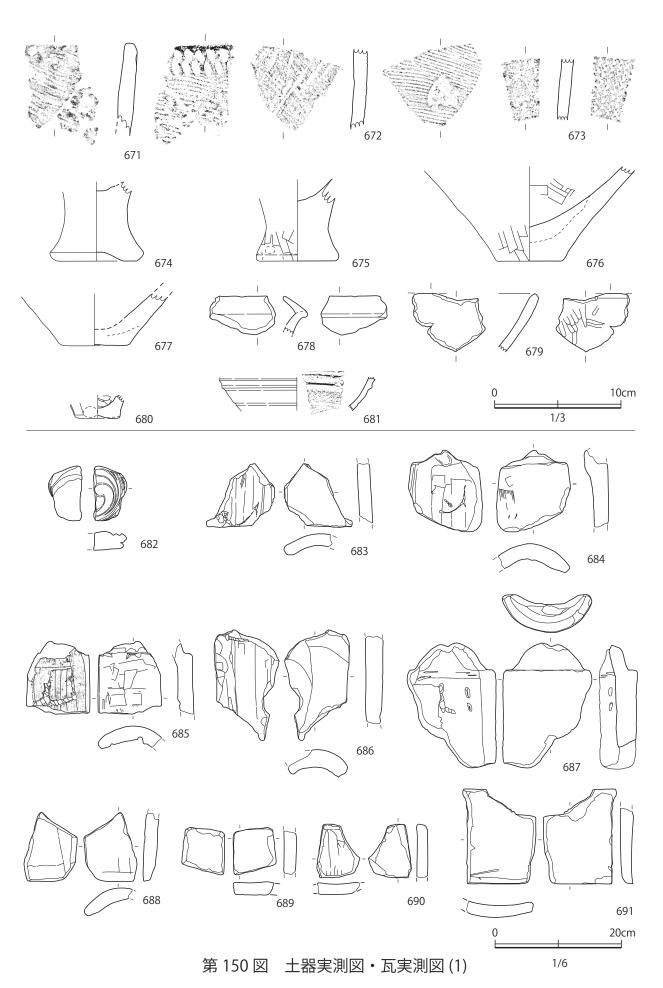
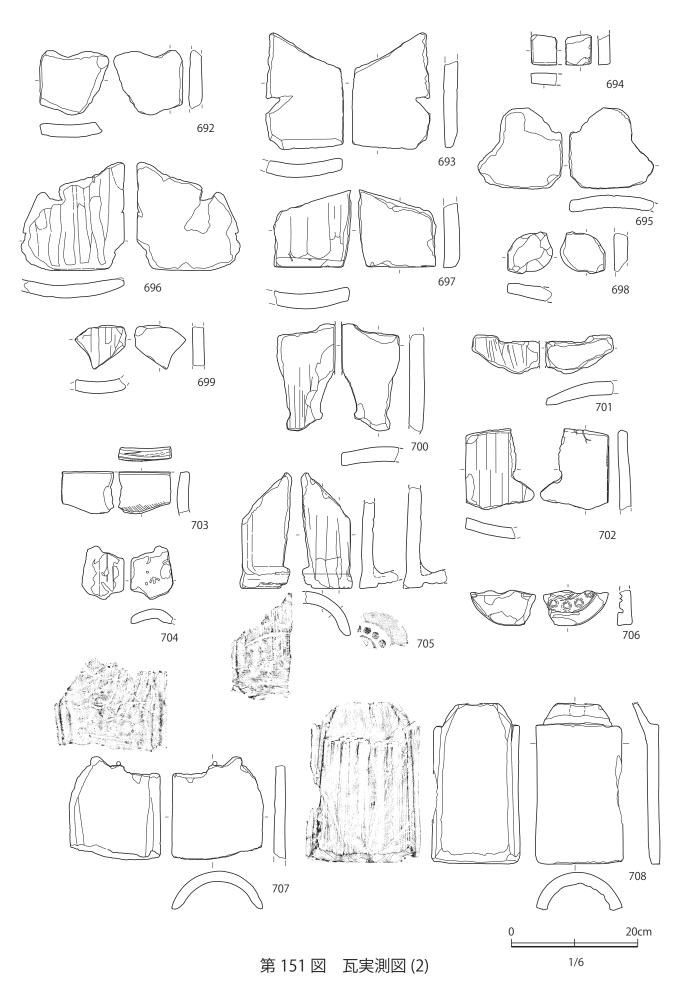


第 148 図 中世土器実測図 (4)

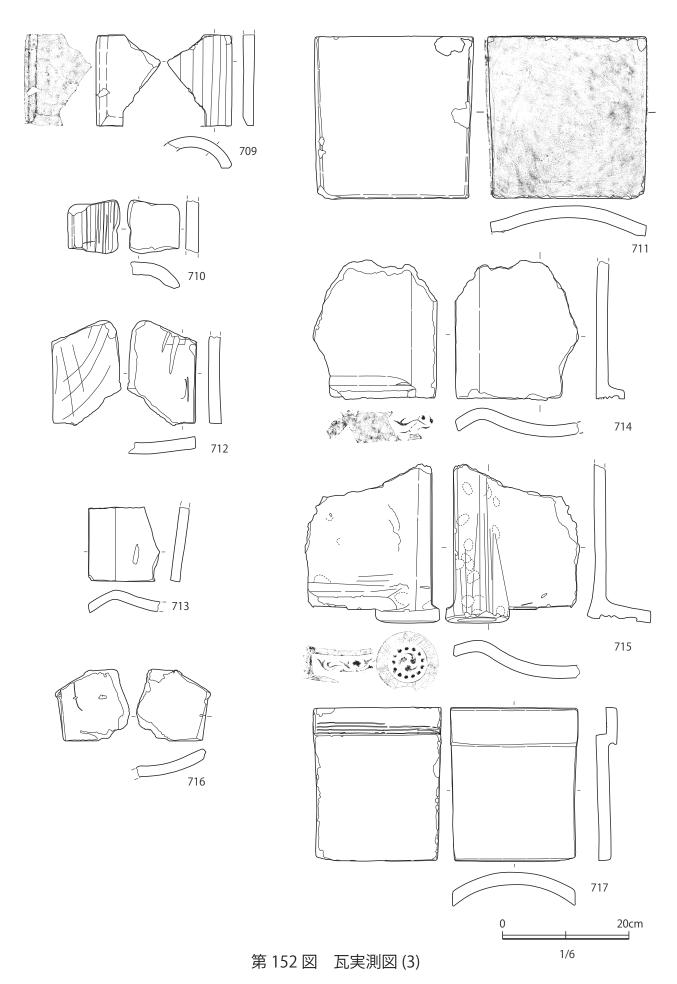


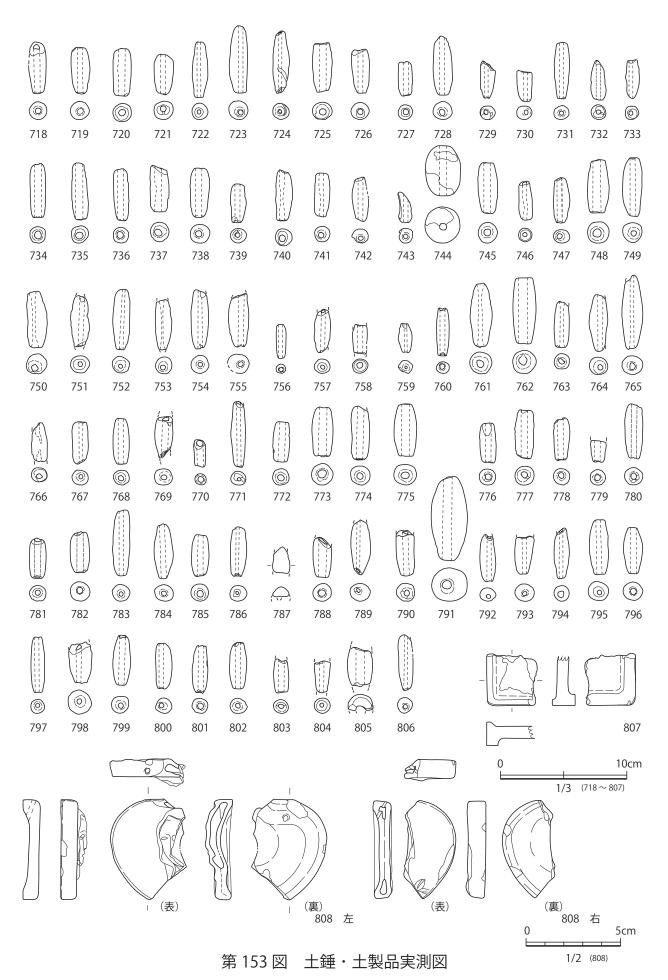
第 149 図 中世土器実測図 (5)





- 219 -





- 221 -

第5節 金属製品(中近世)

(第154~156図)

1 金属製品 (第154~156図:809~908)

概要 銅製品・鉄製品が表土・耕作土をはじめ遺 構内から出土している。

古銭 (809~858) 近世以前の銭貨は 76 枚出土 した。うち中世は 26 枚、近世は 33 枚、不明 17 枚である。多くが表土や耕作土層から出土したが、 土坑や近世墓からのまとまった出土も見られる。

中世は、開元通寶・元祐通寶・紹聖元寶・大観通 寶・政和通寶・至元通寶・洪武通寶・永楽通寶・宣 徳通寶を確認し、南宋・北宋・明代に初鋳年を得ら れるものであるが、中世ではこれらの銭貨を母銭と した模鋳銭が多数流通するため本遺跡出土銭貨につ いても模鋳銭の可能性がある。

しかし、本銭と模鋳銭との区別は素人目に難しく、 本書では明記するに至らない。なお、観察表中では 本銭の初鋳年を示す。

近世は寛永通宝のみで、ほぼ全てが一文銭であり四文銭が1枚(838)出土している。一文銭は1期から3期まで確認でき、1期の古寛永が多い。

また、3期では鉄銭や背に「元」字を持つものも 出土した。四文銭は真鍮製で波紋は11波である。

銅製品 $(859 \sim 872)$ 年代については不確定なものが多いが、ほぼすべて近世に属すると思われる。 第 $(859 \sim 861)$ 861 は蛸もしくは蜘蛛を浮き彫りにした装飾が施されている。

目貫 (862) 刀の柄への装飾金具で、不明瞭だが 花を組み合わせた文様である。

蝶番 (863) 円形の蝶番である。

飾金具 $(864 \sim 868)$ 曲輪 K-SD5 出土の飾金具である。袈裟金具と思われる。座金と鋲からなり、座金に菊文を描き鍍金を施す。

鋲頭には金は見られず、座金外面にのみ鍍金している。鋲頭はアーチ状の太鼓鋲で、鋲足は残るものが少ないが、2つに割れる。

環金具 (869) 両端先細りの棒を楕円形に曲げた もので、外面に鍍金を施す。

煙管 (870 ~ 872) 雁首で 19 世紀以降のものと考えられる。

2 鉄製品 (873~905)

釘 (873~898) 896 を除いて全て断面方形の 和釘である。基部上部を叩き潰して折り曲げる巻頭 釘が多い。894 は両端が先細りになっており、合釘 と思われる。

873~890は近世墓出土であり、木棺の木質が 銹化し残存する。木質は頭部から1.0 c m前後で繊 維方向が変換しており、木棺材の厚みが推測される。

繊維方向は上部が横方向、下部が縦方向のものは、ほとんどに見られるが、873・879の下部は斜め方向である。南側曲輪群の南端に位置する「中山遺跡」の出土遺物にも同様の状況が見られた。

897・898 については大型の釘で、898 は断面長 方形である。

鎹 (899・900) 両者ともに半分を欠く。断面は 長方形でやや厚みを持つ。火打金の可能性もある。

穿孔のある鉄片 (901) 全体形は三角であるが、 左側は欠損している。穿孔があることから、飾金具 の可能性がある。あるいは、形状から火打金の可能 性も考えられる。

紡錘車 (902) ドーム状の鉄板の中心に軸を通す ものと考えられる。宮崎県都城市の都之城取添遺跡 に出土例がある。

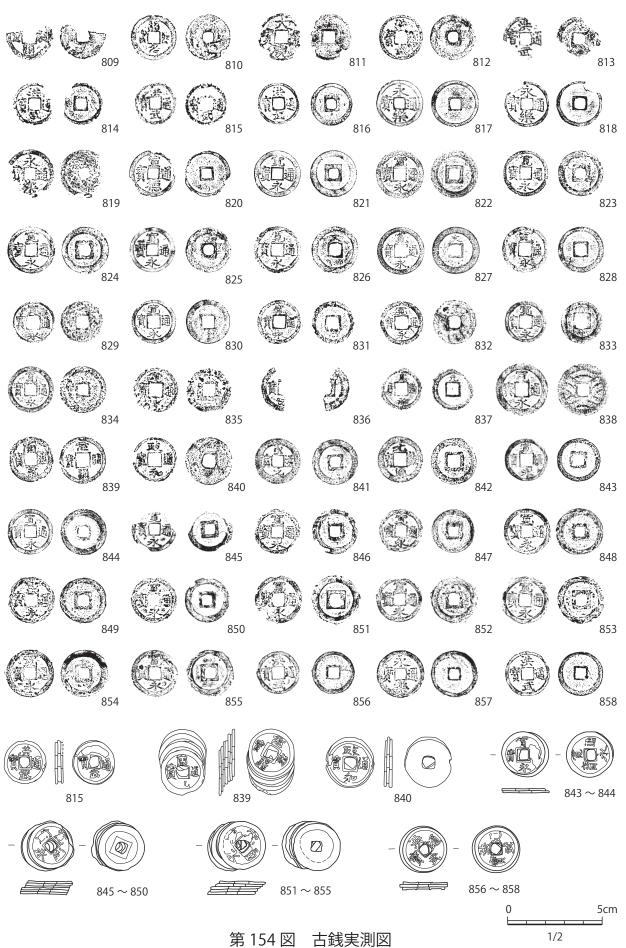
鎌・刀子・ヤリ (903・904・905) 903 は鎌の先端部である。904 は刀子で、片辺がすべて刃部となっており非常に長い。

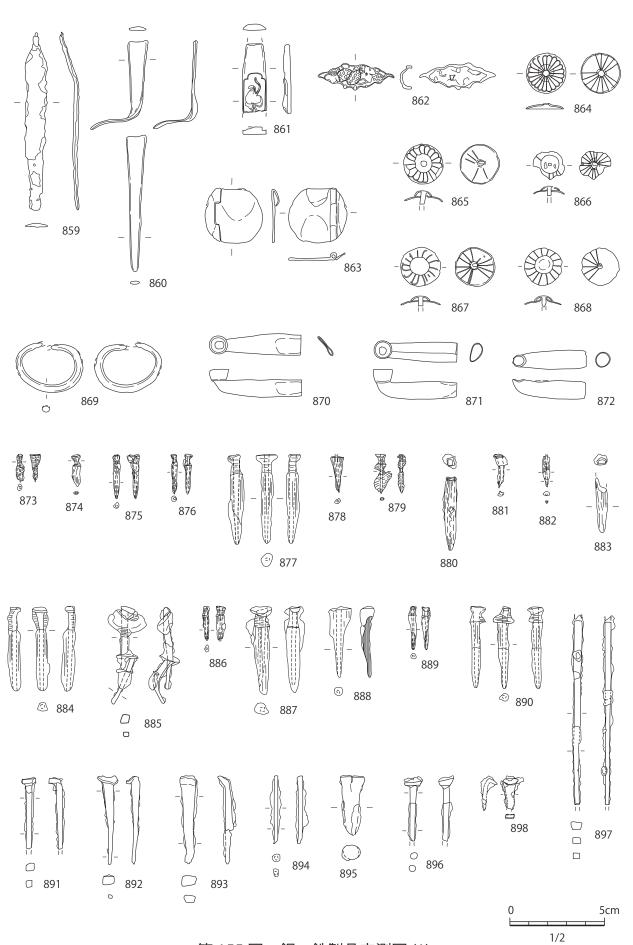
905 は刃部を確認することができないが、両側に 関をもち、先端に向かって尖る形状からヤリと思われる。関から茎まではなだらかに落ちる。両端が欠 損するため全長は不明だが、重量はかなり重い。

鋳造品 (906・907) 906 は鍋である。口縁部内 面が玉縁状となり、器壁は薄い。907 は板状の破片 である。

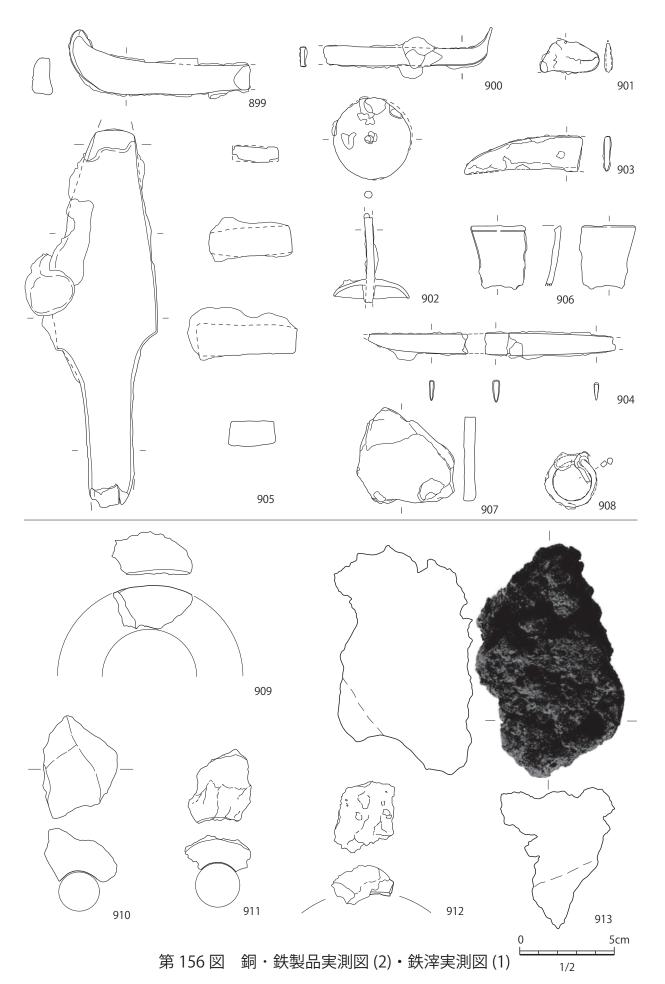
轡 (908) 素環轡である。鏡板と断面方形の引手 もしくは銜の一部が残存するのみである。

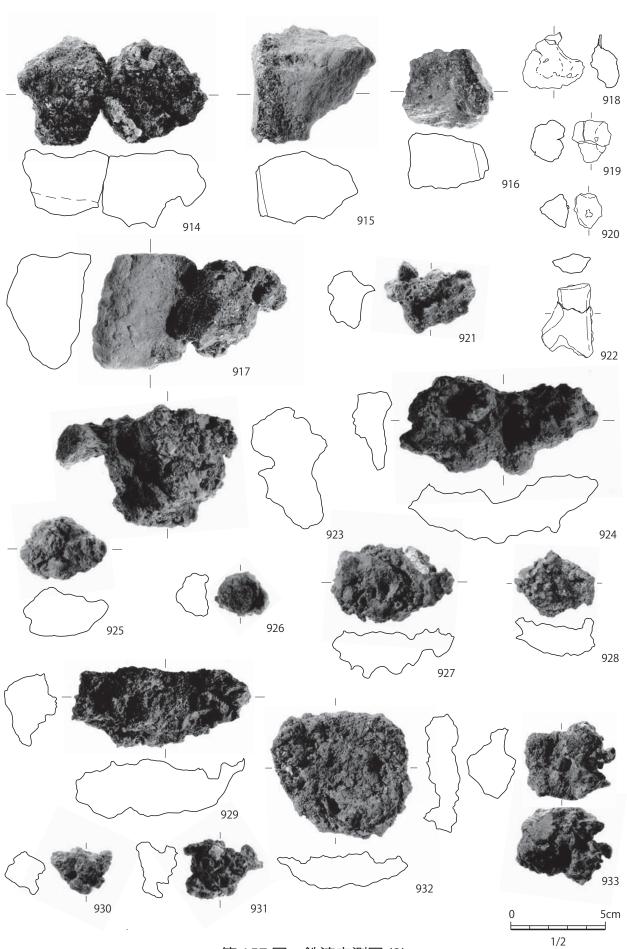
(児玉)





第 155 図 銅・鉄製品実測図 (1)





第 157 図 鉄滓実測図 (2)

第6節 鍛冶関連遺物(第156~157図)

概要 南側曲輪群から出土した鍛冶関連遺物は合計 47点、2130.5 g である。

その内訳は、羽口 4 点 79.4 g、炉壁 4 点 907.5 g(鉄滓が付着する2点 542.0 gを含む。)、鉄塊系遺物 14 点 154.9 g、椀形鍛冶滓 6 点 752.0 g、鉄滓 17 点 236.7 gである。その他、曲輪 M の SC6 と SA2 の埋土をフルイにかけ、微細な鍛冶関連遺物 5.34 gを回収した。図化した遺物は 25 点である。

(第 156・157 図・第 38 表)

1 羽口・炉壁 (第156·157図:909~917) 羽口 (909~912) 910・911 は内径約2cmと 小さめで、内面は被熱により色調が変化している。 909・912 は内径5.6cm、10.1cmと比較的大きい。

炉壁 (913 \sim 917) 大きさの割に重量感がある。 915 \sim 917 の内面はガラス質化しており、強い被 熱をうかがわせる。915 の耐火度は 1,107 $^{\circ}$ で、中 世の鍛冶炉の炉壁としてはやや低いといえる。

2 鍛冶滓 (918~933)

鉄塊系遺物または鉄滓(第157図:918~933)

 $918\sim920$ は SC6・SA2 出土の鉄塊系遺物である。 小型で不整形であり、表面全体を黄褐色の土砂で覆 われている。921 は曲輪 Jの SC1 出土の鉄滓破片、 922 は曲輪 Mの SX1 出土で鉄片とみられる。

923 ~ 926 は曲輪 H の道路状遺構 1 から出土した。 黄褐色の土砂で覆われている。

923・924 は椀形鍛冶滓で、重量感がある。一側面に直線状の破面をもつ。

925・926 は鉄塊系遺物である。925 は小型椀状 で重量感があり、926 は一部が銹化している。

927・929 は曲輪 L の道路状遺構 2 から出土した。 927 は椀形鍛冶滓で木炭痕が付着している。929 は 鉄滓で重量感があり、一部にガラス化が確認される。

928は曲輪Eの道路状遺構1、930は曲輪Kのピット出土の鉄滓で、木炭痕による凹凸がみられる。

931 ~ 933 は曲輪 K の包含層出土の椀形鍛冶滓 である。931 は大きさの割に重量感がある。

932 は一側面に直線状の破面がある。933 は瓦質 土器が付着して出土し、木炭痕による凹凸がある。

(嶋田・松田)

第7節 木製品 (第158~163図)

概要 塩見城跡では、水の手曲輪で多くの木製品が出土した。これは、地下水や湧水が多く木製品が遺存しやすい環境であったためである。木製品は、SS2と窪地状遺構や、SE2・3 内とその周辺より出土した。

木製品の内容は、曲物や柄杓などの**生活用品**と、木杭や柱などの**建築部材**とに大別される。その他、枝葉や竹・樹根、種実に加えて、木片など断片的で形態が不明な資料も出土したが、ここでは製品としての形態をもつものについてのみを報告をする。

なお、木製品の未図化資料は、板状木片 40 点、 棒状 24 点、丸太状 3 点である。

1 生活用品(第158~161図:934~983)

漆器椀 (934~938) 4点出土し、全て図化した。 いずれも両面に漆が残存し、935~937の外面に は赤漆で桐文や木葉などが描かれる。樹種はカツラ、 クスノキなどの日本各地に分布する樹種の他に、中 部地方以北に分布するイヌエンジュがある。

936 は布着せの技法が認められる。外面に残る木 葉文様の描画法は、左側は全て線描により表現する のに対し、右側は一端赤漆を塗り線状に掻き取るこ とで葉脈を表現する違いがみられる。また、漆容器 として再利用されたものと考えられる。

桶 (939 ~ 948) 桶の蓋 (939 ~ 945)、底板 (946· 947) 及び把手 (948) である。

939~945 は本来は同一製品の部材と考えられる。また、942 の表面上部中央に木釘が残存することから、把手が欠如した蓋と考えられる。蓋はスギを板材(板目)に切り出し、各部材を竹製の木釘で組合させる。なお、この製品の復元図を第158 図中に示した。

946・947 は内面に漆が付着し、947 の側面には側板片が付着する。また946 は、表面に残る筋状痕からまな板として再利用された可能性がある。

948 について、板材に接すると思われる 2 箇所は 対称構造をなし、加工は精密である。また、穿孔が 2 箇所あり下部には木片(綴皮か)が残存する。側 面は滑らかな加工で、上部のみ段が残る。

折敷 (949~952) 平折敷 (949) と角切折敷 (951·952) の底板がある。2~3箇所に綴皮が残る。950 の表面には、筋状痕が見られ、946 同様にまな板として再利用された可能性がある。

曲物 (953 ~~ 973) 曲物の底板 (953 ~ 957) と側板 (958 ~ 973) である。

曲物の底板は、桶に比べてそれぞれ規格が小さく 平滑である。特に側板は 0.2 ~ 0.7 mmと薄いために 欠損部が多いが、幅広のものと幅狭のものの二者が 認められるので、蓋の可能性が考えられる。

このうち 954 の側面には 3 箇所に木釘が残存するが、953・955 の 2 点については見られない。側板材の多くは内面に幅 $1.5 \sim 8$ m間隔の平行線(ケビキ線)を刃物でつけ湾曲させている。また、963・964 は煤が付着し火を受けたとみられる。

その他、973のように漆らしき黒色物が付着するものが確認された。

柄杓 (974・975) コウヤマキを素材とする柄が2 点出土した。それぞれ先端下部に楔を打ち込むための 孔がある。なお、曲物の底板のうち、955 は同じ出土 区で同一素材であるため、同一製品の可能性がある。

糸巻(976) 1 点のみ出土した。中央は相欠き仕口のかみ合わせ部分である。

本来は、同様の部品と共に十字をなす製品であるが、その対応する部材は出土していない。軸孔周囲に背面からの穿孔があるが、うち4箇所は貫通、3 箇所は未貫通である。

特(977) 1点のみ出土した。棒状で中央に長方 形の孔がある。両端部の処理が甘く、破損後に二次 利用された可能性がある。

綴皮(978) ヤマザクラ、もしくはカバの樹皮である。製品として取り上げた1点のみ出土した。

不明木製品 (979 ~ 982) 979 は全面を幅 3.5cmm 単位で削りだし、円柱状に加工している。

981 は角を面取りされており、製品の一部分であったと思われるが、下端部は意図的に切除されているため転用品と考えられる。なお、下端部の工具痕は比較的滑らかなのに対し、側面は木目が毛羽立つような状態であることから、使用した工具に違いが見られる。982 は木簡状の形態をなす。

井戸関連遺物 (983) SF1 底面付近にある井戸枠 に用いられた刳抜容器である。直径 60cm弱のクス ノキを刳り抜き成形したものである。上端・下端に は底や蓋を固定する穴などは確認できなかった。外面は外皮に近い状態である。部分的に腐朽しており、下部付近はやや厚みがある。

2 建築部材 (第 161 ~ 163 図:984 ~ 1092) 概要 垂木・胴木及び SS2 の胴木として用いられ た柱転用材・木杭と、この背面盛土中や SE2・SE3 などの遺構に伴って出土した杭列である。

柱材 (984・985、991~993) 985 は全面に加工を施し、最大7面が確認できる。991~993 は SS2 に伴い出土した。991・992 は木杭を胴木に転用したものである。993 は全長 2.4 mになる大形柱転用材で、根元部分が欠損し上端部には枘が残る。中位付近には2cm四方の枘穴が6箇所みられる。

木杭 (986~990、994~1092) 水の手で検出された SE2 や SE3 などの遺構に伴い 179 点出土した。図化した木杭はそれぞれ、SS2 の胴木 (986~990)、SS2 に伴う杭列 (994~1013)、SE2 に伴う杭列 (1014~1087)、SE3 に伴う杭列 (1088~1092) である。先端部分は土中保存のため比較的残りは良いが、上端部分は腐食や炭化によって失うものが多く、本来の全長を知り得る資料は少ない。

これら木杭の分布状況は、第 $38 \sim 41$ 図を参照 されたい。また、未図化の木杭 35 点の計測表については別途、第 43 表に掲載している。

1075 は、枘穴と思われる加工痕があり柱材を転用した杭で、柱材の4分の1程度を縦に分割して利用している。1077 は上端部を平滑に削っており、柱材を転用した可能性が高い。1087 は角柱状に成形するが、その際の剥離が顕著である。

木杭の加工法 枝または樹幹部分を使用材とし、 分枝を切り落とした後に、手斧といった金属製利器 で木口面を集約的に加工して杭の先端としている。

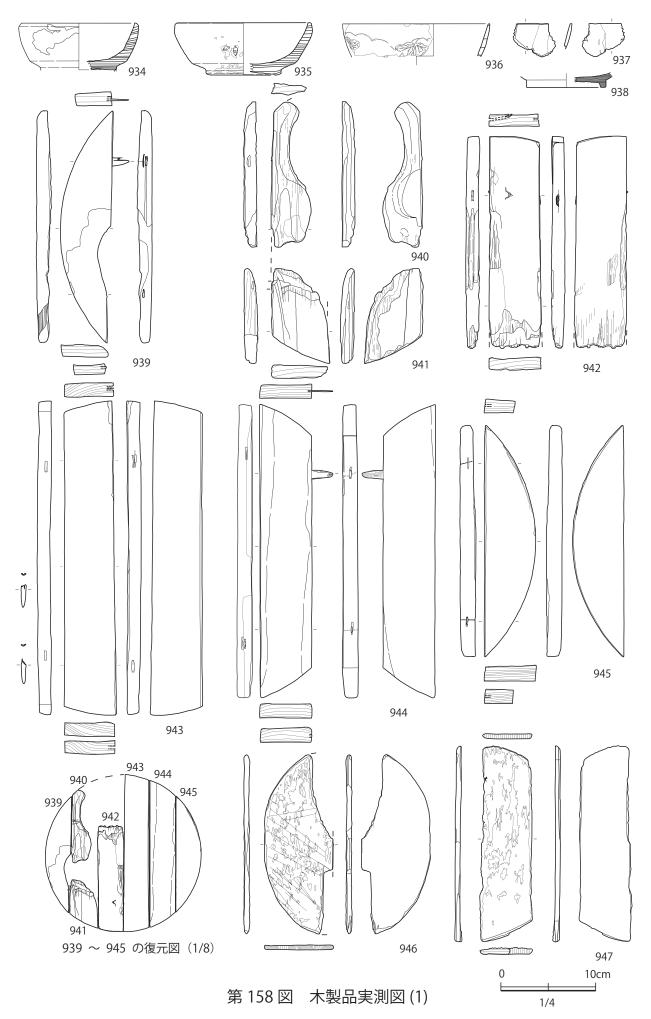
木杭の分類 先端の加工形態に着目すると、以下のように分類された。木杭 179 点のうち、A 1 類 84 点、A 2 類 53 点、B 類 8 点、C 類 18 点、分類 不能 16 点である。

A1類 杭先端を円錐形に加工したもの

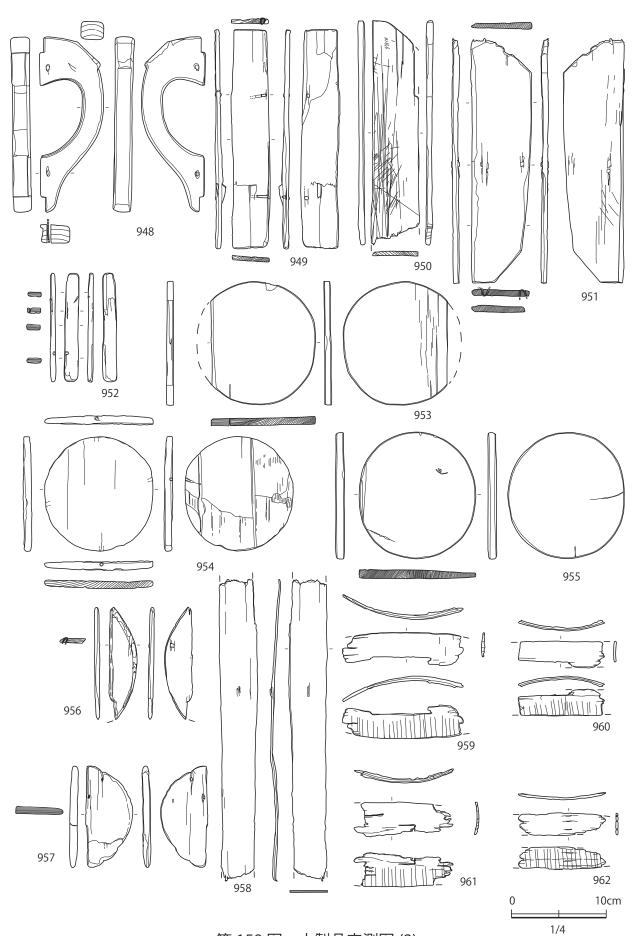
A 2類 断面形が扁平刃状であるもの

B類 A類に比べ先端が水平に近いもの

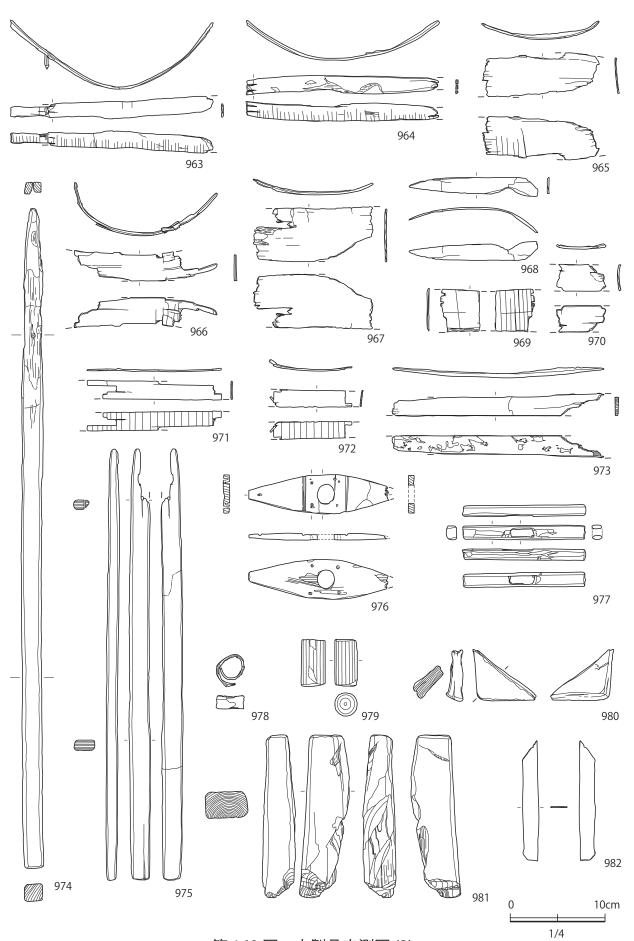
て類 腐食・欠損等で先端の形状が不明なもの 木製品の性格 生活用品には木桶・柄杓といった 貯水(蔵)具、漆器椀や折敷などの食膳具、糸巻な どの紡織関連の日常用品が出土したことは、土器・ 陶磁器類との補完関係を知る上での好資料である。 さらに、塩見城内は緊急時の駐屯的な空間ではなく、 常駐的であったことも示唆している。 (小船井)



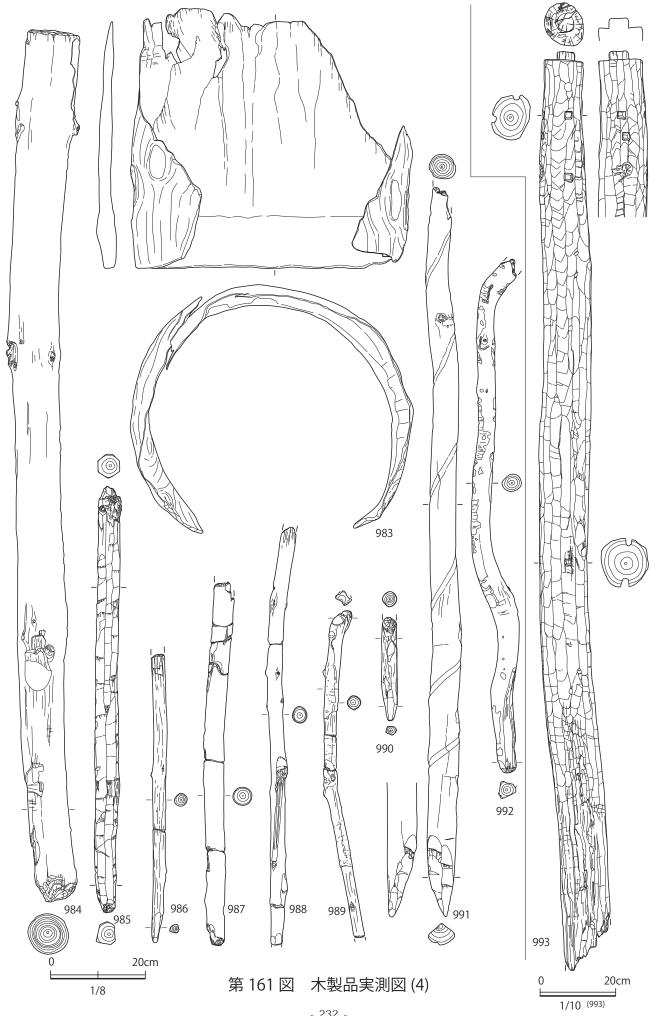
- 229 -

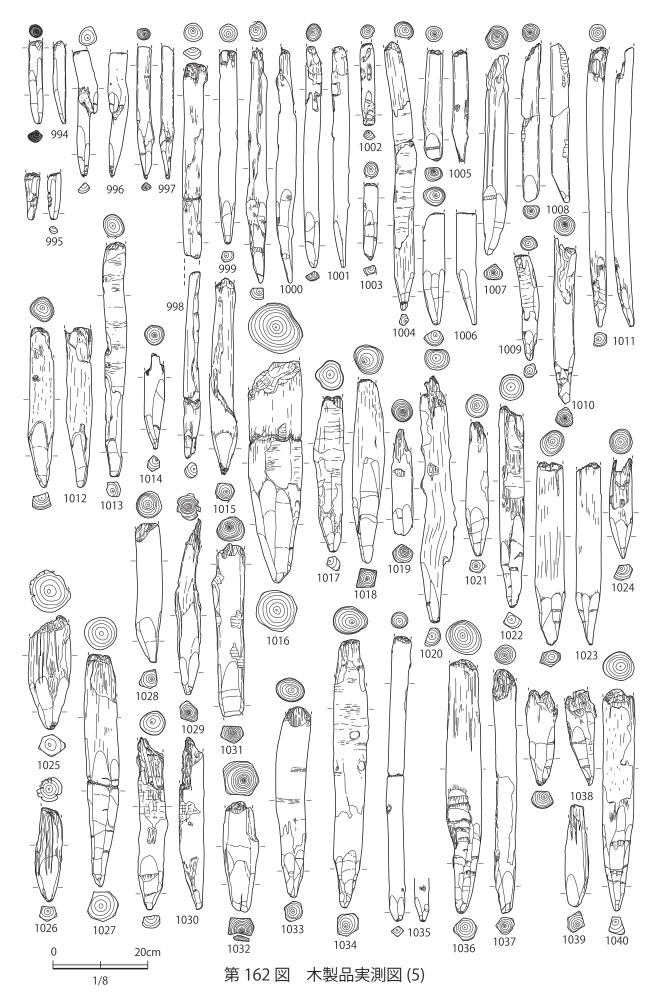


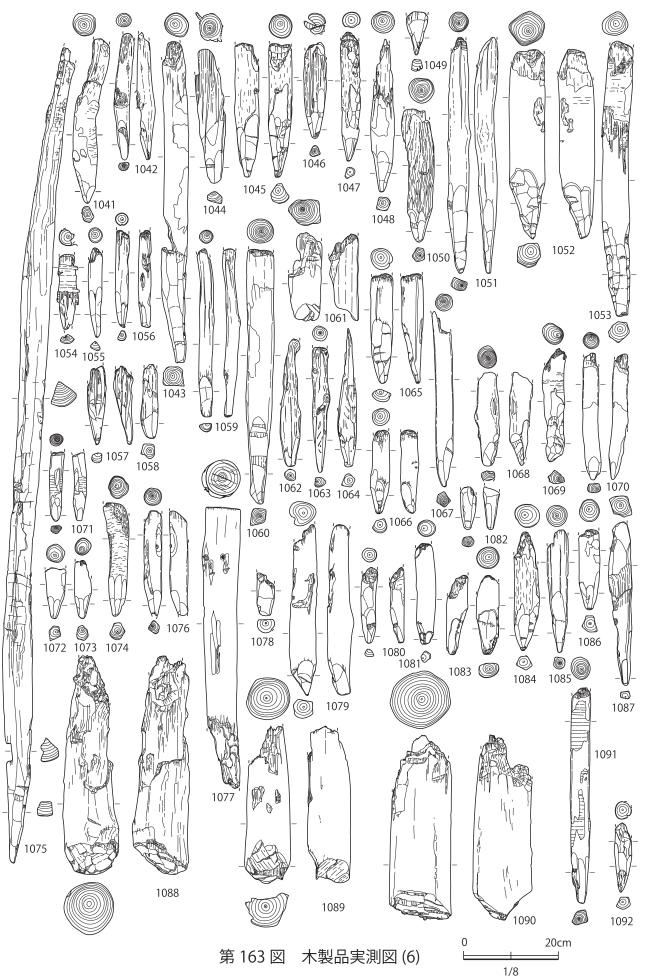
第 159 図 木製品実測図 (2)



第 160 図 木製品実測図 (3)







第8節 石器・石製品・石塔

(第164~175図)

1 石器 (第164図:1093~1138)

概要 塩見城跡で出土した後期旧石器時代から 縄文時代にかけての石器について図化・報告する。 個々の属性や特徴は、遺物観察表を参照されたい。

ナイフ形石器 (1093) 1093 はチャート製の縦 長剥片を使用する。

楔形石器(1094) 1094 は赤チャート製で、長 方形で上下端より加撃している。

台形石器(1095) 1095 はチャート製の幅広不 定形剥片を横位に用いる。

剥片尖頭器(1096) 1096 はホルンフェルス製の縦長剥片を使用する。

削器 (1097・1098) 1097 はホルンフェルス製、 1098は姫島産黒曜石製の縦長剥片素材を利用する。 掻器 (1099) 1099 はホルンフェルス製の幅広 剥片素材を使用し、刃部は一部欠損する。

石錐(1100) 1100 は姫島産黒曜石の不定形剥片 素材を使用する。

打製石鏃 (1101~1113) チャート製は凹基無茎鏃 (1101~1105) と平基無茎鏃 (1106~1111) がある。 1108 は先端部が鋭利ではなく、基部成形も不十分であることから石鏃未製品とする。 1110 は製作時に欠損し廃棄されたものである。 1112 はホルンフェルス製の凹基無茎鏃、1113 は頁岩製である。

石斧 (1114~1116) 1114・1115 は打製石斧、1116 は刃部磨製石斧であり、いずれもホルンフェルス製である。1114 は不定形剥片素材の縁辺を二次加工するもので、1115 は周縁より剥離調整後、稜線を調整している。1116 は周縁を成形後、稜線部分を部分的に剥離成形する。

二次加工剥片 (1117~1119) 全て横長剥片素材 の打点と反対側縁辺部に二次加工を行う。

石核(1120~1121) 1120 はホルンフェルス、 1121 は日東産黒曜石を石材とする。1120 は背面 に自然面を残す。1121 の背面は一枚の剥離面だが、 表面、左側面には小さい剥離を複数回行う。

切目石錘(1122) 1122 はホルンフェルス製の扁 平礫の長軸部両端に切目を入れる。

微細剥離剥片、剥片 (1123~1125、1126) 1126 は ホルンフェルス製である。1123、1124 は縦長剥 片を使用し、1125 は横長剥片を使用している。 **敲石**(1127~1128) 1127 は砂岩製で上端、右側上面、下端に敲打痕がある。1128 はホルンフェルス製で左側面に敲打痕がある。

凹石 (1129~1136) 1129の石材は尾鈴山酸性岩類で正面、裏面にアバタ状の敲打痕がある。 1130は砂岩製で、全体に鉄錆状のものが付着するが、使用時のものかは不明である。

台石(1137~1138) 1137・1138 は、砂岩製の 台石で、正面に敲打痕がみられる。

2 石製品 (第 165 ~ 170 図:1139 ~ 1230)

概要 石鍋や石臼、砥石などを石製品として報告 する。石筆・石盤は現代に、それ以外の石製品は概 ね中世に属すると考えられる。

滑石製石鍋 (1139~1141) 1139~1140 は口 縁直下に突帯を持ち、工具による上下方向の加工が みられる。1141 は突帯を持たないもので上下方向 の工具痕を消すように横方向の削りがみられる。

茶臼 (1142~1151) 上臼 (1142~1147) のうち、1142~1145 は砂岩製、1146·1147 は凝灰岩製である。下臼 (1148~1151) は、1148·1149 が硬質砂岩製、1150·1151 は砂岩製である。

上白のうち、1142 は側面に成形時の工具痕を残す。破砕面を除いて加熱による剥落がある。1143 は全体的に赤化する。1144 は副溝6本の構成で、凹みから供給口内面、破砕面まで赤化する。1145 は副溝は8本の構成で、側面は大変滑らかに磨かれ、破砕面は全体的に赤化する。1146 は副溝は8本構成で、台座は断面台形の方形あるいは長方形で台座直下には台座を作り出す過程での工具痕がある。1147 は副溝は4~6本で、台座はほぼ方形である。

下臼のうち、1148 は受け皿・脚台外面・底面は粗くやや縦斜め方向の凹凸のある工具痕が連続する。底面は平底で中央に向かい若干上げ底となる。全体に弱く赤化する。1149 は受け皿部分で、受け皿内面から縁は研磨され、外面は敲打成形のままである。1150 の脚台外面は粗くやや斜め方向の凹凸のある工具痕がめぐる。底面は上げ底になっており、軸孔は下開きで貫通している。受け皿部分は立ち上がり部分から全周に渡り打ち欠かれる。臼面は副溝7本構成である。1151 は副溝9本構成で、約1/2が欠損しているが、底面は平坦で、軸孔は下半分から台形状に広く貫通している。

挽臼 (1152~1166) 上臼 (1152~1157) と下臼 (1158~1166) がある。

上臼のうち、1153 は副溝は3本構成、1154 は 副溝4本構成である。1155 は溝が無くなるほど使 い込まれ、外周縁ほど強く摩滅する。1156 も溝が 無くなるほど使い込まれる。

下臼のうち、1158 は副溝 4 本構成で、溝は太く雑である。臼面は弱い凸面を成す。1162 は推定径 31cm で臼面中央に凹みがあり、強く摩滅する。1163 も使い込まれ、外周縁は特に強く摩滅する。

 $1164 \sim 1166$ は破砕が著しい。1164 は軸孔は残存する。

石鉢(1167) 推定底径 10.5cm で内面は口縁部 より工具痕が連続し、内面底は平坦に仕上げられる。 外面立ち上がりは粗い工具痕のままで底面は平坦に 仕上げられる。外面から底面にかけての赤化状況か ら、加熱により破砕したものと思われる。

軽石製品 (1168) 平面半月形の軽石に V 字の刻線が施され、背面は枝分かれをする。

鞴(1169) 1169 は凝灰岩製の鞴で中央部に直径約3 cm の穴がやや斜め方向に開けられる。外形は端部が黒く融解し中央は赤く熱変色をしている。

砥石 (1170~1209) 棒状砥石 (1170~1181) は、 縦長で、表裏のみならず、左右面にも砥面が見られ るものがある。板状砥石 (1182~1204) は、四角形に 近いものが多く、主に表裏面に砥面があり、器厚は 薄い。礫状砥石 (1205~1209) は、礫面を残し大きさ、 形も不定形である。

石皿(1210) 1210 は砂岩製の石皿で、表裏面に 4条の磨痕と水成による鉄分の付着がある。

火打石 (1211 \sim 1224) 石材は、チャートと石英 である。稜線はつぶれ、錆も認められる。

数珠玉(1225) 水晶製の玉である。近世墓(K-SD5) より出土した。断面形は、ソロバン玉状で中心に穿孔が施される。

硯(1226) 1226 は頁岩製の硯で内面は使用による減りがみられ、外面底部の角は丸く削り出す。

石筆(1227~1228) 1127 は滑石製である。下端 は使用により先細りの多面体となる。1128 は石英 製である。上端部分は平坦に削りだす。

石盤(1229) 角は丸く面取りされている。

石仏(1230) 縁内にタール状の黒褐色物質が付着する。裏面は粗いノミ痕が残る。

3 石塔(第170~175図:1231~1295)

概要 今回の調査区内では五輪塔群は存在しなかったが、水の手曲輪のSS1・SS2やSF1、SE1では 五輪塔、板碑などの石造物の部材が転用されていた。

これらの部材は、火輪 43 点、水輪 6 点、地輪 73 点と五輪塔の部材が最も多く、宝篋印塔、板碑 なども出土した。空風輪の転用はない。石材は阿蘇 溶結凝灰岩 (Aso 4 由来) が使用されている。これ らの石造物は、転用材という性格のためセット関係 は不明であり、紀年銘も見られない。

曲輪Gにおいても、少数ではあるが火輪・地輪等が出土している。報告に当たり、部材ごとに整理と分類を行い、このうち、遺存状態のよいものを掲載した。 宝篋印塔(1231) 1231 は宝篋印塔の笠である。 上下ともに欠損する。残存部分より三段の階があり、 三段ともに5cm程の高さを持つ。

空風輪(1232) 1232 は凝灰岩製である。この 1 点のみ曲輪 G 表土層からの出土である。先端部分はやや丸みを帯びた形状で、胴部に一条の深い溝が彫られている。

火輪(1233~1257) 火輪は器高の高低、枘穴の 形状、軒の反りから分類した。なお、器高について は P.269 に示した計測値より、法量比 (B/o) を求め、 分類を行った。詳細は、第 48 表を参照されたい。

・器高 (B)

1類 低いもの(法量比 1.0 以下)2類 高いもの(法量比 1.1 以上)

・枘穴の形状 (cn)

A類 円形、B類 方形、C類 多角形

・軒流れの有無 (h)

a類 反るもの、b類 直線的なものc類 膨らむもの

・軒の形状 (k)

 α 類 直線的 (軒の下端部が反るものは α ´類)

β類 斜め (軒の下端部が反るものは β $^{\prime}$ 類)

1234 は裏面に水輪の受け部とみられる凹みを持つ。1234 と同様に1243 も水輪の受け部を持つ。1252 は円形の枘穴を持ち、裏面に二段の段彫り状の受け部を持つ。1253 は八角形の枘穴を持ち、表面にわずかな工具痕を残す。

 $1255 \sim 1257$ は SE1 の転用材である。上部を打ち欠き、地輪と同程度の厚さに調整した状態で転用されていた。1243 は SS2 の転用材である。

水輪(1258~1263) 水輪は器高の高低、納骨孔 の形状により分類した。器高については水輪と同様 に法量比を求めた。詳細は、第51表を参照されたい。

・器高 (C)

1類 低いもの(法量比0.4以下)

2類 高いもの(法量比0.5以上)

・納骨穴の形状 (u)

A類 孔なし **B類** 円形 **C類** 方形 1262 は円形、1263 は方形の納骨孔をもつ。

地輪(1264~1288) 地輪は受け部の形状、法量 比により器高の高低により分類した。器高について は、法量比を求めた。詳細は、第 52-1,2 表を参照 されたい。

・器高 (D)

1類 低いもの(法量比0.4以下)

2類 高いもの(法量比 0.5 以上)

・受け部の形状

A類 凹みなし、B類 円形、C類 方形

 $1264 \sim 1276$ の表面には、細かな調整痕が残る。 1276 は側面に梵字が書かれている。 $1277 \sim 1287$ は円形の受け部を持つものである。

1276、1286、1287 は側面に梵字が書かれており、 1286 には側面 4 面全てに梵字が書かれる。梵字の 解読結果は、観察表 (第52表-2)を参照されたい。

1285 は裏面にやや方形の凹みを、1288 は方形の凹みをもち、工具痕が良好に残る。

1280 は漢字「経」か一文字を認める。

板碑(1289~1293) 1289~1293 は板碑の頭部で、1289は正面形山形が低く、直線的な三角形で、二条線の浅い切り込みがある。

1290 は正面形山形が高く、直線的な三角形で、 二条線の深い切り込みがある。1291 は先端部の三 角形部分は欠損しているが、額部がわずかに確認で きる。1292、1293 は身部である。

墓石等(1294·1295) 1294 は近世墓の墓石、1295 は台石である。1294 は「元文四己未年 心慧宗信士位 二月十二日 俗(名大)八」の銘がある。元文四年(1739)の紀年銘があり、江戸時代のものである。形状は櫛形で石材は砂岩製である。

1295 は花崗岩製の台石で、墓石の受け部と、楕円形の水鉢があり、2箇所の穿孔がある。

(田中達)

五輪塔表面に残る加工痕跡について

本遺跡出土の五輪塔部材は、形態的なバリェーションに加えて部材の表面には鉄製利器 (ノミなど) による加工痕が観察される事例が多い。その加工痕について簡単に概要を示すことにする。

(道具と使用法) 火輪の底面や水輪・地輪の上下面に残る加工痕からノミ状工具の使用が推測できる。工具の先端部形状は、平坦と浅く湾曲した丸ノミ状の二者がある。その幅は両者ともに3cm前後で、その削り痕跡の軌跡は、石材面に突き立てて抉りだすような短い場合と、削り出すような長いストロークを認める。1272 は平坦面を粗く削りだす、1239 は平坦面を平滑にしていく際の痕跡である。

(削り調整の方向) 石材面を平坦に整形する際の工具の方向性にも規則性があり、5パターンほど認められる。まず、4辺の縁からそれぞれ中心部に向けて削りを入れる例(1234・1274)があり、1243・1247では時計回り方向に加工が入る。

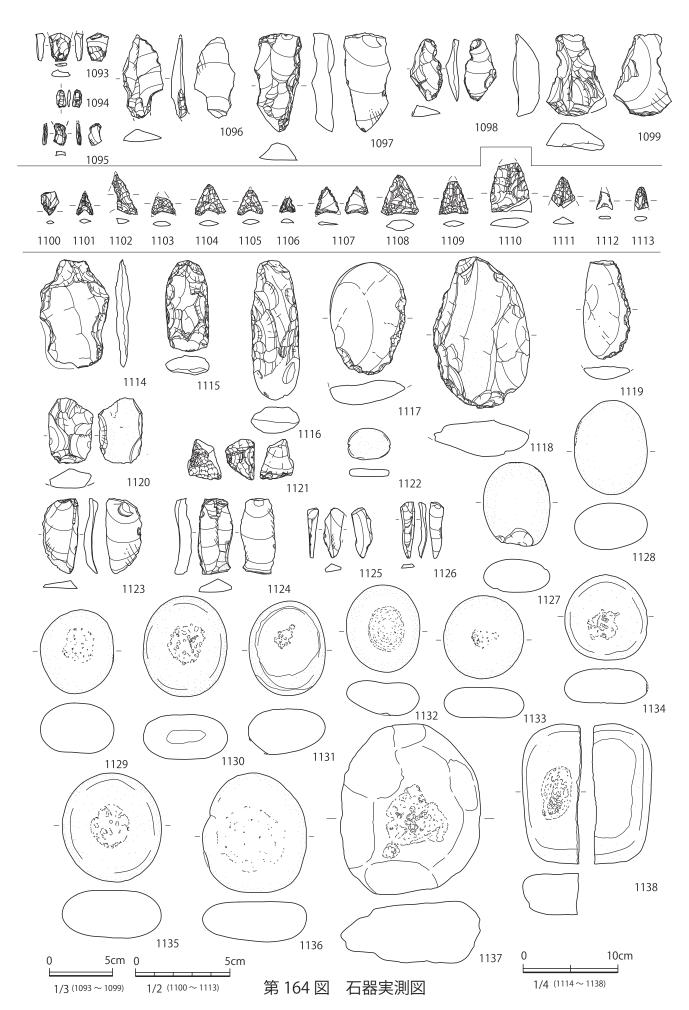
また、対辺の2方向から(1239)、一辺のみ(1273)、対角線方向(1267·1274)もある。 1254は不定方向である。

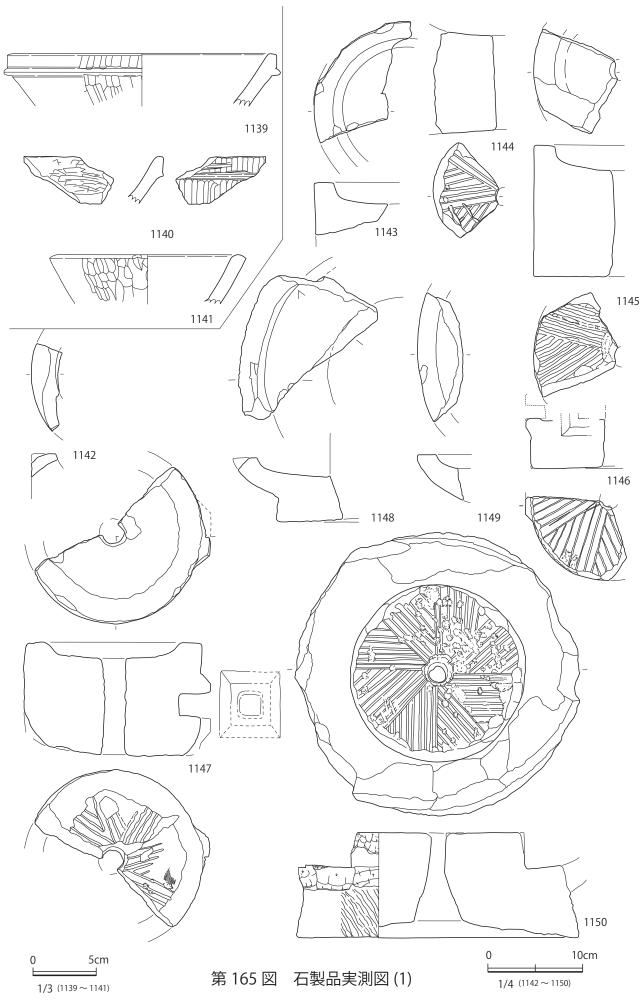
火輪軒部や水輪や地輪側面の整形は、基本的に縦方向への削りである。1261・1271・1277は斜めや横方向に削り痕跡が認められる。1269や1285では仕上げ調整というべき丁寧な削り痕跡が確認でき、その工具幅も1.5~2cm前後と小さい。1241の底面にも同様な痕跡がある。

他方、火輪の屋根部にも削り調整の痕跡がある。1239・1241 は縦方向主体で横方向にも削りが入る。1254では横方向のみの粗い削りである。ほぞ穴内部の加工痕にも注目すると、その壁面は縦方向に面取り状に削り調整される場合が多い。そのためか、壁面と底面との間に浅い溝が生じる。壁面への調整後には底面に対して縦方向への削りが数条施されて仕上げとする。この工具痕の幅は 1.5~2 cm 前後である。

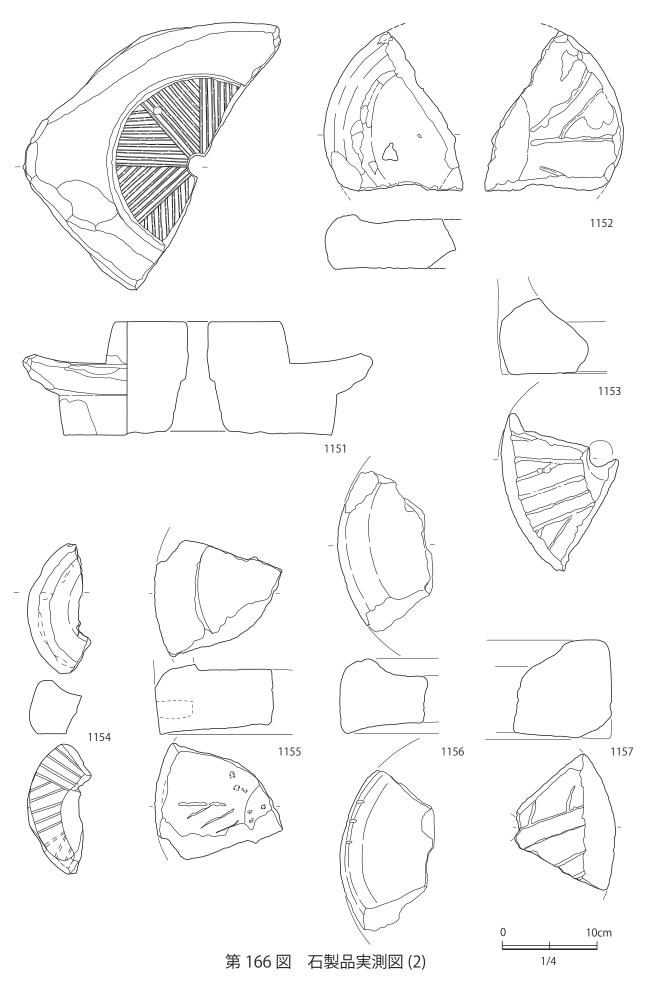
(加工痕跡の評価) 石塔部材のに認められた調整痕は、製作工程のうち整形や仕上げ調整段階の加工痕と位置付けられる。

工具痕の幅からは整形段階(幅3cm)と仕上げ 段階(幅1.5~2cm)と工具の使い分けが推定される。火輪底面や地輪の上下面の削り調整の作業手順には数種類のパターンも認められた。(今塩屋)

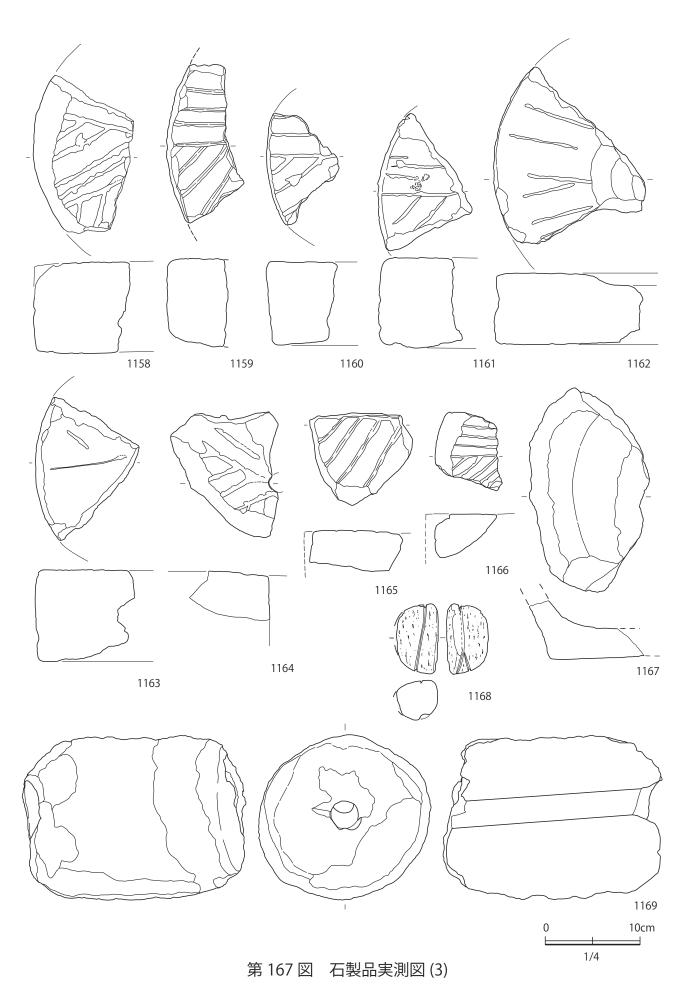




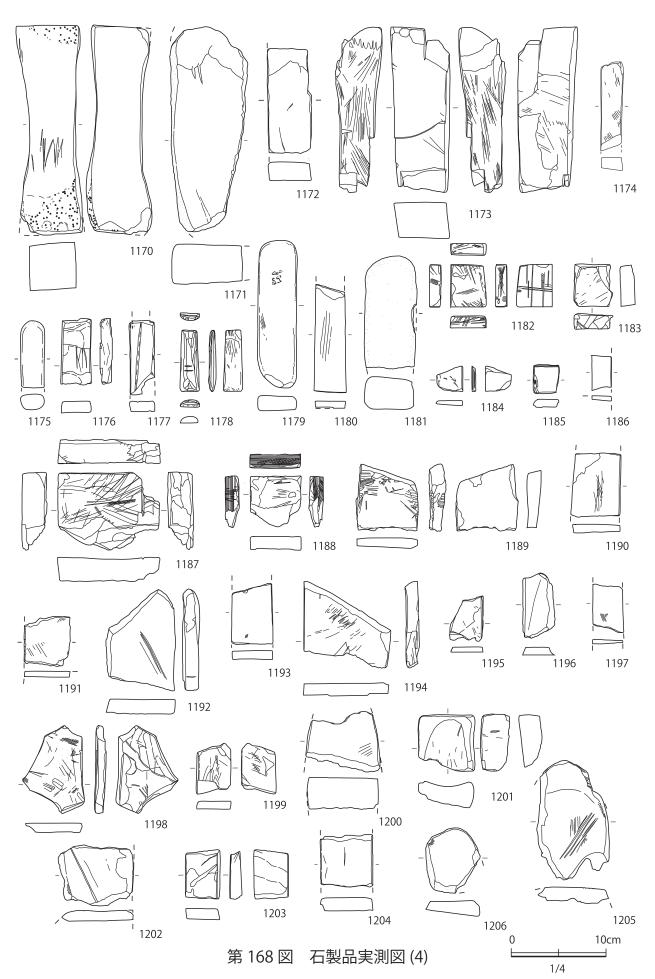
- 239 -

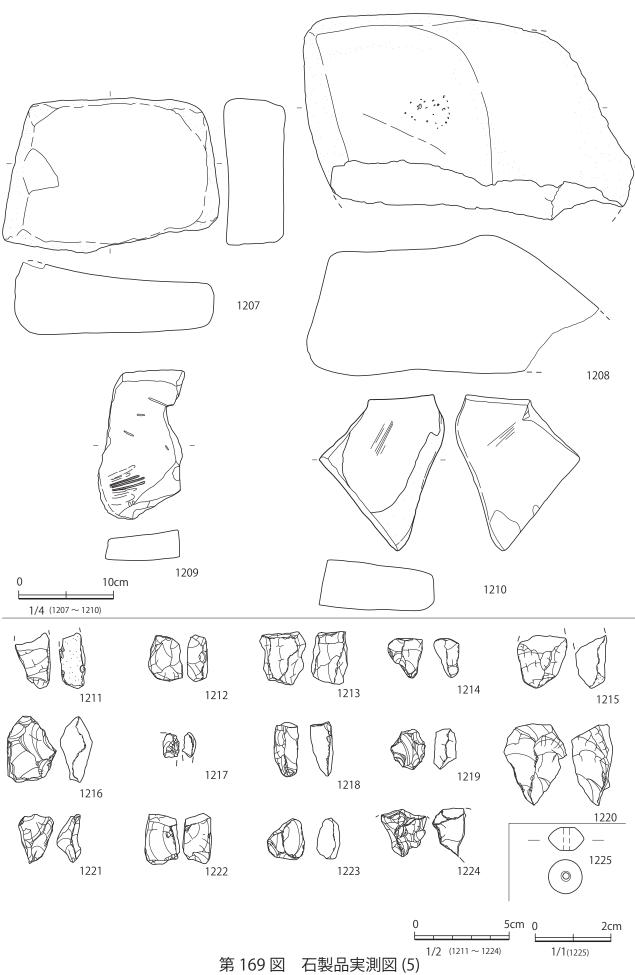


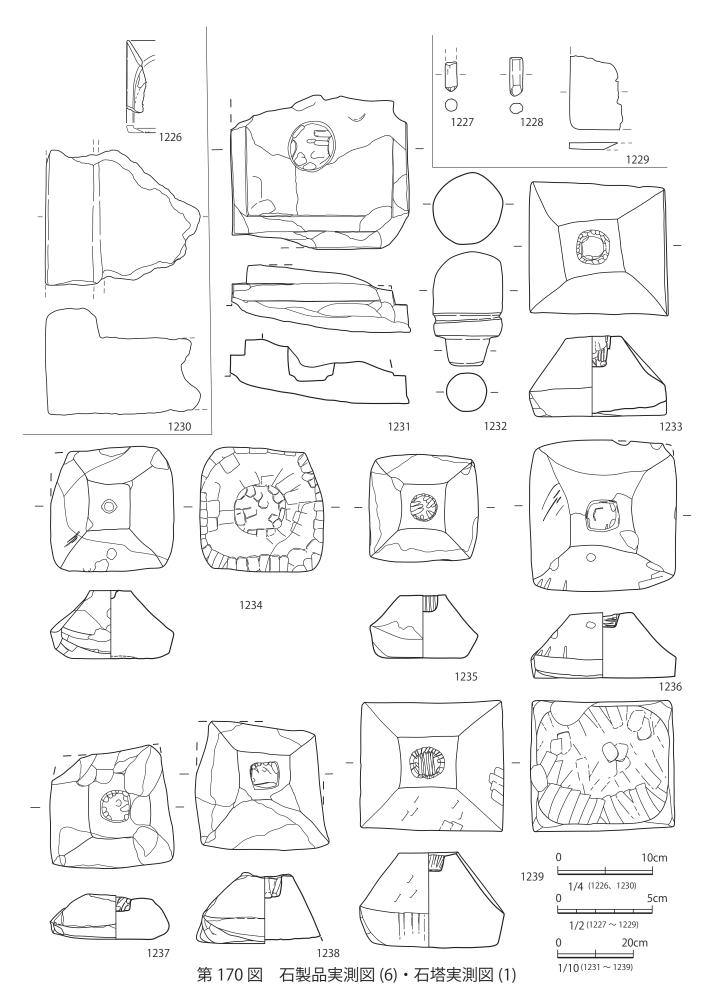
- 240 -



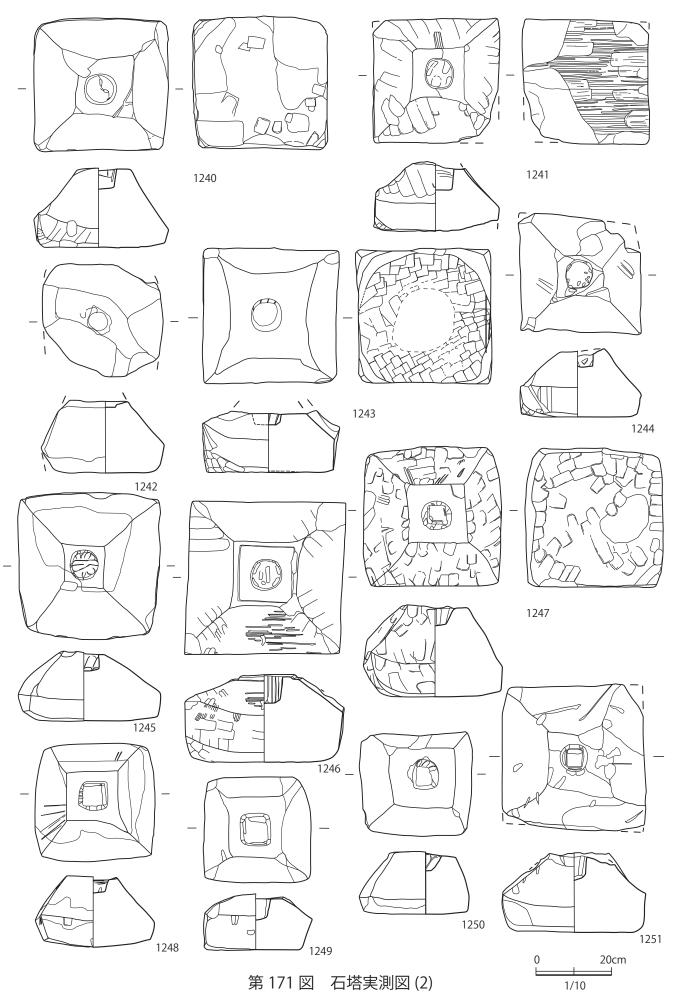
- 241 -

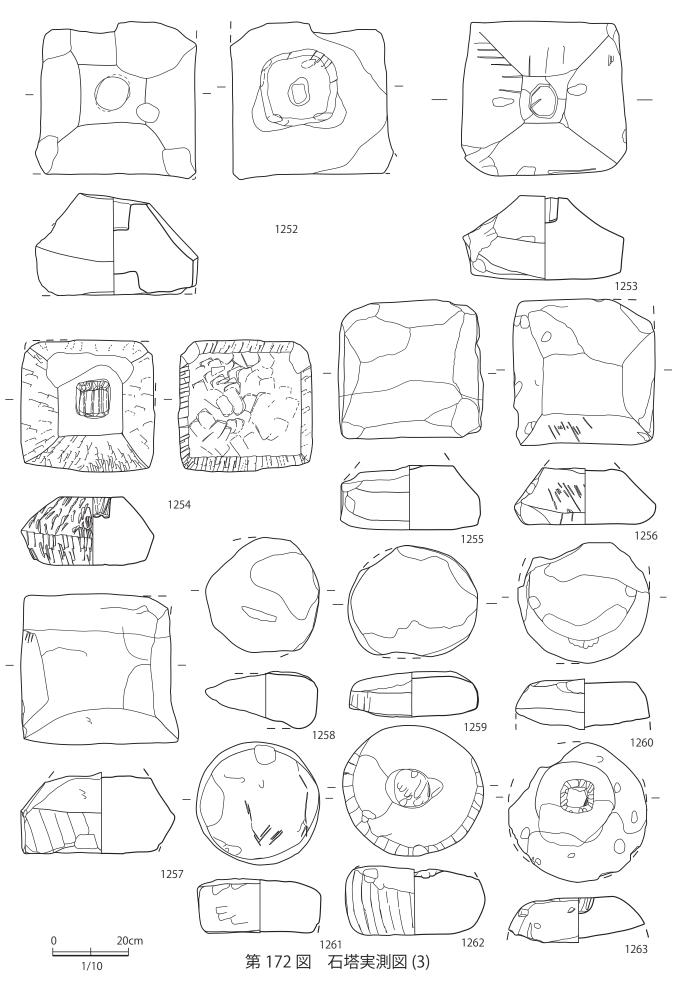


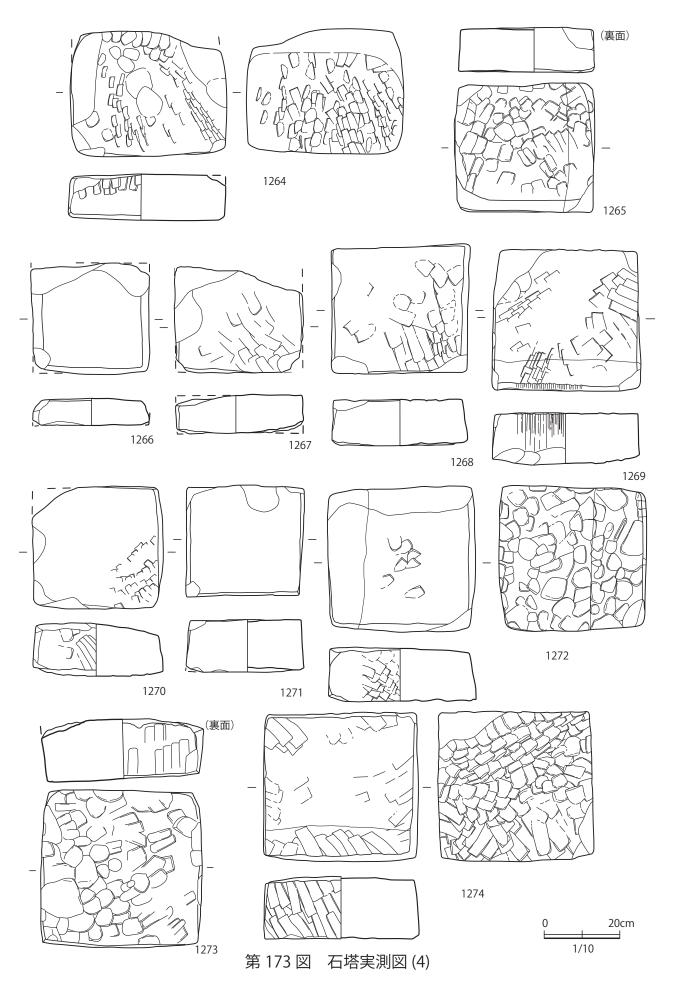


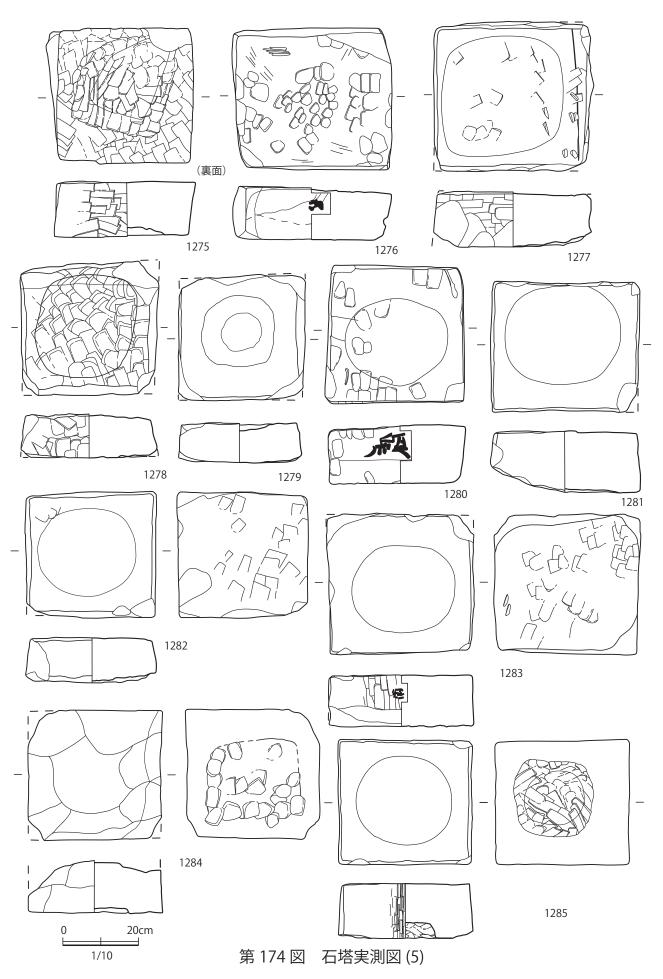


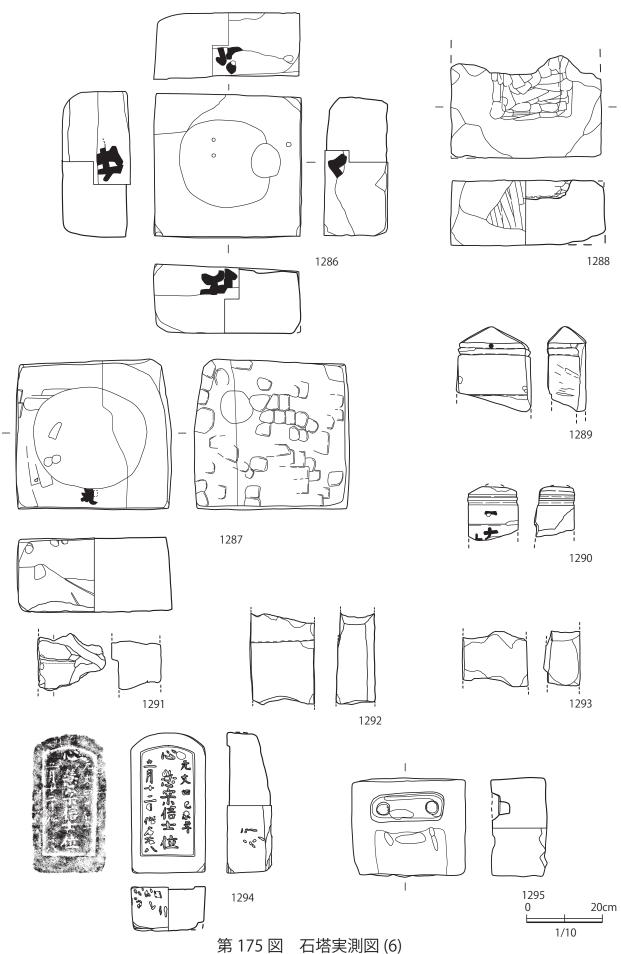
- 244 -











石塔実測図(6)

第19表 曲輪名対照表

曲輪名	略号
曲輪 A1	曲 A1
曲輪 A2	曲 A2
曲輪 A3	曲 A3
帯曲輪 A3a	带 A3a
帯曲輪 A3b	带 A3b
曲輪 A4	曲 A4
曲輪 B1	曲 B1
曲輪 B2	曲 B2
曲輪 B3	曲 B3
帯曲輪 B3a	带 B3a
帯曲輪 B3b	带 B3b
曲輪 B4	曲 B4
曲輪 C1	曲 C1
曲輪 C2	曲 C2

与刈炽衣							
曲輪名	略号						
水の手	水						
西側谷部	西谷						
曲輪 D1	曲 D1						
帯曲輪 D1a	带 D1a						
帯曲輪 D1b	帯 D1b						
帯曲輪 D1c	带 D1c						
帯曲輪 D1d	帯 D1d						
曲輪 D2	曲 D2						
曲輪 E1a	曲 E1a						
曲輪 E1b	曲 E1b						
曲輪 E2a	曲 E2a						
曲輪 E2b	曲 E2b						
帯曲輪 E2	带 E2						
曲輪 F1	曲 F1						

曲輪名	略号
曲輪 F2	曲 F2
曲輪 F3	曲 F3
曲輪 G	曲 G
曲輪 H1	曲 H1
曲輪 H2	曲 H2
曲輪 H3	曲 H3
曲輪I	曲1
曲輪 J1	曲 J1
曲輪 J2	曲 J2
曲輪 K	曲 K
曲輪 L	曲L
曲輪 M	ш М
東側谷部	東谷

遺構名	略号
堀切 A1	堀 A1
竪堀 A1	竪 A1
堀切 A3	堀 A3
堀切 B4	堀 B4
堀切 C1	堀 C1
竪堀 C1a	竪 C1a
竪堀 C1b	竪 C1b
堀切 C2	堀 C2
竪堀 B4	竪 B4
横堀	横
石積み壁体内	石壁
1 号堀 (SS1)	堀 1
2 号堀 (SS1)	堀 2
堀切 D1	堀 D1

遺構名	略号
通路状遺構	通路
石敷遺構	石敷
SG1-1 区	SG1-1
SG1-2 区	SG1-2
SG1-3 区	SG1-3
SG2-1 区	SG2-1
SG2-2 区	SG2-2
柱穴	Р
盛土	盛

一括取上げ分	略号
西側曲輪群	西
南側曲輪群	南

【第VI章参考文献】

- 赤羽一郎・中野晴久 1995「中世常滑焼の生産地編年」永原慶二編『常 滑焼と中世社会』小学館
- 新垣力・瀬戸哲也 2005「沖縄における14~16世紀の中国産白磁 の再整理」『沖縄埋文研究』3
- 市本芳三 1995「瓦」中世土器研究会編『概説 中世の土器・陶磁器』 直陽社
- 岩崎仁志 2007「山陽西部における中世の土製煮炊具―周防・長門を中心に―」『中近世土器の基礎研究』 21 日本中世土器研究会
- 上田秀夫 1982「14~16世紀の青磁の分類について」『貿易陶磁研究』No.2 日本貿易陶磁研究会
- 大橋康二 1990「いわゆる京焼風陶器の年代と出土分布についてー肥前産の可能性があるものを中心として一」『青山考古』第8号 青山考古学会
- 小野正敏 1982「15、16世紀の染付碗、皿の分類とその年代」『貿 易陶磁研究』No.2 日本貿易陶磁研究会
- 北野隆亮 2006「備前焼水屋甕の分類と変遷ー根来寺坊院跡出土資料 を中心として一」『陶磁器の社会史』吉岡康暢先生古希記念論集 柱書房
- 本村明史 1999『佐土原城跡 I』佐土原町文化財調査報告書第 12 集 九州近世陶磁研究会 2000『九州陶磁の編年』九州近世陶磁学会 10 周年記念
- 桐山秀穂 1996「日本における茶臼の研究」『古代学研究所研究紀要』 (財) 古代學協會
- 久保禎子 1997 「漁網錘の製作技術と漁網復元への一試論」 『民具研究』 第116号 日本民芸学会
- 坂本嘉弘 2005「中世大友城下町跡出土の土師質土器編年」『豊後府内2』
- 重久淳一 1999「土師器について」『富隈城跡Ⅱ』隼人町教育委員会 重根弘和 2005「中世の備前焼」『備前焼研究最前線Ⅱ』備前市歴史 民俗資料館紀要 7
- 柴田圭子 1998「湯築城跡出土土器様相の把握」『湯築城跡』埋蔵文 化財発掘調査報告書第 66 集
- 鈴木康之 1996「土器類」『草戸千軒町遺跡発掘調査報告V』
- 中井均2001「中世城館遺跡から出土する土錘について ―その集成を中心に―」『久保和士君追悼考古論文集』久保和士君追悼考古 論文集刊行会

- 乗岡実 2002「近世備前焼擂鉢の編年案」『岡山城三之曲輪跡』
- 長谷川真 2008「土製煮炊具からみた中世兵庫津遺跡」『兵庫津の総合的研究―兵庫津研究の最新成果―』大手前大学史学研究所オープン・リサーチ・センター研究報告第7集
- 広島県草戸千軒町遺跡調査研究所 1993「土錘」『草戸千軒町遺跡発 掘調査報告 I 』
- 広島県草戸千軒町遺跡調査研究所 1994「土錘」『草戸千軒町遺跡発 掘調査報告Ⅱ』
- 藤澤良祐 2001 「瀬戸・美濃大窯の生産技術」『瀬戸大窯とその時代』 財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター設立 10 周年記念企画展図録 藤沢良祐 2008『中世瀬戸窯の研究』高志書院
- 細辻真澄 2001「任海宮田遺跡出土の土錘について」『富山考古学研究』 第4号財団法人富山県文化財振興財団
- 間壁忠彦 1991 『備前焼』考古学ライブラリー 60 ニューサイエンス計
- 港区芝公園1丁目遺跡調査団1988「土錘」『芝公園1丁目増上寺子 院群 光学院・貞松院跡 源興院跡 一港区役所新庁舎建設に伴う 発掘調査報告書―』
- 宮崎県埋蔵文化財センター 2004「中山遺跡」 宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第93集
- 都城市教育委員会 1991「都之城取添遺跡発掘調査概報」都城市文 化財調査報告書 第15集
- 森 毅 1992「16世紀後半から17世紀初頭の陶磁器」『難波宮址 の研究』第九
- 森田勉 1982「14~16世紀の白磁の形式分類と編年」『貿易陶磁 研究』No.2 日本貿易陶磁研究会
- 森村健一 1995「福建省漳洲窯系青花・五彩・瑠璃地の編年」『大阪 府埋蔵文化財協会研究紀要』 3
- 山崎信二 2000 『近世瓦の研究』奈良国立文化財研究所学報第 59 冊 山本哲也 2007 「豊前・豊後における瓦質土器の初期様相」『瓦質土 器の出現と定着一瓦質土器を考える(前編)―』第 26 回中世土器 研究会発表資料 日本中世土器研究会
- 山本信夫 2000『太宰府条坊跡 X V 陶磁器分類編ー』太宰府市の 文化財第49集

第20表 白磁観察表

掲載 No	出土地点	器租	部位	器高	去量 (cm □径	1) 高台径	素地 色調	色調釉色	貫入	産地	分類	備考(成形技法・目跡など)	注記名
1	曲 F1 旧 D2	碗	П		16.8		灰白	灰白色	×		太宰府V	他に4点ある	D2
2	带 A3b	碗	胴~底			6.2	灰白	灰白色	×		太宰府V - 4b	見込み〜胴部内面に櫛目で花文	北 [*] A3-4 1層
3	SG2-2 8層	碗	底			5.8	灰白	灰白色	×		太宰府V	胴部を意図的に打ち欠いている。高台内は非常に滑らかで二次利用した可能性あり。	Q ツウロ 埋土
4	SG2-1 横断 2 層	碗	口~胴				灰白	透明	_	福広	森田C	内外面とも調整が粗い	P יילים II
5	曲D旧A	碗	口~胴				灰白	透明		福広	森田C	釉が厚くかかる	A N ½ 47
6	曲 A1	碗	口~胴		17		灰白	灰白色		福広	森田C	口縁端部の釉は剥落している。被熱痕あり。底部露胎か。	H沙杉 A3 II D+A1
7	堀 A3	碗			16.8		明初りア			福広	森田C	型キエレケンカナ II	利 A2 B 層
8	曲 K	碗	口~胴				灰白	透明		福広	森田C	釉表面に気泡あり - トースのは 付いて - 同時の	K 刊下
9	水 SS1 刺 1	碗	口~胴				灰白	透明		福広	森田C	外面口縁付近に圏線	谷 2 利 + 谷 1
0	堀 A3	碗	口~胴				明ポリープ・灰			福広	森田C	9に似るが、より端反る。内外面口縁付近に各圏線 1	#J A2 5
1	曲 F1 F1-P215	碗	口~胴		42.0		灰白	透明		福広	森田C	NTURBERMOND COLLEGE TO A CHARLEST II	D2 P215-1
2	曲 A3 2層	碗	口~胴		13.8	141	灰白	灰白色		福広	森田C	外面は調整が粗く段になっている。全体に被熱痕あり	A3 II層+谷2 P31-1
3	曲 B3 2層	碗	口~胴			14.1	灰白	透明		邵武	森田C	和は黄色味強い	B 3 II層
4	SG2-2 8層	碗	胴				灰白	透明		福広	森田C?	見込みに印花文、圏線。外面体部下半より露胎	Q ツウロ 202
5	南	碗	胴~底				灰白	透明		福広	森田C?	高台外側際をやや抉り込んでいる。	H中山
6	曲 F1 旧 D2	碗	胴~底			5.8	灰白	透明		福広	森田C?	見込みに線描きで草花文、圏線	D2
7	水表土・造成土	碗	胴~底		0.0	0.0	灰白	透明		福広	森田C		谷2 10層
8	堀 A3		口~胴		9.8		灰白	白色		邵武	森田D		
9	堀 A3		口~腰		10		淡黄	白色		邵武	森田D	日27.1-ロサバザフとは、サリカハムつ	
0	曲 E2 SB3	2 m	口~胴		9.0		灰白	白色		邵武	森田D	見込みに目跡が残るため、抉り高台か?	D1 P57
1	SG1-2 造成土下層		口~胴		9.2		灰白	白色		邵武	森田D	以本は細軟が担くのがロナつ	F1 ツウロ E レキ 3 層
2	曲 A2 2層	<u>m</u>	口~腰	2.0	10.4	2.0	灰白	白色		邵武	森田D	外面は調整が粗く段が目立つ	A3 川層+
	曲 E2 旧 F1	<u>m</u>	四~底	2.8	9.8		にぶい黄木		_	邵武	森田D	兜巾状高台	F1 N2-15 II H シオミ + タテネリ B2 3 層
4	堀 B4	<u>m</u>	胴~底	27	10.1		灰白	透明		邵武	森田D	胎土精緻。内面フリモノ多し。	
5	曲 A2 SB4 曲 K SD2	<u>m</u>	口~底	2.7	10.1		灰白	白色		邵武	森田D	見込みに目跡残る。釉が薄く一部剥落している	A2 P30-1+A2 II 層 -14 K SC4
5		<u>m</u>	四~底	5.0	11.4		灰白	白色	_	邵武	森田D		
7	曲 A4 2層		胴~底				淡黄	白色		邵武	森田D	京ムホに里書「一」	谷 4T1-2
8	曲 E2 E2-P84		胴~底	2.2			灰白	白色		邵武	森田D	高台内に墨書「二」	F1 P84
9	堀 A3	<u>m</u>	四~底	2.3	9.8		灰白	透明		邵武	森田D	見込みに目跡残る。全面施釉、内面フリモノ多し。	
-	曲 B3 2層		胴~底			4.2	灰白	白色		邵武		見込みに目跡残る。高台内に墨書「光」	
1	SG1-2 側溝		底	2.5	4.6	4.5	灰白	白色	_	邵武	森田D	全面施釉	F1
2	曲 F1 SE1		口~底	2.5	10.0		浅黄橙	白色		邵武	森田D	見込みに目跡あり	D2
3	曲 H SB9		底		40.4	3./	灰白	白色		邵武	森田D	内面に灰が被っている。	G2 P5 + P6 - 1
4	西		口~腰		10.4		淡黄	白色		邵武	森田の	腰折形	Hixi B
5	曲D旧A		胴~底				灰白	白色		邵武	森田D	腰折形	A /J 4層
6	堀 A3	小碗		3.1	7.7		灰白	透明		邵武	森田D	見込み輪状に釉剥ぎ。	拟 A2 A 層+ B 層+ C 層
7	堀 A3		胴~底				灰白	白色		邵武	森田D	高台内に墨書「?」。二次的に被熱している	利 A2 II 層
8	水第Ⅳ期面		□				灰白	白色		邵武	森田D	高台内に墨書「?」	谷 2 S-52-7
9	水第Ⅳ期面		₹ 胴~底				灰白	白色		邵武	森田D	部分的に赤色化している、内面釉ちぢみあり。	谷 2 99 層 -5
0	曲J1 旧L		「口~底	3.1	7.4	3.6	灰白	青白色	0	邵武	森田D	見込みに目跡あり	L3層 5-5 + Q II
1	曲 A3 SB11	Ш	口~胴		12.6		灰白	白色		景徳	森田E	釉ムラあり	A3P97
2	水窪 区	Ш	口~胴		12.6		灰白	白色		景徳	森田E	素地に黒色粒多い	谷 2 SS2 II B+ カクラン
3	曲 A3 2層	Ш	口~胴		10.4		灰白	透明		景徳	森田E		谷 3+A3 II 層
4	水 SS1 堀 1		口~底	3	11.8		灰白	白色		景徳	森田E	釉表面に気泡あり	谷 2 村
5	水 SE1 A 区	Ш_	口~底		12.7		灰白	白色		景徳	森田E		谷 2 SE1A-37
6	曲 M M-P10	Ш	口~底	3.9	19.2	10.6		灰白色		景徳	森田E	素地と釉の質が悪く、表面がざらざらしている、大型品	P P10-1
7	堀 A3	Ш	口~底		12.3		灰白	白色		景徳	森田E	高台内に銘あり。「福」か	
	曲 G SB1	Ш	口~底		11.4		灰白	乳白色		景徳	森田E	器壁薄い	G1 P7
	SG1-3 石敷	Ш	口~底	2.8	12.0		灰白	白色		景徳	森田E	器壁薄い	G2E 7/11 T6+G2E 7/11 C+G 2E 7/11 f () 5層 +G2E 7
-	曲 B3 2層		胴~底				灰白	白色		景徳	森田E	釉厚め、ちぢれあり	B3 2 層
	曲 H1 H1-P172		胴~底				にぶい黄札				森田E	素地と釉の質が悪く、釉のひび割れが見られる	G2 P172
	曲 H SB6		胴~底			12.8		白色		景徳	森田E	大型品、同一個体と接合不可	G2 E P47
	SG2-2 埋土		口~底		10.4		灰白	灰白色		福広	森田E	露胎部分は明赤色化している	Q ツウロ 73
_	曲 B3 SR2		口~底	2.6	10.2		淡黄	白色・透明			森田E	白色釉を下地で施釉し、透明釉を施釉している。畳付に離れ砂が熔着。	B3P220
_	水表土・造成土		底				灰白	白色		景徳	森田E	E類の古段階	谷 2
	曲 A3 SB12		胴~底				灰白	乳白色		邵武		高台内に墨書「?」	A3 P136
	水表土・造成土		胴~底				灰白	白色		景徳	森田E	二次的に被熱している	谷2 10層
_	水 SF 6 層下層		胴~底	_			灰白	白色		景徳	森田E	露胎	谷 2 SS1 下層
_	水表土・造成土		口~底		10.2		灰白	透明			森田E	内面を菊弁状で削り込み、外面は沈線によって弁を表現している。露胎部分は赤色化。	
_	水切岸1	碗	底				灰白	白色		景徳	森田E	畳付にもみ殻が熔着している	谷2北川川層
_	南	_	口~底	3.3	7.1	2.6	灰白	白色	_	景徳			H中山
_	西谷	小杯					灰白	白色		景徳		61 と同形	谷 1 ジ ンシャ
-	水 SS1 堀 1		口~腰		6.4		灰白	白色		景徳		61 と同形	谷2初
_	水切岸1 4層		口~腰		7.8		灰白	白色	_	景徳		61 と同形	谷2 刺 1
_	шK		口~底	2.0	7.0		灰白	白色		景徳		高台内に朱書きあり、高台内露胎	K 北ハ‡
_	шK	小杯				2.5	灰白	白色		景徳		65と同様の器形か?高台内も施釉	KT2
_	曲 B4 4層		胴~底		3.0		灰白	白色		景徳		腰がなく高台から口縁までハの字に開く	B 4 4層
8	曲 B4	Ш	口~底		13.2		灰白	透明				素地は灰色である	B4 T9
9	曲 B3 SB13		口~底	2.75		6.8	灰白	白色				釉を漬け掛けしている。見込みは非常に滑らかである	B3 P125
_	堀 D	▥	口~底	2.1	13.1		灰白	白色				内底に轆轤目がのこる	B #J
_	SG2-2 埋土	Ш	口~胴		13.2		灰白	白色				釉薬を漬け掛けしている。露胎部分はやや黒ずんでいる。	Q ツウロ 227
_	曲G旧G1	Ш	口~底	3,0	12.3	5.0	灰白	透明			新垣・瀬戸F	内外ともに調整が粗い	G1 刊土
3	曲K 盛 下面	Ш	口~胴		12.8		灰白	透明	×	福広	新垣・瀬戸 F	釉剥ぎした見込みが明赤色化している	Kb 刊下
4	堀 B4		口~底	2.5	12.4	6.2	灰白	透明	×	福広	新垣・瀬戸 F	露胎部分が赤色化している。	ポリ B3 T1
5	竪 A1	Ш	口~腰		13		灰白	透明	×	福広	新垣・瀬戸F	見込み露胎部分が赤色化している	タテネリ A1 4 ~ 6 層
6	水 SS1 石壁	Ш	胴~底			6.2	灰白	透明	0	福広	新垣・瀬戸F	露胎部分が赤色化している。	谷2石ツミ
			明- 床			5.8	灰白	灰白色	0	福広	新垣・瀬戸 F	露胎部分は赤色化している	F1 N2-1 3 層
	曲 E2 盛3層	Ш	胴~底			5.0	MU	MUC	\sim				

第 21 表 -1 青磁観察表

	2	1表-1	有句	妐	観察		= /			D6 1		rs.t =rm				
掲載No		出土地点	器種		部位 -		量 (cm) 口径 i		文様	<u>胎土</u> 色調 精		ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー	貫入	- 分類	備考	注記名
	ШΗ	H2 I⊟ G3	碗	Г]~胴	tit inj	HIE I		上 片切彫鎬蓮弁文			アオリーブ		上田BI	複弁有	G 3b II
80	-	E1 D 区 上層	碗	Al					鎬蓮弁文			月オリーブ灰		上田 B I	180116	谷 2SED 上層
81	曲」	I1 J1-P318	碗	Г]~底	6.7	14.0		片切彫蓮弁文 / 印花 / 圏線	灰白 岩	精明	明緑灰	×	上田 B II -b	高台内砂付着	L P318+A /リ 4 層 +N II
82	曲」	I1 J1-P43	碗]~胴		13.8		片切彫蓮弁文	灰白 岩	精明	月オリーブ灰	×	上田 B II		L P43
83	堀A	A 3	碗]~胴		12.6		片切彫蓮弁文	灰白 岩	精明	明 ポ -プ灰	×	上田 B II		が A2B-1 層
84	堀E	34	碗]~胴		15.4		片切彫蓮弁文	灰白 岩	精力	リーブ 灰	×	上田 B II		タテネリB2 3層
85	堀	A3	碗]~胴		13.2		片切彫蓮弁文	灰白 岩	精明	財/-7 灰/杉-7 灰		上田 B II		#リ A2
86		IE V	碗	÷]~胴				刻花文			ナリーブ灰		上田E		V II
87		2-2 埋土	碗	Al	-				片切彫鎬蓮弁文					上田BII	複弁有	Q 700 72
88	曲 /		碗	_]~胴		13.0		線刻の大きな蓮弁文		144	灭オリーブ -		上田BII		A2 19 II層
89	曲目		碗]~胴				片切彫蓮弁文					上田BII		D2 +D1
90	曲月曲月		碗碗	AI AI					刻花文 / ヘラ描蓮弁文 ? 刻花文 / ヘラ描蓮弁文 ?			オリーブ灰		上田 B III		D2 II LP287 柱
92		-2 造成土下層	碗	_	n 同~底				刻花文/ペラ描蓮弁文?			オリーブ灰			全面施釉後高台内の釉を輪状に削り取る	F1 ツウロ E レキ 4 層
93		窪 B 期床	碗	_	同~底				ヘラ描蓮弁文			こぶい赤褐			全体的に赤色化/漆継ぎの痕跡	谷 2 SS2-2
94		長土・造成土	碗	-	月~底				ヘラ削りによる蓮弁文			リーブ 灰			畳付の釉を削り取る	谷2 III B下層
95	曲 H	H SB5	碗]~底付近		11.4		線刻蓮弁文 / 見込みを線描の輪花で囲む	灰白 岩	精质	灭オリーブ	0	上田 B IV '	1単位3本の工具を用いている、剣頭は弧状であり蓮弁の単位を意識しない	G2 d P48-2
96	水S	SS1 堀1	碗]~胴		12.4		線刻蓮弁文	灰白 岩	精明	明オリープ灰	0	上田BIV	二次的に被熱している、剣頭は弧状だが蓮弁の単位を意識している	谷 2 却
97	SG2	2-2	碗]~底付近		18.1		線刻蓮弁文 / 圏線	灰白 岩	粗息	灭白	0	上田BIV	全体に器壁が厚い、蓮弁と剣頭の単位は一致、口縁直下に沈線	Q 770
98	西谷	3 2 層	碗]~胴		11.0		線刻蓮弁文	灰白 岩	精力	IJ−ブ灰	×	上田 B IV	剣頭は蓮弁の単位を意識しない7条1単位として間隔をあけて施文	谷1 層
99	曲	A4 2層	碗]~胴		13.0		線刻蓮弁文	灰白 岩	精力	リ-プ灰	Ö	上田BIV	剣頭は蓮弁の単位をある程度意識している	A4 II層-3+4+7+8+9+10
100		SS1 石壁	碗]~胴		13.8		線刻蓮弁文			明オリーフ [*] 灰			剣頭は蓮弁の単位を意識しない	谷2石ツミ上モリ
	曲月		碗	_]~胴		12.6		線刻蓮弁文			明初-7" 灰		上田 B IV		A4 II層 -1+-2
	曲目		碗	_]~胴		13.2		線刻蓮弁文		粗质				素地は灰色である、剣頭省略	F1 SI-23 3層
103	堀 E		碗]~胴				線刻蓮弁文		粗质				二次的に被熱か、文様は明確でない	初B 21
	SG1-:	3 石敷横断 3 層 F3 日 F2	碗碗	_	同~底]~胴		13.2		刻花文 / 密な線刻蓮弁文 / 印花 線刻連弁文 /10条の櫛状工具で密に施文			 			全面施釉後高台内の釉を輪状に削り取る。高台内に窯道具熔着痕あり 剣頭省略	G2E 700 C 3層-7 F2a3層
105			碗		コ〜胴 コ〜胴		14.6		線列連弁又 / 10 条の椰状工具 C密に施又 片切彫刻花文 / 雷文帯 / 粗略な片切彫ラマ蓮弁文			明緑灰		上田 C II		F2 a 3 層 A2+B 層 +C 層
107		11 J1-SR2	碗		1~胴		13.0		刻花文/雷文帯/粗略なラマ式蓮弁文			財リーブ灰/緑灰		上田CⅡ	個子で	L P-12-1
_		SF 37 層	碗	_	1~胴		13.0		刻花文/雷文帯			明緑灰		上田CⅡ		谷 2 SF
109	堀郡		碗]~胴				粗略な線刻雷文帯			リーブ 灰		上田CII		谷3
110	曲月	42 1層	碗]~胴				刻花文/粗略な線刻雷文 帯	灰白 岩	精明	明緑灰	×	上田 C II		A2 21
111	曲	44 1層	碗]~胴				粗略な線刻雷文帯	灰白 岩	精质	灭白	×	上田CII		谷 4 T1
112	带 E	33a 5層	碗	Al	₹~底			5.8	片切彫刻花文 / 片切彫ラマ式蓮弁文 / 印花文 (椿)灰白 #	精力	IJ−ブ灰	×	上田 C II -a	畳付釉はぎせず。高台内に窯道具の熔着痕あり	B3T85 層
113	水表	長土・造成土	碗	Al	同~底			6.2	片切彫刻花文 / 片切彫ラマ式蓮弁文 / 印花文	灰白 岩	精力	リーブ 灰	×	上田 C II -b	全面施釉後高台内の釉を輪状に削り取る	谷2 G11,12層
_	曲k		碗]~胴				簡略化した雷文帯			ナリーブ灰		上田CIII		K T3
115			碗	_]~胴		14.7				_	暗オリーブ		上田DII		D2 スミ4
116			碗	_]~胴		15.8				_	灭オリーブ		上田DII		タテネリB2 2層
_	_	K SD5	碗	_]~胴	6.3	15.0		①# / 團始		粗多			上田DII	用从大字块处 喜八九扇叭	K SC6 SW
118		1 J1-P119	碗碗	_]~底	6.3	15.9	0.5	印花/圏線			ナリーブ灰		上田 D I	畳付まで施釉、高台内露胎	K b 刊下 L II +L P278
	曲月		碗		コ〜胴 コ〜胴		14.7					ナリーブ灰 灰オリーブ			素地が部分的に赤色化	D2 P384
121	堀		碗		1~胴		14.4				_	リープ灰			口緑端部の素地が灰色化	利 A2 C 層
	堀		碗	_]~胴		13.6		沈線2条			灭オリーブ			胴部に丸みのある器形、125と同器形	刺 A2A-1 層 +A3 Ⅱ 層
	曲月		碗		1~胴		15.8					リーブ 灰			外面釉ムラあり	A3 P18
124	曲	44 8層	碗]~胴		15.2			灰白 岩	粗ォ	IJ−ブ灰	0	上田 D I	外面フリモノ付着	谷 4T4-8 層
125	曲F	2 旧E	碗]~胴		14.8			灰白 岩	精明	明緑灰	×	上田 D	胴部に丸みのある器形、122と同器形	EII層
126	曲E	2 盛4層	碗]		16.2			橙岩	粗ォ	トリーブ灰/明賞裾	×	上田 D	焼成不良、内外共に気泡、釉ムラあり	F1 S1-34 4 層
127	曲k	〈 盛 下面	碗]~胴		14.6			灰岩	粗息	灭	×	上田 D		Kb 刊下+PII
128	曲E	31 2層	碗]~胴		14.9			灰白 岩	粗ォ	リーブ 灰	0	上田DII		B-1 2層
		I1 旧L	碗				14.8							上田DII		L/IJ II
	_	-1 旧D2	碗]~胴		14.6				粗			上田DII		D2 スミ 4層
		44 1層	碗]~底	5.4	14.2	4.8			粗质		_	上田E	畳付~高台内露胎	谷 4T1
		33 1層 -2 横断17層	碗碗		コ〜胴 コ〜胴		14.0					こぶい黄橙 オリーブ灰		上田E	全体的に赤色化和厚し	B-3T12 V ツウロ SE17層
_		-2 便助 17 層 A2 SB2	碗		コ〜胴 コ〜胴		15.5					明ポープ 灰		上田E	釉ムラあり	A2P19-1+A2 II層 -18
_		-1 横断 29 層	碗		1~胴				櫛描波文 / 線刻蓮弁文 ?		粗疹		0			Q ツウロ SE 27 層
		H3 旧I	碗		1~胴				四方襷文/胴部に刻花文/ラマ式蓮弁文				×		良品	1 11
	_	1 旧D2	碗	Al					内外刻花文			オリーブ/オリーブ灰	×		良品	D2 II +D2 スミ4層
		長土・造成土	Ш]~胴		7.3		線刻蓮弁文			リ-プ灰			139と同一形式、1単位3本の工具を用いている、文様の間隔は広い	
139	水表	長土・造成土	Ш]~胴		7.2		線刻蓮弁文	灰白 岩	精力	リーブ 灰	×	内湾連弁文	138と同一形式、1単位2本の工具を用いている、文様の間隔は広い	谷2 I B67 層
140	曲F	1 旧D2	Ш	Ī]~胴		7.3		細い線刻蓮弁文 / 線刻蓮弁文	灰白 岩	精	ナリーブ灰	×	内湾連弁文		D2 2層
141			Ш]~胴		11.4		線刻蓮弁文		精源				釉は青味薄く、青白磁のよう、連弁の単位を意識しない	
142			Ш	_]~胴		13.4					暗灰黄			二次的に被熱し、部分的に赤色化	Kb 刊下
	_	-1 SB7		_]~胴							オリーブ灰/オリーブ灰		玉縁無文		D2 P353-1
		E2 E2-P44]~胴		11.8								釉ムラ、表面に気泡あり	F1 P44
		F1 旧D2		_]~胴		11.6								器壁薄く、釉は灰白色	D2 X ÷ + G2 a II
_		2 旧 F1	<u></u>]~胴]~鯛		12.4				_	こぶい黄 オリーブ灰		外反無文		F1 S 1 /リ Kb 刊下
_		〈 盛 下面 A3 2層]~胴		10.2						_	外反無义口折無文		K b モリト A3 北/リII層
		2 4層		_	」]~胴	3.3	12.0	5.0	線刻の大きな蓮弁文 / 印花文						全面施釉後高台内の釉を輪状に削り取る	A3 元/リII 唐 F1 N2-28 4 層
_	_	=2 4/m				ر.ر	12.0		線列の人でな連升又/印化又 片切彫蓮弁文か。不明瞭。			明ポリープ 灰		口折連弁文	上版が同時には日日によるとは日子は人下に出って	F1 N2-20 4 層 谷 2 Ⅲ B 下層
	_	1 旧D1			1]~胴		11.6		線刻の蓮弁文		_	月オリーブ灰	_	口折連弁文		D1 SC2
152]~底	2.8	11.0		三条の波状圏線			灭却-プ		輪花皿	畳付釉剥ぎ、高台内露胎	谷 2
		1-3 側溝]~底		11.1		三条の波状圏線		_	灭オリーブ		輪花皿	見込み釉剥ぎ	G2 E 7/10 C SE+K II
	_	I∃V	Ш]~底		12.0		三条の波状圏線		_	こぶい橙	_	輪花皿	畳付まで一部施釉、高台内露胎	V II
155	SG2	2-2	Ш	Г]~胴		12.6		三条の波状圏線	灰黄 岩	粗	ナリーブ黄		輪花皿	二次的に被熱	Q 770
156	SG1	1-2 側溝	Ш	Г]~胴				波状圏線	灰白 岩	粗	明緑灰	0	輪花皿	釉ムラ、ちぢれあり	F1 770 SE1

笋	21	表 -2	青磁観察表
4	<i>/</i> I	4V -/	日 1000年元会イ V

掲載NO	出土地点	器種	部位		(cm)	文様	胎土		釉調 色調	# 3	分類	備考	注記名
	П.				径高		色調	精粗		貫入	+^++ m		
	堀 B4		口~胴		1.6	三条の波状圏線	灰白	粗が			輪花皿	文様は粗略でほとんど見えない	タテネリ B12 層
	SG2-2 横断 3 層		口~底			6.0 刻花文/印花文	灰白		リーブ灰		輪花皿	全面施釉後高台内の釉を輪状に削り取る	Q 990 7+Q III B3P24
	曲 B3 SR1		口~胴			5.6 三条の波状圏線/刻花文/印花文	灰黄	粗灰			輪花皿	畳付まで一部施釉、高台内露胎	
	水切岸 2		口~胴		3.0	三条の波状圏線 / 刻花文	灰白	粗が			輪花皿	A 11 11 1 T A 11	谷 2 打 2
	水 SS1 堀 1		口~胴		0.8	三条の波状圏線 / 刻花文	灰白	粗黄			輪花皿	全体的に赤色化	谷 2 刺
	曲 H3 旧 I		口~底			4.6 三条の圏線	黄灰	粗灰			輪花皿	見込み釉剥ぎ、畳付まで一部施釉、高台内露胎	
	曲 A3 A3 − P62		口~胴	1	3.0	三条の波状圏線	灰白	粗緑			輪花皿	military have	A3P62
_	曲 F3 旧 F2		口~底付近			三条の波状圏線	灰白	粗明			輪花皿	釉内に気泡あり	F2 a 3層
	曲 B4 4層		口~胴	- 1	2.0	三条の波状圏線	灰白		オリーブ		輪花皿	釉内に気泡あり	B4 4層
	曲 H1 旧 G2		胴~底			5.8 櫛描とヘラによる青海波文/圏線	にぶい赤裾/明黄裾		リーブ灰		輪花皿	見込み釉剥ぎ、畳付まで一部施釉、高台内露胎	
	曲 F1 SB20		口~胴	1	0.6		灰		オリーブ		輪花皿	見込み釉剥ぎか	D2 P439+D2 B438
	堀 B4		底			7.2	灰黄	粗灰				見込み釉剥ぎ、畳付まで一部施釉、高台内露胎	
	水 SE2 上層		底			4.8 菊弁内側を削り込んでいる	灰白		オリープ灰		菊皿	景徳鎮、畳付に離れ砂熔着	谷 2 SE2 上層
	水表土・造成土	<u> </u>	底			5.2	灰白		オリープ灰		菊皿	景徳鎮、169と同形式か?高台内透明釉、畳付釉削り取る	
	曲 D2 旧 C					5.7 片切彫蓮弁文/印花文	灰白		リーブ灰	×		全面施釉後高台内の釉を輪状に削り取る	C 1
	水窪 B期床					5.9 印花文	灰白	精机		×		全面施釉後高台内の釉を輪状に削り取る	谷 SS2-1
	SG1-2 造成土下層		口~底			6.5 印花 / 圏線	灰白	精明		×		全面施釉後高台内の釉を輪状に削り取る	F1 770 E以 4層
174	曲 F1 SB7	婉!皿!	胴~底			6.4 印花文 / 梵字	灰黄	精黄	裕	0		大きな気泡が目立つ、全面施釉後高台内の釉を輪状に削り取る	
175	曲K	碗?皿?	胴~底			印花	にぶい橙	粗ォ	リーブ黄	0		見込み円形状に露胎し、その部分は印花がほとんど消えるほど磨滅して滑らか。 全面施釉後高台内の釉を輪状に削り取る	K II
176	SG1-2 耕作土	碗?皿?	口~底		(6.4	灰白	精オ	リーブ灰	×		畳付まで一部施釉、高台内露胎	D1 S II 7/10 + 7/10 SE 1
177	曲 F1 F1-P546	碗?皿?	胴~底			5.1 2 重沈線 / 圏線	灰白	精オ	リーブ黄	0		畳付釉削り、高台内露胎	D1 II +D2 II +D2P546-1+D2P546-2+D2 f0
178	堀 B4	碗?皿?	胴~底			5.3 印花文	浅黄橙	粗淡	黄	×		見込み円形釉剥ぎ、畳付釉削り、高台内露胎	#リ B2 1
179	SG1-2 硬化面	碗?皿?	胴~底		(6.0	灰白	粗灰	白	×		畳付釉削り、高台内露胎	F1 7700 37か1 下
180	水 切岸 1	碗?皿?	胴~底			4.8 印花文	灰	粗 担	-プ灰	×		畳付釉削り、高台内露胎	谷 2 钊 1
181	曲 F1 F1-P374	碗?皿?	胴~底			7.0 見込み二重圏線(印花文か)	にぶい黄褐	粗灰	オリーブ	0		見込み円形釉剥ぎ、畳付釉削り、高台内露胎	D2 P374-1
182	曲K	碗?皿?	底		(6.2 印花文	灰白	粗明	オリーブ灰	×		畳付まで一部施釉、高台内露胎	Kb 刊下
183	曲 J1 J1-P82	碗?皿?	胴~底			5.0	灰白	粗ォ	リーブ黄	0		畳付~高台内露胎	L P82-1 埋
184	水窪 区	碗?皿?	胴~底		-	4.8 圏線	灰白	精明	オリープ灰	×		畳付~高台内露胎、一部高台脇まで露胎	谷2 II B3層
185	SG1-2 側溝	碗?皿?	胴~底		(6.2	橙	粗力	一プ灰/明賞掲	0		釉にはスが多く入る、畳付~高台内露胎	F1 770 SE1
186	水 切岸 1	碗?皿?	胴~底			5.2 見込み圏線か (焼成不良のため不明瞭)	灰白	粗灰	白	×		畳付まで一部施釉、高台内露胎	谷 2 钊 1
187	曲 月 旧 L	碗?皿?	底			5.5 印花文	灰白	粗灰	オリーブ	0		畳付~高台内露胎	L II 5
188	SG1-3 石敷横断 7 層	碗?皿?	口~底			5.2	灰白	粗明	オリーブ	×		高台際を水平に削る、高台脇より露胎、釉ちぢれあり	G2 E ツウロfイシ7層
189	曲 B3-P64	盤	口~胴	3	0.0		灰白	粗黄	褐	0			B 3P116
190	堀群 横	盤	口~胴	3	0.1	刻花文	淡黄	粗黄	褐	0			谷 3 T52 層
191	曲 F P384	盤	口~胴	2	6.0	ヘラ描の細い蓮弁文	浅黄橙	精に	ぶい黄燈	×		胎土磁器化せず	D2 P384
192	曲 F1 SB17	盤	胴~底		- 1	8.0 ヘラ描の細い蓮弁文/印花(菊花)	灰黄	粗灰	黄	×		釉ムラ、発色不良。高台ほぼ露胎	D2 P451-1
193	SG2-2 横断 2 層	盤	底		1	1.4 ヘラ描の細い蓮弁文/印花文	灰白	粗暗	オリーブ	0		釉厚く文様不鮮明。全面施釉後高台内の釉を輪状に削り取る。 高台内溶着痕あり	Q פֿלע II
194	水 SF 36 層	碗?皿?	腰			線刻蓮弁文	灰白	精 担	-7 灰	×		幅広い削り込みによる蓮弁文、文様あり、幅広い削り込み	谷 2 SF43 層 -2
195	堀群 横	香炉?	口~腰		7.1	沈線	灰白	精灰	白	0		196 と同一か	谷 3T5
196	曲 A2 2 層	香炉?	口~胴		6.4	沈線	灰白	精灰	白	0		釉はガラス質で青味薄い	A2 II 層 -11
197	水 表土・造成土	瓶·壺?	胴			片切彫鎬蓮弁文 / 刻花文	灰白	精 担	-プ灰	×	酒会壺か?	器壁厚い、内外施釉	谷2 10層
198	曲 F1 旧 D2	瓶·壺?	胴			刻花文 / 鎬蓮弁文	灰白	精ォ	リーブ灰	×	酒会壺か?	良品、酒会壺の可能性もあり、内外施釉	D2 1層
199	SG1-2 造成土下層	瓶·壺?	胴			鎬蓮弁文	灰白	精ォ	リーブ灰	×	酒会壺か?	良品、瓶の下半部か	F1 ツウロ E レキ 3 層
200	曲 F1 旧 D2	瓶	頸付近				灰白	精ォ	リーブ灰	×	浄瓶?	浄瓶か	D2 E
	堀 A3	瓶			4.4		灰白	精明			梅瓶	内外施釉	却 A2 II 層
202	曲 F1 F1-P142	不明	頸~胴				灰白	精明	オリーブ灰	×		袋物か、内面に残った削り屑の上から施釉している	D2 P142-2
203	堀 A3	不明	肩				灰白	精 担	-7 灰	×		肩部で折れ、折れ部の両側に沈線が入る	おJ A2C 層
	水窪 区	不明	肩			文様あり	灰白	精 担		×	酒会壺か?	二次的に被熱	谷 2 SS2 上層
	水 SS1 盛土中	不明	胴				灰白	精明		0		器壁厚い、内面一部露胎	谷 2 SS1 下層
	堀群 横	不明	肩			型押しによる文様、陽刻文	灰白	精制		×		内面に継ぎ目痕あり	谷 3 T5
	曲 F1 旧 D2	不明	注ぎ口?				灰白	精利		×		内面に継ぎ目	D2 II
	曲 G SB1	小壺	口~底	5.1	2.2	2.4	灰白					内面に透明釉、外面に青磁釉を施釉、上下別に成形後に継ぐ。底部露胎	G1 P 7
												TOTAL CONTROL OF THE PARTY OF T	

第 22 表 -1 青花観察表

掲載 No	出土地点	器種	部位	器高	量 (cm 口径 7			文様		注 精粗	釉調 色調	- 産地	分類	備考	注記名
208	带 A3a	碗	口~胴		12.6		口縁:界線/	胴部:草花文	灰白	精	明緑灰	景徳	小野 B		北 A2 T1 8層
209	水切岸1 4層	碗	胴~底			5.8	胴部:不明、	界線 / 見込み:花樹文	灰白	精	明緑灰	景徳	小野 B	畳付に離れ砂熔着、釉ムラあり	谷 2 却 1 4 層
210	曲 A2 SB1	碗	口~底	5.6	12.7	6.1	口縁:界線、波濤	文/胴部:アラベスク/見込み:蓮花	文 灰白	精	明緑灰	景徳	小野C	高台内には白色釉を施釉、見込み:蓮花	A2P40+A3 北/リII 層
211	曲 B3 2層	碗	口~底	6.1	13.5	5.6	口縁:界線、波濤	文 / 胴部:アラベスク / 見込み:蓮花	文 灰白	精	明緑灰	景徳	小野C	畳付釉削り	B3 2層+1
212	SG1-3 石敷横断 3層	碗	口~胴		13.8		口縁:界線、	波濤文	灰白	精	明緑灰	景徳	小野C	釉ムラあり	G2 ツウロ b 3層-1
213	堀 B4	碗	口~胴		13.0		口縁:界線、	胴部:小花文	灰白	精	明青灰	景徳	小野C		#J B2
214	曲 A2 SB1	碗	口~胴		13.0		口縁:界線、	胴部:小花文	灰白	精	明青灰	景徳	小野C		谷 2P27+A3 II 層
215	南	碗	口~胴		15.4		口縁:界線、特に簡略	化した波濤文?/胴部:草花文/見込み:花板	文 灰白	精	明緑灰	景徳	小野C	口縁外面の文様が特徴的、濃み描きを多用。	H中山+L I +N II +NE II
216	堀 B4	碗	口~胴		14.8		口縁:界線、	胴部:花鳥折枝	灰白	精	明緑灰	景徳	小野C		杉 B2 III
217	水 表土・造成土	碗	口~胴				口縁:界線、	雷文帯 / 胴部: あり	灰白	精	明緑灰	景徳	小野C		谷 2 10 層
218	曲J1 旧L	碗	胴~底			5.4	胴部:芭蕉文	/ 法螺貝文 / 見込み:小花3	と 灰白	精	明緑灰	景徳	小野C	高台付け根の削り込みがシャープ。 高台内白色釉か(発色不良のため不明)畳付釉削り	L I +K T3+P II +L II
219	SG2-1 横断 2層	碗	胴~底			4.2	胴部:小花文	[灰白	精	明緑灰	景徳	小野C	型紙摺りか。高台やや内傾。畳付釉削り	P 770 II +P II +Q II +N II
220	SG2-2	碗	胴~底			4.6	腰部:連弁文	(/胴部:唐草文/花卉文?	灰白	精	明緑灰	景徳	小野C	畳付釉削り	Q 770
221	曲 F3 旧 F2	碗	口~胴		11.4		口縁:界線/	胴部:山水人物	灰白	精	明青灰	景徳	小野 E	底部がないので碗E群と言い難いが、文様から可能性は高い。	F2 II + G2 d II
222	SG2-2 埋土	碗	口~胴				口縁:界線/	胴部:唐子	灰白	精	灰白	景徳	小野 E	底部がないので碗E群と言い難いが、文様から可能性は高い。濃み多用	Q 700 54
223	曲J1 旧L	碗					口縁:唐草文	、帯、界線	灰白	精	灰白	景徳	小野 E	底部がないので碗E群と言い難いが、文様から可能性は高い。界線濃み使用	L II
224	曲J1 旧L	碗	口付近~胴				口縁:雷文帯 / 月	同部:牡丹唐草文/腰部:如意頭:	女 灰白	精	明青灰	景徳	小野 E	底部がないので碗E群と言い難いが、文様から可能性は高い。	L II
225	水切岸2 2層	碗	胴~底			4.8	腰部:界線/	見込み:花樹、高台内銘:福	灰白	精	明青灰	景徳	小野 E	万頭心だが膨らみは少ない、	谷 2 打 2 2 層
226	水 SB1	碗	胴~底			4.4	見込み:鋸歯	文、人物、高台内銘:大明年	造 灰白	精	明青灰	景徳	小野E	二次的に被熱、	谷 2 北/リ 2 層 + 谷 2P85

第22表-2 青花観察表

	22表-			钥祭表	. \			0/5	1 55	-m				
掲載 No	出土地点	器種	重 部位	法量 (cr 器高 口径	n) 高台径		文様	色調		調調	産地	分類	備考	注記名
227	水切岸2 2	層碗	胴~底			見込み:花樹、	高台内: 大明年造の銘	灰白	精 明記	灰景	景徳	小野 E		谷2北川2層
228	曲 J1 J1-P5	71 碗	底			見込み:折菊、	高台内:萬福攸同の字	灰白	精 明記	灰景	景徳	小野 E		L P571
229	曲 J1 J1-SF	12 碗	口~胴	14.8		口縁:唐草文帯、	牡丹唐草文帯・胴部:草花文?	灰白	精明	灰景	景徳	小野 E	文様濃みによる絵付け。	L P12 埋 +I-1
230	水切岸 2 2	層碗	胴~底		7.2	胴部:如意頭文に文	(字か、丸花文 / 見込み:花卉樹石か	灰白	精明	灰景	景徳	森IV a	畳付釉剥ぎ、砂付着	谷 2 北/リ 層
231	水 SF 6 層上	層皿	口~底	2.8 13.0	7.2	口縁:界線/胴部	3:唐草文 / 見込み:玉取獅子文	灰白	精明	灰景	景徳	小野 B1	畳付釉削り	谷 2SF 石沖
232	曲 H SB9	\blacksquare	口~底	2.6 11.6	6.6	□縁:界線/胴部:	宝相華唐草文 / 見込み:玉取獅子文	灰白	精 明	灰景	景徳	小野 B1	二次的に被熱	G2 P41-1
233	水 SB2	Ш	口~底	2.5 12.8	7.0	□縁:界線/胴部:	宝相華唐草文 / 見込み: 玉取獅子文	灰白	精灰的	1 5	景徳	小野 B1	畳付付近に離れ砂が熔着、畳付釉剥ぎ	H シオマミ + 谷 2 カウラン + 谷 2P117
234	SG2-1 北端部下	層皿	底		6.6	見込み:玉取狐	師子文	灰白	精明	灰景	景徳	小野 B1	畳付に離れ砂が熔着	L ツウロ 下層
235	曲 A2 2 層	Ш	胴~底				部:唐草文 / 見込み:花樹						見込みに擦痕、畳付釉削り	A2 II層 -6+A3 北/リII層
236	曲 A3 SB12		口~底	2.3 5.0			: 宝相華唐草文 / 見込み: 十字花文						二次的に被熱しているのか全体に白っぽい	A3P111
237	水切岸1 4		口~底	2.3 9.8			『:唐草文/見込み:十字花文 - / □/3 · 1/2						二次的に被熱、高台内は釉を別掛け。高台外面より畳付まで幅広く釉剥ぎ	
238	曲 H2 旧 G		口~胴	12.6		口縁:四方襷		灰白				小野 B2		G3 b II
239	水SE1C区下		口~胴	13.0		口縁:四方襷	▼/ □縁:界線	灰白					釉ちぢれあり	谷 2SE1C9 層
240	SG1-3 石敷横断 5					口縁:界線		灰白					口縁端部が釉剥ぎされ、鉄釉(口紅装飾)	G2 E ツウロ f イシ 5層
241	堀群 横		胴~底				み:長命富貴 / 高台内:天下太平						畳付に砂付着	谷 3
242	水表土・造成		底			見込み:福禄美		灰白					胴部を意図的に打ち欠いている。二次的利用の可能性高い	
243	曲 A3 SB10		口~底	2.8 10.0			(/胴部:芭蕉葉文/見込み:捻花文						全面施釉後、底部輪状に釉剥ぎ、高台内施釉	A3P121
244	曲川 旧L		口~底	2.7 10.1			[/胴部:芭蕉葉文/見込み:捻花文 - /胴部: 芭蕉葉文/見込み:捻花文			灰景			全面施釉後、底部輪状に釉剥ぎ、高台内施釉。溶着物あり。	
245	水切岸1 4 堀群 横	/я ш m	口~底	2.5 9.8			7/胴部:芭蕉葉文/見込み:捻花文 7/胴部:芭蕉葉文/見込み:捻花文						全面施釉後、畳付周辺を釉剥ぎ 全面施釉後、畳付周辺を釉剥ぎ	谷2 打 1 4 層 谷 3 T 5 2 層
247	曲 J1 J1-P5		口~胴	10.0			濤文 / 胴部:あり、芭蕉葉文						呉須の発色が悪くやや緑がかる。	L P571
248	水SE1 D区下		胴~底	10.0			部:芭蕉葉文/見込み:花文						全面施釉後、畳付周辺を釉剥ぎ。高台内赤く発色	谷 2+ 谷 2SED15 層
249	曲 H1 H1-P1		胴~底				部:芭蕉葉文/見込み:花文			灰景			主国施袖後、宝竹局辺を袖刻さ。高古内がく発出 釉がやや発泡、全面施釉後、畳付周辺を釉剥ぎ。	G2 P160- 1
250	SG2-2 埋土		胴~底				部・巴無条文/ 兄込み・化文 『:あり、芭蕉葉文/ 見込み: 花文						相がやら死心、主国心相接、宝竹局辺を相刺さ。 全面施釉後、畳付周辺を釉剥ぎ。	O 770 10+O 770 90
250	曲 G 旧 G1	т т	- 胴~底 □~底	2.4 10.4			D・めり、巴無果又/見込み・化又 胴部:折枝/見込み:山水風景か						至国施柵伎、宣刊局辺を梱刺さ。 畳付に離れ砂が熔着	G1 h T1 II +L h T3 II
252	堀群 横		口~底	2.6 10.2		口縁: 四万停又// 口縁: 界線/ 見		灰白					回線 端部 和削り?	谷3
253		i2 III	口~胴	2.0 10.2			/胴部:花鳥折枝文	灰白					接合しない同一固体あり	G2 II
254	水窪 川区	m					過文 / 胴部: 花鳥折枝か	灰白				小野E	KIOW N EMW)	谷 2 III B 下層
255	曲M 旧P		胴~底			見込み:植物	5X / 10/00/11/X/3	灰白					呉須の発色がよく釉調も滑らかな優品、畳付釉剥ぎ	
256	水表土·造成		底			見込み:蟹		灰白				小野E	会がいたこれ 5 (和助 5 内 5 内 5 皮 m 直 1 和助 5 に	谷2 10層
	水切岸1 14		底					灰白				小野E		谷2 担 14層
258	曲 B3 1層	m	口~底	3.9 20.4			31日79・ダー・美し」が 8化した宝相華唐草文/見込み:菊梅花欄干			_			畳付に砂目熔着、高台内はスが多い	B 3 I +B3T82層+谷2北/J2層
259	水切岸2 2		底	3.7 20.4		見込み:菊挿		灰白					260 と同一図だが接合不可。畳付広く釉剥ぎ。発色不良	
260	曲 B3 1層		底			胴部:あり/身		灰白					呉須の発色が悪く、やや黒い。畳付広く釉剥ぎ、砂付着	
261	曲M 旧P		底			見込み:あり	EXOV. HE	灰白					皿 B2、もしくは皿 E の大型品か。畳付広く釉剥ぎ、砂付着	
262	水 SE1 A 区	盤	口~底	2.4 16.0			# - ONE - A- ONE - A- (B) 1 - + 1	火口	作 明日		स्थ			FI 32 II TIVAÇAFTUZ U II
202	N DET A IC							灰白	ş≛ B1.±11	기 때 등	로油	4일(元)	睡から経く立ち上がり 折りてめ側に士キく悶く 絵だ □	公 7 北川 7 届 1 公 75F1 A-36
263	水素土・浩成	+ /\k					部:印刻連弁文、印刻連弁文 / 見込み: あり				景徳	鍔縁	腰から緩く立ち上がり、折れて外側に大きく開く。輪花皿。	
263	水表土・造成水表土・造成		口~胴	7.0		胴部:唐草	部・中別連升X、中別連升X/見込み・のり	灰白	精灰的	5	景徳		二次的に被熱。釉ムラあり	谷2 10層
264	水表土・造成	土 小杯	口~胴			胴部:唐草 胴部:唐草		灰白 灰白	精灰的精明	灰景	景徳		二次的に被熱。釉ムラあり 口縁口錆	谷2 10層
264	水表土·造成 曲 K	注 小杯 小杯	□~胴 □~胴 I胴~底	7.0	2.6	胴部:唐草 胴部:唐草 胴部:渦文/見	込み:寿山福海 / 高台内:福	灰白 灰白 灰白	精 灰色精 明終	灰景灰景	景徳景徳		二次的に被熱。釉ムラあり 口縁口錆 高台のくびれに釉が厚くかかる	谷 2 10 層 谷 2 K d II
264 265 266	水 表土·造成 曲 K 曲 K	注 小杯 小杯 小杯	口~胴 口~胴 . 胴~底 . 胴	7.0 7.4	2.6	胴部:唐草 胴部:唐草 胴部:渦文/見 腰部:界線/朋	込み:寿山福海/高台内:福 同部:あり	灰白 灰白 灰白 灰白	精 灰白 精 明彩 精 明彩	灰景灰景	景徳景徳景徳		二次的に被熱。釉ムラあり □縁口錆 高台のくびれに釉が厚くかかる 腰が屈曲する碗、小杯に近い	谷 2 10 層 谷 2 K d II K d II + K b II
264 265 266 267	水表土·造成 曲 K 曲 K 曲 B3 1 層	土 小杯 小杯 小杯 碗	□~胴 □~胴 □ III III III III III III III III III I	7.0 7.4 6.4 13.0	2.6	胴部:唐草 胴部:唐草 胴部:渦文/見: 腰部:界線/刖	込み:寿山福海 / 高台内:福 同部:あり 同部:芭蕉菜 / 見込み:簡略化した蓮花	灰白 灰白 灰白 灰白 灰白	精 灰E 精 明 精 明 精 明 精 明 和 灰E	形 频灰 频 灰 频 灰 频 灰 频 灰 频 灰 频 灰 频	景徳景徳景徳景徳	小野C	二次的に被熱。釉ムラあり 口縁口錆 高台のくびれに釉が厚くかかる 腰が屈曲する碗、小杯に近い 高台露胎	谷2 10層 谷2 Kd II Kd II + Kb II B3T6
264 265 266 267 268	水表土·造成 曲 K 曲 K 曲 B3 1 層 水 SE1 A 区	土 小杯 小杯 小杯 碗 碗	□~胴 □~胴 : 胴~底 : 胴 □~底 □~胴	7.0 7.4	2.6	胴部:唐草 胴部:唐草 胴部:渦文/見 腰部:界線/肌 口縁:界線、波溝文/ 口縁:界線/朋	込み:寿山福海 / 高台内:福 周部:あり 間: 芭蕉文/ 見込み:最略化た達花 周部: 簡略化した小花文	灰白 灰白 灰白 灰白 灰白 灰白	精 灰色	版 景灰 景灰 景灰 景	景徳景徳景徳	小野C	二次的に被熱。釉ムラあり □縁□錆 高台のくびれに釉が厚くかかる 腰が屈曲する碗、小杯に近い 高台露胎 見込み無釉か。高台露胎	谷 2 10 層 谷 2 K d II K d II + K b II B3T6 谷 2SE1A
264 265 266 267 268 269	水表土・造成 曲 K 曲 B3 1層 水 SE1 A 区 SG1-3 側溝	土 小杯 小杯 小杯 碗 碗	□~胴 □~胴 □ 順~底 □~底 □~胴 □~胴	7.0 7.4 6.4 13.0 13.3	2.6	胴部:唐草 胴部:唐草 胴部:渦文/見: 腰部:界線/刖 □縁:界線、波薄//i □縁:界線/別	込み:寿山福海/高台内:福 周部:あり 脚: 芭蕉文/見込:簡略化に進花 同部:簡略化した小花文 皮満文	灰白 灰白 灰白 灰白 灰白 灰白 灰白 灰白	精 灰 印 新	形 景灰 景	景徳 景徳 景徳 景徳 景徳 景徳 景徳	小野C 小野C	二次的に被熱。釉ムラあり □縁□錆 高台のくびれに釉が厚くかかる 腰が屈曲する碗、小杯に近い 高台露胎 見込み無釉か。高台露胎	谷2 10層 谷2 Kd II Kd II + Kb II B3T6 谷2SE1A G2 E 790 b SE 1 1層
264 265 266 267 268 269 270	水表土・造成 曲 K 曲 B3 1層 水 SE1 A 区 SG1-3 側溝 曲 J1 SB8	注 小杯 小杯 小杯 碗 碗 碗	□~胴 □~胴 □ np □~ np □~ np □~ np □~ np	7.0 7.4 6.4 13.0 13.3	2.6	胴部:唐草 胴部:唐草 胴部:渦文/見 腰部:界線/肌 □縁:界線/肌 □縁:界線/肌 □縁:界線/肌	込み:寿山福海/高台内:福 周部:あり 順部: 西第文/見込み: 胸略化た運花 同部: 簡略化した小花文 安濟文 安濟文	灰白 灰白 灰白 灰白 灰白 灰白 灰白	精 灰 E 特 明	日 景灰 景灰 景灰 景 河 河 河 河 河 河 河 河 河 河 河 河 河 河	景徳 景徳 景徳 章 章 章 章 章 章 章 章 章 章 章 章 章 章 章 章	小野 C 小野 C 小野 C	二次的に被熱。釉ムラあり □縁口錆 高台のくびれに釉が厚くかかる 腰が屈曲する碗、小杯に近い 高台露胎 見込み無釉か。高台露胎 臭須の発色が悪い 臭須の発色が悪い。 被熱を受けたか	谷2 10層 谷2 Kd II Kd II + Kb II B3T6 谷2SE1A G2 E 7% b SE1 1層
264 265 266 267 268 269 270 271	水表土・造成 曲 K 曲 B3 1層 水 SE1 A 区 SG1-3 側溝 曲 J1 SB8 SG1-3 表土	土 小杯 小杯 小杯 碗 碗 碗 碗	□~胴 □~胴 □~底 □~胴 □~底 □~胴 □~底 □~胴 □~肌 □~胴 □~胴	7.0 7.4 6.4 13.0 13.3	5.2	胴部:唐草 胴部:唐草 胴部:渦文/見 腰部:界線/肌 □縁:界線、淡本文/ □縁:界線/肌 □縁:界線、泳	込み:寿山福海/高台内:福 周部:あり 脚: 芭蕉女/見込み: 酸略化た遠花 同部: 簡略化した小花文 安濤文 安湾文 略化した波濤文/胴部:あり	灰白 灰白 灰白 灰白 灰白 灰白 灰白 灰白 灰白	精 灰色 明新精 明新 灰灰色 医甲状腺 医甲状腺 医甲状腺 医甲状腺 医甲状腺 医甲状腺 医甲状腺 医甲状腺	日 景	景德 景德 章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章	小野 C 小野 C 小野 C	二次的に被熱。釉ムラあり □縁口請 高台のくびれに釉が厚くかかる 腰が屈曲する碗、小杯に近い 高台露胎 見込み無釉か。高台露胎 呉須の発色が悪い 呉須の発色が悪い。 被熱を受けたか 被熱を受けたか。胎土磁器化せず	谷2 10 個 谷2 Kd II Kd II HKb II B3T6 谷2SE1A G2 E 790 b SE I 1個 LP34 G2 E 790 e
264 265 266 267 268 269 270 271	水表土・造成 曲 K 曲 B3 1 層 水 SE1 A 区 SG1-3 側溝 曲 J1 SB8 SG1-3 表土 SG2-2 8 層	土 小杯 小杯 小杯 碗 碗 碗 碗 碗 碗		7.0 7.4 6.4 13.0 13.3	5.2	胴部:唐草 胴部:唐草 胴部:渦文/見 腰部:涡線/用 □縁:界線/用 □縁:界線/別 □縁:界線、沿 □縁:界線、沿	込み:寿山福海/高台内:福 周部:あり 脚:芭蕉文/見込:胸略にた遠花 同部:簡略化した小花文 皮満文 皮満文 略化した波清文/胴部:あり した小花文	灰白 灰白 灰白 灰白 灰白白 灰白白 灰白白 灰白白 灰白白 灰白白	精 灰的 医甲基甲基甲基甲基甲基甲基甲基甲基甲基甲基甲基甲基甲基甲基甲基甲基甲基甲基甲基	日 景灰 景灰 景灰 景	景	小野 C 小野 C 小野 C 小野 C	二次的に被熱。釉ムラあり □縁□錆 高台のくびれに釉が厚くかかる 腰が屈曲する碗、小杯に近い 高台露胎 見込み無釉か。高台露胎 呉須の発色が悪い。 呉須の発色が悪い。 被熱を受けたか 被熱を受けたか。 勝部にもみ殻か、熔着	谷2 10 個 谷2 Kd II Kd II + Kb II B3T6 谷2SE1A G2 E 790 b SE I 1個 LP34 G2 E 790 e Q 790 94下層
264 265 266 267 268 269 270 271 272 273	 水表土・造成 曲 K 曲 B3 1 層 水 SE1 A 区 SG1-3 側溝 曲 J1 SB8 SG1-3 表土 SG2-2 8 層 SG1-2 遠成土下 	土 小杯 小杯 小杯 碗 碗 碗 碗 碗 碗	□ ~ 胴 □ ~ 胴 □ ~ 底 □ m	7.0 7.4 6.4 13.0 13.3	5.2	胴部:唐草 胴部:唐草 胴部:海文/見 腰部:界線/加 口縁:界線/加 口縁:界線/加 口縁:界線/加 口縁:界線/加 口縁:界線/加 同縁:界線/加 同縁:界線/加 同縁:界線/加 同縁:界線/加 同縁:界線/加 同場:の の の の の の の の の の の の の の の の の の の	込み: 寿山福海/高台内:福 剛部: あり 脚部: 芭蕉文/見込み: 脚略化た遠花 剛部: 簡略化した小花文 皮満文 安浦文 略化した波満文/ 胴部: あり した小花文	灰白 灰白 灰白 灰白 灰白 灰白 灰白 灰白 灰白	精 明 明 所 所 所 所 所 所 所 所 所 所 所 所 所 所 所 所 所	日 景版 景版 景 景 景 景 景 景 景 景 景 景 景 景 景 景 景 景	展	小野 C 小野 C 小野 C 小野 C 小野 C	二次的に被熱。釉ムラあり □縁口請 高台のくびれに釉が厚くかかる 腰が屈曲する碗、小杯に近い 高台露胎 見込み無釉か。高台露胎 呉須の発色が悪い。 呉須の発色が悪い。 被熱を受けたか 被熱を受けたか。 胎盤化せず 腰部にもみ殻が、熔着 全面施輪後、畳付軸削り。畳付のケズリー定せず。 釉ムラあり。	谷2 10 個 谷2 Kd II Kd II HKb II B3T6 谷2SE1A G2 E 770 b SE I 1個 LP34 G2 E 770 e Q 790 サイ下層 F1 790 E L 4 4 個
264 265 266 267 268 269 270 271 272 273 274	ж表土・造成 曲 K 曲 B 3 1 層 水 SE1 A 区 SG1-3 側溝 曲 J1 SB8 SG1-3 表土 SG2-2 8 層 SG1-2 造成土下 SG2-2	土 小杯 小杯 小杯 碗 碗 碗 碗 碗 碗		7.0 7.4 6.4 13.0 13.3	2.6 5.2 4.0 4.9	胴部:唐草 胴部:唐草 胴部:海文/見 腰部:界線/加 口縁:界線/海文/ 口縁:界線/ 回縁:界線/ 別 回縁:界線/ 別 同縁:界線/ 別 同縁:界線/ 別 同縁:界線/ 別 同縁:界線/ 別 同縁: 別 の 同 の 同 の 同 の 同 の 同 の に の に り の に り の に り の に り の に り の に り に り	込み: 寿山福海/高台内:福 同部: あり 開部: 芭蕉菜文/見込み: 顕略化た遠花 可部: 簡略化した小花文 皮濤文 略化した波濤文/ 胴部: あり した小花文 記込み: 花文 か/ 見込み: 花卉文	灰白 灰白 灰灰白 灰灰白 灰灰白 灰灰白 灰灰白 灰灰白 灰灰白 灰灰白 灰	精精 明報 医甲状腺 医甲状腺 医甲状腺 医甲状腺 医甲状腺 医甲状腺 医甲状腺 医甲状腺	日 景版 景版 景版 景版 景版 景	景德 景德 景德 意章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章	小野 C 小野 C 小野 C 小野 C 小野 C 小野 C	二次的に被熱。釉ムラあり □縁口請 高合のくびれに釉が厚くかかる 腰が屈曲する碗、小杯に近い 高台露胎 見込み無釉か。高台露胎 呉須の発色が悪い。被熱を受けたか 被熱を受けたか。胎土磁器化せず 腰部にもみ殻か、熔着 全面施釉後、畳付釉削り。畳付のケズリー定せず。釉ムラあり。	谷2 10 個 谷2 Kd II Kd II + Kb II B316 谷2 SE1A G2 E 790 b SE1 1層 LP34 G2 E 790 e Q 790 世 4千層 F1 790 E は 4層 Q 790
264 265 266 267 268 269 270 271 272 273 274	水表土・造成 曲 K 曲 B 3 1 個 水 SE1 A 区 GG1-3 側溝 曲 J1 SB8 SG1-3 表土 SG2-2 8 個 SG1-2 造成土下 SG2-2	土 小杯 小杯 小杯 你 碗 碗 碗 碗 碗 碗 碗 碗 碗 碗 碗 碗 碗 碗 碗 碗 碗 碗		7.0 7.4 6.4 13.0 13.3	2.6 5.2 4.0 4.9 4.2	胴部:唐草 胴部:唐草 胴部:唐文/見 腰部:飛紋/別 口縁:界線/脳 口縁:界線/別 口縁:界線/別 口縁:界線/別 同縁:界線/別 同縁:界線/別 同縁:界線/別 同縁:界線/別 同縁:原格/り 同 脚部: 古 で り り り り り り り り り り り り り り り り り り	込み: 寿山福海/高台内:福 同部: あり 開部: 芭蕉菜文/見込み: 顕略化た遠花 可部: 簡略化した小花文 皮濤文 略化した波濤文/ 胴部: あり した小花文 記込み: 花文 か/ 見込み: 花卉文	灰白 灰白 灰灰白 灰灰白 灰灰白 灰灰白 灰灰白 灰灰白 灰	精精精精精粗精精精粗精精精 明灰灰灰灰彩 医甲状腺 医甲状腺 医甲状腺 医甲状腺 医甲状腺 医甲状腺 医甲状腺 医甲状腺	1	景德 景德 景德 景帝章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章	小野 C 小野 C 小野 C 小野 C 小野 C 小野 C	二次的に被熱。釉ムラあり □縁口請 高合のくびれに釉が厚くかかる 腰が屈曲する碗、小杯に近い 高台露胎 見込み無釉か。高台露胎 呉須の発色が悪い。被熱を受けたか 被熱を受けたか。胎土磁器化せず 腰部にもみ殻か、熔着 全面施釉後、畳付釉削り。畳付のケズリー定せず。釉ムラあり。	谷2 10 層 谷2 Kd II Kd II + Kb II B3T6
264 265 266 267 268 269 270 271 272 273 274 275	水表土・造成 曲 K	土 小杯 小杯 小杯 碗碗		7.0 7.4 6.4 13.0 13.3	2.6 5.2 4.0 4.9 4.2 5.8	胴部:唐草 胴部:唐草 胴部:唐草 胴部:渦文/見 腰部:界線/別 口縁:界線/別 口縁:界線/別 口縁:界線/別 回縁:界線/別 別部: 葡略化 別胴部: あり/見 胴部: あり/見 見込み: あり	込み:寿山福海/高台内:福 剛部:あり 脚: 芭蕉文/見込み: 製化した達花 剛部: 簡略化した小花文 皮満文 皮満文 皮満文 皮満文/開部:あり した小花文 き込み: 花文 か/見込み: 花卉文 見込み: 花文	灰白 灰白 灰灰白 灰灰白白 灰灰白白 灰灰白白 灰白白 灰白白 灰白白 灰白	精精精精粗精精精粗精精精精	1	景景景章章章章章章章章章章章	小野 C 小野 C 小野 C 小野 C 小野 C 小野 C	二次的に被熱。釉ムラあり □縁口請 高台のくびれに釉が厚くかかる 腰が屈曲する碗、小杯に近い 高台露胎 見込み無釉か。高台露胎 呉須の発色が悪い。 呉須の発色が悪い。被熱を受けたか 被熱を受けたか。胎土磁器化せず 腰部にもみ殻か、熔着 全面施釉後、畳付釉削り。畳付のケズリー定せず。釉ムラあり。 畳付釉削り。高台内露胎 全面施釉後畳付釉剥ぎ 良品。畳付が幅広で畳付~高台内露胎。皿の可能性も	谷 2 10 個 谷 2 Kd II Kd II + Kb II B3T6 谷 25E1A G2 E 790 b SE 1 1層 LP34 G2 E 790 e Q 790 財 千下層 F1 790 E レ 4 層 Q 790 Q 10損 Kl II B
264 265 266 267 268 269 270 271 272 273 274 275 276	水表土・造成 曲 K	土 小杯 小杯 小杯 碗 碗 碗 碗 碗 碗 碗 碗 碗		7.0 7.4 6.4 13.0 13.3	2.6 5.2 4.0 4.9 4.2 5.8 5.4	胴部:唐草 胴部:唐草 胴部:唐草 胴部:渦文/見 腰部:滑線/別 口縁: 界線/別 口縁: 界線 (別 回縁: 界線 (別 同脚部:あり/見 胴部:あり/見 見込み:あり/見	込み:寿山福海/高台内:福 剛部:あり 脚: 芭蕉敦/見込み: 聯化した達花 剛部: 簡略化した小花文 皮満文 皮満文 皮満文 とさいれた文 きない。 むしたい花文 の/見込み: 花文 の/見込み: 花文 いかり見込み: 花文 の/見込み: 花文	灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰	精精精精粗精精精粗精精精精	1	景景 表 章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章	小野C 小野C 小野C 小野C 小野C 小野C	二次的に被熱。釉ムラあり □縁口請 高台のくびれに釉が厚くかかる 腰が屈曲する碗、小杯に近い 高台露胎 見込み無釉か。高台露胎 臭須の発色が悪い。 呉須の発色が悪い。被熱を受けたか 被熱を受けたか 被熱を受けたか。胎 並臨器化せず 腰部にもみ殻か、熔着 全面施釉後、豊付釉削り。豊付のケズリー定せず。釉ムラあり。 豊付釉削り。高台内露胎 全面施釉後豊付釉剥ぎ 良品。豊付が幅広で豊付~高台内露胎。皿の可能性も 豊付が幅広で豊付~高台内露胎	谷2 10 個 谷2 Kd II Kd II + Kb II B316 谷2 SE1A G2 E 790 b SE1 1層 L P34 G2 E 790 e Q 790 サイ下層 F1 790 E レキ 4層 Q 790 GHGE7014G214GE791
264 265 266 267 268 269 270 271 272 273 274 275 276 277	水 表土・造成 曲 K 曲 B 3 1 層 水 SG1-3 側溝 曲 J 1 88 SG1-3 表土 SG2-2 8 層 SG1-2 造成す SG2-2 SG1-3 石敷 曲 B 3 1 層 水 切岸 1 4 由 日 1 日 日	土 小杯 小杯 小杯 小杯 碗碗		7.0 7.4 6.4 13.0 13.3	2.6 5.2 4.0 4.9 4.2 5.8 5.4 4.9	胴部:唐草 胴部:唐草 胴部:唐草 胴部:渦文/見 腰部:界線/朋 口縁: 界線/別 口縁: 界線(別 回縁: 界線(別 回縁: 界線(別 明部: 草花り/見 胴部: あり/見 見込み: 女り/見 見し込み: 文字/見	込み:寿山福海/高台内:福 剛部:あり 順部:産業文/見込み: 製化した重花 剛部: 簡略化した小花文 皮満文 皮満文 皮満文 皮満文 を化した波濤文/胴部:あり した小花文 む込み: 花文 か/見込み: 花文 込み: 花文 込み: 花文	灰灰 灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰	精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精	1	景景景景章章章章章章章章章章章章章章章	小野C 小野C 小野C 小野C 小野C 小野C 小野C 小野C	二次的に被熱。釉ムラあり □縁口請 高台のくびれに釉が厚くかかる 腰が屈曲する碗、小杯に近い 高台露胎 見込み無釉か。高台露胎 呉須の発色が悪い。 渓須の発色が悪い。被熱を受けたか 被熱を受けたか。 勝五磁器化せず 腰部にもみ殻か、熔着 全面施釉後、豊付釉削り。豊付のケズリー定せず。釉ムラあり。 豊付釉削り。高台内露胎 全面施釉後豊付釉剥ぎ 良品。豊付が幅広で豊付~高台内露胎。皿の可能性も 豊付が幅広で畳付~高台内露胎	谷2 10層 谷2 Kd II Kd II + Kb II B316 谷2 SE1A G2 E 790 b SE1 1層 L P34 G2 E 790 e Q 790 サイ下層 F1 790 E レ 4層 Q 790 E 以 4層 Q 790 E 以 4層 Q 790 E 以 4層 B 3 会 2 封 1 4層 G3 C
264 265 266 267 268 269 270 271 272 273 274 275 276 277 278	水表土・造成 曲 K 曲 B 3 1 層 水 SE1 A 区 SG1-3 側溝 曲 J1 SB8 SG1-3 表土 SG1-2 造成土下 SG2-2 SG1-3 石敷 曲 B 3 1 層 水 切岸 1 4 由 H 2 目 G G	土 小杯杯 小杯杯		7.0 7.4 6.4 13.0 13.3	2.6 5.2 4.0 4.9 4.2 5.8 5.4 4.9 5.2	胴部:唐草 胴部:唐草 胴部:唐草 胴部:渦文/見 腰部:飛線/朋 口縁・界線、波文/! 口縁・界線、泊 口縁・界線、泊 口縁・界線、泊 門部・草花・り/見 見込み・あり/見 見込み・風景/	込み: 寿山福海/高台内:福 剛部: あり 脚: 電電文/見込み: 簡略化した連花 剛部: 簡略化した小花文 皮満文 皮満文 皮満文 を送入す: 花文 か/見込み: 花文 か/見込み: 花文 込み: 提人化した文字「寿」 かかり	灰灰 灰灰灰灰灰 灰灰灰灰 灰灰灰灰 灰淡灰 灰淡灰 灰灰灰 灰灰灰灰 灰灰	精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精,灰灰灰灰。	1	景景景景章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章	小野C 小野C 小野C 小野C 小野C 小野C 小野C	二次的に被熱。釉ムラあり □縁口請 高台のくびれに釉が厚くかかる 腰が屈曲する碗、小杯に近い 高台露胎 見込み無種か。高台露胎 臭須の発色が悪い。被熱を受けたか 被熱を受けたか。胎土磁器化せず 腰部にもみ殻か、熔着 全面能熱を、畳付船削り。畳付のケズリー定せず。釉ムラあり。 畳付釉削り。高台内露胎 全面施釉後畳付釉剥ぎ 良品。畳付が幅広で畳付~高台内露胎。皿の可能性も 畳付が幅広で畳付~高台内露胎	谷2 10 層 谷2 Kd II Kd II + Kb II B316 谷2 SE1A G2 E 770 b SE1 1層 L P34 G2 E 770 e Q 790 章 4千層 F1 790 E 比 4 層 Q 790 G14G1を開催・公計会計会計会計会計会計会計会計会計会計会計会計会計会計会計会計会計会計会計会
264 265 266 267 268 269 270 271 272 273 274 275 276 277 278 279 280	水表土・造成 曲 K	土 小杯杯杯 你 你 你 你 你 你 你 你 你 你 你 你 你 你 你 你 你	□~胴 □~胴 □~に □~に □~ル □ □~ □	7.0 7.4 6.4 13.0 13.3 12.8 11.8	2.6 5.2 4.0 4.9 4.2 5.8 5.4 4.9 5.2	胴部:唐草 胴部:唐草 胴部:唐草 胴部:渦文/見 腰部:滑線/側 口縁: 界線/側 口縁: 界線(加 口縁: 界線(加 回縁: 界線(加 同) 開部: あ草花/り 見込み: あり/見 見込み: 風見 見見込み: 風見 見見いる。 スポート	込み: 寿山福海/高台内:福 剛部: あり 脚: 高萬葉/見み: 襲略化た蓮花 剛部: 簡節略化した小花文 皮満文 皮満文 世帯化した波濤文/胴部: あり 上た小花文 し込み: 花文 か/見込み: 花文 か/見込み: 花文 込み: 様文 込み: 様文	灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰	精精精精精精精精精精精精精精精精	1	景景景景章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章	小野C 小野C 小野C 小野C 小野C 小野C 小野C 小野C	二次的に被熱。釉ムラあり □縁口請 高台のくびれに釉が厚くかかる 腰が屈曲する碗、小杯に近い 高台露胎 見込み無釉か。高台露胎 呉須の発色が悪い。 渓須の発色が悪い。被熱を受けたか 被熱を受けたか。 勝五磁器化せず 腰部にもみ殻か、熔着 全面施釉後、豊付釉削り。豊付のケズリー定せず。釉ムラあり。 豊付釉削り。高台内露胎 全面施釉後豊付釉剥ぎ 良品。豊付が幅広で豊付~高台内露胎。皿の可能性も 豊付が幅広で畳付~高台内露胎	谷2 10 層 谷2 Kd II Kd II + Kb II B316 谷2 SE1A G2 E 770 b 5E1 1層 L P34 G2 E 770 e Q 770 E は 4層 Q 770 E は 4層 Q 770 の 日のは7年層 下1 790 E は 4層 G3 E オリ 4層 G3 C Kベルト 谷2 10 層
264 265 266 267 268 269 270 271 272 273 274 275 276 277 278 279 280	水表土・造成 曲 K	土 小杯杯杯 你 你 你 你 你 你 你 你 你 你 你 你 你 你 你 你 你		7.0 7.4 6.4 13.0 13.3 12.8 11.8	2.6 5.2 4.0 4.9 4.2 5.8 5.4 4.9 5.2	胴部:唐草 胴部:唐草 胴部:唐草 胴部:渦文/見 腰部:飛線/別 口縁:飛線、淡菜/! 口縁:界線、泳 口縁:界線、泳 口縁:界線、泳 門師部: あり/見 見込み: あり/見 見込み: 風線: 見込み: 風線: 見しる: しまり/見 見いる: しまり/見いる: しょり/見いる: しまり/見いる: しょり/見いる: しょり/見いる: しょり/見いる: しょり/見いる: しょり/見いる: しょり/しょり/見いる: しょり/見いる: し	込み:寿山福海/高台内:福 剛部:あり 脚:芭蕉文/見み: 胸格化た重花 剛部: 簡略化した小花文 皮満文 整化した波満文/胴部:あり た小花文 記込み:花文 か/見込み:花文 か/見込み:花文 込み:挺人化した文字「寿」 か/見込み: 花丸 ひかり見込み: 花丸 なあいたか。	灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰	精精精精精 明新精精 明明 灰灰灰灰灰 明新精精 网络大小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小	1	景景景景章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章	小野C 小野C 小野C 小野C 小野C 小野C 小野C 小野C	二次的に被熱。釉ムラあり □縁口籍 高台のくびれに釉が厚くかかる 腰が屈曲する碗、小杯に近い 高台露胎 見込み無釉か。高台露胎 臭須の発色が悪い。被熱を受けたか 被熱を受けたか。胎土磁器化せず 腰部にもみ殻か、熔着 全面施釉後患付釉削り。高台内露胎 全面施釉後豊付釉剥ぎ 良品。豊付が幅広で豊付~高台内露胎 全面施釉を豊付本高台内露胎 全面施釉を豊付本高台内露胎	谷 2 10 層 谷 2 K d II K d II + K b II B 316 合 2 SE1 A G 2 E 770 b SE 1 1 層 L P 34 日 7 日 7 日 7 日 7 日 7 日 7 日 7 日 7 日 7 日
264 265 266 267 268 269 270 271 272 273 274 275 276 277 278 279 280 281	水表土・造成 曲 K	土 小小杯杯 你 你 你 你 你 你 你 你 你 你 你 你 你 你 你 你 你		7.0 7.4 6.4 13.0 13.3 12.8 11.8	2.6 5.2 4.0 4.9 4.2 5.8 5.4 4.9 5.2	胴部:唐草 胴部:唐草 胴部:唐草 胴部:唐草 腹部:滑文/見 腰部:界線/別 口縁: 界線/別 口縁: 界線/別 口縁: 界線/別 回縁: 界線/別 門部:	込み:寿山福海/高台内:福 副部:あり 脚:芭蕉文/見み: 簡略化した連花 関部:簡略化した小花文 皮満文 皮満文 整化した波満文/胴部:あり した小花文 記込み:花文 か/見込み:花文 込み:挺人化した文字「寿」 か か 記込み:あり した四方様、界線 文字/見込み:様人化した文字「寿」	灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰	精精精精精精精 明明 明報 医皮皮皮 医甲基二甲基二甲基二甲基二甲基二甲基二甲基二甲基二甲基二甲基二甲基二甲基二甲基二甲	1	景景景景章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章	小野C	二次的に被熱。釉ムラあり □縁口籍 高台のくびれに釉が厚くかかる 腰が屈曲する碗、小杯に近い 高台露胎 見込み無釉か。高台露胎 臭須の発色が悪い。被熱を受けたか 被熱を受けたか。胎土磁器化せず 腰部にもみ殻か、熔着 全面施釉後、豊付船削り。豊付のケズリー定せず。釉ムラあり。 豊付釉削り。高台内露胎 全面施釉後貴付釉剥ぎ 食品。豊付が幅広で豊付~高台内露胎。皿の可能性も 豊付が幅広で豊付~高台内露胎 全面施釉。高台内と豊付に離れ砂が熔着 高台露胎 2枚が熔着	谷2 10 層 谷2 Kd II Kd II + Kb II B376 公25E1A G2 E 770 e Q 770 E L 4 A層 Q 790 G1AG2+G2E 79 f 3 B K
264 265 266 267 268 269 270 271 272 273 274 275 276 277 278 280 281 282	水表土・造成 曲 K	土 小小木杯 网络鸡鸡鸡鸡鸡鸡鸡鸡鸡鸡鸡鸡鸡鸡鸡鸡鸡鸡鸡鸡鸡鸡鸡鸡鸡鸡鸡鸡鸡鸡鸡鸡鸡鸡鸡鸡		7.0 7.4 6.4 13.0 13.3 12.8 11.8 16.0 2.6 10.8 3.2 10.5	2.6 5.2 4.0 4.9 4.2 5.8 5.4 4.9 5.2	朋部:唐草 胴部:唐草 胴部:唐草 胴部:唐草/見 腰部:海文/見 腰部:滑線/別 原部:飛線/別 口口は、	込み:寿山福海/高台内:福 剛部:あり 脚: 芭蕉文/見込み: 簡略化した連花 皮満文 皮満文 整体した波満文/胴部:あり した小花文 記込み:花文 か/見込み:花文 込み:挺人化した文字「寿」 か か した四方標、界線 文字/見込み:文字「寿」 略化した次薄文/胴部:あり した小花文 にいて文 にいて文 にいて文 にいて文 にいて文 にいて文 にいて文 にいて、 にい、 にいて、 にいて、 にいて、 にいて、 にいて、 にいて、 にいて、 にいて、 にいて、 にいて、 に	灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰	精精精精精 明明 明灰灰灰灰 医甲状腺 医甲状腺 医甲状腺 医甲状腺 医甲状腺 医甲状腺 医甲状腺 医甲状腺	日 景景	景景景景章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章	小野C 小野C 小野C 小野C 小野C 小野C 小野C 小野C 小野C 小野C	二次的に被熱。釉ムラあり □縁口請 高台のくびれに釉が厚くかかる 腰が屈曲する碗、小杯に近い 高台露胎 見込み無釉か。高台露胎 臭須の発色が悪い。被熱を受けたか 被熱を受けたか。胎土磁器化せず 腰部にもみ殻か、熔着 全面施釉後、豊付釉削り。豊付のケズリー定せず。釉ムラあり。 豊付釉削り。高台内露胎 全面施釉後豊付釉剥ぎ 良品。豊付が幅広で豊付~高台内露胎。皿の可能性も 皇付が幅広で豊付~高台内露胎 2枚が熔着 高台露胎 2枚が熔着	谷2 10 層 谷2 Kd II Kd II + Kb II B316 公25E1A G2 E 770 e Q 770 Y 1 7 7 8 8 2 1 9 1 9 1 9 1 9 1 9 1 9 1 9 1 9 1 9 1
264 265 266 267 268 269 270 271 272 273 274 275 276 277 278 279 280 281	水 表土・造成 曲 K	土		7.0 7.4 6.4 13.0 13.3 12.8 11.8	2.6 5.2 4.0 4.9 4.2 5.8 5.4 4.9 5.2	胴部:唐草 胴部:唐草 胴部:唐草 胴部:唐草 月間部:渦ス線/月 日間	込み: 寿山福海/高台内:福 同部: あり 間: 高種菓文/見込み: 聯化した達花 同部: 簡略化した小花文 皮満文 皮満文 皮満文 砂化した波満文/開部: あり した小花文 記込み: 花文 か/見込み: 花文 か/見込み: 花文 かか 記込み: あり した四方標、 界線 文学/見込み: 葉人化した文字「寿」 歌化した意準文/見込み: 文字(見込み: 文字(見込み: 文字/見込み: 文字(見込み: 文字(見込み: 文字)	灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰	精精精精粗精精精粗精精精精精粗粗粗精精精精粗粗粗精精精精粗粗粗粗精精精精粗粗粗粗	1	長景景景章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章	小野C 小野C 小野C 小野C 小野C 小野C 小野C 小野C 小野C 小野C	二次的に被熱。釉ムラあり □縁口請 高台のくびれに釉が厚くかかる 腰が屈曲する碗、小杯に近い 高台露胎 見込み無釉か。高台露胎 見込み無釉か。高台露胎 臭須の発色が悪い。被熱を受けたか 被熱を受けたか。胎土磁器化せず 腰部にもみ殻か、熔着 全面施釉後、豊付釉削り。豊付のケズリー定せず。釉ムラあり。 豊付釉削り。高台内露胎 全面施釉後豊付釉剥ぎ 良品。豊付が幅広で豊付~高台内露胎。皿の可能性も 豊付が幅広で豊付~高台内露胎 全面施釉。高台内と豊付に離れ砂が熔着 高台露胎 皇付に離れ砂熔着、底部露胎 豊付に離れ砂熔着、底部露胎	谷2 10 層 谷2 Kd II Kd II + Kb II B376 公25E1A G2 E 770 e Q 770 E L 4 A層 Q 790 G1AG2+G2E 79 f 3 B K
264 265 266 267 268 269 270 271 272 273 274 275 276 277 288 281 282 283	水表土・造成 曲 K			7.0 7.4 6.4 13.0 13.3 12.8 11.8 16.0 2.6 10.8 3.2 10.5 2.7 10.6 2.8 10.6	2.6 5.2 4.0 4.9 4.2 5.8 5.4 4.9 5.2 4.2 3.6 4.0 5.3	胴部:唐草 胴部:唐草 胴部:唐草 胴部:唐草 胴部:高海 / 見/ 見 / 見/ 日 / と/ 日 / 見/ 日 / 子/ 日 / 子/ 見/ 日 / 子/ 日 / 子/ 見/ 日 / 子/ 日 / 子/	込み:寿山福海/高台内:福 剛部:あり 脚: 芭蕉文/見込み: 簡略化した連花 皮満文 皮満文 整体した波満文/胴部:あり した小花文 記込み:花文 か/見込み:花文 込み:挺人化した文字「寿」 か か した四方標、界線 文字/見込み:文字「寿」 略化した次薄文/胴部:あり した小花文 にいて文 にいて文 にいて文 にいて文 にいて文 にいて文 にいて文 にいて、 にい、 にいて、 にいて、 にいて、 にいて、 にいて、 にいて、 にいて、 にいて、 にいて、 にいて、 に	灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰	精精精精粗精精精粗精精精精精精粗 明明灰灰灰灰灰 明彩 医灰明彩 医灰 医 医明 医 医 医 医 医 医 医 医 医 医 医 医 医 医 医 医	1	長景景景章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章	小野C 小野C 小野C 小野C 小野E 小野E 小野E 小野E 小野E 小野E 小野E 小野E	二次的に被熱。釉ムラあり □縁口請 高台のくびれに釉が厚くかかる 腰が屈曲する碗、小杯に近い 高台露胎 見込み無釉か。高台露胎 臭須の発色が悪い。被熱を受けたか 被熱を受けたか。胎土磁器化せず 腰部にもみ殻か、熔着 全面施釉後、豊付釉削り。豊付のケズリー定せず。釉ムラあり。 豊付釉削り。高台内露胎 全面施釉後豊付釉剥ぎ 良品。豊付が幅広で豊付~高台内露胎。皿の可能性も 皇付が幅広で豊付~高台内露胎 2枚が熔着 高台露胎 2枚が熔着	중2 10 層 중2 Kd II Kd II + Kb II B316 중2 SE1A G2 E 790 b SE1 1層 LP34 G2 E 790 e Q 790 박不層 F1 790 E 나 4層 Q 790 만대한 14 등
264 265 266 267 268 270 271 272 273 274 275 276 277 278 279 280 281 282 283 284	水表土・造成 曲 K			7.0 7.4 6.4 13.0 13.3 12.8 11.8 11.8 2.6 10.8 3.2 10.5 2.7 10.6 2.8 10.6 2.7 10.2	2.6 5.2 4.0 4.9 4.2 5.8 5.4 4.9 5.2 4.2 3.6 4.0 5.3 4.0	胴部:唐草 胴部:唐草 胴部:唐草 胴部:唐草 胴部:高久/見 腰部:滑泉線/月 口縁:界線 波変// 口縁: 界線 線 : 界線 (加 回縁: 界線 (加 回縁: 界線 (加 門) の : 2 (加 門) 見見 (加 門) 見見 (加 門) に 1 (加 門) 見見 (加 門) に 1 (加 門) に 1 (加 門) に 2 (加 門) に	込み:寿山福海/高台内:福 剛部:あり 間部:産業女/見込み:聯密化た連花 関部: 簡略化した小花文 皮満文 皮満文 皮満文 砂化した波濤女/胴部:あり 上た小花文 か/見込み:花文 か/見込み:花文 込み:挺人化した文字「寿」 かか した四方欅、	灰灰 灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰 灰粉灰 灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰	精精精精 相精精精 精精精精精精精 粗粗 粗精精精精粗粗	1	展景 景景章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章	小野C 小野C 小野C 小野C 小野C 小野C 小野C 小野C 小野C 小野C	二次的に被熱。釉ムラあり □縁口請 高台のくびれに釉が厚くかかる 腰が屈曲する碗、小杯に近い 高台露胎 見込み無釉か。高台露胎 臭須の発色が悪い。 誤須の発色が悪い。被熱を受けたか 被熱を受けたか 被熱を受けたか。 被熱を受けたか 腰部にもみ殻か、熔着 全面施釉後、畳付釉削り。畳付のケズリー定せず。釉ムラあり。 畳付釉削り。高台内露胎 全面施釉後患付釉剥ぎ 良品。畳付が幅広で畳付~高台内露胎。皿の可能性も 畳付が幅広で畳付~高台内露胎 全面施釉。高台内と畳付に離れ砂が熔着 高台露胎 2 枚が熔着 畳付に離れ砂熔着、底部露胎 畳付に離れ砂熔着、底部露胎	중2 10 層 중2 Kd II Kd II + Kb II B316 중2 SE1A G2 E 700 b SE1 1層 L P34 G2 E 700 e Q 700 명(下層 F1 700 E 나 4層 Q 가여 대한한 제(402) + QE 700 (에) 제 4 제 4 제 4 제 4 제 4 제 4 제 4 제 4 제 4 제
264 265 266 267 268 269 270 271 272 273 274 275 276 277 280 281 282 283 284 285	水表土・造成 曲 K	土		7.0 7.4 6.4 13.0 13.3 12.8 11.8 11.8 2.6 10.8 3.2 10.5 2.7 10.6 2.8 10.6 2.7 10.2	2.6 5.2 4.0 4.9 4.2 5.8 5.4 4.9 5.2 4.2 3.6 4.0 4.0 4.0	胴部:唐草 胴部:唐草 胴部:唐草 胴部:高文/見 腰部:渦ス線/別 口縁・界線 洗線/川 口縁・界線 線 沢線/川 口縁・界線 に 1 日 1 日 1 日 1 日 2 日 2 日 3 日 3 日 3 日 3 日 3 日 3 日 3 日 3 日 3 日 3	込み: 寿山福海/高台内:福 剛部: あり 脚: 高麗敦/見込み: 胸格化た変花 関部: 簡略化した小花文 皮満文 皮満文 皮満文 起込み: 花文) / 見込み: 花文) / 見込み: 花文 込み: 挺人化した文字「寿」) か む込み: 最小化した文字「寿」) か か で字/見込み: 製人化した文字「寿」 文字/見込み: 製人化した文字「寿」 文字/見込み: 製人化した文字「寿」 文字/見込み: 製人化した文字「寿」 以文字/見込み: 製人化した文字「寿」 文字/見込み: 人物化した(寿)	灰灰 灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰 灰粉灰 灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰	精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精	1	展景景景章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章	小野C	二次的に被熱。釉ムラあり □縁口籍 高台のくびれに釉が厚くかかる 腰が屈曲する碗、小杯に近い 高台露胎 見込み無釉か。高台露胎 臭須の発色が悪い。被熱を受けたか 被熱を受けたか 被熱を受けたか 被熱を受けたか 被熱を受けたか を持ちから、熔着 全面施釉後、豊付舳削り。豊付のケズリー定せず。釉ムラあり。 豊付釉削り。高台内露胎 全面施釉後、豊付舳削り。豊付のケズリー定せず。釉ムラあり。 豊付釉削り。高台内露胎 全面施釉後、豊付舳削・豊村の方ズリー定せず。和ムラあり。 豊付・稲広で豊付へ高台内露胎。皿の可能性も 豊付が幅広で豊付へ高台内露胎。 豊付が幅広で豊付で高台内露胎 全面施釉。高台内と豊付に離れ砂熔着 高台露胎 2枚が熔着 豊付に離れ砂熔着、底部露胎 豊付に離れ砂熔着、底部露胎	중2 10 個 중2 Kd II Kd II + Kb II B316 중2 SE1A G2 E 770 b SE1 1層 L P34 G2 E 770 e Q 770 E 나 4 個 Q 770 E 나 4 個 Q 770 E 나 4 個 G3 KI
264 265 266 267 268 269 270 271 272 273 274 275 276 277 280 281 282 283 284 284 285 286	水表土・造成 曲 K	土		7.0 7.4 6.4 13.0 13.3 12.8 11.8 11.8 2.6 10.8 3.2 10.5 2.7 10.6 2.8 10.6 2.7 10.2 2.6 9.6	2.6 5.2 4.0 4.9 4.2 5.8 5.4 4.9 5.2 4.2 3.6 4.0 4.0 4.0 4.0 4.8	胴部:唐草 胴部:唐草 胴部:唐草 胴部:高文/見 腰部:渦ス線/別 口縁・界線 洗線/川 口縁・界線 線 沢線/川 口縁・界線 に 1 日 1 日 1 日 1 日 2 日 2 日 3 日 3 日 3 日 3 日 3 日 3 日 3 日 3 日 3 日 3	込み:寿山福海/高台内:福 剛部:あり 脚:芭蕉女/見込み:駒幣化た蓮花 剛部:簡略化した小花文 皮満文 略化した波満文/胴部:あり 上た小花文 記込み:花文 か/見込み:花文 か/見込み:花文 か/見込み:花文 か/見込み:花文 か/見込み:根人化した文字「寿」 かった。 記込み:根人化した文字「寿」 かった。 記込み:根人化した文字「寿」 かった。 記込み:根人化した文字「寿」 かった。 記込み:根人化した文字「寿」 かった。 記込み:根人化した文字「寿」 がマ/見込み:ターほんで、「寿」 に文字/見込み:メーター に文字/見込み:人物化した「寿」 な字/見込み:人物化した「寿」 な字/見込み:人物化した「寿」	灰灰 灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰 灰粉灰 灰 灰灰 灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰	精精精精粗精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精	1	晨晨晨晨竟章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章	小野C	二次的に被熱。釉ムラあり □縁口請 高台のくびれに釉が厚くかかる 腰が屈曲する碗、小杯に近い 高台露胎 見込み無釉か。高台露胎 臭須の発色が悪い。被熱を受けたか 被熱を受けたか。胎土磁器化せず 腰部にもみ殻か、熔着 量付和削り。高台内露胎 全面施釉後量付釉剥ぎ 良品。畳付が幅広で畳付~高台内露胎。皿の可能性も 畳付が幅広で畳付~高台内露胎 全面施釉を畳付和剥ぎ 良品。畳付が幅広で畳付~高台内露胎 全面施釉を畳付を調点で畳付で高台内露胎 高台露胎 2枚が熔着 畳付に離れ砂熔着、底部露胎 畳付に離れ砂熔着、底部露胎 底部露胎、発色不良 畳付に離れ砂熔着、底部露胎	승 2 10 個 승 2 Kd II Kd II + Kb II B316 승 25E1A G2 E 790 b SE 1 1層 LP34 G2 E 790 e Q 790 박/下層 F1 790 E I 4 세
264 265 266 267 268 269 270 271 272 273 274 275 276 277 280 281 282 283 284 285 285 286 287	水表土・造成 曲 K 日本	土 工 小 小 小 小 小 小 不 一 層 一 層 二 上 中層層層 層 一 日 日		7.0 7.4 6.4 13.0 13.3 12.8 11.8 11.8 2.6 10.8 3.2 10.5 2.7 10.6 2.8 10.6 2.7 10.2 2.6 9.6	2.6 5.2 4.0 4.9 4.2 5.8 5.4 4.9 5.2 4.2 3.6 4.0 4.0 4.0 4.8 3.8	胴部:唐草 胴部:唐草 胴部:唐草 胴部:唐草 胴部:高文/見 腰部:滑線/別 一口縁:界線/別 一口縁:界線/別 開部:あ草の/ 門 門の 一段 一段 一段 一段 一段 一段 一段 一段 一段 一段 一段 一段 一段	込み:寿山福海/高台内:福 剛部:あり 脚:芭蕉女/見込み:駒幣化た蓮花 剛部:簡略化した小花文 皮満文 略化した波満文/胴部:あり 上た小花文 記込み:花文 か/見込み:花文 か/見込み:花文 か/見込み:花文 か/見込み:花文 か/見込み:根人化した文字「寿」 かった。 記込み:根人化した文字「寿」 かった。 記込み:根人化した文字「寿」 かった。 記込み:根人化した文字「寿」 かった。 記込み:根人化した文字「寿」 かった。 記込み:根人化した文字「寿」 がマ/見込み:ターほんで、「寿」 に文字/見込み:メーター に文字/見込み:人物化した「寿」 な字/見込み:人物化した「寿」 な字/見込み:人物化した「寿」	灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰淡灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰	精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精精	1	景景 景章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章	小野C / 小T / 小野C / 小野C / 小野C / 小野C / 小T / 小	二次的に被熱。釉ムラあり □縁口錆 高台のくびれに釉が厚くかかる 腰が屈曲する碗、小杯に近い 高台露胎 見込み無釉か。高台露胎 臭須の発色が悪い。被熱を受けたか 被熱を受けたか。胎土磁器化せず 腰部にもみ殻か、熔着 全面施釉後患付釉刺・ 全面施釉後患付釉刺・ 全面施釉後豊付釉剥・ 全面施釉後豊付和剥・ 全面施釉後豊付和剥・ 全面施釉後豊付和剥・ 会付が幅広で豊付~高台内露胎。皿の可能性も 豊付が幅広で豊付~高台内露胎 全面施釉を豊付本高台内露胎 全面施釉を豊付本高台内露胎 全面施釉を豊付本高台内露胎 を自が軽左で豊付~高台内露胎 を自が軽左で豊付~高台内露胎 を自が軽素を受けた離れ砂が熔着 高台露胎 と枚が熔着 長部露胎 発色不良 豊付に離れ砂熔着、底部露胎 高台内赤褐色化。鉄釉塗布か?底部露胎、釉厚め 高台内に離れ砂が熔着、高台内まで一部施釉	경2 10 個 경2 Kd II Kd II + Kb II B316 경25E1A G2 E 770 b SE 1 1
264 265 266 267 268 269 270 271 272 273 274 275 276 280 281 282 283 284 285 286 287 288	水表土・造成 曲 K	土 工 小 小 小 小 小 小 不 一 層 一 層 二 上 中層層層 層 一 日 日		7.0 7.4 6.4 13.0 13.3 12.8 11.8 16.0 2.6 10.8 3.2 10.5 2.7 10.6 2.8 10.6 2.7 10.2 2.6 9.6 3.0 9.6	2.6 5.2 4.0 4.9 4.2 5.8 5.4 4.9 5.2 4.2 3.6 4.0 5.3 4.0 4.0 4.8 3.8	胴部:唐草 胴部:唐草 胴部:唐草 胴部:唐草 胴部:高文/見 腰部:滑線/別 一口縁:界線/別 一口縁:界線/別 開部:あ草の/ 門 門の 一段 一段 一段 一段 一段 一段 一段 一段 一段 一段 一段 一段 一段	込み:寿山福海/高台内:福 同部:あり 間: 高種菓文/見込み: 製化した達花 同部: 簡略化した小花文 皮満文 皮満文 略化した波濤文/開部:あり した小花文 む込み: 花文 か/見込み: 花文 か/見込み: 花文 かか 記込み: あり した四方裸、界線 文学/見込み: 製化した文字 「寿」 かか 記込み: 数人化した文字 「寿」 かか 記込み: 数人化した文字 「寿」 かか 記込み: 数人化した文字 「寿」 がか に四方裸、界線 文学/見込み: 文字 「見込み: 文字 「利 した文字/見込み: 数化した 「寿」 で字/見込み: 大字か 能した文字/見込み: 入学か した文字/見込み: 入学か した文字/見込み: 入学か した文字/見込み: 入学か した文字/見込み: 入学か した文字/見込み: 入学か した文字/見込み: 入学か した文字/見込み: 入学か した文字/見込み: 入学か した波涛文 く/開部: 芭蕉葉文/見込み: 花文	灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰淡灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰	精精精粗精精精粗精精精精精粗粗精精精精粗粗精精精精		展展 异异章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章	小野C C 小野C C C C C C C C C C C C C C C C	二次的に被熱。釉ムラあり □縁口籍 高台のくびれに釉が厚くかかる 腰が屈曲する碗、小杯に近い 高台露胎 見込み無釉か。高台露胎 見乳の発色が悪い。被熱を受けたか 被熱を受けたか。胎土磁器化せず 腰部にもみ殻か、熔着 全面施釉後患付釉削り。畳付のケズリー定せず。釉ムラあり。 量付釉削り。高台内露胎 全面施釉後患付釉剥ぎ 良品。畳付が幅広で畳付~高台内露胎。皿の可能性も 畳付が幅広で畳付~高台内露胎 全面施釉を畳付釉剥ぎ 良品。畳付が幅広で畳付~高台内露胎 全面施釉、高台内と畳付に離れ砂が熔着 高台露胎 2 枚が熔着 量付に離れ砂熔着、底部露胎 軸に減け掛け、工めに被熱。底部露胎 底部露胎、発色不良 畳付に離れ砂熔着、底部露胎	중2 10 層 중2 Kd II Kd II + Kb II B316 중2 SE 1A G2 E 770 b SE 1 1層 L P34 G2 E 770 e Q 700 부가 層 F1 770 E 나 4 層 Q 790 GHGE 776 대 4 層 G3 C K^^ 하나 중2 10 層 중2 2 17 1 4層 중2 17 1 4 層 중2 2 17 1 4 層 중2 17 1
264 265 266 267 268 270 271 272 273 274 275 276 277 278 280 281 282 283 284 285 286 287 288 289	水表土・造成	土 工 小 小 小 小 小 小 小 小 小 小 小 小 上 上 上 </td <td>□~胴間に 回って 回り 回り</td> <td>7.0 7.4 6.4 13.0 13.3 12.8 11.8 11.8 16.0 2.6 10.8 3.2 10.5 2.7 10.6 2.8 10.6 2.7 10.2 2.6 9.6 3.0 9.6 10.2</td> <td>2.6 5.2 4.0 4.9 4.2 5.8 5.4 4.9 5.2 4.2 3.6 4.0 5.3 4.0 4.0 4.9 4.0 4.0 5.3 4.0 4.0 5.3 4.0 5.3 4.0 5.3 5.3 5.3 5.3 5.3 5.3 5.3 5.3 5.3 5.3</td> <td>胴部:唐草 期部:唐草 月間部:唐草 月間部:唐草 月間部:唐草 月間部: 唐草 月間部: 唐草 月間</td> <td>込み:寿山福海/高台内:福 同部:あり 間部:酷東文/見込か:聯化した達花 同部: 簡略化した小花文 皮満文 皮満文 皮満文 皮満文 砂パープライン (一部で) 記込み:花文 かり 記込み:花文 かり 記込み:花文 かり 記込み: 花文 かり 記込み: 花文 かり 記込み: 花文 かり 記込み: 花文 かり 記込み: 花文 かり 記込み: 花文 かり 記込み: 花文 かり 記込み: 表り した四方様、 界線 文字/見込み: 夏人化した文字 (再) 取字/見込み: 及火化した文字 (再) にた四方様、 界線 文字/見込み: 夏人化した文字 (五) はた文字/見込み: 入物化した (南) はた文字/見込み: 入物化した (南) 月込み: 文字か 山た文字/見込み: 入物化した (南) 月込み: 文字か した文字/見込み: 文字か した波涛文 く/開部: 芭蕉葉文/見込み: 花文 同部: 梵字か</td> <td>灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰</td> <td>精精精粗精精精粗精精精精粗精精精精粗粗灰明明明灰灰灰明灰灰灰明灰灰灰明灰灰灰形成灰灰灰明光灰灰淡影则野灰则淡彩则野灰明淡灰淡淡影则野灰明淡灰形淡水</td> <td> </td> <td>展展 异异章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章</td> <td>小野C C 小野C C 小野C C C C C C C C C C C C C</td> <td>一次的に被熱。釉ムラあり □縁口籍 高台のくびれに釉が厚くかかる 腰が屈曲する碗、小杯に近い 高台露胎 見込み無釉か。高台露胎 見込み無釉か。高台露胎 見乳須の発色が悪い。被熱を受けたか 被熱を受けたか。胎土磁器化せず 腰部にもみ殻か、熔着 全面施釉後、畳付釉削り。畳付のケズリー定せず。釉ムラあり。 畳付釉削り。高台内露胎 全面施釉後患付釉剥ぎ 良品。畳付が幅広で畳付~高台内露胎。皿の可能性も 畳付が幅広で畳付~高台内露胎 全面施釉。高台内と畳付に離れ砂が熔着 高台露胎 2枚が熔着 畳付に離れ砂熔着、底部露胎 畳付に離れ砂熔着、底部露胎 電が露胎、発色不良 屋町に離れ砂熔着、底部露胎 高台内赤褐色化。鉄釉塗布か?底部露胎、釉厚め 高台内に離れ砂熔着、高台内まで一部施釉 底部露胎</td> <td>谷2 10 層 谷2 Kd II Kd II + Kb II B3T6 谷2 SE1A G2 E 790 b SE1 1層 LP34 G2 E 790 e Q 790 サイ下層 F1 790 E レキ 4層 Q 790 GHGZ W 14 6 G2 + G2 E 70 f (6 頂 KII) B 3 谷2 2 村1 4層 谷2 2 村1 4層 谷2 2 村1 4層 谷2 10 月 4層 谷2 10 月 4層 公2 10 月 5</td>	□~胴間に 回って 回り	7.0 7.4 6.4 13.0 13.3 12.8 11.8 11.8 16.0 2.6 10.8 3.2 10.5 2.7 10.6 2.8 10.6 2.7 10.2 2.6 9.6 3.0 9.6 10.2	2.6 5.2 4.0 4.9 4.2 5.8 5.4 4.9 5.2 4.2 3.6 4.0 5.3 4.0 4.0 4.9 4.0 4.0 5.3 4.0 4.0 5.3 4.0 5.3 4.0 5.3 5.3 5.3 5.3 5.3 5.3 5.3 5.3 5.3 5.3	胴部:唐草 期部:唐草 月間部:唐草 月間部:唐草 月間部:唐草 月間部: 唐草 月間部: 唐草 月間	込み:寿山福海/高台内:福 同部:あり 間部:酷東文/見込か:聯化した達花 同部: 簡略化した小花文 皮満文 皮満文 皮満文 皮満文 砂パープライン (一部で) 記込み:花文 かり 記込み:花文 かり 記込み:花文 かり 記込み: 花文 かり 記込み: 花文 かり 記込み: 花文 かり 記込み: 花文 かり 記込み: 花文 かり 記込み: 花文 かり 記込み: 花文 かり 記込み: 表り した四方様、 界線 文字/見込み: 夏人化した文字 (再) 取字/見込み: 及火化した文字 (再) にた四方様、 界線 文字/見込み: 夏人化した文字 (五) はた文字/見込み: 入物化した (南) はた文字/見込み: 入物化した (南) 月込み: 文字か 山た文字/見込み: 入物化した (南) 月込み: 文字か した文字/見込み: 文字か した波涛文 く/開部: 芭蕉葉文/見込み: 花文 同部: 梵字か	灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰	精精精粗精精精粗精精精精粗精精精精粗粗灰明明明灰灰灰明灰灰灰明灰灰灰明灰灰灰形成灰灰灰明光灰灰淡影则野灰则淡彩则野灰明淡灰淡淡影则野灰明淡灰形淡水		展展 异异章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章	小野C C 小野C C 小野C C C C C C C C C C C C C	一次的に被熱。釉ムラあり □縁口籍 高台のくびれに釉が厚くかかる 腰が屈曲する碗、小杯に近い 高台露胎 見込み無釉か。高台露胎 見込み無釉か。高台露胎 見乳須の発色が悪い。被熱を受けたか 被熱を受けたか。胎土磁器化せず 腰部にもみ殻か、熔着 全面施釉後、畳付釉削り。畳付のケズリー定せず。釉ムラあり。 畳付釉削り。高台内露胎 全面施釉後患付釉剥ぎ 良品。畳付が幅広で畳付~高台内露胎。皿の可能性も 畳付が幅広で畳付~高台内露胎 全面施釉。高台内と畳付に離れ砂が熔着 高台露胎 2枚が熔着 畳付に離れ砂熔着、底部露胎 畳付に離れ砂熔着、底部露胎 電が露胎、発色不良 屋町に離れ砂熔着、底部露胎 高台内赤褐色化。鉄釉塗布か?底部露胎、釉厚め 高台内に離れ砂熔着、高台内まで一部施釉 底部露胎	谷2 10 層 谷2 Kd II Kd II + Kb II B3T6 谷2 SE1A G2 E 790 b SE1 1層 LP34 G2 E 790 e Q 790 サイ下層 F1 790 E レキ 4層 Q 790 GHGZ W 14 6 G2 + G2 E 70 f (6 頂 KII) B 3 谷2 2 村1 4層 谷2 2 村1 4層 谷2 2 村1 4層 谷2 10 月 4層 谷2 10 月 4層 公2 10 月 5
264 265 266 267 268 269 270 271 272 273 274 275 276 280 281 282 283 284 285 286 287 288 289 290	水表土・造成 曲 K	土 工 小 小 小 小 小 小 小 小 小 小 小 小 上 中 層 3 土 中 層 3 土 中 層 3 土 中 層 3 土 中 層 3 土 中 月 日 日 </td <td>□〜胴に回〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜</td> <td>7.0 7.4 6.4 13.0 13.3 12.8 11.8 16.0 2.6 10.8 3.2 10.5 2.7 10.6 2.8 10.6 2.7 10.2 2.6 9.6 3.0 9.6 10.2</td> <td>2.6 5.2 4.0 4.9 4.2 5.8 5.4 4.9 5.2 4.0 5.3 4.0 4.0 4.8 3.8</td> <td>胴部:唐草 草胴部:唐草 月間部:唐草 月間部:唐草 月間部:唐草 月間部:唐草 月間 月間 月間 日間 日間</td> <td>込み:寿山福海/高台内:福 同部:あり 間部:酷東文/見込か:聯化した達花 同部: 簡略化した小花文 皮満文 皮満文 皮満文 皮満文 砂パープライン (一部で) 記込み:花文 かり 記込み:花文 かり 記込み:花文 かり 記込み: 花文 かり 記込み: 花文 かり 記込み: 花文 かり 記込み: 花文 かり 記込み: 花文 かり 記込み: 花文 かり 記込み: 花文 かり 記込み: 表り した四方様、 界線 文字/見込み: 夏人化した文字 (再) 取字/見込み: 及火化した文字 (再) にた四方様、 界線 文字/見込み: 夏人化した文字 (五) はた文字/見込み: 入物化した (南) はた文字/見込み: 入物化した (南) 月込み: 文字か 山た文字/見込み: 入物化した (南) 月込み: 文字か した文字/見込み: 文字か した波涛文 く/開部: 芭蕉葉文/見込み: 花文 同部: 梵字か</td> <td>灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰 灰射灰灰淡灰 灰灰灰灰瓜灰浅浅灰灰灰灰灰浅</td> <td>精精精粗精精精粗精精精精粗粗粗精精精精粗粗粉碎的 医卵巢皮皮 医卵巢皮皮皮 医多克克克氏 医甲状腺素 医皮皮皮皮皮皮皮皮皮皮皮皮皮皮皮皮皮皮皮皮皮皮皮皮皮皮皮皮皮皮皮皮皮皮皮皮</td> <td>1</td> <td>展展 异异章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章</td> <td>小野C C C M M M M M M M M M M M M M M M M M</td> <td>二次的に被熱。釉ムラあり □縁口籍 高台のくびれに釉が厚くかかる 腰が屈曲する碗、小杯に近い 高台露胎 見込み無釉か。高台露胎 見込み無釉か。高台露胎 臭須の発色が悪い。被熱を受けたか 被熱を受けたか。胎土磁器化せず 腰部にもみ殻か、熔着 全面施釉後、畳付釉削り。畳付のケズリー定せず。釉ムラあり。 畳付釉削り。高台内露胎 全面施釉後畳付釉剥ぎ 良品。畳付が幅広で畳付~高台内露胎。皿の可能性も 畳付が幅広で畳付~高台内露胎 全面施釉。高台内と畳付に離れ砂が熔着 高台露胎 2枚が熔着 畳付に離れ砂熔着、底部露胎 畳付に離れ砂熔着、底部露胎 糖は漬け掛け、二次的に破熱。底部露胎 た部露胎、発色不良 畳付に離れ砂熔着、底部露胎 た部露胎、発色不良 畳付に離れ砂熔着、底部露胎 高台内に離れ砂熔着、高台内まで一部施釉 底部露胎 高台内に離れ砂熔着、高台内まで一部施釉 底部露胎</td> <td>중2 10 個 중2 Kd II Kd II + Kb II B3T6 중2 SETA G2 E 700 b SE 1 1屆 L P34 G2 E 700 e Q 700 부가 F점 F1 700 E 나 4 個 Q 700 대域 당하여 나 4 대</td>	□〜胴に回〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜	7.0 7.4 6.4 13.0 13.3 12.8 11.8 16.0 2.6 10.8 3.2 10.5 2.7 10.6 2.8 10.6 2.7 10.2 2.6 9.6 3.0 9.6 10.2	2.6 5.2 4.0 4.9 4.2 5.8 5.4 4.9 5.2 4.0 5.3 4.0 4.0 4.8 3.8	胴部:唐草 草胴部:唐草 月間部:唐草 月間部:唐草 月間部:唐草 月間部:唐草 月間 月間 月間 日間	込み:寿山福海/高台内:福 同部:あり 間部:酷東文/見込か:聯化した達花 同部: 簡略化した小花文 皮満文 皮満文 皮満文 皮満文 砂パープライン (一部で) 記込み:花文 かり 記込み:花文 かり 記込み:花文 かり 記込み: 花文 かり 記込み: 花文 かり 記込み: 花文 かり 記込み: 花文 かり 記込み: 花文 かり 記込み: 花文 かり 記込み: 花文 かり 記込み: 表り した四方様、 界線 文字/見込み: 夏人化した文字 (再) 取字/見込み: 及火化した文字 (再) にた四方様、 界線 文字/見込み: 夏人化した文字 (五) はた文字/見込み: 入物化した (南) はた文字/見込み: 入物化した (南) 月込み: 文字か 山た文字/見込み: 入物化した (南) 月込み: 文字か した文字/見込み: 文字か した波涛文 く/開部: 芭蕉葉文/見込み: 花文 同部: 梵字か	灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰 灰射灰灰淡灰 灰灰灰灰瓜灰浅浅灰灰灰灰灰浅	精精精粗精精精粗精精精精粗粗粗精精精精粗粗粉碎的 医卵巢皮皮 医卵巢皮皮皮 医多克克克氏 医甲状腺素 医皮皮皮皮皮皮皮皮皮皮皮皮皮皮皮皮皮皮皮皮皮皮皮皮皮皮皮皮皮皮皮皮皮皮皮皮	1	展展 异异章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章	小野C C C M M M M M M M M M M M M M M M M M	二次的に被熱。釉ムラあり □縁口籍 高台のくびれに釉が厚くかかる 腰が屈曲する碗、小杯に近い 高台露胎 見込み無釉か。高台露胎 見込み無釉か。高台露胎 臭須の発色が悪い。被熱を受けたか 被熱を受けたか。胎土磁器化せず 腰部にもみ殻か、熔着 全面施釉後、畳付釉削り。畳付のケズリー定せず。釉ムラあり。 畳付釉削り。高台内露胎 全面施釉後畳付釉剥ぎ 良品。畳付が幅広で畳付~高台内露胎。皿の可能性も 畳付が幅広で畳付~高台内露胎 全面施釉。高台内と畳付に離れ砂が熔着 高台露胎 2枚が熔着 畳付に離れ砂熔着、底部露胎 畳付に離れ砂熔着、底部露胎 糖は漬け掛け、二次的に破熱。底部露胎 た部露胎、発色不良 畳付に離れ砂熔着、底部露胎 た部露胎、発色不良 畳付に離れ砂熔着、底部露胎 高台内に離れ砂熔着、高台内まで一部施釉 底部露胎 高台内に離れ砂熔着、高台内まで一部施釉 底部露胎	중2 10 個 중2 Kd II Kd II + Kb II B3T6 중2 SETA G2 E 700 b SE 1 1屆 L P34 G2 E 700 e Q 700 부가 F점 F1 700 E 나 4 個 Q 700 대域 당하여 나 4 대
264 265 266 267 268 269 270 271 272 273 274 275 276 280 281 282 283 284 285 286 287 288 289 290	水表土・造成	土 小小杯 小杯 碗碗碗碗碗碗碗碗碗碗碗碗碗碗碗碗碗碗碗碗碗碗碗碗碗碗碗碗碗碗碗 層3 土中層層層 二 層3 土中層層層 層	□~胴間に 回~ 回り	7.0 7.4 6.4 13.0 13.3 12.8 11.8 11.8 16.0 2.6 10.8 3.2 10.5 2.7 10.6 2.8 10.6 2.7 10.2 2.6 9.6 3.0 9.6 10.2	2.6 5.2 4.0 4.9 4.2 5.8 5.4 4.9 5.2 4.2 3.6 4.0 4.3 4.0 4.8 3.8	胴部:唐草草 胴部:唐草 月間部:唐草 月間部:唐草 月間部:唐草 月間部:唐草 月間部: 月間 月間 月間 月間 月間 月間 月間 月	込み:寿山福海/高台内:福 同部:あり 間部:酷東文/見込か:聯化した達花 同部: 簡略化した小花文 皮満文 皮満文 皮満文 皮満文 砂パープライン (一部で) 記込み:花文 かり 記込み:花文 かり 記込み:花文 かり 記込み: 花文 かり 記込み: 花文 かり 記込み: 花文 かり 記込み: 花文 かり 記込み: 花文 かり 記込み: 花文 かり 記込み: 花文 かり 記込み: 表り した四方様、 界線 文字/見込み: 夏人化した文字 (再) 取字/見込み: 及火化した文字 (再) にた四方様、 界線 文字/見込み: 夏人化した文字 (五) はた文字/見込み: 入物化した (南) はた文字/見込み: 入物化した (南) 月込み: 文字か 山た文字/見込み: 入物化した (南) 月込み: 文字か した文字/見込み: 文字か した波涛文 く/開部: 芭蕉葉文/見込み: 花文 同部: 梵字か	灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰 灰财灰灰淡灰灰灰灰灰灰冰灰淡淡灰灰灰灰灰浅灰	精精精精粗精精精粗精精精精粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗	1	展展 展東章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章	小野で C M M M M M M M M M M M M M M M M M M	二次的に被熱。釉ムラあり □縁口籍 高台のくびれに釉が厚くかかる 腰が屈曲する碗、小杯に近い 高台露胎 見込み無釉か。高台露胎 見込み無釉か。高台露胎 見乳の発色が悪い。被熱を受けたか 被熱を受けたか。胎土磁器化せず 腰部にもみ殻か、熔着 全面施釉後、畳付釉削り。畳付のケズリー定せず。釉ムラあり。 畳付釉削り。高台内露胎 全面施釉後畳付釉剥ぎ 良品。畳付が幅広で畳付~高台内露胎。皿の可能性も 畳付が幅広で畳付~高台内露胎 全面施釉。高台内と畳付に離れ砂が熔着 高台露胎 2枚が熔着 畳付に離れ砂熔着、底部露胎 畳付に離れ砂熔着、底部露胎 最に部露胎、発色不良 畳付に離れ砂熔着、底部露胎 た部露胎、発色不良 畳付に離れ砂熔着、底部露胎 高台内に離れ砂熔着、高台内まで一部施釉 底部露胎 高台内に離れ砂熔着、高台内まで一部施釉 底部露胎	중2 10 個 중2 Kd II Kd II + Kb II B316 중2 SE1A G2 E 700 b SE1 1 II L P34 G2 E 700 e Q 700 박사下層 F1 700 E 나 4 個 Q 700 대한한 전에 21 대한 전쟁 14 대한 전쟁
264 265 266 267 268 269 270 271 273 274 275 276 280 281 282 283 284 285 286 287 288 299 290 291	水表土・造成	土 工 小 小 小 小 小 小 小 小 小 小 小 小 小 小 小 小 小 小 小 小 一 上 日 日 日 </td <td>□~――――――――――――――――――――――――――――――――――――</td> <td>7.0 7.4 6.4 13.0 13.3 12.8 11.8 11.8 16.0 2.6 10.8 3.2 10.5 2.7 10.6 2.8 10.6 2.7 10.2 2.6 9.6 3.0 9.6 10.2</td> <td>2.6 5.2 4.0 4.9 4.2 5.8 5.4 4.9 5.2 4.0 4.0 4.0 4.0 4.0 4.0 5.3 4.0 4.0 4.0 5.3 4.0 5.3 4.0 5.3 4.0 5.3 4.0 5.3 5.3 5.3 5.3 5.3 5.3 5.3 5.3 5.3 5.3</td> <td>胴部:唐草 期部:唐草 月間部:唐草 月間部:唐草 月間部:唐草 月間部:唐草 月間 月間 月間 日間 日間</td> <td>込み:寿山福海/高台内:福 剛部:あり 脚: 産農業/見込が: 勝略化した連花 開部: 肺略化した小花文 皮満文 皮満文 皮満文 皮満文 起込み: 花文 か/見込み: 花文 か/見込み: 花文 か/見込み: 花文 かかり 記込み: 挺人化した文字「寿」 かかり 記込み: 数人化した文字「寿」 かかり 記込み: 数人化した文字「寿」 かかか 記込み: 数人化した文字「寿」 がかり に四方欅、</td> <td>灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰 财灰灰淡灰灰灰灰灰灰灰灰淡浅灰灰灰灰火浅灰浅凉白白白白白白白白白白白白黄白白白黄白白白鹭</td> <td>精精精精粗精精精粗精精精精精粗粗粗精精精精粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗</td> <td>日</td> <td>展展 展東章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章</td> <td>小野C</td> <td>二次的に被熱。釉ムラあり □縁口籍 高台のくびれに釉が厚くかかる 腰が屈曲する碗、小杯に近い 高台露胎 見込み無釉か。高台露胎 臭須の発色が悪い。被熱を受けたか 被熱を受けたか。被熱を受けたか 被熱を受けたか。被熱を受けたか 被熱を受けたか。被熱を受けたか 被熱を受けたか。が増着 全面施秘後、豊付軸削り。豊付のケズリー定せず。釉ムラあり。 豊付釉削り。高台内露胎 全面施釉後豊付釉剥ぎ 良品。豊付が幅広で豊付~高台内露胎。皿の可能性も 豊付が幅広で豊付~高台内露胎 全面施釉。高台内と豊付に離れ砂が増着 高台露胎 急枚が熔着 豊付に離れ砂熔着、底部露胎 最出漬け掛け、二次的に被熱。底部露胎 底部露胎、発色不良 豊付に離れ砂熔着、底部露胎 底部露胎、発色不良 豊付に離れ砂熔着、高台内まで一部施釉 底部露胎 露胎部分が赤色化。鉄釉塗布か?底部露胎、釉厚め 高合内に離れ砂が増着、高台内まで一部施釉 底部露胎 露胎部分が赤色化、鉄釉塗布か? 臭須の発色が悪く、オリーブ色である 二次的に被熱し、文様も不鮮明。底部露胎 底部露胎赤色化、鉄釉塗布か? 見込み蛇の目釉剥ぎ。</td> <td>중2 10 個 중2 Kd II Kd II + Kb II B316 중2 SE1A G2 E 700 b SE1 1 II L P34 G2 E 700 e Q 700 부(下層 F1 700 E 나 4 層 Q 700 GHQE 700 HQE 700 GHQE 700 HQE 700 GHQE 700</td>	□~――――――――――――――――――――――――――――――――――――	7.0 7.4 6.4 13.0 13.3 12.8 11.8 11.8 16.0 2.6 10.8 3.2 10.5 2.7 10.6 2.8 10.6 2.7 10.2 2.6 9.6 3.0 9.6 10.2	2.6 5.2 4.0 4.9 4.2 5.8 5.4 4.9 5.2 4.0 4.0 4.0 4.0 4.0 4.0 5.3 4.0 4.0 4.0 5.3 4.0 5.3 4.0 5.3 4.0 5.3 4.0 5.3 5.3 5.3 5.3 5.3 5.3 5.3 5.3 5.3 5.3	胴部:唐草 期部:唐草 月間部:唐草 月間部:唐草 月間部:唐草 月間部:唐草 月間 月間 月間 日間	込み:寿山福海/高台内:福 剛部:あり 脚: 産農業/見込が: 勝略化した連花 開部: 肺略化した小花文 皮満文 皮満文 皮満文 皮満文 起込み: 花文 か/見込み: 花文 か/見込み: 花文 か/見込み: 花文 かかり 記込み: 挺人化した文字「寿」 かかり 記込み: 数人化した文字「寿」 かかり 記込み: 数人化した文字「寿」 かかか 記込み: 数人化した文字「寿」 がかり に四方欅、	灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰 财灰灰淡灰灰灰灰灰灰灰灰淡浅灰灰灰灰火浅灰浅凉白白白白白白白白白白白白黄白白白黄白白白鹭	精精精精粗精精精粗精精精精精粗粗粗精精精精粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗	日	展展 展東章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章	小野C	二次的に被熱。釉ムラあり □縁口籍 高台のくびれに釉が厚くかかる 腰が屈曲する碗、小杯に近い 高台露胎 見込み無釉か。高台露胎 臭須の発色が悪い。被熱を受けたか 被熱を受けたか。被熱を受けたか 被熱を受けたか。被熱を受けたか 被熱を受けたか。被熱を受けたか 被熱を受けたか。が増着 全面施秘後、豊付軸削り。豊付のケズリー定せず。釉ムラあり。 豊付釉削り。高台内露胎 全面施釉後豊付釉剥ぎ 良品。豊付が幅広で豊付~高台内露胎。皿の可能性も 豊付が幅広で豊付~高台内露胎 全面施釉。高台内と豊付に離れ砂が増着 高台露胎 急枚が熔着 豊付に離れ砂熔着、底部露胎 最出漬け掛け、二次的に被熱。底部露胎 底部露胎、発色不良 豊付に離れ砂熔着、底部露胎 底部露胎、発色不良 豊付に離れ砂熔着、高台内まで一部施釉 底部露胎 露胎部分が赤色化。鉄釉塗布か?底部露胎、釉厚め 高合内に離れ砂が増着、高台内まで一部施釉 底部露胎 露胎部分が赤色化、鉄釉塗布か? 臭須の発色が悪く、オリーブ色である 二次的に被熱し、文様も不鮮明。底部露胎 底部露胎赤色化、鉄釉塗布か? 見込み蛇の目釉剥ぎ。	중2 10 個 중2 Kd II Kd II + Kb II B316 중2 SE1A G2 E 700 b SE1 1 II L P34 G2 E 700 e Q 700 부(下層 F1 700 E 나 4 層 Q 700 GHQE 700 HQE 700 GHQE 700 HQE 700 GHQE 700
264 265 266 267 268 269 270 271 273 274 275 276 280 281 282 283 284 285 286 287 288 299 291 292	水表土・造成	土 工 小 小 小 小 小 小 小 小 小 小 小 小 小 小 小 小 小 小 小 小 一 上 日 日 日 </td <td></td> <td>7.0 7.4 6.4 13.0 13.3 12.8 11.8 11.8 16.0 2.6 10.8 3.2 10.5 2.7 10.6 2.8 10.6 2.7 10.2 2.6 9.6 3.0 9.6 10.2</td> <td>2.6 5.2 4.0 4.9 4.2 5.8 5.4 4.9 5.2 4.0 4.0 4.0 4.0 4.8 3.8</td> <td>胴部:唐草 胴部:唐草 胴部:唐草 / 見 胴部:唐草 / 見 胴部:高海 / 泉 / 浚 / 之 / 見 一口 日 日 日 日 日 日 日 日 日 </td> <td>込み:寿山福海/高台内:福 剛部:あり 間部:舊葉文/見込が:聯密化た達花 開部: 師略化した小花文 皮満文 皮満文 皮満文 を他した波濤文/胴部:あり 上た小花文 か/見込み:花文 か/見込み:花文 込み:挺人化した文字「寿」 かか した四方欅、</td> <td>灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰 财灰灰淡灰灰灰灰灰灰灰灰淡浅灰灰灰灰灰浅灰浅冰浅的白白白白白白白白白白,一白白黄白白白白,黑白黄檀白白白白黄白 舞 體</td> <td>精精精精粗精精精粗精精精精精精精精精精粗粗粗精精精精精粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗</td> <td>日</td> <td>展展展展章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章</td> <td>小野C</td> <td>二次的に被熱。釉ムラあり □縁口籍 高台のくびれに釉が厚くかかる 腰が屈曲する碗、小杯に近い 高台露胎 見込み無釉か。高台露胎 見込み無釉か。高台露胎 臭須の発色が悪い。被熱を受けたか 被熱を受けたか。 胎土磁器化せず 腰部にもみ殻か、熔着 全面施釉後、豊付釉削り。豊付のケズリー定せず。釉ムラあり。 豊付釉削り。高台内露胎 全面施釉後豊付釉剥ぎ 良品。豊付が幅広で豊付~高台内露胎。皿の可能性も豊付が幅広で豊付~高台内露胎 全面施釉。高台内と豊付に離れ砂が熔着 高台露胎 2枚が熔着 豊付に離れ砂熔着、底部露胎 軸は漬け掛け、二次的に被熱。底部露胎 底部露胎、発色不良 豊付に離れ砂熔着、底部露胎 臨部露胎、発色不良 豊付に離れ砂が熔着、高台内まで一部施釉 底部露胎 路台内赤褐色化。鉄釉塗布か?底部露胎、釉厚め 高台内赤褐色化。鉄釉塗布か?</td> <td>중2 10 個 중2 Kd II Kd II + Kb II B316 중2 SE1A G2 E 790 b SE1 1</td>		7.0 7.4 6.4 13.0 13.3 12.8 11.8 11.8 16.0 2.6 10.8 3.2 10.5 2.7 10.6 2.8 10.6 2.7 10.2 2.6 9.6 3.0 9.6 10.2	2.6 5.2 4.0 4.9 4.2 5.8 5.4 4.9 5.2 4.0 4.0 4.0 4.0 4.8 3.8	胴部:唐草 胴部:唐草 胴部:唐草 / 見 胴部:唐草 / 見 胴部:高海 / 泉 / 浚 / 之 / 見 一口 日 日 日 日 日 日 日 日 日	込み:寿山福海/高台内:福 剛部:あり 間部:舊葉文/見込が:聯密化た達花 開部: 師略化した小花文 皮満文 皮満文 皮満文 を他した波濤文/胴部:あり 上た小花文 か/見込み:花文 か/見込み:花文 込み:挺人化した文字「寿」 かか した四方欅、	灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰 财灰灰淡灰灰灰灰灰灰灰灰淡浅灰灰灰灰灰浅灰浅冰浅的白白白白白白白白白白,一白白黄白白白白,黑白黄檀白白白白黄白 舞 體	精精精精粗精精精粗精精精精精精精精精精粗粗粗精精精精精粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗	日	展展展展章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章	小野C	二次的に被熱。釉ムラあり □縁口籍 高台のくびれに釉が厚くかかる 腰が屈曲する碗、小杯に近い 高台露胎 見込み無釉か。高台露胎 見込み無釉か。高台露胎 臭須の発色が悪い。被熱を受けたか 被熱を受けたか。 胎土磁器化せず 腰部にもみ殻か、熔着 全面施釉後、豊付釉削り。豊付のケズリー定せず。釉ムラあり。 豊付釉削り。高台内露胎 全面施釉後豊付釉剥ぎ 良品。豊付が幅広で豊付~高台内露胎。皿の可能性も豊付が幅広で豊付~高台内露胎 全面施釉。高台内と豊付に離れ砂が熔着 高台露胎 2枚が熔着 豊付に離れ砂熔着、底部露胎 軸は漬け掛け、二次的に被熱。底部露胎 底部露胎、発色不良 豊付に離れ砂熔着、底部露胎 臨部露胎、発色不良 豊付に離れ砂が熔着、高台内まで一部施釉 底部露胎 路台内赤褐色化。鉄釉塗布か?底部露胎、釉厚め 高台内赤褐色化。鉄釉塗布か?	중2 10 個 중2 Kd II Kd II + Kb II B316 중2 SE1A G2 E 790 b SE1 1
264 265 266 267 268 269 270 271 273 273 274 275 276 280 281 282 283 284 285 286 287 288 289 291 292 293	水表土・造成	土 工 小 小 小 小 小 小 心 中 層 日 層 日 日 </td <td></td> <td>7.0 7.4 6.4 13.0 13.3 12.8 11.8 11.8 16.0 2.6 10.8 3.2 10.5 2.7 10.6 2.8 10.6 2.7 10.2 2.6 9.6 3.0 9.6 10.2</td> <td>2.6 5.2 4.0 4.9 4.2 5.8 5.4 4.9 5.2 4.0 4.0 4.0 4.0 4.8 3.8</td> <td>朋部:唐草草 胴部:唐草 月間部:唐草 月間部:唐草 月間部:唐草 月間部:唐草 月間部:唐草 月間部: 月間間 日間間 月間間 日間間 日間間間 日間間 日間間間 日間間間 日間間間 日間間間 日間間間 日間間間 日間間間 日間間間間 日間間間間 日間間間間 日間間間間間 日間間間間間 日間間間間間間間間</td> <td>込み:寿山福海/高台内:福 剛部:あり 間: 選集文/見込が: 製剤化した重花 開部: 簡略化した小花文 皮満文 皮満文 皮満文 を他した波濤文/胴部:あり した小花文 か/見込み: 花文 か/見込み: 花文 か/見込み: 花文 か/見込み: 花文 か/見込み: 表り した四方欅、</td> <td>灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰 财灰灰淡灰灰灰灰灰灰灰灰淡淡灰灰灰灰浅 浅淡淡淡 医白白白白白白白白白白白黄白白黄白白白白 體 世</td> <td>精精精精粗精精精粗精精精精精精精精精粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗</td> <td> 日</td> <td>展展展展章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章</td> <td>小野C C M M M M M M M M M M M M M M M M M M</td> <td>二次的に被熱。釉ムラあり □縁口籍 高台のくびれに釉が厚くかかる 腰が屈曲する碗、小杯に近い 高台露胎 見込み無釉か。高台露胎 見込み無釉か。高台露胎 臭須の発色が悪い。被熱を受けたか 被熱を受けたか 被熱を受けたか。被熱を受けたか 被熱を受けたか。が増養 全面施秘後、豊付軸削り。豊付のケズリー定せず。釉ムラあり。 豊付釉削り。高台内露胎 全面施釉後、豊付軸削・豊付のケズリー定せず。釉ムラあり。 豊付釉削り。高台内露胎 全面施釉後豊付釉剥ぎ 良品。豊付が幅広で豊付~高台内露胎。皿の可能性も 豊付が幅広で豊付~高台内露胎 全面施釉。高台内と豊付に離れ砂が増着 高台露胎 全位に離れ砂均着、底部露胎 最出漬け掛け、二次的に被熱。底部露胎 底部露胎、発色不良 豊付に離れ砂均着、底部露胎 底部露胎、発色不良 豊付に離れ砂が増着、高台内まで一部施釉 底部露胎 高台内、離れ砂が増着、高台内まで一部施釉 底部露胎 露胎部分が赤色化。鉄釉塗布か?底部露胎、釉厚め 高合内に離れ砂が増着、高台内まで一部施釉 底部露胎 露胎部分が赤色化、鉄釉塗布か? 臭須の発色が悪く、オリーブ色である 二次的に被熱し、文様も不鮮明。底部露胎 底部露胎赤色化、鉄釉塗布か? 見込み蛇の目釉剥ぎ。 自色釉と透明釉を重ね掛け。見込み蛇の目釉剥ぎ。</td> <td>중2 10 個 중2 Kd II Kd II + Kb II B316 중2 SE1A G2 E 700 b SE1 1 個 C9 2 E 700 e Q 700 명(下層 F1 700 E 나 4 個 Q 700 대전한 14 대표 (1) 대표 (</td>		7.0 7.4 6.4 13.0 13.3 12.8 11.8 11.8 16.0 2.6 10.8 3.2 10.5 2.7 10.6 2.8 10.6 2.7 10.2 2.6 9.6 3.0 9.6 10.2	2.6 5.2 4.0 4.9 4.2 5.8 5.4 4.9 5.2 4.0 4.0 4.0 4.0 4.8 3.8	朋部:唐草草 胴部:唐草 月間部:唐草 月間部:唐草 月間部:唐草 月間部:唐草 月間部:唐草 月間部: 月間間 日間間 月間間 日間間 日間間間 日間間 日間間間 日間間間 日間間間 日間間間 日間間間 日間間間 日間間間 日間間間間 日間間間間 日間間間間 日間間間間間 日間間間間間 日間間間間間間間間	込み:寿山福海/高台内:福 剛部:あり 間: 選集文/見込が: 製剤化した重花 開部: 簡略化した小花文 皮満文 皮満文 皮満文 を他した波濤文/胴部:あり した小花文 か/見込み: 花文 か/見込み: 花文 か/見込み: 花文 か/見込み: 花文 か/見込み: 表り した四方欅、	灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰 财灰灰淡灰灰灰灰灰灰灰灰淡淡灰灰灰灰浅 浅淡淡淡 医白白白白白白白白白白白黄白白黄白白白白 體 世	精精精精粗精精精粗精精精精精精精精精粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗	日	展展展展章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章	小野C C M M M M M M M M M M M M M M M M M M	二次的に被熱。釉ムラあり □縁口籍 高台のくびれに釉が厚くかかる 腰が屈曲する碗、小杯に近い 高台露胎 見込み無釉か。高台露胎 見込み無釉か。高台露胎 臭須の発色が悪い。被熱を受けたか 被熱を受けたか 被熱を受けたか。被熱を受けたか 被熱を受けたか。が増養 全面施秘後、豊付軸削り。豊付のケズリー定せず。釉ムラあり。 豊付釉削り。高台内露胎 全面施釉後、豊付軸削・豊付のケズリー定せず。釉ムラあり。 豊付釉削り。高台内露胎 全面施釉後豊付釉剥ぎ 良品。豊付が幅広で豊付~高台内露胎。皿の可能性も 豊付が幅広で豊付~高台内露胎 全面施釉。高台内と豊付に離れ砂が増着 高台露胎 全位に離れ砂均着、底部露胎 最出漬け掛け、二次的に被熱。底部露胎 底部露胎、発色不良 豊付に離れ砂均着、底部露胎 底部露胎、発色不良 豊付に離れ砂が増着、高台内まで一部施釉 底部露胎 高台内、離れ砂が増着、高台内まで一部施釉 底部露胎 露胎部分が赤色化。鉄釉塗布か?底部露胎、釉厚め 高合内に離れ砂が増着、高台内まで一部施釉 底部露胎 露胎部分が赤色化、鉄釉塗布か? 臭須の発色が悪く、オリーブ色である 二次的に被熱し、文様も不鮮明。底部露胎 底部露胎赤色化、鉄釉塗布か? 見込み蛇の目釉剥ぎ。 自色釉と透明釉を重ね掛け。見込み蛇の目釉剥ぎ。	중2 10 個 중2 Kd II Kd II + Kb II B316 중2 SE1A G2 E 700 b SE1 1 個 C9 2 E 700 e Q 700 명(下層 F1 700 E 나 4 個 Q 700 대전한 14 대표 (1) 대표 (
264 265 266 267 268 269 270 271 273 274 275 276 280 281 282 283 284 285 286 287 290 291 292 293 294 295 296	水表土・造成	土 工 小 小碗 碗碗 碗碗 碗碗 碗碗 碗碗 碗碗 碗 碗 碗 碗 碗 碗 碗 碗 回 四 回 四 回 四 回 四 回 0		7.0 7.4 6.4 13.0 13.3 12.8 11.8 16.0 2.6 10.8 3.2 10.5 2.7 10.6 2.8 10.6 2.7 10.2 2.6 9.6 3.0 9.6 10.2	2.6 5.2 4.0 4.9 4.2 5.8 5.4 4.9 5.2 4.0 4.0 4.0 4.0 4.0 4.0 5.3 4.0 4.0 4.0 5.3 4.0 4.0 5.3 4.0 5.3 4.0 5.3 4.0 5.3 5.3 5.3 5.3 5.3 5.3 5.3 5.3 5.3 5.3	胴部:唐草草 胴部:唐草 / 見川 胴部:唐草 / 見川 胴部:高海 界線 海文/月 口口 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本	込み:寿山福海/高台内:福 剛部:あり 間: 選集文/見込が: 製剤化した重花 開部: 簡略化した小花文 皮満文 皮満文 皮満文 を他した波濤文/胴部:あり した小花文 か/見込み: 花文 か/見込み: 花文 か/見込み: 花文 か/見込み: 花文 か/見込み: 表り した四方欅、	灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰 财灰灰淡灰灰灰灰灰灰灰灰浅浅灰灰灰灰灰浅冰浅浅淡灰白白白白白白白白白白白黄白白白黄白白白鹭白色黄色白白白黄白 舞 體體	精精精精粗精精精粗精精精精精精精精精粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗		展展展展章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章	小野で C C M M M M M M M M M M M M M M M M M	二次的に被熱。釉ムラあり □縁口籍 高台のくびれに釉が厚くかかる 腰が屈曲する碗、小杯に近い 高台露胎 見込み無釉か。高台露胎 臭須の発色が悪い。被熱を受けたか 被熱を受けたか、被熱を受けたか 被熱を受けたか、接着 全面施秘、豊村舶別。豊付のケズリー定せず。釉ムラあり。 豊付釉削り。高台内露胎 全面施釉後、豊付舶削り。豊付のケズリー定せず。釉ムラあり。 豊付釉削り。高台内露胎 全面施釉後豊付釉剥ぎ 良品。豊付が幅広で豊付~高台内露胎。皿の可能性も 豊付が幅広で豊付~高台内露胎 全面施釉。高台内と豊付に離れ砂が熔着 高台露胎 2枚が熔着 豊付に離れ砂熔着、底部露胎 最付に離れ砂熔着、底部露胎 底部露胎、発色不良 豊付に離れ砂熔着、底部露胎 底部露胎、発色不良 豊付に離れ砂熔着、底部露胎 底部露胎、発色不良 豊付に離れ砂が熔着、高台内まで一部施釉 底部露胎 高台内赤褐色化。鉄釉塗布か?底部露胎、釉厚め 高合内に離れ砂が熔着、高台内まで一部施釉 底部露胎 の方に離れ砂が熔着、底部露胎 底部露胎 を正の露胎 なが赤色化、鉄釉塗布か? 臭須の発色が悪く、オリーブ色である 二次的に被熱し、文様も不鮮明。底部露胎 底部露胎赤色化、鉄釉塗布か? 見込み蛇の目釉剥ぎ。 296に似るがより大きい	중2 10 個 중2 Kd II Kd II + Kb II B316 중2 SETA G2 E 790 b SE 1 1層 L P34 C2 E 790 e Q 790 명(下層 F1 790 E 나 4 個 Q 790 대전한 14 대표 G3 C K**하나 중2 10 個 중2 본 10 個 중2 본 10 個 중2 본 11 4 個 D1 790 8 + D1 W / V) 790 B1 2 個 V 73 V 790 G5 E점 L를 수 2552 上層 A3 II 個 B3 1 個 B3 1 個 B7 P / V II Q 790 76 중2 10 個 중3 1
264 265 266 267 268 269 270 271 273 274 275 276 280 281 282 283 284 285 286 287 290 291 292 293 294 295 296	水表土・造成	土 工 小 小 小 小 心 心 心 心 心 心 心 心 心 心 心 心 心 い い </td <td></td> <td>7.0 7.4 6.4 13.0 13.3 12.8 11.8 16.0 2.6 10.8 3.2 10.5 2.7 10.5 2.8 10.6 2.8 10.6 2.9 9.6 3.0 9.6 10.2 33.0 24.0</td> <td>2.6 5.2 4.0 4.9 4.2 5.8 5.4 4.9 5.2 4.0 4.0 4.0 4.8 3.8 4.4 5.0 5.8</td> <td>朋部:唐草草 胴部:唐草 月間部:唐草 月間部:唐草 月間部:唐草 月間部:唐草 月間部:唐草 月間部: 月間間 日間間 月間間 日間間 日間間間 日間間 日間間間 日間間間 日間間間 日間間間 日間間間 日間間間 日間間間 日間間間間 日間間間間 日間間間間 日間間間間間 日間間間間間 日間間間間間間間間</td> <td>込み:寿山福海/高台内:福 剛部:あり 脚: 護漢/見込み: 製化した薬花 関部: 簡略化した小花文 皮満文 皮満文 皮満文 をとした波濤文/胴部:あり した小花文 し込み: 花文 か) 見込み: 花文 か) 見込み: 花文 と込み: 挺人化した文字「寿」 か) か 記込み: あり した四方様、</td> <td>灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰 财灰灰淡灰灰灰灰灰灰灰灰淡淡灰灰灰灰浅 浅淡淡淡 医白白白白白白白白白白白黄白白黄白白白白 體 世</td> <td>精精精精粗精精精粗精精精精精粗粗粗精精精精精粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗</td> <td> </td> <td>展展展展章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章</td> <td>小野で C C M M M M M M M M M M M M M M M M M</td> <td>二次的に被熱。釉ムラあり □縁口籍 高台のくびれに釉が厚くかかる 腰が屈曲する碗、小杯に近い 高台露胎 見込み無釉か。高台露胎 見込み無釉か。高台露胎 臭須の発色が悪い。被熱を受けたか 被熱を受けたか 被熱を受けたか。被熱を受けたか 被熱を受けたか。が増養 全面施秘後、豊付軸削り。豊付のケズリー定せず。釉ムラあり。 豊付釉削り。高台内露胎 全面施釉後、豊付軸削・豊付のケズリー定せず。釉ムラあり。 豊付釉削り。高台内露胎 全面施釉後豊付釉剥ぎ 良品。豊付が幅広で豊付~高台内露胎。皿の可能性も 豊付が幅広で豊付~高台内露胎 全面施釉。高台内と豊付に離れ砂が増着 高台露胎 全位に離れ砂均着、底部露胎 最出漬け掛け、二次的に被熱。底部露胎 底部露胎、発色不良 豊付に離れ砂均着、底部露胎 底部露胎、発色不良 豊付に離れ砂が増着、高台内まで一部施釉 底部露胎 高台内、離れ砂が増着、高台内まで一部施釉 底部露胎 露胎部分が赤色化。鉄釉塗布か?底部露胎、釉厚め 高合内に離れ砂が増着、高台内まで一部施釉 底部露胎 露胎部分が赤色化、鉄釉塗布か? 臭須の発色が悪く、オリーブ色である 二次的に被熱し、文様も不鮮明。底部露胎 底部露胎赤色化、鉄釉塗布か? 見込み蛇の目釉剥ぎ。 自色釉と透明釉を重ね掛け。見込み蛇の目釉剥ぎ。</td> <td>중2 10 個 중2 Kd II Kd II + Kb II B316 중2 SE1A G2 E 700 b SE1 1 個 C9 2 E 700 e Q 700 명(下層 F1 700 E 나 4 個 Q 700 대전한 14 대표 (1) 대표 (</td>		7.0 7.4 6.4 13.0 13.3 12.8 11.8 16.0 2.6 10.8 3.2 10.5 2.7 10.5 2.8 10.6 2.8 10.6 2.9 9.6 3.0 9.6 10.2 33.0 24.0	2.6 5.2 4.0 4.9 4.2 5.8 5.4 4.9 5.2 4.0 4.0 4.0 4.8 3.8 4.4 5.0 5.8	朋部:唐草草 胴部:唐草 月間部:唐草 月間部:唐草 月間部:唐草 月間部:唐草 月間部:唐草 月間部: 月間間 日間間 月間間 日間間 日間間間 日間間 日間間間 日間間間 日間間間 日間間間 日間間間 日間間間 日間間間 日間間間間 日間間間間 日間間間間 日間間間間間 日間間間間間 日間間間間間間間間	込み:寿山福海/高台内:福 剛部:あり 脚: 護漢/見込み: 製化した薬花 関部: 簡略化した小花文 皮満文 皮満文 皮満文 をとした波濤文/胴部:あり した小花文 し込み: 花文 か) 見込み: 花文 か) 見込み: 花文 と込み: 挺人化した文字「寿」 か) か 記込み: あり した四方様、	灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰灰 财灰灰淡灰灰灰灰灰灰灰灰淡淡灰灰灰灰浅 浅淡淡淡 医白白白白白白白白白白白黄白白黄白白白白 體 世	精精精精粗精精精粗精精精精精粗粗粗精精精精精粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗粗		展展展展章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章章	小野で C C M M M M M M M M M M M M M M M M M	二次的に被熱。釉ムラあり □縁口籍 高台のくびれに釉が厚くかかる 腰が屈曲する碗、小杯に近い 高台露胎 見込み無釉か。高台露胎 見込み無釉か。高台露胎 臭須の発色が悪い。被熱を受けたか 被熱を受けたか 被熱を受けたか。被熱を受けたか 被熱を受けたか。が増養 全面施秘後、豊付軸削り。豊付のケズリー定せず。釉ムラあり。 豊付釉削り。高台内露胎 全面施釉後、豊付軸削・豊付のケズリー定せず。釉ムラあり。 豊付釉削り。高台内露胎 全面施釉後豊付釉剥ぎ 良品。豊付が幅広で豊付~高台内露胎。皿の可能性も 豊付が幅広で豊付~高台内露胎 全面施釉。高台内と豊付に離れ砂が増着 高台露胎 全位に離れ砂均着、底部露胎 最出漬け掛け、二次的に被熱。底部露胎 底部露胎、発色不良 豊付に離れ砂均着、底部露胎 底部露胎、発色不良 豊付に離れ砂が増着、高台内まで一部施釉 底部露胎 高台内、離れ砂が増着、高台内まで一部施釉 底部露胎 露胎部分が赤色化。鉄釉塗布か?底部露胎、釉厚め 高合内に離れ砂が増着、高台内まで一部施釉 底部露胎 露胎部分が赤色化、鉄釉塗布か? 臭須の発色が悪く、オリーブ色である 二次的に被熱し、文様も不鮮明。底部露胎 底部露胎赤色化、鉄釉塗布か? 見込み蛇の目釉剥ぎ。 自色釉と透明釉を重ね掛け。見込み蛇の目釉剥ぎ。	중2 10 個 중2 Kd II Kd II + Kb II B316 중2 SE1A G2 E 700 b SE1 1 個 C9 2 E 700 e Q 700 명(下層 F1 700 E 나 4 個 Q 700 대전한 14 대표 (1) 대표 (

第23表 褐釉・無釉陶器観察表

カ	23 10	747	'四 ' 方			百百萬元:				
掲載 N o	出土地点	器種	部位	<u>法量</u> 口径		色調	<u>胎土</u> 精粗	<u>釉調</u> 色調	備考(成形技法・目跡など)	注記名
300	水 SE2 下層	子目 碗	□~腰	11.5		灰白	精良	褐/黒	釉は厚く、部分的に赤褐色	谷 2 SE2D8層
301	曲D 旧A	天目 硝	0~体			灰白	精良	褐	黒釉施釉だが、表面は赤褐色	A SC 1
302	曲K	天目 硝	0~体	12.4		灰白	精良	黒	鉄釉、黒釉の順に施釉する。口唇部では鉄釉が露出。	Kb 刊下
303	SG1-2 造成土下原	子目 研	体~底		4.6	灰黄	3 ミリ以下の灰白色粒が多く入り、やや粗	褐	見込みに釉が厚く溜まる	F1 9位 E14 3 層 +D1 S-ST 9位 +F2 I+L1
304	曲 B2 通路	天目 硝	胴~底		3.2	灰白	精良	黒	鉄釉を施釉後に腰部を釉剥ぎし、黒釉を施釉、釉厚め	ツウロ B1 2層
305	曲L 旧Q	天目 硝	底		4.3	灰黄	1 ミリ以下の灰白色粒が多く入る	黒	高台ほとんど削り出さず	Q II
306	曲 A4 3層	天目 硝	底		4.0	灰白	精良	内:にぶい赤褐	黒釉施釉だが、表面は赤褐色である	谷 4 T4-3 層
307	水 SS1 第 3 列 l	天目 研	胴~底		2.9	灰白	精良	黒	鉄釉→黒釉の順に施釉、釉厚め。茶筅のきず?	谷 2 SS1 ウラゴメ
308	堀D	天目 硝	底		3.2	淡黄	粗い	黒	見込みにフリモノ付着	却 14 層
309	曲D 旧A	天目 硝	体~底		3.4	灰白	2 ミリ以下の灰白色粒が多く入る	黒褐	鉄釉→黒釉の順に施釉	A SC1
310	SG2-2 埋土	四耳壺	П	10.6		にぶい褐	1ミリ以下の白色、赤褐色粒が多く入る	黒褐	なで肩の壺。横耳の痕跡	Q ツウロ 216+Q ツウロ埋土
311	水 SE2 下層	西耳壺	口~頸	9.6		灰黄	精良	灰褐		谷 2 SE2 D8 層
312	曲 B3 2 層	四耳壺	口~胴	10.6			3 ジ以下の白色、灰色粒を多く含む	外:赤黒/内:赤	なで肩の壺、横耳。内面無釉。胴部下半より露胎	B3 II層 +B4 4 層
313	曲 J1 SB3	四耳壺	П	13.2		浅黄		明褐	風化のためか、釉剥落	K II
314	堀 B4	四耳壺	口~肩	6.6		灰白	1ミリ以下の黒色粒を多く含む。スが多く入り粗い	黒褐	頸部下に横耳の痕跡、315 と同形だが、法量は小さい	タテネリ B2 2 層
315	曲 B3 1層	四耳壺	口~胴	10.0		灰白	精良	外:極暗赤褐/内:黒	頸部下に横耳の痕跡。314と同形だが、法量は大きい。外面飴釉、内面黒褐色釉と内外施釉。口縁部釉剥き	* 谷2北川2層+B3 +B44層
316	水 SF 6 層下層	四耳壺	頸~胴			灰白	精良	外:褐/内:浅黄	肩部に横耳の痕跡、胴部内面無釉	谷II SF 石沣 1
317	SG2-2 横断 1 J	四耳壺	肩			にぶい黄褐	1ミリ以下の灰色粒が多く入る	黒褐 / 赤褐	肩張りの壺、縦耳が付く。内外施釉	Q 990 SE +Q 9905/下層+ V 2 I
318	SG2 埋土	四耳壺	肩			灰黄褐	1ミリ以下の灰色粒が多く入る	黒褐 / 赤褐	肩張りの壺、縦耳が付く。内外施釉	Q 700 201+Q 700 203
319	SG2-2 中央	四耳壺	肩			灰黄褐	1ミリ以下の灰色粒が多く入る	黒褐 / 茶赤褐	肩張りの壺、318と同一個体か	Q 770 +Q 770 SE
320	SG1-2 造成土下原	壺		37.8		灰黄	1ミリ以下の白色粒が多く入る	にぶい黄橙	他の製品と口縁を合わせて焼成したか	F1 ツウロ E レキ3層
321	SG1-2 造成土下履	壺		29.8		にぶい黄橙	1 ミリ以下の灰色、白色粒が多く入る	にぶい黄橙/オリープ黒	$321 \sim 324$ は同一個体と思われる。口縁上部フリモノ付着。内面無釉、外面釉ちぢれ	F1 ツウロ E レキ 3層
322	SG1-2 造成土下履	壺	体			にぶい黄橙	1 ミリ以下の灰色、白色粒が多く入る	にぶい黄橙/オリープ黒	内面タタキ痕あり。	F1 ツウロ E レキ 4層
323	SG1-2 造成土下履	壺	体			にぶい黄橙	1ミリ以下の灰色、白色粒が多く入る	にぶい黄橙/にぶい黄橙		F1 9/10 E 1/4 4層+F152月II
324	SG1-2 造成土下履	壺	底		21.0	にぶい黄橙	1ミリ以下の灰色、白色粒が多く入る	にぶい黄/黄褐	底部付近より無釉	F1 /9 II +F1 750 E V44層
325	水切岸1	壺	胴~底		13.0	淡黄	2 ミリ以下の黒褐色粒をわずかに含む	外:黄褐/内:黒褐	飴釉、失透性の黒褐色釉を内外で掛け分け、326によく似る、底部露胎	谷 2 判 1
326	水 SF1 21 層	壺	底		12.6	にぶい黄橙	1 ミリ以下の灰色粒が多く入る	褐	飴釉、失透性の黒褐色釉を内外で掛け分け、底部付近は一部無釉、325によく似る	谷 2 SF 石泮下 27 層
327	水 SF 21 層	壺	胴~底		9.6	灰白	精良	外:灰オリープ、橙	飴釉、失透性の黒褐色釉を内外で掛け分け、二次的に被熱。底部露胎	谷 2 SF 石泮下 27 層
328	水SF 6層下層	壺	胴~底		9.8	灰黄	精良	外:灰/内:灰黄	内底に釉を拭き取った痕跡、灰被り。外面底部露胎	谷 2 SF 石泮上
329	堀群 横	壺	腰~底		8.8		1 ジ以下の灰白色粒を多く含む	内:オリープ黒	内面は轆轤目が残る。底面露胎、内面フリモノ付着	谷 3 F5 2 層
330	水窪 川区 中下	壺	胴~底		12.0		1 ジ以下の灰白色粒を多く含む	外:黒褐/内:灰	内外底面無釉	谷 2 SS2 III 中下層
331	SG2-2 埋土	壺	体~底		14.0	にぶい赤褐	1ミリ以下の白色粒が多く入り、粗い	黒褐	底部周縁部に離れ砂が熔着、内面に自然釉。底面無釉	Q 770 84
332	曲 D2 旧 C	蓋	端	10.0		灰黄褐	精良	暗褐	鉄釉のち褐釉	С
333	曲J1 旧L	小壺	口~体			灰黄褐	精良	黒褐	やや肩張りの小壺、内面口縁鉄釉のみ施釉。口縁上部釉剥ぎ。	L h /J II
334	曲 H SB5	壺?	肩			灰黄褐	1ミリ程度の白色粒が多く入る	黒褐	外面に粘土付着。焼成時のものか。内面無釉	Q d P483+Q d P486+G3 b // II
335	曲I旧V	瓶	体			褐灰	1 ミリ以下の灰色、白色粒が多く入る	黒褐	内外施釉	V T3
336	带 A3a	壺	П	11.5		にぶい黄橙	1ミリ以下の黒色粒をわずかに含む。スが多く入り粗い	一部自然釉	口縁端部外側に白色粘土が付着しており、目跡もしくは重ね焼きか	北 A2 II層
337	曲 A3 SB2	壺	頸			にぶい黄橙	1ミリ以下の黒色粒をわずかに含む。スが多く入り粗い			A3 P4
338	水切岸1 3 /	壺	肩			にぶい黄橙	1 ミリ以下の灰白色、黄灰色粒をわずかに含む		外面に他製品の熔着痕あり。重ね焼きか。	谷 2 判 1 3 層
339	曲K	甕?壺	? 体~底		12.0	褐灰	1ミリ以下の灰白色、赤褐色、白色粒が多く入る	にぶい赤褐	自然釉、底部に白色の釉溜りあり。底部周縁には離れ砂が熔着	Kd 刊下

第24表 その他貿易陶磁器観察表

掲載	出土地点	種類	器種	部位	法量 (cm) 胎土	釉調	備考(成形技法・目跡など)	注記名
Νo					底径	色調	色調		
340	曲 H2 旧 G3	瑠璃釉	不明	底		灰白	外:瑠璃色 / 内:透明	外風柵厚し	G3 b II
341	曲G旧G1	瑠璃釉	不明	体		灰白	外:瑠璃色/内:透 明	外面釉厚し	G1 # T1 2
342	曲M 旧P	青白磁	水注	注口		灰白	灰白	龍首水注、眼部は鉄釉	P II
343	曲G旧G1	醤釉染付	小杯	体~底		灰白	外:黒褐/内:透明	見込みに呉須の文字、高台外側まで褐釉、高台内及び内面は透明釉	G1 h T1 2
344	南	五彩	碗	胴~底	5.6	灰白	灰白	赤茶色・明緑色で彩色されるが、二次的に被熱し、退色している。 腰部:連弁文/胴部:菊花文/見込:草花文/高台内:福、景徳鎮産	H 中山+GL I
345	SG2-2 横断 1層	華南三彩	瓶?	体~底	6.0	にぶい黄橙	外:緑色	底部外側に沈線、内面無釉	V "700
346	曲K 盛	青花	花瓶			灰白	淡黄	いわゆるベトナム青花とは釉調や素地が異なる。口縁内面に瓔珞文、頸部外面に芭蕉葉文	Kb ₹リ±

第25表-1 国産陶器(備前焼)観察表

	25 表 - I				ī焼) 観祭表				
掲載No	出土地点	器種 分類	i 部位 器	<u>法量 (cm</u> 高 □径) 序径	備考	色調	備考	注記名
	SG1-2 造成土下層			THE HILL		立、灰白色粒、黒色粒を多く含む。	にぶい赤褐	スリメ単位 7 本以上	F1 ツウロ Eレキ 4層
_	SG2-2 西側側溝					立、褐灰色粒を多く含む。	にぶい赤褐	スリメ単位6本	Q 770 SE W
349		擂鉢III B			2mm 以下の灰白色料		灰	スリメ単位 10 本	H 948
							にぶい赤褐/		F 26層 +D1 II層
350	曲 F3 旧 F2	插拳 IV A-I	⊔~њ			立、褐色粒を多く含む。 を多く含む。1mm以下の黒色粒を少量含む。	極暗赤褐	スリメ単位8本以上、重ね焼き痕	
351	堀群 横	擂鉢 IV A-1	口~胴	27.7	8mm 以下の暗赤色料		橙	スリメ単位9本	分引 B1 29 ~ 32 層
352	曲K 盛 下面	擂鉢 IV A-2	口~体			立、黒褐色粒を多く含む、赤褐な胎土。	黒褐	スリメ単位9本	K b 刊下
353	SG1-2 造成土下層	擂鉢 IV A-2	口~底 11	1.6 30.2	暗赤褐色の中ににぶ 2mm 以下の明褐灰的	い橙の粘土が部分的にマーブル状を呈する。 A粒をわずかに含む	暗赤褐 / 黒褐 / 赤黒 / 黒	スリメ単位9本	D2ノリ II層+F1が0 E14 4層
354	SG2-2 埋土	擂鉢 IV A-2				. 1mm 以下の微細な灰白色粒、透明粒を含む。	にぶい黄褐/	スリメ単位 5 本以上。自然釉内~外面口縁部。	O 990 37
355	曲 F3 盛土	擂鉢 IV A-2	П			色粒を多く含む、きめ細かい胎土。	にぶい黄 里湖 / 暗湖 / 湖	スリメ単位 5 本以上	F2 b 刊土
_	曲 F1 SB21	擂鉢 IV A-2			2mm 以下の褐灰色料		黄橙	スリメ単位4本以上	D2 F1 P466-1
_	水 SE2 上層	描鉢 IV A-2		30					谷 2 SE2D 上層
		描鉢 IV A-2		30		淡黄色粒を少量含む 多く含み、1mm以下の透明色粒をわずかに含む。	にぶい帰りが次	スリメ単位 4 本以上 スリメ単位 7 本以上	谷2 SF
358									台2 SF 谷2 C7 層
	水表土・造成土				2mm 以下の灰白色料		黄灰/にぶい褐 にぶい赤褐/に		
360	SG3 横断 1 層	擂鉢 Ⅳ B-1	П	24.0	7mm 以下の黒色粒 ,	灰色粒を含む。	ぶい褐	スリメ単位 10 本以上	U יוליעי
361	SG1-2 造成土下層	擂鉢 IV B-1	П		にぶい赤褐色の中ににぶい橙の	マーブル状を呈する。2mm以下のにぶい橙色粒をわずかに含む。	にぶい赤褐	スリメ単位7本以上	F1 ツウロ E レキ 4層
362	SG2-2 埋土	擂鉢 IV B-1			3mm 以下の灰白色料	立を含む。	黄灰	スリメ単位7本以上、自然釉	Q % 120
363	SG2-2 埋土	擂鉢 Ⅳ B-1	口~体	27.5	2mm以下の淡橙色粒を多く、黒褐色粒	を少し含む。11mm 以下のにぶい橙色粒、3mm 以下の灰白色粒をわずかに含む。	暗赤褐	スリメ単位 10 本以上	Q 🤫 D 220
364	SG1-3 側溝	擂鉢 IV B-1	П		褐灰色の中に浅黄橙、灰白の	の粘土が部分的に見られる。3mm以下の黒褐色粒を含む。	褐灰 / 灰黄褐	スリメ単位9本以上	G2 E ツウロ b SE 1 1層
365	曲 J1 J1-P3	擂鉢 IV B-1	П		3mm 以下の黒色粒、	灰白色粒をまばらに含む。	黄褐/暗灰黄		L P3
366	SG1-3 側溝	擂鉢 IV B-1	口~底 10	0.8 21.4	5.6 4mm 以下の黒色粒、	灰白色粒を少し含む。	灰黄褐	スリメ単位8本以上	D2 II層 +G2 E 770 d SE 1
367	SG1-3 床直	擂鉢 IV B-1	П		3mm 以下の黒色粒、	灰白色粒をわずかに含む。	にぶい赤褐 / にぶい橙 / 褐灰	スリメ単位7本以上	G2 E "ウロ ジ ヤマ 9
368	SG1-2 造成土下層	擂鉢 Ⅳ B-1	П		3mm 以下の淡黄色料	立を少し含む。		スリメ単位6本以上	F 1 ツウロ E レキ 3 層
369	堀群 横	擂鉢 IV B-1	□~胴	32.6	2mm 以下の暗褐色料	立をわずかに含む	にぶい赤褐/灰	スリメ単位6本以上	谷 3T5 2 層
	水切岸1	擂鉢 IV B-1		30	5mm 以下の灰色粒を		灰褐 / 褐灰	スリメ単位 10 本	谷2 切 1 +谷 2 北/) 2 層
371	水 SS1 堀 2	擂鉢 IV B-1			5mm 以下のにぶい*		灰赤 / 赤灰	スリメ単位 7 本	谷 2 村 2
_	SG2-2	擂鉢 IV B-2		28.8	3mm 以下の灰白色料			スリメ単位 7 本以上	Q 770 41+Q 770 53
_		擂鉢 IV B-2		31			灰赤	スリメ単位8本以上	谷 2 SE2D 上層
374		擂鉢 IV B-2		26.4			灰白 / 褐	スリア手世の本以上	谷 2 II 56 層
	水 SE1 A 区	描鉢 IV B-2				灰白色粒をわずかの含む わずかに含む 5mm NTのEウタ 機会数を含む		スリメ単位 4 本以上	谷 2 SE1A-46
				32.8					
_	SG3 横断 17 層			24.0		mm 以下の灰白色粒を含む。		スリメ単位8本以上	V 770 SE 178- 1
	SG1-3 表土	擂鉢 IV B-3				5mm 以下の暗赤褐色粒を含む。		スリメ単位 4 本以上、自然釉	G2 E 🤊 Ó D C
378	SG1-3 石敷 No.7			28.5		弱色粒、灰白色粒を少し含む。 	暗赤褐 / 灰赤	スリメ単位8本以上	G2 E ツウロ b レキ 7
379	曲 J2 旧 N	擂鉢 Ⅳ B-3			1mm の黒褐色粒を木		にぶい赤褐		N W SE
380		擂鉢 Ⅳ B-3			1mm 以下の灰白色料		黒褐/暗灰黄	スリメ単位4本以上	谷 3
381	水表土・造成土	擂鉢 IV B-3	口部	30	にぶい赤褐色のきめ		灰赤 / 赤灰	口縁部自然釉	谷 2 10 層
382	曲 B3 2 層	擂鉢 IV B-3							
				28.8	2mm 以下の浅黄橙的	色粒を多く含むきめ細かい胎土	褐灰		B3 II
383	水切岸3 3層			28.8		色粒を多く含むきめ細かい胎土 立、3mm 以下の黒色粒を多く含む	褐灰 極暗赤褐	スリメ単位 10 本	B3 II 谷2月3 2層+谷2石に上刊+谷252上層
	水切岸3 3層 SG1-2 表土		口~底			立、3mm以下の黒色粒を多く含む		スリメ単位 10 本 外面口縁に縦位の沈線あり	
384		擂鉢 V A	口~底		5mm 以下の灰白色料 微細な透明の粒をわ	立、3mm以下の黒色粒を多く含む	極暗赤褐		答2月3 2層+答2石以上刊+答ZSS2上層
384 385	SG1-2 表土	擂鉢 V A 擂鉢 V A 擂鉢 V A	口~底 口 口		5mm 以下の灰白色料 微細な透明の粒をわ	立、3mm以下の黒色粒を多く含む ずかに含む。 立、褐灰色粒を少し含む。	極暗赤褐 灰褐/黒褐		谷2村3 2層+谷2石穴上刊+谷2552上層 D1 70日 11
384 385	SG1-2 表土 曲 K	擂鉢 V A 擂鉢 V A 擂鉢 V A	口~底 口 口 口 口~胴	28.4	5mm 以下の灰白色料 微細な透明の粒をわ 4mm 以下の灰白色料	立、3mm 以下の黒色粒を多く含む ずかに含む。 立、褐灰色粒を少し含む。 立を多く含む	極暗赤褐 灰褐/黒褐 灰褐/にぶい黄	外面口縁に縦位の沈線あり	各2村3 2層+各2研2世+各252上層 D1 ツウロ 11 K d モリ下
384 385 386	SG1-2 表土 曲 K 水表土·造成土 堀 A3	擂鉢 V A 擂鉢 V A 擂鉢 V A 擂鉢 V A	□~底 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	30	5mm 以下の灰白色料 微細な透明の粒をわ 4mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色料 5mm 以下~微細な原	立、3mm 以下の黒色粒を多く含む ずかに含む。 立、褐灰色粒を少し含む。 立を多く含む	極暗赤褐 灰褐/黒褐 灰褐/にぶい黄 褐灰/灰	外面口縁に縦位の沈線あり スリメ単位8本	82时3 2周+82可达时+8250上周 D1 770
384 385 386 387	SG1-2 表土 曲 K 水表土·造成土 堀 A3 曲 F1 旧 D2	擂鉢 V A 擂鉢 V A 擂鉢 V A 擂鉢 V A 擂鉢 V A	□~底 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	30	5mm 以下の灰白色料 微細な透明の粒をわ 4mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色料 5mm 以下~微細な原		極暗赤褐 灰褐/黒褐 灰褐/にぶい黄 褐灰/灰 灰黄褐	外面口縁に縦位の沈線あり スリメ単位8本 スリメ単位8本以上	82号 2周+82配比H+830比圏 D1 79a 11 K d 刊下 谷 2G1~4層+谷 2 か77 A2P23+ 刺 A2 A層
384 385 386 387 388 389	SG1-2 表土 曲 K 水表土·造成土 堀 A3 曲 F1 旧 D2	擂鉢 V A 擂鉢 V A 擂鉢 V A 擂鉢 V A 擂鉢 V A	□~底 □ □ □ □~胴 □~胴 □~底 □	30	5mm 以下の灰白色		極暗赤褐 灰褐/黒褐 灰褐/にぶい黄 褐灰/灰 灰黄褐 にぶい赤褐	外面口縁に縦位の沈線あり スリメ単位8本 スリメ単位8本以上 スリメ単位15本以上交差スリメ	82号3 2番+82回22H+87022H D1 790 11 K d 刊下 谷 2G1~4 暦 + 谷 2 かラフ A2P23+ 料 A2 A 履 D1知2W # / D2 E # 1 場合 / D2番
384 385 386 387 388 389 390	SG1-2 表土 曲 K 水表土・造成土 堀 A3 曲 F1 旧 D2 SG1-3 石積裏込め	擂鉢 V A 擂鉢 V A 擂鉢 V A 擂鉢 V A 擂鉢 V B 擂鉢 V B	口~底 口 口 口~胴 口~胴 口~底 12 口	30	5mm 以下の灰白色料 微細な透明の粒をわ 4mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色料 5mm 以下〜微細な反 14.0 1mm 〜 8mm の灰白 微細な灰白色粒、褐		極暗赤褐 灰褐/黒褐 灰褐/にぶい黄 褐灰/灰 灰黄褐 にぶい赤褐 暗赤褐/灰赤	外面口縁に縦位の沈線あり スリメ単位 8 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 15 本以上交差スリメ スリメ単位 6 本以上	82号3 2巻 + 82 EM 上村 + 8 XX 上村 D 1 79 D 1 1
384 385 386 387 388 389 390 391	SG1-2 表土 曲 K 水表土・造成土 堀 A3 曲 F1 旧 D2 SG1-3 石積裹込め 曲 J1 旧 L	擂鉢 V A 擂鉢 V A 擂鉢 V A 擂鉢 V A 擂鉢 V B 擂鉢 V B	□~底 □ □~胴 □~胴 □~底 12 □ □ □	30 30 2.5 31.0	5mm 以下の灰白色料 微細な透明の粒をわ 4mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色料 5mm 以下〜微細な店 14.0 1mm ~ 8mm の灰白 微細な灰白色粒、褐 2mm 以下の淡橙色料 3mm 以下の灰白色、		極暗赤褐 灰褐/黒褐 灰褐/にぶい黄 褐灰/灰 灰黄褐 にぶい赤褐 暗赤褐/灰赤 褐灰	外面口縁に縦位の沈線あり スリメ単位 8 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 15 本以上交差スリメ スリメ単位 6 本以上	82号3 2厘+82回22世 D1 790 11 K d ゼリ下 谷 2G1~4 暦 + 谷 2 かラフ A2P23+ 杉 A2 A層 D1州の2 # / D2E / 1 ・ 番目 / JAS屋 G2 E 790 T G L か SC13
384 385 386 387 388 389 390 391	SG1-2 表土 曲 K 水表士・造成土 堀 A3 曲 F1 旧 D2 SG1-3 石積裏込め 曲 J1 旧 L 水窪 Ⅱ区 上層	擂鉢 V A 擂鉢 V A 擂鉢 V A 擂鉢 V A 擂鉢 V B 擂鉢 V B 擂鉢 V B	□~底 □ □~胴 □~胴 □~底 12 □ □ □ □ □ □	30 30 30 2.5 31.0 30.6 32	5mm 以下の灰白色財 微細な透明の粒をわ 4mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色料 5mm 以下〜微細な店 14.0 1mm ~ 8mm の灰白 微細な灰白色粒、褐 2mm 以下の淡橙色料 3mm 以下の灰白色粒		極暗赤褐 灰褐/黒褐 灰褐/にぶい黄 褐灰/灰 灰黄褐 にぶい赤褐 暗赤褐/灰赤 褐灰 灰赤/暗赤灰	外面口縁に縦位の沈線あり スリメ単位 8 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 15 本以上交差スリメ スリメ単位 6 本以上	82号3 2厘+82回22世+82022世 D1 790 11 K d ゼリ下 谷 2G1~4 暦 + 谷 2 か77 A2P23+ 杉 A 2 A 層 D1州以東 / 以東 月 月 月 月 月 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日
384 385 386 387 388 389 390 391 392 393	SG1-2 表土 曲 K 水表土・造成土 堀 A3 曲 F1 旧 D2 SG1-3 石積裏込め 曲 J1 旧 L 水窪 Ⅱ区 上層	擂鉢 V A 擂鉢 V A 擂鉢 V A 擂鉢 V A 擂鉢 V B 擂鉢 V B 擂鉢 V B 擂鉢 V B	口~底 口 口~胴 口~胴 口~底 12 口 口 口 口 不底 12 口 口 口 口 口 口 口 口	28.4 30 30 2.5 31.0 30.6 32 32 30.4	5mm 以下の灰白色財 微細な透明の粒をわ 4mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色料 5mm 以下〜微細な店 14.0 1mm ~ 8mm の灰白 微細な灰白色粒、褐 2mm 以下の淡橙色料 3mm 以下の灰白色粒	立、3mm以下の黒色粒を多く含む ずかに含む。 立、褐灰色粒を少し含む。 立を多く含む 取白色粒を多く含む 3色粒、橙色粒、黒褐色粒を少し含む。 灰色粒を含む。 黒色粒を多く含む 黒色粒を多く含む 多く含む。微細な黒色と透明光沢色粒を少量含む n以下の黒色粒を含む微細な光沢粒を含むきめ細か・胎士	極暗赤褐 灰褐/黒褐 灰褐/にぶい黄 褐灰/灰 灰黄褐 にぶい赤褐 暗赤褐/灰赤 褐灰 灰赤/暗赤灰 赤	外面口縁に縦位の沈線あり スリメ単位 8 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 15 本以上交差スリメ スリメ単位 6 本以上 スリメ単位 4 本以上	# 2 回 3 2 回 + 後 2 回 2 回 2 回 2 回 2 回 2 回 2 回 2 回 2 回 2
384 385 386 387 388 389 390 391 392 393 394	SG1-2 表土 曲 K 水表土・造成土 堀 A3 曲 F1 旧 D2 SG1-3 石積裏込め 曲 J1 旧 L 水窪 Ⅱ区 上層 水 SS1 石壁 曲 A1 1層	擂鉢 V A 擂鉢 V A 擂鉢 V A 擂鉢 V A 擂鉢 V B	口~底 口 口 口 一 和 口 一 不 所 口 一 不 所 口 一 不 所 口 一 不 所 口 一 の に 「 に の に の に の に の に の に の に の に の	28.4 30 30 2.5 31.0 30.6 32 32 30.4	5mm 以下の灰白色粒 微細な透明の粒をわ 4mm 以下の灰白色棒 5mm 以下の灰白色棒 5mm 以下〜微細な 14.0 1mm ~ 8mm の灰白 微細な灰白色粒、褐 2mm 以下の淡色色丸 1mm 以下の灰白色粒を 11.8 2mm 以下の灰白色粒 5mm 17.2 1mm 以下の灰白色粒 5mm	立、3mm以下の黒色粒を多く含む ずかに含む。 立、褐灰色粒を少し含む。 立を多く含む 取白色粒を多く含む 3色粒、橙色粒、黒褐色粒を少し含む。 灰色粒を含む。 黒色粒を多く含む 黒色粒を多く含む 多く含む。微細な黒色と透明光沢色粒を少量含む n以下の黒色粒を含む微細な光沢粒を含むきめ細か・胎士	極暗赤褐 灰褐/黒褐 灰褐/にぶい黄 褐灰/灰 灰黄褐 にぶい赤褐 暗赤褐/灰赤 褐灰 灰赤/暗赤灰 赤 灰赤/暗赤灰 赤 灰褐	外面口縁に縦位の沈線あり スリメ単位 8 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 15 本以上交差スリメ スリメ単位 6 本以上 スリメ単位 4 本以上 スリメ単位 10 本交差スリメ	# 2 問 3 2 個 + 8 2 G 1 2 は 4 名 2 G 1 2 は 1 目 7 G 1 1 目 1 日 7 G 1
384 385 386 387 388 389 390 391 392 393 394 395	SG1-2 表土 曲 K 水表土・造成土 堀 A3 曲 F1 旧 D2 SG1-3 石積裏込め 曲 J1 旧 L 水窪 Ⅱ区 上層 水 SS1 石壁 曲 A1 1層 水 SF 14 層	擂鉢 V A 擂鉢 V A 擂鉢 V A 擂鉢 V A 擂鉢 V B	□~底 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	28.4 30 30 2.5 31.0 30.6 32 32 30.4	5mm 以下の灰白色料 微細な透明の粒をわ 4mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色料 5mm 以下〜微細な 14.0 1mm ~8mm の灰白 微細な灰白色粒、褐 2mm 以下の淡色色丸 1mm 以下の灰白色粒を 11.8 2mm 以下の灰白色粒を 5mm 以下の灰白色粒を 11.8 2mm 以下の灰白色粒を 17.2 1mm 以下の灰白色粒を にぶい赤褐色の胎土	は、3mm以下の黒色粒を多く含むずかに含む。 立、褐灰色粒を少し含む。 立を多く含む 灰白色粒を多く含む 医白色粒を多く含む 自色粒、橙色粒、黒褐色粒を少し含む。 灰色粒を含む。 なを含む。 果色粒を多く含む 多く含む。微細な黒色と透明光沢色粒を少量含む。 ロ以下の黒色粒を含む微細な光沢粒を含むきめ細か、強土	極暗赤褐 灰褐/黒褐 灰褐/にぶい黄 褐灰/灰 灰黄褐 にぶい赤褐 暗赤褐/灰赤 褐灰 灰赤/暗赤灰 赤 灰赤/暗赤灰 赤 灰褐	外面口縁に縦位の沈線あり スリメ単位 8 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 15 本以上交差スリメ スリメ単位 6 本以上 スリメ単位 4 本以上 スリメ単位 10 本交差スリメ スリメ単位 10 本交差スリメ スリメ単位 10 本交差スリメ スリメ単位 5 本以上 スリメ単位 9 本	# 2 7 3 2 2 4 4 2 2 5 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2
384 385 386 387 388 389 390 391 392 393 394 395 396	SG1-2 表土 曲 K 水表土・造成土 堀 A3 曲 F1 旧 D2 SG1-3 石積裏込め 曲 J1 旧 L 水底 1区 上層 水 SS1 石壁 曲 A1 1層 水 SF 14 層 SG1-2造成土 下層	擂鉢 V A 擂鉢 V A 擂鉢 V A 擂鉢 V B	□~底 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	30 30 30 2.5 31.0 30.6 32 3.2 30.4 3.5 34.4	5mm 以下の灰白色料 微細な透明の粒をわ 4mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色料 5mm 以下〜微細な匠 14.0 1mm~8mm の灰白 微細な灰白色粒、褐 2mm 以下の淡色色丸 1mm 以下の灰白色粒 1mm 以下の灰白色粒 11.8 2mm 以下の灰白色粒 にぶい赤褐色の胎土 6mm 以下の淡黄橙粒を多	は、3mm以下の黒色粒を多く含むずかに含む。 立、褐灰色粒を少し含む。 立を多く含む 灰白色粒を多く含む 灰白色粒を多く含む のの粒を含む。 なを含む。 東色粒を多く含む 果色粒を含む。 なを含む。 なを含む。 なを含む。 なた含む。 なた含む。 なた含む。 ないの思色性を含む複雑な光沢色粒を少量含む の以下の黒色粒を含む積細な果色と透明光沢色粒を少量含む	極暗赤褐 灰褐/黒褐 灰褐/にぶい黄 褐灰/灰 灰黄褐 にぶい赤褐 暗赤褐/灰赤 褐灰 灰赤/暗赤灰 赤 灰赤/暗赤灰 赤 灰褐 明赤褐 黒褐/にぶい褐	外面口縁に縦位の沈線あり スリメ単位 8 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 15 本以上交差スリメ スリメ単位 6 本以上 スリメ単位 4 本以上 スリメ単位 10 本交差スリメ スリメ単位 10 本交差スリメ スリメ単位 5 本以上	# 2 時 3 2 周 + 後 2 四 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2
384 385 386 387 388 389 390 391 392 393 394 395 396	SG1-2 表土 曲 K 水表土・造成土 堀 A3 曲 F1 IB D2 SG1-3 石積表込め 曲 J1 IB L 水変 II区 上層 水 SS1 石壁 水 SS1 石壁 水 SS1 1 層 水 SF 1 4 層 SG1-2 遠成土 下層	## V A ## A V A ## A V A ## A V A ## A V B A V B A V B A V B A V B A V B A V B A V B A V B A	□~底 □□~胴 □~偏 □□~胴 □~底 □□~加 □~底 □□~に □□~に □□~に □□~底 □□~に □□~に □□~に	30 30 30 2.5 31.0 30.6 32 3.2 30.4 3.5 34.4	5mm 以下の灰白色料 微細な透明の粒をわ 4mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色料 5mm 以下〜微細な月 14.0 1mm~8mm の灰白 微細な灰白色粒、褐 2mm 以下の灰白色粒 3mm 以下の灰白色粒 11.8 2mm以下の灰白色粒 11.2 1mm 以下の灰白色粒 にぶし、赤褐色の胎土 6mm 以下の浅黄橙粒を多 15.1 1mm 以下の浅黄橙粒を多	は、3mm以下の黒色粒を多く含むずかに含む。 は、褐灰色粒を少し含む。 立を多く含む 灰白色粒を多く含む 灰白色粒、橙色粒、黒褐色粒を少し含む。 灰色粒を含む。 立を含む。 東色粒を含む。 なを含む。 まのない。 微細な黒色と透明光沢色粒を少量含む リス下の黒色粒を含む移掘な光液を含むきめ細か、胎土立をわずかに含む に浅黄橙色のマーブル状を呈する。山土かいく含み、2mm以下の黒色粒をもであれて含む。	極暗赤褐 灰褐/黒褐 灰褐/にぶい黄 褐灰/灰 灰黄褐 にぶい赤褐 暗赤褐/灰赤 褐灰 灰赤/暗赤灰 赤 坂陽 明赤褐 黒褐/にぶい褐 黒 にぶい褐/黒褐	外面口縁に縦位の沈線あり スリメ単位 8 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 15 本以上交差スリメ スリメ単位 6 本以上 スリメ単位 4 本以上 スリメ単位 10 本交差スリメ スリメ単位 10 本交差スリメ スリメ単位 10 本交差スリメ スリメ単位 5 本以上 スリメ単位 9 本 スリメ単位 7 本	# 2 7 3 2 2 4 4 2 2 5 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2
384 385 386 387 388 390 391 392 393 394 395 396 397	SG1-2 表土 曲 K 水表土・造成土 堀 A3 曲 F1 旧 D2 SG1-3 石積表込め 曲 J1 旧 L 水変 Ⅱ 区 上層 水 SS1 1 万層 水 SF1 4 層 SG1-2造成土 下層 曲 K	描述 V A 擂鉢 V A 擂鉢 V A 擂鉢 V B 擂 V B 擂 V B 雷 V B 雷 V B 田 V B W B V B W B V B W B V B W B V B W B V B W B V B W B V B W B V B W B V B W B W B W B W B W B W B W B W B W B W B W B W B W B W B W B W B W B W B W B W B W B W B <	□〜底 □□〜胴 □〜胴 □〜底 12 □〜に 15 □〜底 15 □〜底 15 体体体体へ底 体体体の 体体の 体体の 体の 体の を 15	30 30 30 2.5 31.0 30.6 32 3.2 30.4 3.5 34.4	5mm 以下の灰白色料 微細な透明の粒をわ 4mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色料 5mm 以下〜微細な月 14.0 1mm~8mm の灰白 微細な灰白色粒、褐 2mm 以下の灰白色粒を 1mm 以下の灰白色粒を 1mm 以下の灰白色粒を 11.8 2mm 以下の灰白色粒を 17.2 1mm 以下の灰白色粒 6mm 以下の淡白色粒を 15.1 1mm 以下の淡黄橙粒を多 2mm 以下の浅黄橙粒を多 2mm 以下の浅黄橙粒を多	は、3mm以下の黒色粒を多く含む ずかに含む。 は、褐灰色粒を少し含む。 立を多く含む 灰白色粒を多く含む 灰白色粒を 機動性、黒褐色粒を少し含む。 灰色粒を含む。 立を含む。 強を含む。 強を含む。 まの含む。機細な黒色と透明光沢色粒を少量含む の以下の黒色粒を含む湯は光沢粒を含むきめ細が過土立をわずかに含む。 に浅黄橙色のマーブル状を呈する。山土からく含み、2mm以下の黒色粒をわずがに含む。 は大きな、2mm以下の黒色粒をわずがに含む。山土からく含み、2mm以下の黒色粒をわずがに含む。山土か	極暗赤褐 灰褐/黒褐 灰褐/にぶい黄 褐灰/灰 灰黄褐 にぶい赤褐 暗赤褐/灰赤 褐灰 灰赤/暗赤灰 赤 赤 ボーボ ボーボ ボーボ ボーボ ボーボ ボーボ ボー	外面口縁に縦位の沈線あり スリメ単位 8 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 15 本以上交差スリメ スリメ単位 6 本以上 スリメ単位 4 本以上 スリメ単位 10 本交差スリメ スリメ単位 10 本交差スリメ スリメ単位 10 本交差スリメ スリメ単位 5 本以上 スリメ単位 9 本 スリメ単位 7 本	# 2 回 3 2
384 385 386 387 388 390 391 392 393 394 395 396 397	SG1-2 表土 曲 K 水表土・造成土 堀 A3 曲 F1 IB D2 SG1-3 石積表込め 曲 J1 IB L 水変 II区 上層 水 SS1 1 石層 水 SS1 4 層 SG1-2 造成土 下層 曲 K SG1-2 造成土下層	描述 V A 擂鉢 V A 擂鉢 V A 擂鉢 V B	□〜底 □□〜胴 □〜胴 □〜に 12 □〜に 12 □〜に 13 □〜底 13 □〜底 13 □〜底 4 体体体へ底 体体体へ底 体体体へ底 体体に 体へ底	30 30 2.5 31.0 30.6 32 3.2 30.4 3.5 34.4	5mm 以下の灰白色料 微細な透明の粒をわ 4mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色料 5mm 以下〜微細な匠 14.0 1mm~8mm の灰白 微細な灰白色粒、褐 2mm 以下の淡色色、 1mm 以下の灰白色粒を 11.8 2mm 以下の灰白色粒を 11.8 2mm 以下の灰白色粒を 11.7 1mm 以下の灰白色粒を 15.1 1mm 以下の淡黄色粒を 2mm 以下の浅黄橙粒を多 2mm 以下の浅黄橙粒を多 15.4 4mm 以下の淡黄色粒を	は、3mm以下の黒色粒を多く含むずかに含む。 は、褐灰色粒を少し含む。 立を多く含む 灰白色粒を多く含む 灰白色粒を含む。 立を含む。 立を含む。 立を含む。 立を含む。 立を含む。 多く含む。微細な黒色と透明光沢色粒を少量含む。 以下の黒色粒を含むきめばかい胎土立をわずかに含む。 に浅黄橙色のマーブル状を呈する。山土からく含み、2mm以下の黒色粒をわずかに含む。 は大きな。 は、3mm以下の黒色粒をわずかに含む。山土かいく含み、2mm以下の黒色粒をかずかに含む。 は、1mm以下の黒色粒をわずかに含む。山土かい以下の氏白色粒、1mm以下の浅黄色色をわずがに含む。山土かい以下の氏白色粒、1mm以下の残黄色色粒をわずがに含む。山土かい以下の氏白色粒、1mm以下の浅黄色色粒をわずがに含む。山土かい以下の氏白色粒、1mm以下の残黄色色粒をわずがに含む。山土かい以下の氏白色粒、1mm以下の浅黄色色粒をわずがに含む。山土かい以下の灰白色粒、1mm以下の残黄色色粒をわずがに含む。山土かい	極暗赤褐 灰褐/黒褐 灰褐/にぶい黄 褐灰/灰 灰黄褐 にぶい赤褐 暗赤褐/灰赤 褐灰 灰赤/暗赤灰 赤 板 明赤褐 黒褐/にぶい褐 明赤褐 黒褐/にぶい赤褐 黒黒 にぶい黄褐/灰褐 にぶい横/黒褐 にぶい横/黒褐 にぶい横/黒褐 にぶい横/黒根	外面口縁に縦位の沈線あり スリメ単位 8 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 15 本以上交差スリメ スリメ単位 6 本以上 スリメ単位 10 本交差スリメ スリメ単位 10 本交差スリメ スリメ単位 10 本交差スリメ スリメ単位 9 本 スリメ単位 7 本 スリメ単位 7 本 スリメ単位 6 本	# 2 回 3 2 回 + 4 2 2 5 2 2 2 2 1 2 1 2 1 2 1 2 1 2 1 2 1
384 385 386 387 388 390 391 392 393 394 395 396 397 398	SG1-2 表土 曲 K 水表土・造成土 堀 A3 曲 F1 IB D2 SG1-3 石積表込め 曲 J1 IB L 水変 II区 上層 水 SS1 石壁 ム 石壁 水 SS1 石壁 ・ 日 ド SS1-2 遠成土 下層 曲 K SG1-2 遠成土下層 SG2-2 埋土 曲 H1 IB G2	描数 V A 擂鉢 V A 擂鉢 V A 擂鉢 V B 計 V B 1 V B 2 V B 3 V B 4 V B 5 V B 6 V B 7 V B 8 V B 8 V B 9 V B 9 V B 10 V B	□〜底 □□〜胴 □〜胴 □〜に 12 □〜に 12 □〜に 13 □〜底 13 □〜底 13 □〜底 15 □〜に 4 体体体に 体体体に 体体体に 体体に 体へに 体へに 4	28.4 30 30 2.5 31.0 30.6 32 3.2 30.4 3.5 34.4	5mm 以下の灰白色料 微細な透明の粒をわ 4mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色料 5mm 以下〜微細な匠 14.0 1mm~8mm の灰白 微細な灰白色粒、褐 2mm 以下の灰白色粒を 1mm 以下の灰白色粒を 1mm 以下の灰白色粒を 11.8 2mm 以下の灰白色粒を 11.8 2mm 以下の灰白色粒を 11.8 2mm 以下の灰白色粒を 15.1 1mm 以下の淡黄色粒を 2mm 以下の浅黄橙粒を多 15.1 1mm 以下の淡黄色粒を 2mm 以下の淡黄色粒を 2mm 以下の淡黄色粒を 2mm 以下の淡黄色粒を 2mm 以下の淡黄色粒を 2mm 以下の淡黄色粒を 2mm 以下の淡黄色粒を 2mm 以下の淡黄色粒を 2mm 以下の淡黄色粒を 2mm 以下の淡黄色粒を 10.4 2mm 以下の黑色粒を	は、3mm以下の黒色粒を多く含むずかに含む。 は、褐灰色粒を少し含む。 立を多く含む 灰白色粒を多く含む 灰白色粒を含む。 位を含む。 位を含む。 立を含む。 東色粒を含む。 立を含む。 東色粒を多く含む 黒色粒を多く含む また含む。 なと含む。 がある。 東色粒を多く含む は、微細な黒色と透明光沢色粒を少量含む。 以下の黒色粒を含むきめ細が、胎土立をわずかに含む。 は美黄橙色のマーブル状を呈する。山土からく含み、2mm以下の黒色粒をわずかに含む。 は大きくるみ、2mm以下の灰色色粒をわずかに含む。山土かいての灰白色粒、1mm以下の残色粒をもずがに含む。山土かいて、7mm以下の灰白色粒をわずがに含む。山土からく、7mm以下の黒色粒をわずがに含む。山土からく、7mm以下の黒色粒をわずがに含む。山土からとこくわずかに含む。山土からとこく	極暗赤褐 灰褐/黒褐 灰褐/にぶい黄 褐灰/灰 灰黄褐 にぶい赤褐 暗赤褐/灰赤 褐灰 灰赤/暗赤灰 赤赤 灰根 明赤褐 黒褐/にぶい褐 黒褐/にぶい褐 黒にぶい橙/黒褐 にぶい巻/黒褐 にぶい番褐/灰翅 にぶい赤褐/灰翅 にぶい赤褐/灰 東にぶい地/黒褐 にぶい赤褐/灰 東にぶい地/黒褐 にぶいボールボールボールボールボールボールボールボールボールボールボールボールボールボ	外面口縁に縦位の沈線あり スリメ単位 8 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 15 本以上交差スリメ スリメ単位 6 本以上 スリメ単位 10 本交差スリメ スリメ単位 10 本交差スリメ スリメ単位 10 本交差スリメ スリメ単位 7 本 スリメ単位 7 本 スリメ単位 6 本 スリメ単位 8 本以上	# 2 回 3 2
384 385 386 387 388 390 391 392 393 394 395 396 397 398 399 400	SG1-2 表土 曲 K 水表土・造成土 堀 A3 曲 F1 IP D2 SG1-3 石積表込め 曲 J1 IP L 水変 II 区 上層 水 SS1 石曜 水 SS1 4 層 の SG1-2 造成土 下層 曲 K SG1-2 造成土下層 SG1-2 造成土下層 SG2-2 埋土 曲 H1 IP G2 水 SE1 A 区	描数 V A 擂鉢 V A 擂鉢 V A 擂鉢 V B 擂 V B 計 V B W B W B W B W B W B W B W B W B W B W B W B W B W B W B W B W B W B W B W B W B W B W B W B W B W B W B W B W B W B W B W B W B W B W B W B W B W B W B	□〜底 □□〜胴 □〜偏 12 □〜偏 12 □〜偏 12 □〜に 13 □〜底 13 □〜底 15 □〜底 15 □〜底 4 体体体へ底 体体体の底 体体体の底 体体の底 体のに 体のに 体のに を 10	28.4 30 30 2.5 31.0 30.6 32 3.2 30.4 3.5 34.4	5mm 以下の灰白色料 微細な透明の粒をわ 4mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色料 5mm 以下〜微細な月 14.0 1mm~8mm の灰白 微細な灰白色粒、褐 2mm 以下の灰白色粒を 1mm 以下の灰白色粒を 1mm 以下の灰白色粒を 11.8 2mm以下の灰白色粒を 11.8 2mm以下の灰白色粒を 11.5 1mm 以下の淡黄色粒を 2mm以下の残白色粒を 2mm以下の淡黄色粒を 2mm以下の淡黄色粒を 2mm以下の淡黄色粒を 2mm以下の淡黄色粒を 15.1 1mm 以下の淡黄色粒を 2mm以下の淡黄色粒を 15.1 2mm 以下の黑色粒 15.1 2mm 以下の黑色粒 15.1 2mm 以下の黑色粒	は、3mm以下の黒色粒を多く含むずかに含む。 は、褐灰色粒を少し含む。 立を多く含む 灰白色粒を多く含む 灰白色粒を含む。 位を含む。 位を含む。 立を含む。 立を含む。 立を含む。 さを含む。 さを含む。 さを含む。 はたるさ。 強細な黒色と透明光沢色粒を少量含む。 以下の黒色粒を含むきめ幅かい胎土立をわずかに含む。 は浅黄橙色のマーブル状を呈する。山土からく含み、2mm以下の黒色粒をすがに含む。 は大りならみ、2mm以下の黒色粒をわずかに含む。山土かい、以下の灰白色粒、1mm以下の浅黄色をもががに含む。山土からく、7mm以下の黒色粒をわずかに含む。山土かをくく、7mm以下の黒色粒をわずかに含む。山土かをてくわずかに含む。山土か	極暗赤褐 灰褐/黒褐 灰褐/にぶい黄 褐灰/灰 灰黄褐 にぶい赤褐 暗赤褐/灰赤 褐灰 灰赤/暗赤灰 赤赤 灰赤/暗赤灰 明赤褐 黒褐/にぶい褐 明赤褐/にぶい褐 黒花/にぶい褐 黒花/灰黄褐/灰褐 大変銭/灰褐/灰褐/ 大変板/ 原端/ 原樹/ 原樹/ 原樹/ 暗赤裾/ 橙/ 暗赤褐	外面口縁に縦位の沈線あり スリメ単位 8 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 15 本以上交差スリメ スリメ単位 6 本以上 スリメ単位 10 本交差スリメ スリメ単位 10 本交差スリメ スリメ単位 10 本交差スリメ スリメ単位 7 本 スリメ単位 7 本 スリメ単位 6 本 スリメ単位 6 本 スリメ単位 8 本以上	# 2 回 2 国 + 4 2 2 5 2 2 2 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
384 385 386 387 390 391 392 393 394 395 396 397 400 401 402	SG1-2 表土 曲 K 水表土・造成土 堀 A3 曲 F1 日 D2 SG1-3 石積表込め 曲 J1 日 L 水度 II 区 上層 水 SS I 1 日層 水 SF 1 4 層 SG1-2 造成土下層 曲 K SG1-2 造成土下層 SG2-2 埋土 曲 H1 日 G2 水 SE1 A 区 曲 K	描数 V A 擂鉢 V A 擂鉢 V A 擂鉢 V B 雷 V B 雷 V B 雷 V B 雷 V B 日 V B 日 V B 日 V B 日 V B 日 V B 日 V B 日 V B 日 V B 日 V B 日 V B 日 V B 日 V B 日 V B 日 V B 日 V B 日 V B	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	28.4 30 30 2.5 31.0 30.6 32 3.2 30.4 3.5 34.4	5mm 以下の灰白色料 微細な透明の粒をわ 4mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色料 5mm 以下〜微細な反 14.0 1mm~8mm の灰白 微細な灰白色粒、褐 2mm 以下の灰白色粒を 1mm 以下の灰白色粒を 11.8 2mm以下の灰白色粒を 11.8 2mm以下の灰白色粒を 11.7 2 1mm 以下の灰白色粒を 15.1 1mm 以下の淡黄色粒を 2mm以下の灰白色粒を 2mm以下の変黄色粒を 15.1 2mm 以下の淡黄色粒を 15.1 2mm 以下の寒色粒を 15.1 2mm 以下の寒色粒を 15.1 2mm 以下の寒色粒を 15.1 2mm 以下の寒色粒を 2mm 以下の寒色粒々	は、3mm以下の黒色粒を多く含むずかに含む。 は、褐灰色粒を少し含む。 立を多く含む 灰白色粒を多く含む 灰白色粒を含む。 位を含む。 位を含む。 位を含む。 位を含む。 位を含む。 位を含む。 位を含む。 ができな。 強に、	極暗赤褐 灰褐/黒褐 灰褐/にぶい黄 褐灰/灰 灰養褐 にぶい赤褐 暗赤褐/灰赤 褐灰 灰赤/暗赤灰 赤赤 明赤褐 黒褐/にぶい歳 明赤褐/にぶい褐 黒端/にぶい端 黒にぶい橙/黒褐 にぶい橙/黒褐 にぶい樹/黒褐 にぶいぱり/暗赤板/赤板/ 赤灰/暗赤板/ 大赤灰/暗赤板/ 大赤板/暗赤板/ 大赤板/暗赤板/ 大赤板/暗赤板/ 大赤板/暗赤板/ 大赤板/暗赤板/ 大赤板/暗赤板/ 大赤板/暗赤板/ 大赤板/暗赤板/ 大赤板/暗赤板/ 大赤板/暗赤板/ 大赤板/暗赤板/ 大赤板/暗赤板/ 大赤板/ 大赤板/ 大木板/ 大赤板/ 大木板/ 大 大木板/ 大 大木板/ 大木板/ 大 大木板/ 大 大木板/ 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大	外面口縁に縦位の沈線あり スリメ単位 8 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 15 本以上交差スリメ スリメ単位 16 本以生 スリメ単位 10 本交差スリメ スリメ単位 10 本交差スリメ スリメ単位 10 本交差スリメ スリメ単位 7 本 スリメ単位 7 本 スリメ単位 6 本 スリメ単位 6 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 9 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 9 本 スリメ単位 5 本以上	# 2 回 3 2 回 + 4 2 2 5 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2
384 385 386 387 390 391 392 393 394 395 396 397 400 401 402 403	SG1-2 表土 曲 K 水表土・造成土 堀 A3 曲 F1 I D2 SG1-3 石積表込め 曲 J1 I I L 水座 II 区 上層 水 SF1 4 層 SG1-2 造成土下層 曲 K SG1-2 造成土下層 田 K SG1-2 遠成土下層 SG2-2 埋土 曲 H1 I G G 水 SE1 A 区 曲 K	描数 V A 擂鉢 V A 擂鉢 V A 擂鉢 V B 雷 V B 3 V B 4 V B 5 V B 6 V B 7 V B 8 V B 8 V B 8 V B 9 V B 9 V B 10 V B <td>□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □</td> <td>30 30 30 2.5 31.0 30.6 32 3.2 30.4 3.5 34.4</td> <td>5mm 以下の灰白色料 微細な透明の粒をわ 4mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色料 5mm 以下〜微細な反 14.0 1mm~8mm の灰白 微細な灰白色粒、褐 2mm 以下の淡白色粒を 1mm 以下の灰白色粒を 11.8 2mm 以下の灰白色粒 11.8 2mm 以下の灰白色粒 6mm 以下の灰白色粒 5mm 以下の淡黄色粒を引 2mm 以下の淡黄色粒を引 2mm 以下の淡黄色粒を引 15.1 1mm 以下の淡黄色粒を引 2mm 以下の淡黄色粒を引 15.1 2mm 以下の淡黄色粒の 15.1 2mm 以下の灰白色丸 15.1 2mm 以下の灰白色丸 15.1 2mm 以下の灰白色丸</td> <td>は、3mm以下の黒色粒を多く含むずかに含む。 は、褐灰色粒を少し含む。 立を多く含む 灰白色粒を多く含む の色粒を多く含む の色粒を含む。 立を含む。 数を含む。 数を含む。 数を含む。 数を含む。 数を含む。 数を含む。 数を含む。 数であた。 無色粒を多く含む 多く含む。機細な黒色と透明光沢色粒を少量含む。 の以下の黒色粒を含む湯を対形に含む。山土からく含み、2mm以下の黒色粒をおずがに含む。山土からく含み、2mm以下の炭白色粒をわずがに含む。山土からく、7mm以下の黒色粒をわずがに含む。山土からく、7mm以下の黒色粒をわずがに含む。山土からく、7mm以下の黒色粒をわずがに含む。山土からく、7mm以下の黒色粒をわずがに含む。山土からく、7mm以下の黒色粒をわずがに含む。山土からく、7mm以下の黒色粒をわずがに含む。山土からく、7mm以下の黒色粒をかずがに含む。山土からを含む。微細な透明粒を少し含む。山土か</td> <td>極暗赤褐 灰褐/黒褐 灰褐/にぶい黄 褐灰/灰 灰黄褐 にぶい赤褐 暗赤褐/灰赤 褐灰 灰赤/暗赤灰 赤 の現 明赤褐/にぶい褐 開赤褐/にぶい褐 黒褐/にぶい褐 黒花 にぶい世/黒褐 にぶい樹/黒褐 にない地 大赤灰/暗赤板/暗赤板/暗赤板/暗赤板/暗赤板/暗赤板/暗赤板/暗赤板/暗赤板/暗赤板</td> <td>外面口縁に縦位の沈線あり スリメ単位 8 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 15 本以上交差スリメ スリメ単位 6 本以上 スリメ単位 10 本交差スリメ スリメ単位 10 本交差スリメ スリメ単位 10 本交差スリメ スリメ単位 7 本 スリメ単位 6 本 スリメ単位 6 本 スリメ単位 6 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 9 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 9 本 スリメ単位 5 本以上 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 9 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 9 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 8 本以上</td> <td># 2 月 3 2 月 4 2 2 5 2 1 月 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日</td>	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	30 30 30 2.5 31.0 30.6 32 3.2 30.4 3.5 34.4	5mm 以下の灰白色料 微細な透明の粒をわ 4mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色料 5mm 以下〜微細な反 14.0 1mm~8mm の灰白 微細な灰白色粒、褐 2mm 以下の淡白色粒を 1mm 以下の灰白色粒を 11.8 2mm 以下の灰白色粒 11.8 2mm 以下の灰白色粒 6mm 以下の灰白色粒 5mm 以下の淡黄色粒を引 2mm 以下の淡黄色粒を引 2mm 以下の淡黄色粒を引 15.1 1mm 以下の淡黄色粒を引 2mm 以下の淡黄色粒を引 15.1 2mm 以下の淡黄色粒の 15.1 2mm 以下の灰白色丸 15.1 2mm 以下の灰白色丸 15.1 2mm 以下の灰白色丸	は、3mm以下の黒色粒を多く含むずかに含む。 は、褐灰色粒を少し含む。 立を多く含む 灰白色粒を多く含む の色粒を多く含む の色粒を含む。 立を含む。 数を含む。 数を含む。 数を含む。 数を含む。 数を含む。 数を含む。 数を含む。 数であた。 無色粒を多く含む 多く含む。機細な黒色と透明光沢色粒を少量含む。 の以下の黒色粒を含む湯を対形に含む。山土からく含み、2mm以下の黒色粒をおずがに含む。山土からく含み、2mm以下の炭白色粒をわずがに含む。山土からく、7mm以下の黒色粒をわずがに含む。山土からく、7mm以下の黒色粒をわずがに含む。山土からく、7mm以下の黒色粒をわずがに含む。山土からく、7mm以下の黒色粒をわずがに含む。山土からく、7mm以下の黒色粒をわずがに含む。山土からく、7mm以下の黒色粒をわずがに含む。山土からく、7mm以下の黒色粒をかずがに含む。山土からを含む。微細な透明粒を少し含む。山土か	極暗赤褐 灰褐/黒褐 灰褐/にぶい黄 褐灰/灰 灰黄褐 にぶい赤褐 暗赤褐/灰赤 褐灰 灰赤/暗赤灰 赤 の現 明赤褐/にぶい褐 開赤褐/にぶい褐 黒褐/にぶい褐 黒花 にぶい世/黒褐 にぶい樹/黒褐 にない地 大赤灰/暗赤板/暗赤板/暗赤板/暗赤板/暗赤板/暗赤板/暗赤板/暗赤板/暗赤板/暗赤板	外面口縁に縦位の沈線あり スリメ単位 8 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 15 本以上交差スリメ スリメ単位 6 本以上 スリメ単位 10 本交差スリメ スリメ単位 10 本交差スリメ スリメ単位 10 本交差スリメ スリメ単位 7 本 スリメ単位 6 本 スリメ単位 6 本 スリメ単位 6 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 9 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 9 本 スリメ単位 5 本以上 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 9 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 9 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 8 本以上	# 2 月 3 2 月 4 2 2 5 2 1 月 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日
384 385 386 387 388 389 390 391 393 394 395 396 397 400 401 402 403 404	SG1-2 表土 無 K	擂鉢 V A 擂鉢 V A 擂鉢 V A 擂鉢 V B 擂鉢 V B 擂鉢 V B 擂鉢 IV B 擂鉢 V A	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	30 30 30 2.5 31.0 30.6 32 3.2 30.4 3.5 34.4	5mm 以下の灰白色料 微細な透明の粒をわ 4mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色料 5mm 以下へ被細な反 14.0 1mm ~ 8mm の灰白 微細な灰白色粒、褐 2mm 以下の灰白色粒 11.8 2mm 以下の灰白色粒 11.8 2mm 以下の灰白色粒 11.2 1mm 以下の灰白色粒 6mm 以下の炭白色粒 5mm 以下の淡黄色粒を 2mm 以下の浅黄橙粒を 3mm 以下の浅黄橙粒を 2mm 以下の浅黄橙粒を 15.1 2mm 以下の淡黄色粒 3mm 以下の淡白色丸 5mm 以下の灰白色丸 1mm 以下の灰白色刺 1mm 1mm 1mm 1mm 1mm 1mm 1mm 1mm 1mm 1m	は、3mm以下の黒色粒を多く含むずかに含む。 は、褐灰色粒を少し含む。 立を多く含む 取白色粒を多く含む は色粒、 相色粒、 黒褐色粒を少し含む。 灰色粒を含む。 黒色粒を多く含む 黒色粒を多く含む またる。 微細な黒色と透明光沢色粒を少量含む。 以下の黒色粒を含む。 は洗黄橙色のマーブル状を呈する。 山土からく含み、2mm以下の黒色粒をわずかに含む。 山土かの以下の原色粒、1mm以下の残色粒をわずがに含む。 山土からく、7mm以下の黒色粒をわずがに含む。 山土からく、7mm以下の黒色粒をわずがに含む。 山土からく、7mm以下の黒色粒をわずがに含む。 山土からく、7mm以下の黒色粒をわずがに含む。 山土からく、7mm以下の黒色粒をわずがに含む。 山土かかまでくわずかに含む。 山土か	極暗赤褐 灰褐/黒褐 灰褐/にぶい黄 褐灰/灰 灰黄褐にぶい赤褐 暗赤褐/灰赤 褐灰 灰赤/暗赤灰 赤 原端/にぶい褐 黒褐/にぶい褐 黒にぶ近褐/灰褐 にぶ返褐/灰褐 た赤灰 増奏 黒に変数/灰褐 大赤灰 横大灰 横大 横 大赤板 大赤板 大赤板 大赤板 大赤板 大赤板 大赤板 大赤板	外面口縁に縦位の沈線あり スリメ単位8本 スリメ単位8本以上 スリメ単位15本以上交差スリメ スリメ単位16本以上 スリメ単位10本交差スリメ スリメ単位10本交差スリメ スリメ単位10本交差スリメ スリメ単位5本以上 スリメ単位6本 スリメ単位5本以上 スリメ単位6本 スリメ単位6本 スリメ単位6本 スリメ単位6本 スリメ単位6本 スリメ単位8本以上 スリメ単位9本 スリメ単位5本以上 スリメ単位9本 スリメ単位8本以上 スリメ単位9本 スリメ単位9本 スリメ単位9本 スリメ単位9本 スリメ単位5本以上 スリメ単位5本以上 スリメ単位5本以上 スリメ単位7本	# 2 回 3 2 日 + 谷 2 の 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2
384 385 386 387 388 389 390 391 392 393 394 400 401 402 403 404 405	## SG1-2 表土 一日 1	擂鉢 V A 擂鉢 V A 擂鉢 V A 擂鉢 V B 擂鉢 V B 擂鉢 V B 擂鉢 IV B 擂鉢 V A 擂鉢 V A 擂鉢 V A 擂 V A 擂 V A 雷 V A 電 X A (X A (X B (X B (X B (X B (X B (X B (X B (X B (X <td< td=""><td>□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □</td><td>30 30 30 2.5 31.0 30.6 32 3.2 30.4 3.5 34.4</td><td>5mm 以下の灰白色料 微細な透明の粒をわ 4mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色料 2mm 以下の淡白色粒 4mm 以下の灰白色粒 11.8 2mm 以下の灰白色粒 11.8 2mm 以下の灰白色粒 15.1 1mm 以下の淡黄色粒を3 2mm 以下の淡黄色粒を3 2mm 以下の淡黄色粒を3 2mm 以下の淡黄色粒を3 2mm 以下の淡黄色粒を3 2mm 以下の火白色料 15.1 2mm 以下の灰白色丸 2mm 以下の灰白色丸 15.1 2mm 以下の灰白色丸 15.1 2mm 以下の灰白色丸 1mm 以下の灰白色丸 1mm 以下の灰白色料 1mm 以下の灰白色料 1mm 以下の灰白色料 10mm 以下の灰白色料 2mm 2mm 2mm 2mm 2mm 2mm 2mm 2mm 2mm 2m</td><td>は、3mm以下の黒色粒を多く含むずかに含む。 は、褐灰色粒を少し含む。 立を多く含む 取白色粒を多く含む は色粒、 褐色粒、 黒褐色粒を少し含む。 灰色粒を含む。 黒色粒を含む。</td><td>極暗赤褐 灰褐/黒褐 灰褐/にぶい黄 褐灰/灰 灰黄褐にぶい赤褐 電赤褐/灰赤 褐灰 灰赤/暗赤灰 赤 飛る/ にぶい場 開赤褐/にぶい場 黒にぶが、大塚 黒にぶが、大塚 黒にぶが、大塚 黒にで変数に、大塚 大塚 大塚 明赤褐 黒 にがより、大塚 大塚 大塚 大塚 大塚 大塚 大塚 大塚 大塚 大塚</td><td>外面口縁に縦位の沈線あり スリメ単位8本 スリメ単位15本以上交差スリメ スリメ単位15本以上交差スリメ スリメ単位6本以上 スリメ単位10本交差スリメ スリメ単位10本交差スリメ スリメ単位7本 スリメ単位6本 スリメ単位6本 スリメ単位6本 スリメ単位7本 スリメ単位6本 スリメ単位9本 スリメ単位8本以上 スリメ単位9本 スリメ単位8本以上 スリメ単位9本 スリメ単位9本 スリメ単位9本 スリメ単位9本 スリメ単位9本 スリメ単位9本 スリメ単位9本 スリメ単位9本 スリメ単位8本以上 スリメ単位8本 スリメ単位8本 スリメ単位8本 スリメ単位8本 スリメ単位8本</td><td># 2 回 2 国 + 後 2 回 2 回 2 回 2 回 2 回 2 回 2 回 2 回 2 回 2</td></td<>	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	30 30 30 2.5 31.0 30.6 32 3.2 30.4 3.5 34.4	5mm 以下の灰白色料 微細な透明の粒をわ 4mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色料 2mm 以下の淡白色粒 4mm 以下の灰白色粒 11.8 2mm 以下の灰白色粒 11.8 2mm 以下の灰白色粒 15.1 1mm 以下の淡黄色粒を3 2mm 以下の淡黄色粒を3 2mm 以下の淡黄色粒を3 2mm 以下の淡黄色粒を3 2mm 以下の淡黄色粒を3 2mm 以下の火白色料 15.1 2mm 以下の灰白色丸 2mm 以下の灰白色丸 15.1 2mm 以下の灰白色丸 15.1 2mm 以下の灰白色丸 1mm 以下の灰白色丸 1mm 以下の灰白色料 1mm 以下の灰白色料 1mm 以下の灰白色料 10mm 以下の灰白色料 2mm 2mm 2mm 2mm 2mm 2mm 2mm 2mm 2mm 2m	は、3mm以下の黒色粒を多く含むずかに含む。 は、褐灰色粒を少し含む。 立を多く含む 取白色粒を多く含む は色粒、 褐色粒、 黒褐色粒を少し含む。 灰色粒を含む。 黒色粒を含む。	極暗赤褐 灰褐/黒褐 灰褐/にぶい黄 褐灰/灰 灰黄褐にぶい赤褐 電赤褐/灰赤 褐灰 灰赤/暗赤灰 赤 飛る/ にぶい場 開赤褐/にぶい場 黒にぶが、大塚 黒にぶが、大塚 黒にぶが、大塚 黒にで変数に、大塚 大塚 大塚 明赤褐 黒 にがより、大塚 大塚 大塚 大塚 大塚 大塚 大塚 大塚 大塚 大塚	外面口縁に縦位の沈線あり スリメ単位8本 スリメ単位15本以上交差スリメ スリメ単位15本以上交差スリメ スリメ単位6本以上 スリメ単位10本交差スリメ スリメ単位10本交差スリメ スリメ単位7本 スリメ単位6本 スリメ単位6本 スリメ単位6本 スリメ単位7本 スリメ単位6本 スリメ単位9本 スリメ単位8本以上 スリメ単位9本 スリメ単位8本以上 スリメ単位9本 スリメ単位9本 スリメ単位9本 スリメ単位9本 スリメ単位9本 スリメ単位9本 スリメ単位9本 スリメ単位9本 スリメ単位8本以上 スリメ単位8本 スリメ単位8本 スリメ単位8本 スリメ単位8本 スリメ単位8本	# 2 回 2 国 + 後 2 回 2 回 2 回 2 回 2 回 2 回 2 回 2 回 2 回 2
384 385 386 387 388 390 391 392 393 394 395 396 397 400 401 402 403 404 405	SG1-2 表土 無 K	擂鉢 V A 擂鉢 V A 擂鉢 V A 擂鉢 V B 擂鉢 V B 擂鉢 V B 擂鉢 IV B 擂鉢 V A 擂鉢 V B 擂鉢 V B 擂 V B 擂 V B 擂 V B 電 X B 電 X B 電 X B 電 X B 電 X B 電 X B 電 X B 電 X B 電 X B 0 X B 0 X <td< td=""><td>□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □</td><td>30 30 30 2.5 31.0 30.6 32 3.2 30.4 3.5 34.4</td><td>5mm 以下の灰白色料 微細な透明の粒をわ 4mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色料 4mm 以下の灰白色粒 4mm 以下の灰白色粒 4mm 以下の灰白色粒 11.8 2mm 以下の灰白色粒 12.1 1mm 以下の灰白色粒 5mm 以下の炭白色粒 2mm 以下の炭白色粒 2mm 以下の浅黄橙色粒を 2mm 以下の浅黄橙色粒を 2mm 以下の浅黄色粒を 15.1 2mm 以下の淡黄色粒 3mm 以下の灰白色料 1mm 以下の灰白色料 10mm 以下の灰白色料 10mm 以下の灰白色料 10mm 以下の灰白色料 10mm 以下の疾白色料 2mm 以下の素褐色粒をで</td><td>は、3mm以下の黒色粒を多く含むずかに含む。 は、褐灰色粒を少し含む。 立を多く含む 取白色粒を多く含む 1色粒、橙色粒、黒褐色粒を少し含む。 立を含む。 黒色粒を多く含む 黒色粒を多く含む まさる。 微細な黒色と透明光沢色粒を少量含む。 以下の黒色粒を含むの場がに含む。 はまかずがに含む。 は上かなるみ、2mm以下の黒色粒をわずがに含む。 は上かなく含み、2mm以下の黒色粒をわずがに含む。 は上かいてのよりないます。 は上かいないでは、大変にないます。 は上からく、7mm以下の黒色粒をわずがに含む。 は上からく、7mm以下の黒色粒をわずがに含む。 は上からく、7mm以下の黒色粒をわずがに含む。 は上からく、7mm以下の黒色粒をわずがに含む。 山土かいないである。 は細な透明粒を少し含む。 は上かむを含く含む。 田土かなを多く含む。 田土かなたのよりないます。 は細な透明粒を少し含む。 は上かなを含く含む。 田土かなたのよりないます。 は細な透明粒を少し含む。 は上かなもであれています。 は細ながないます。 は細な透明粒を少し含む。 は細ながないます。 は細ながないます。 は細ながないます。 はまかなものます。 は細ながないます。 は細ながないます。 はまかないます。 はまかないます。 はまかないます。 はまかないます。 はまかないまかないます。 はまかないます。 はまかないます。 はまかないます。 はまかないます。 はまかないます。 はまかないまかないまかないます。 はまかないまかないまかないまかないまかないまかないまかないまかないまかないまかない</td><td>極暗赤褐 灰褐/黒褐 灰褐/にぶい黄 褐灰/灰 灰黄褐 にぶい赤褐 電赤褐/灰赤 褐灰 灰赤/暗赤灰 赤 赤 大塚・暗赤灰 赤 黒褐/にぶい褐 黒端/にぶい場場 黒にぶが、大塚 黒にぶが、大塚 大塚 大塚 大塚 明赤褐/ 黒根 にぶいる。 黒根 にぶいる。 大塚 大塚 大塚 大塚 大塚 明赤褐/ 大塚 大塚 大塚 明赤褐/ 大塚 大塚 大塚 大塚 大塚 大塚 大塚 大塚 大塚 大塚</td><td>外面口縁に縦位の沈線あり スリメ単位 8 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 15 本以上交差スリメ スリメ単位 6 本以上 スリメ単位 10 本交差スリメ スリメ単位 10 本交差スリメ スリメ単位 7 本 スリメ単位 6 本 スリメ単位 6 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 9 本 スリメ単位 9 本 スリメ単位 9 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 9 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 9 本 スリメ単位 10 本以上交差スリメ スリメ単位 10 本以上交差スリメ</td><td># 2 回 2 国 + 谷 2 四 2 記 2 回 1 回 1 回 1 回 1 回 1 回 1 回 1 回 1 回 1 回</td></td<>	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	30 30 30 2.5 31.0 30.6 32 3.2 30.4 3.5 34.4	5mm 以下の灰白色料 微細な透明の粒をわ 4mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色料 4mm 以下の灰白色粒 4mm 以下の灰白色粒 4mm 以下の灰白色粒 11.8 2mm 以下の灰白色粒 12.1 1mm 以下の灰白色粒 5mm 以下の炭白色粒 2mm 以下の炭白色粒 2mm 以下の浅黄橙色粒を 2mm 以下の浅黄橙色粒を 2mm 以下の浅黄色粒を 15.1 2mm 以下の淡黄色粒 3mm 以下の灰白色料 1mm 以下の灰白色料 10mm 以下の灰白色料 10mm 以下の灰白色料 10mm 以下の灰白色料 10mm 以下の疾白色料 2mm 以下の素褐色粒をで	は、3mm以下の黒色粒を多く含むずかに含む。 は、褐灰色粒を少し含む。 立を多く含む 取白色粒を多く含む 1色粒、橙色粒、黒褐色粒を少し含む。 立を含む。 黒色粒を多く含む 黒色粒を多く含む まさる。 微細な黒色と透明光沢色粒を少量含む。 以下の黒色粒を含むの場がに含む。 はまかずがに含む。 は上かなるみ、2mm以下の黒色粒をわずがに含む。 は上かなく含み、2mm以下の黒色粒をわずがに含む。 は上かいてのよりないます。 は上かいないでは、大変にないます。 は上からく、7mm以下の黒色粒をわずがに含む。 は上からく、7mm以下の黒色粒をわずがに含む。 は上からく、7mm以下の黒色粒をわずがに含む。 は上からく、7mm以下の黒色粒をわずがに含む。 山土かいないである。 は細な透明粒を少し含む。 は上かむを含く含む。 田土かなを多く含む。 田土かなたのよりないます。 は細な透明粒を少し含む。 は上かなを含く含む。 田土かなたのよりないます。 は細な透明粒を少し含む。 は上かなもであれています。 は細ながないます。 は細な透明粒を少し含む。 は細ながないます。 は細ながないます。 は細ながないます。 はまかなものます。 は細ながないます。 は細ながないます。 はまかないます。 はまかないます。 はまかないます。 はまかないます。 はまかないまかないます。 はまかないます。 はまかないます。 はまかないます。 はまかないます。 はまかないます。 はまかないまかないまかないます。 はまかないまかないまかないまかないまかないまかないまかないまかないまかないまかない	極暗赤褐 灰褐/黒褐 灰褐/にぶい黄 褐灰/灰 灰黄褐 にぶい赤褐 電赤褐/灰赤 褐灰 灰赤/暗赤灰 赤 赤 大塚・暗赤灰 赤 黒褐/にぶい褐 黒端/にぶい場場 黒にぶが、大塚 黒にぶが、大塚 大塚 大塚 大塚 明赤褐/ 黒根 にぶいる。 黒根 にぶいる。 大塚 大塚 大塚 大塚 大塚 明赤褐/ 大塚 大塚 大塚 明赤褐/ 大塚 大塚 大塚 大塚 大塚 大塚 大塚 大塚 大塚 大塚	外面口縁に縦位の沈線あり スリメ単位 8 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 15 本以上交差スリメ スリメ単位 6 本以上 スリメ単位 10 本交差スリメ スリメ単位 10 本交差スリメ スリメ単位 7 本 スリメ単位 6 本 スリメ単位 6 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 9 本 スリメ単位 9 本 スリメ単位 9 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 9 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 9 本 スリメ単位 10 本以上交差スリメ スリメ単位 10 本以上交差スリメ	# 2 回 2 国 + 谷 2 四 2 記 2 回 1 回 1 回 1 回 1 回 1 回 1 回 1 回 1 回 1 回
384 385 386 387 388 390 391 392 393 394 395 396 397 398 400 401 402 403 404 405 406 407	SG1-2 表土 無 K	擂鉢 V A 擂鉢 V A 擂鉢 V A 擂鉢 V B 擂鉢 V B 擂鉢 V B 擂鉢 IV B 擂 V A 擂 V B 擂 V B 擂 V B 擂 V B 擂 V B 擂 V B 擂 V B 雷 V B 電 X B 0 X B 0 X B 0 X B 0 X B 0 X B 0 X B 0 X B 0 X B <td>□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □</td> <td>30 30 30 2.5 31.0 30.6 32 3.2 30.4 3.5 34.4</td> <td>5mm 以下の灰白色料 微細な透明の粒をわ 4mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色料 2mm 以下の水色色粒、褐 2mm 以下の灰白色粒 11.8 2mm 以下の灰白色粒 11.8 2mm 以下の灰白色粒 11.2 1mm 以下の灰白色粒 6mm 以下の灰白色粒 2mm 以下の淡黄橙色粒を 2mm 以下の浅黄橙色粒を 2mm 以下の浅黄橙色粒を 15.1 2mm 以下の淡黄色粒 5mm 以下の灰白色料 1mm 1mm 1mm 1mm 1mm 1mm 1mm 1mm 1mm 1m</td> <td>2、3mm以下の黒色粒を多く含むずかに含む。 立、褐灰色粒を少し含む。 立を多く含む 灰白色粒を多く含む 日色粒を含含む 日色粒を含さ。 東色粒を多く含む 黒色粒を多く含む 黒色粒を多く含む まさる。 微細な黒色と透明光沢色粒を少量含む n以下の黒色粒を含さる機能な光沢粒を含むきめ幅が、動土立をわずかに含む。 に浅黄橙色のマーブル状を呈する。山土からく含み、2mm以下の黒色粒をわずかに含む。山土かい以下の灰白色粒、1mm以下の炭色粒をわずがに含む。山土かい以下の灰白色粒、1mm以下の炭色粒をわずがに含む。山土かいなで含み、2mm以下の、土がで含み、2mm以下の、土がで含み、2mm以下の、土がで含み、2mm以下の、土土がで含む。山土かいなどでよりが、3mm以下の、土土ができむ。 山土かむを多く含む。 田土かなもずが含む。 田土かなもずが含む。 田土かなもずが、3mm以下の黒褐色、灰白色粒を含む。 田土かなもずが、3mm以下の黒褐色、灰白色粒を含む。 田土かなもずが、3mm以下の黒褐色、灰白色粒を含む。 田土かくわずが、3mm以下の黒褐色、灰白色粒を含む。 田土かなり、3mm以下の黒褐色、灰白色粒を含む。 田土かくめずが、3mm以下の黒褐色、灰白色粒を含む。 田土か</td> <td>極暗赤褐 灰褐/黒褐 灰褐/にぶい黄 褐灰/灰 灰黄褐 にぶい赤褐 暗赤褐/灰赤 褐灰 灰赤・帽赤灰 場赤根 明赤褐 黒褐/にぶい褐 明赤褐/にぶい端 黒 にぶい 橙/黒褐 にぶい 橙/黒褐 にぶい 横/ 原赤 横/ 原赤 横/ 原赤 板 板 大 板 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大</td> <td>外面口縁に縦位の沈線あり スリメ単位 8 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 15 本以上交差スリメ スリメ単位 6 本以上 スリメ単位 10 本交差スリメ スリメ単位 10 本交差スリメ スリメ単位 7 本 スリメ単位 6 本 スリメ単位 6 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 9 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 8 本以上交差スリメ スリメ単位 10 本以上交差スリメ</td> <td># 2 回 2 国 + 谷 2 四 2 世</td>	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	30 30 30 2.5 31.0 30.6 32 3.2 30.4 3.5 34.4	5mm 以下の灰白色料 微細な透明の粒をわ 4mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色料 2mm 以下の水色色粒、褐 2mm 以下の灰白色粒 11.8 2mm 以下の灰白色粒 11.8 2mm 以下の灰白色粒 11.2 1mm 以下の灰白色粒 6mm 以下の灰白色粒 2mm 以下の淡黄橙色粒を 2mm 以下の浅黄橙色粒を 2mm 以下の浅黄橙色粒を 15.1 2mm 以下の淡黄色粒 5mm 以下の灰白色料 1mm 1mm 1mm 1mm 1mm 1mm 1mm 1mm 1mm 1m	2、3mm以下の黒色粒を多く含むずかに含む。 立、褐灰色粒を少し含む。 立を多く含む 灰白色粒を多く含む 日色粒を含含む 日色粒を含さ。 東色粒を多く含む 黒色粒を多く含む 黒色粒を多く含む まさる。 微細な黒色と透明光沢色粒を少量含む n以下の黒色粒を含さる機能な光沢粒を含むきめ幅が、動土立をわずかに含む。 に浅黄橙色のマーブル状を呈する。山土からく含み、2mm以下の黒色粒をわずかに含む。山土かい以下の灰白色粒、1mm以下の炭色粒をわずがに含む。山土かい以下の灰白色粒、1mm以下の炭色粒をわずがに含む。山土かいなで含み、2mm以下の、土がで含み、2mm以下の、土がで含み、2mm以下の、土がで含み、2mm以下の、土土がで含む。山土かいなどでよりが、3mm以下の、土土ができむ。 山土かむを多く含む。 田土かなもずが含む。 田土かなもずが含む。 田土かなもずが、3mm以下の黒褐色、灰白色粒を含む。 田土かなもずが、3mm以下の黒褐色、灰白色粒を含む。 田土かなもずが、3mm以下の黒褐色、灰白色粒を含む。 田土かくわずが、3mm以下の黒褐色、灰白色粒を含む。 田土かなり、3mm以下の黒褐色、灰白色粒を含む。 田土かくめずが、3mm以下の黒褐色、灰白色粒を含む。 田土か	極暗赤褐 灰褐/黒褐 灰褐/にぶい黄 褐灰/灰 灰黄褐 にぶい赤褐 暗赤褐/灰赤 褐灰 灰赤・帽赤灰 場赤根 明赤褐 黒褐/にぶい褐 明赤褐/にぶい端 黒 にぶい 橙/黒褐 にぶい 橙/黒褐 にぶい 横/ 原赤 横/ 原赤 横/ 原赤 板 板 大 板 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大	外面口縁に縦位の沈線あり スリメ単位 8 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 15 本以上交差スリメ スリメ単位 6 本以上 スリメ単位 10 本交差スリメ スリメ単位 10 本交差スリメ スリメ単位 7 本 スリメ単位 6 本 スリメ単位 6 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 9 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 8 本以上交差スリメ スリメ単位 10 本以上交差スリメ	# 2 回 2 国 + 谷 2 四 2 世
384 385 386 387 388 390 391 392 393 394 395 396 397 398 400 401 402 403 404 405 406 407	SG1-2 表土 無 K	擂鉢 V A 擂鉢 V A 擂鉢 V A 擂鉢 V B 擂鉢 V B 擂鉢 V B 擂鉢 IV B 擂 V A 擂 V B 擂 V B 擂 V B 擂 V B 擂 V B 擂 V B 擂 V B 雷 V B 電 X B 0 X B 0 X B 0 X B 0 X B 0 X B 0 X B 0 X B 0 X B <td>□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □</td> <td>30 30 30 2.5 31.0 30.6 32 3.2 30.4 3.5 34.4</td> <td>5mm 以下の灰白色料 微細な透明の粒をわ 4mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色料 2mm 以下の水色色粒、褐 2mm 以下の灰白色粒 11.8 2mm 以下の灰白色粒 11.8 2mm 以下の灰白色粒 11.2 1mm 以下の灰白色粒 6mm 以下の灰白色粒 2mm 以下の淡黄橙色粒を 2mm 以下の浅黄橙色粒を 2mm 以下の浅黄橙色粒を 15.1 2mm 以下の淡黄色粒 5mm 以下の灰白色料 1mm 1mm 1mm 1mm 1mm 1mm 1mm 1mm 1mm 1m</td> <td>は、3mm以下の黒色粒を多く含むずかに含む。 は、褐灰色粒を少し含む。 立を多く含む 取白色粒を多く含む 1色粒、橙色粒、黒褐色粒を少し含む。 立を含む。 黒色粒を多く含む 黒色粒を多く含む まさる。 微細な黒色と透明光沢色粒を少量含む。 以下の黒色粒を含むの場がに含む。 はまかずがに含む。 は上かなるみ、2mm以下の黒色粒をわずがに含む。 は上かなく含み、2mm以下の黒色粒をわずがに含む。 は上かいてのよりないます。 は上かいないでは、大変にないます。 は上からく、7mm以下の黒色粒をわずがに含む。 は上からく、7mm以下の黒色粒をわずがに含む。 は上からく、7mm以下の黒色粒をわずがに含む。 は上からく、7mm以下の黒色粒をわずがに含む。 山土かいないである。 は細な透明粒を少し含む。 は上かむを含く含む。 田土かなを多く含む。 田土かなたのよりないます。 は細な透明粒を少し含む。 は上かなを含く含む。 田土かなたのよりないます。 は細な透明粒を少し含む。 は上かなもであれています。 は細ながないます。 は細な透明粒を少し含む。 は細ながないます。 は細ながないます。 は細ながないます。 はまかなものます。 は細ながないます。 は細ながないます。 はまかないます。 はまかないます。 はまかないます。 はまかないます。 はまかないまかないます。 はまかないます。 はまかないます。 はまかないます。 はまかないます。 はまかないます。 はまかないまかないまかないます。 はまかないまかないまかないまかないまかないまかないまかないまかないまかないまかない</td> <td>極暗赤褐 灰褐/黒褐 灰褐/にぶい黄 褐灰/灰 灰黄褐 にぶい赤褐 電赤褐/灰赤 褐灰 灰赤/暗赤灰 赤 赤 大塚・暗赤灰 赤 黒褐/にぶい褐 黒端/にぶい場場 黒にぶが、大塚 黒にぶが、大塚 大塚 大塚 大塚 明赤褐/ 黒根 にぶいる。 黒根 にぶいる。 大塚 大塚 大塚 大塚 大塚 明赤褐/ 大塚 大塚 大塚 明赤褐/ 大塚 大塚 大塚 大塚 大塚 大塚 大塚 大塚 大塚 大塚</td> <td>外面口縁に縦位の沈線あり スリメ単位 8 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 15 本以上交差スリメ スリメ単位 6 本以上 スリメ単位 10 本交差スリメ スリメ単位 10 本交差スリメ スリメ単位 7 本 スリメ単位 6 本 スリメ単位 6 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 9 本 スリメ単位 9 本 スリメ単位 9 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 9 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 9 本 スリメ単位 10 本以上交差スリメ スリメ単位 10 本以上交差スリメ</td> <td># 2 回 2 個 + 名 2 の 2 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回</td>	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	30 30 30 2.5 31.0 30.6 32 3.2 30.4 3.5 34.4	5mm 以下の灰白色料 微細な透明の粒をわ 4mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色料 2mm 以下の水色色粒、褐 2mm 以下の灰白色粒 11.8 2mm 以下の灰白色粒 11.8 2mm 以下の灰白色粒 11.2 1mm 以下の灰白色粒 6mm 以下の灰白色粒 2mm 以下の淡黄橙色粒を 2mm 以下の浅黄橙色粒を 2mm 以下の浅黄橙色粒を 15.1 2mm 以下の淡黄色粒 5mm 以下の灰白色料 1mm 1mm 1mm 1mm 1mm 1mm 1mm 1mm 1mm 1m	は、3mm以下の黒色粒を多く含むずかに含む。 は、褐灰色粒を少し含む。 立を多く含む 取白色粒を多く含む 1色粒、橙色粒、黒褐色粒を少し含む。 立を含む。 黒色粒を多く含む 黒色粒を多く含む まさる。 微細な黒色と透明光沢色粒を少量含む。 以下の黒色粒を含むの場がに含む。 はまかずがに含む。 は上かなるみ、2mm以下の黒色粒をわずがに含む。 は上かなく含み、2mm以下の黒色粒をわずがに含む。 は上かいてのよりないます。 は上かいないでは、大変にないます。 は上からく、7mm以下の黒色粒をわずがに含む。 は上からく、7mm以下の黒色粒をわずがに含む。 は上からく、7mm以下の黒色粒をわずがに含む。 は上からく、7mm以下の黒色粒をわずがに含む。 山土かいないである。 は細な透明粒を少し含む。 は上かむを含く含む。 田土かなを多く含む。 田土かなたのよりないます。 は細な透明粒を少し含む。 は上かなを含く含む。 田土かなたのよりないます。 は細な透明粒を少し含む。 は上かなもであれています。 は細ながないます。 は細な透明粒を少し含む。 は細ながないます。 は細ながないます。 は細ながないます。 はまかなものます。 は細ながないます。 は細ながないます。 はまかないます。 はまかないます。 はまかないます。 はまかないます。 はまかないまかないます。 はまかないます。 はまかないます。 はまかないます。 はまかないます。 はまかないます。 はまかないまかないまかないます。 はまかないまかないまかないまかないまかないまかないまかないまかないまかないまかない	極暗赤褐 灰褐/黒褐 灰褐/にぶい黄 褐灰/灰 灰黄褐 にぶい赤褐 電赤褐/灰赤 褐灰 灰赤/暗赤灰 赤 赤 大塚・暗赤灰 赤 黒褐/にぶい褐 黒端/にぶい場場 黒にぶが、大塚 黒にぶが、大塚 大塚 大塚 大塚 明赤褐/ 黒根 にぶいる。 黒根 にぶいる。 大塚 大塚 大塚 大塚 大塚 明赤褐/ 大塚 大塚 大塚 明赤褐/ 大塚 大塚 大塚 大塚 大塚 大塚 大塚 大塚 大塚 大塚	外面口縁に縦位の沈線あり スリメ単位 8 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 15 本以上交差スリメ スリメ単位 6 本以上 スリメ単位 10 本交差スリメ スリメ単位 10 本交差スリメ スリメ単位 7 本 スリメ単位 6 本 スリメ単位 6 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 9 本 スリメ単位 9 本 スリメ単位 9 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 9 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 9 本 スリメ単位 10 本以上交差スリメ スリメ単位 10 本以上交差スリメ	# 2 回 2 個 + 名 2 の 2 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回
384 385 386 387 388 390 391 392 393 394 400 401 402 403 404 405 406 407 408	SG1-2 表土 無 K	擂鉢 V A 擂鉢 V A 擂鉢 V A 擂鉢 V B 擂鉢 V B 擂鉢 V B 擂鉢 IV B 擂 V A 擂 V B 擂 V B 擂 V B 擂 V B 擂 V B 雷 V B 雷 V B 雷 V B 雷 V B 電 X B 日 X B 日 X B 日 X B 日 X B 日 X B 日 X B 日 X B <td>□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □</td> <td>30 30 30 2.5 31.0 30.6 32 3.2 30.4 3.5 34.4</td> <td>5mm 以下の灰白色料 微細な透明の粒をわ 4mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色料 4mm 以下の灰白色粒 4mm 以下の灰白色粒 4mm 以下の灰白色粒 5mm 以下の灰白色粒 51.8 2mm 以下の灰白色粒 5.1 1mm 以下の炭白色粒 5mm 以下の炭白色粒 2mm 以下の浅黄橙色粒を 2mm 以下の炭白色粒 4mm 以下の淡黄色粒 51.1 2mm 以下の炭白色丸 15.1 2mm 以下の灰白色丸 1mm 以下の灰白色丸</td> <td>2、3mm以下の黒色粒を多く含むずかに含む。 立、褐灰色粒を少し含む。 立を多く含む 灰白色粒を多く含む 日色粒を含含む 日色粒を含さ。 東色粒を多く含む 黒色粒を多く含む 黒色粒を多く含む まさる。 微細な黒色と透明光沢色粒を少量含む n以下の黒色粒を含さる機能な光沢粒を含むきめ幅が、動土立をわずかに含む。 に浅黄橙色のマーブル状を呈する。山土からく含み、2mm以下の黒色粒をわずかに含む。山土かい以下の灰白色粒、1mm以下の炭色粒をわずがに含む。山土かい以下の灰白色粒、1mm以下の炭色粒をわずがに含む。山土かいなで含み、2mm以下の、土がで含み、2mm以下の、土がで含み、2mm以下の、土がで含み、2mm以下の、土土がで含む。山土かいなどでよりが、3mm以下の、土土ができむ。 山土かむを多く含む。 田土かなもずが含む。 田土かなもずが含む。 田土かなもずが、3mm以下の黒褐色、灰白色粒を含む。 田土かなもずが、3mm以下の黒褐色、灰白色粒を含む。 田土かなもずが、3mm以下の黒褐色、灰白色粒を含む。 田土かくわずが、3mm以下の黒褐色、灰白色粒を含む。 田土かなり、3mm以下の黒褐色、灰白色粒を含む。 田土かくめずが、3mm以下の黒褐色、灰白色粒を含む。 田土か</td> <td>極暗赤褐 灰褐/黒褐 灰褐/にぶい黄 褐灰/灰 灰養褐 にぶい赤褐 暗赤褐/灰赤 褐灰 灰赤/暗赤灰 明赤褐 黒褐/にぶい褐 開赤褐/にぶい褐 黒木(にぶい褐 黒木(にぶい褐 黒木(にがい赤褐) 赤が、一端赤板/暗赤板/暗赤板/暗赤板/暗赤板/暗赤板/暗赤板/暗赤板/暗赤板/ 横/灰板/暗赤板/暗赤板/ 横/灰板 明赤褐</td> <td>外面口縁に縦位の沈線あり スリメ単位 8 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 15 本以上交差スリメ スリメ単位 6 本以上 スリメ単位 10 本交差スリメ スリメ単位 10 本交差スリメ スリメ単位 7 本 スリメ単位 6 本 スリメ単位 6 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 9 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 8 本以上交差スリメ スリメ単位 10 本以上交差スリメ</td> <td># 2 回 2 国 + 谷 2 四 2 世</td>	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	30 30 30 2.5 31.0 30.6 32 3.2 30.4 3.5 34.4	5mm 以下の灰白色料 微細な透明の粒をわ 4mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色料 4mm 以下の灰白色粒 4mm 以下の灰白色粒 4mm 以下の灰白色粒 5mm 以下の灰白色粒 51.8 2mm 以下の灰白色粒 5.1 1mm 以下の炭白色粒 5mm 以下の炭白色粒 2mm 以下の浅黄橙色粒を 2mm 以下の炭白色粒 4mm 以下の淡黄色粒 51.1 2mm 以下の炭白色丸 15.1 2mm 以下の灰白色丸 1mm 以下の灰白色丸	2、3mm以下の黒色粒を多く含むずかに含む。 立、褐灰色粒を少し含む。 立を多く含む 灰白色粒を多く含む 日色粒を含含む 日色粒を含さ。 東色粒を多く含む 黒色粒を多く含む 黒色粒を多く含む まさる。 微細な黒色と透明光沢色粒を少量含む n以下の黒色粒を含さる機能な光沢粒を含むきめ幅が、動土立をわずかに含む。 に浅黄橙色のマーブル状を呈する。山土からく含み、2mm以下の黒色粒をわずかに含む。山土かい以下の灰白色粒、1mm以下の炭色粒をわずがに含む。山土かい以下の灰白色粒、1mm以下の炭色粒をわずがに含む。山土かいなで含み、2mm以下の、土がで含み、2mm以下の、土がで含み、2mm以下の、土がで含み、2mm以下の、土土がで含む。山土かいなどでよりが、3mm以下の、土土ができむ。 山土かむを多く含む。 田土かなもずが含む。 田土かなもずが含む。 田土かなもずが、3mm以下の黒褐色、灰白色粒を含む。 田土かなもずが、3mm以下の黒褐色、灰白色粒を含む。 田土かなもずが、3mm以下の黒褐色、灰白色粒を含む。 田土かくわずが、3mm以下の黒褐色、灰白色粒を含む。 田土かなり、3mm以下の黒褐色、灰白色粒を含む。 田土かくめずが、3mm以下の黒褐色、灰白色粒を含む。 田土か	極暗赤褐 灰褐/黒褐 灰褐/にぶい黄 褐灰/灰 灰養褐 にぶい赤褐 暗赤褐/灰赤 褐灰 灰赤/暗赤灰 明赤褐 黒褐/にぶい褐 開赤褐/にぶい褐 黒木(にぶい褐 黒木(にぶい褐 黒木(にがい赤褐) 赤が、一端赤板/暗赤板/暗赤板/暗赤板/暗赤板/暗赤板/暗赤板/暗赤板/暗赤板/ 横/灰板/暗赤板/暗赤板/ 横/灰板 明赤褐	外面口縁に縦位の沈線あり スリメ単位 8 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 15 本以上交差スリメ スリメ単位 6 本以上 スリメ単位 10 本交差スリメ スリメ単位 10 本交差スリメ スリメ単位 7 本 スリメ単位 6 本 スリメ単位 6 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 9 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 8 本以上交差スリメ スリメ単位 10 本以上交差スリメ	# 2 回 2 国 + 谷 2 四 2 世
384 385 386 387 388 390 391 392 393 394 400 401 402 403 404 405 406 407 408	### SG1-2 表土 一日 1	擂鉢 V A 擂鉢 V A 擂鉢 V A 擂鉢 V B 擂鉢 V B 擂鉢 V B 擂鉢 IV B 擂 V A 擂 V B 擂 V B 擂 V B 擂 V B 擂 V B 雷 V B 雷 V B 雷 V B 雷 V B 電 X B 日 X B 日 X B 日 X B 日 X B 日 X B 日 X B 日 X B <td>□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □</td> <td>30 30 30 2.5 31.0 30.6 32 3.2 30.4 3.5 34.4</td> <td>5mm 以下の灰白色粒 機細な透明の粒をわ 4mm 以下の灰白色柱 5mm 以下の灰白色柱 5mm 以下の灰白色柱 6mm 以下の次白色粒を 3mm 以下の灰白色粒を 3mm 以下の灰白色粒を 3mm 以下の灰白色粒を 11.8 2mm 以下の灰白色粒を 5mm 以下の灰白色粒を 5mm 以下の淡黄色粒を 5mm 以下の浅黄橙を含 15.1 1mm 以下の淡黄色粒を 15.1 2mm 以下の淡黄色粒を 15.1 2mm 以下の淡黄色粒を 15.1 2mm 以下の淡黄色粒 15.1 2mm 以下の淡黄色粒 10.4 2mm 以下の淡黄色粒 10.4 1mm 以下の灰白色粒 1mm 以下の灰白色粒</td> <td>2、3mm以下の黒色粒を多く含むずかに含む。 立、褐灰色粒を少し含む。 立を多く含む 灰白色粒を多く含む 日色粒、橙色粒、黒褐色粒を少し含む。 立を含む。 現色粒を含む。</td> <td>極暗赤褐 灰褐/黒褐 灰褐/原 灰褐/原 灰樹/にぶい赤褐 電赤褐/灰赤 褐灰 灰赤/暗赤灰 赤 飛褐/にぶい端 黒褐/にぶい端 黒にぶ近れば、 黒にぶ近れば、 大塚 大塚 大塚 大塚 大塚 大塚 大塚 大塚 大塚 大塚</td> <td>外面口縁に縦位の沈線あり スリメ単位 8 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 15 本以上交差スリメ スリメ単位 16 本以上 スリメ単位 10 本交差スリメ スリメ単位 10 本交差スリメ スリメ単位 7 本 スリメ単位 6 本 スリメ単位 6 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 9 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 8 本以上交差スリメ スリメ単位 10 本以上交差スリメ スリメ単位 10 本以上交差スリメ</td> <td># 2 回 3 2 国 + 後 2 回 2 記 2 回 1 7 7 9 0 日 1 1 1 K d 刊 下 谷 2 G 1 ~ 4 層 + 谷 2 か 7 7 A 2 P 2 3 + 対 A 2 A 層 回 1 7 5 1</td>	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	30 30 30 2.5 31.0 30.6 32 3.2 30.4 3.5 34.4	5mm 以下の灰白色粒 機細な透明の粒をわ 4mm 以下の灰白色柱 5mm 以下の灰白色柱 5mm 以下の灰白色柱 6mm 以下の次白色粒を 3mm 以下の灰白色粒を 3mm 以下の灰白色粒を 3mm 以下の灰白色粒を 11.8 2mm 以下の灰白色粒を 5mm 以下の灰白色粒を 5mm 以下の淡黄色粒を 5mm 以下の浅黄橙を含 15.1 1mm 以下の淡黄色粒を 15.1 2mm 以下の淡黄色粒を 15.1 2mm 以下の淡黄色粒を 15.1 2mm 以下の淡黄色粒 15.1 2mm 以下の淡黄色粒 10.4 2mm 以下の淡黄色粒 10.4 1mm 以下の灰白色粒 1mm 以下の灰白色粒	2、3mm以下の黒色粒を多く含むずかに含む。 立、褐灰色粒を少し含む。 立を多く含む 灰白色粒を多く含む 日色粒、橙色粒、黒褐色粒を少し含む。 立を含む。 現色粒を含む。	極暗赤褐 灰褐/黒褐 灰褐/原 灰褐/原 灰樹/にぶい赤褐 電赤褐/灰赤 褐灰 灰赤/暗赤灰 赤 飛褐/にぶい端 黒褐/にぶい端 黒にぶ近れば、 黒にぶ近れば、 大塚 大塚 大塚 大塚 大塚 大塚 大塚 大塚 大塚 大塚	外面口縁に縦位の沈線あり スリメ単位 8 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 15 本以上交差スリメ スリメ単位 16 本以上 スリメ単位 10 本交差スリメ スリメ単位 10 本交差スリメ スリメ単位 7 本 スリメ単位 6 本 スリメ単位 6 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 9 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 8 本以上交差スリメ スリメ単位 10 本以上交差スリメ スリメ単位 10 本以上交差スリメ	# 2 回 3 2 国 + 後 2 回 2 記 2 回 1 7 7 9 0 日 1 1 1 K d 刊 下 谷 2 G 1 ~ 4 層 + 谷 2 か 7 7 A 2 P 2 3 + 対 A 2 A 層 回 1 7 5 1
384 385 386 387 388 390 391 392 393 394 400 401 402 403 404 405 406 407 408	SG1-2 表土 出版 K 水表土・造成土 堀 A 3 田 D 1	擂鉢 V A 擂鉢 V A 擂鉢 V B 擂鉢 V B 擂鉢 V B 擂鉢 V B 擂鉢 IV B 擂 V A 擂 V B 擂 V B 擂 V B 擂 V B 擂 V B 雷 V B 雷 V B 雷 V B 雷 V B 雷 X B 日 X B 日 X B 日 X B 日 X B 日 X B 日 X B 日 X B <td>□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □</td> <td>30 30 30 2.5 31.0 30.6 32 3.2 30.4 3.5 34.4</td> <td>5mm 以下の灰白色粒 機細な透明の粒をわ 5mm 以下の灰白色柱 5mm 以下の灰白色柱 5mm 以下の灰白色柱 7mm 以下の灰白色粒。 7mm 以下の灰白色粒。 8mm 以下の灰白色粒。 11.8 2mm 以下の灰白色粒。 11.8 2mm 以下の灰白色粒。 11.8 2mm 以下の灰白色粒。 11.8 2mm 以下の灰白色粒。 11.7 2 1mm 以下の灰白色粒。 15.1 2mm 以下の淡黄色粒多 2mm 以下の淡黄色粒多 15.1 2mm 以下の淡黄色粒多 15.1 2mm 以下の淡黄色粒多 15.1 2mm 以下の淡黄色粒 15.1 2mm 以下の灰白色柱 10.4 2mm 以下の灰白色柱 10.4 1mm 以下の灰白色柱 10mm 以下の灰白色柱</td> <td>は、3mm以下の黒色粒を多く含むずかに含む。 立、褐灰色粒を少し含む。 立、褐灰色粒を少し含む。 立を多く含む 灰白色粒を多く含む は色粒、 異褐色粒を少し含む。 灰色粒を含む。 大田色粒を含む。 大田色粒を含む。 大田色粒を含む。 大田色粒を含む。 大田色粒を含む。 大田色粒を含む。 大田色粒を含む。 大田色粒を含む。 大田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田</td> <td>極暗赤褐 灰褐/黒褐 灰褐/にぶい黄 褐灰/灰 灰黄褐 にぶい赤/灰赤 褐灰/灰 橋灰/灰赤 褐灰赤/暗赤灰 赤塚 明赤褐/にぶい湯褐 黒 黒 にぶい褐/木木 ボボス 横石/ボボボス 横石/ボボボボボボボボボボボボボボボボボボボボボボボボボボボボボボボボボボボボ</td> <td>外面口縁に縦位の沈線あり スリメ単位 8 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 15 本以上交差スリメ スリメ単位 16 本以上 スリメ単位 10 本交差スリメ スリメ単位 10 本交差スリメ スリメ単位 7 本 スリメ単位 6 本 スリメ単位 6 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 9 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 8 本以上交差スリメ スリメ単位 10 本以上交差スリメ スリメ単位 10 本以上交差スリメ</td> <td># 2 回 2 国 + 谷 2 四 2 世 1 日</td>	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	30 30 30 2.5 31.0 30.6 32 3.2 30.4 3.5 34.4	5mm 以下の灰白色粒 機細な透明の粒をわ 5mm 以下の灰白色柱 5mm 以下の灰白色柱 5mm 以下の灰白色柱 7mm 以下の灰白色粒。 7mm 以下の灰白色粒。 8mm 以下の灰白色粒。 11.8 2mm 以下の灰白色粒。 11.8 2mm 以下の灰白色粒。 11.8 2mm 以下の灰白色粒。 11.8 2mm 以下の灰白色粒。 11.7 2 1mm 以下の灰白色粒。 15.1 2mm 以下の淡黄色粒多 2mm 以下の淡黄色粒多 15.1 2mm 以下の淡黄色粒多 15.1 2mm 以下の淡黄色粒多 15.1 2mm 以下の淡黄色粒 15.1 2mm 以下の灰白色柱 10.4 2mm 以下の灰白色柱 10.4 1mm 以下の灰白色柱 10mm 以下の灰白色柱	は、3mm以下の黒色粒を多く含むずかに含む。 立、褐灰色粒を少し含む。 立、褐灰色粒を少し含む。 立を多く含む 灰白色粒を多く含む は色粒、 異褐色粒を少し含む。 灰色粒を含む。 大田色粒を含む。 大田色粒を含む。 大田色粒を含む。 大田色粒を含む。 大田色粒を含む。 大田色粒を含む。 大田色粒を含む。 大田色粒を含む。 大田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田	極暗赤褐 灰褐/黒褐 灰褐/にぶい黄 褐灰/灰 灰黄褐 にぶい赤/灰赤 褐灰/灰 橋灰/灰赤 褐灰赤/暗赤灰 赤塚 明赤褐/にぶい湯褐 黒 黒 にぶい褐/木木 ボボス 横石/ボボボス 横石/ボボボボボボボボボボボボボボボボボボボボボボボボボボボボボボボボボボボボ	外面口縁に縦位の沈線あり スリメ単位 8 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 15 本以上交差スリメ スリメ単位 16 本以上 スリメ単位 10 本交差スリメ スリメ単位 10 本交差スリメ スリメ単位 7 本 スリメ単位 6 本 スリメ単位 6 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 9 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 8 本以上交差スリメ スリメ単位 10 本以上交差スリメ スリメ単位 10 本以上交差スリメ	# 2 回 2 国 + 谷 2 四 2 世 1 日
384 385 386 387 388 399 391 392 393 394 395 396 397 400 401 402 403 404 405 406 407 408 409 410 411	SG1-2 表土 出版 K 水表土・造成土 堀 A 3 田 D 1	擂鉢 V A 擂鉢 V A 擂鉢 V B 雪 V B 雪 V B 雪 V B 雪 X B 雪 X B 雪 X B 雪 X B 雪 X B 雪 X B 3 X B 4 B B<	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	30 30 30 2.5 31.0 30.6 32 3.2 30.4 3.5 34.4	5mm 以下の灰白色粒 機細な透明の粒をわ 5mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色粒、褐 機細な灰白色粒、褐 2mm 以下の灰白色粒。5mm 17.2 1mm 以下の灰白色粒。5mm 17.2 1mm 以下の灰白色粒。5mm 17.2 1mm 以下の灰白色粒。5mm 17.2 1mm 以下の灰白色粒を11.8 2mm 以下の灰白色粒を11.8 2mm 以下の灰白色粒を11.7 1mm 以下の淡黄色粒を12mm 以下の淡黄色粒を12mm 以下の淡黄色粒を10.4 2mm 以下の灰白色、2mm 以下の灰白色、10mm 以下の灰白色。10mm 以下の灰白色料 1mm 以下の灰白色料 2mm 以下の灰白色、 2mm 以下の外白色、 2mm 以叶の外白色、 2mm 以叶の外白色、 2mm 以叶の外白	は、3mm以下の黒色粒を多く含むずかに含む。 立、褐灰色粒を少し含む。 立、褐灰色粒を少し含む。 立を多く含む 灰白色粒を多く含む は色粒、 機色粒、 黒褐色粒を少し含む。 灰色粒を含む。 東色粒を含む。 東色粒を含む。 まを含む。 なを含む。 のないでは、	極暗赤褐 灰褐/黒褐 灰褐/にぶい黄 褐灰/灰 灰黄褐 にぶい赤/灰赤 褐灰/灰 橋灰/灰赤 褐灰赤/暗赤灰 赤塚 明赤褐/にぶい湯褐 黒 黒 にぶい褐/木木 ボボス 横石/ボボボス 横石/ボボボボボボボボボボボボボボボボボボボボボボボボボボボボボボボボボボボボ	外面口縁に縦位の沈線あり スリメ単位 8 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 15 本以上交差スリメ スリメ単位 16 本以上 スリメ単位 10 本交差スリメ スリメ単位 10 本交差スリメ スリメ単位 7 本 スリメ単位 6 本 スリメ単位 6 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 9 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 8 本以上交差スリメ スリメ単位 10 本以上交差スリメ スリメ単位 10 本以上交差スリメ	# 2 回 2 理 + 2 正 2 正 2 回 2 回 1 回 1 回 1 回 1 回 1 回 1 回 1 回 1 回
384 385 386 387 388 390 391 392 393 394 400 401 402 403 404 405 406 407 408 409 410 411 411	SG1-2 表土 出版 K 水表土・造成土 堀 A 3 田 D 2 SG1-3 石積表込め 田 田 田 田 田 田 田 田 田	擂鉢 V A 擂鉢 V A 擂鉢 V B 擂鉢 V B 擂鉢 V B 擂鉢 V B 擂鉢 IV B 擂鉢 IV B 擂鉢 IV B 擂鉢 IV B 擂 V B 擂 V B 擂 V B 擂 V B 環 III B 裏 III B 裏 III B	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	30 30 30 2.5 31.0 30.6 32 3.2 30.4 3.5 34.4	5mm 以下の灰白色料 微細な透明の粒をわ 4mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色料 2mm 以下の淡黄色色 3mm 以下の灰白色丸 11.8 2mm 以下の灰白色丸 5mm 以下の灰白色丸 5mm 以下の灰白色粒 5mm 以下の灰白色粒 5mm 以下の炭白色粒 2mm 以下の炭白色粒 2mm 以下の灰白色粒 2mm 以下の灰白色丸 15.1 2mm 以下の灰白色丸 10.4 2mm 以下の灰白色丸 10.4 2mm 以下の灰白色丸 1mm 以下の灰白色丸 2mm 以下のケ白色丸 2mm 以下の大白色丸 2mm 以上 2mm 以下の大白色丸 2mm 以下の大白色丸 2mm 以上 2mm 以上 2mm 以下の大白色丸 2mm 以上 2mm 以下の上 2mm 以上 2mm 以上 2mm 以上 2mm 以上 2mm 以上 2mm 以上 2mm	は、3mm以下の黒色粒を多く含むずかに含む。 立、褐灰色粒を少し含む。 立、褐灰色粒を少し含む。 立を多く含む 灰白色粒を多く含む は色粒、 機色粒、 黒褐色粒を少し含む。 灰色粒を含む。 果色粒を多く含む 多く含む、 微細な黒色と透明光沢色粒を少量含む。	極暗赤褐 灰褐/黒褐 灰褐/にぶい黄 褐灰/灰 灰樹/にぶい赤褐 にぶ赤褐/灰赤褐 褐灰/灰赤褐/灰赤褐 褐灰 赤塚/暗赤灰 明赤褐/にぶい湯 黒 はにぶい褐/黒褐 にぶい褐/黒褐/ にがあった。 一般で があった。 一般で がある。 でいる。 でい。 でいる	外面口縁に縦位の沈線あり スリメ単位 8 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 15 本以上交差スリメ スリメ単位 16 本以上 スリメ単位 10 本交差スリメ スリメ単位 10 本交差スリメ スリメ単位 7 本 スリメ単位 6 本 スリメ単位 6 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 9 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 8 本以上交差スリメ スリメ単位 10 本以上交差スリメ スリメ単位 10 本以上交差スリメ	# 2 # 3 2 # + 後 2 # 5
384 385 386 387 388 390 391 392 393 394 400 401 402 403 404 405 406 407 408 409 410 411 412 413	SG1-2 表土 B	擂鉢 V A 擂鉢 V A 擂鉢 V B 擂鉢 V B 擂鉢 V B 擂鉢 V B 擂 V B 擂 V B 擂 V B 擂 V B 電 V B 裏 III B 要 III B E <	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	30 30 30 2.5 31.0 30.6 32 3.2 30.4 3.5 34.4	5mm 以下の灰白色料 微細な透明の粒をわ 4mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色料 2mm 以下の淡角色料 3mm 以下の次白色丸 3mm 以下の灰白色丸 11.8 2mm 以下の灰白色丸 5mm 以下の灰白色丸 5mm 以下の灰白色粒を 5mm 以下の灰白色粒を 2mm 以下の灰白色粒を 2mm 以下の炭白色粒を 2mm 以下の灰白色粒 15.1 2mm 以下の灰白色粒 2mm 以下の灰白色丸 10.4 2mm 以下の灰白色丸 1mm 公m 0原丸 2mm 以下の灰白色丸 1mm 公m 0原丸 2mm 以下の灰白色丸 2mm 0床0灰白色丸 2mm 0km 0km 0km 0km 0km 0km 0km 0km 0km 0	は、3mm以下の黒色粒を多く含むずかに含む。 立、褐灰色粒を少し含む。 立、褐灰色粒を少し含む。 立を多く含む 灰白色粒を多く含む 灰白色粒を多く含む 現色粒を含む。	極暗赤褐 灰褐 / 黒褐 灰褐 / 黒褐 灰褐 / 黒褐 灰褐 / 灰 灰褐 / 灰 灰 灰 灰 灰 灰 灰 灰 木 木	外面口縁に縦位の沈線あり スリメ単位 8 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 15 本以上交差スリメ スリメ単位 16 本以上 スリメ単位 10 本交差スリメ スリメ単位 10 本交差スリメ スリメ単位 7 本 スリメ単位 6 本 スリメ単位 6 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 9 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 8 本以上交差スリメ スリメ単位 10 本以上交差スリメ スリメ単位 10 本以上交差スリメ	# 2 回 2 回 + 位 2 回 2 回 回 1 回 1 回 1 回 1 回 1 回 1 回 1 回 1
384 385 386 387 388 390 391 392 393 394 400 401 402 403 404 405 406 407 408 409 410 411 412 413 414	SG1-2 表土 出版 水表土・造成土 振	 描数 V A 描数 V A 描数 V A 描数 V B 插数 V B 振数 V B 证 B<!--</td--><td>□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □</td><td>30 30 30 2.5 31.0 30.6 32 3.2 30.4 3.5 34.4</td><td>5mm 以下の灰白色料 微細な透明の粒をわ 4mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色料 2mm 以下の淡黄色色 3mm 以下の灰白色丸 1mm 以下の灰白色丸 5mm 以下の灰白色丸 5mm 以下の灰白色丸 5mm 以下の灰白色粒 5mm 以下の灰白色粒 5mm 以下の炭白色粒 2mm 以下の炭白色粒 2mm 以下の灰白色丸 1mm 公 5mm の灰白色丸 25mm 以下の灰白色丸 25mm 以下の灰白色粒</td><td>は、3mm以下の黒色粒を多く含むずかに含む。 立、褐灰色粒を少し含む。 立、褐灰色粒を少し含む。 立を多く含む 灰白色粒を多く含む 灰白色粒を多く含む 水白色粒を含む。 生を含む。 水色粒を含む。 生を含む。 水色粒を含む。 水色粒をがかに含む。 水色粒をがかに含む。 水色粒をがかに含む。 水色粒をがかに含む。 水色粒を分がかに含む。 水色粒をかずかに含む。 水色ないがいに含む。 水色などのがいに含む。 水色などのがいに含む。 水色などのがいに含む。 水色などのがいに含む。 水色ないがいに含む。 水色ないがいに含む。 水色ないがいに含む。 水色ないがいに含む。 水色ないがいに含む。 水色ないがいた。 水色ないがいたがいた。 水色ないがいた。 水色ないがいた。 水色ないがいた。 水色ないがいた。 水色ないがいた。 水色ないがいた。 水色ないがいた。 水色ないがいた。 水色ないた。 水色ないたいた。 水色ないたいたいたいたいたいたいたいたいたいたいたいたいたいたいたいたいたいたいた</td><td>極暗赤褐 灰褐 / 黒褐 灰褐 / 黒褐 灰褐 / 黒褐 灰褐 / 灰 灰 灰 灰 灰 灰 灰 灰 灰 灰</td><td>外面口縁に縦位の沈線あり スリメ単位 8 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 15 本以上交差スリメ スリメ単位 16 本以上 スリメ単位 10 本交差スリメ スリメ単位 10 本交差スリメ スリメ単位 7 本 スリメ単位 6 本 スリメ単位 6 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 9 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 8 本以上交差スリメ スリメ単位 10 本以上交差スリメ スリメ単位 10 本以上交差スリメ</td><td># 2 回 2 回 + 位 2 回 2 回 回 1 回 1 回 1 回 1 回 1 回 1 回 1 回 1</td>	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	30 30 30 2.5 31.0 30.6 32 3.2 30.4 3.5 34.4	5mm 以下の灰白色料 微細な透明の粒をわ 4mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色料 5mm 以下の灰白色料 2mm 以下の淡黄色色 3mm 以下の灰白色丸 1mm 以下の灰白色丸 5mm 以下の灰白色丸 5mm 以下の灰白色丸 5mm 以下の灰白色粒 5mm 以下の灰白色粒 5mm 以下の炭白色粒 2mm 以下の炭白色粒 2mm 以下の灰白色丸 1mm 公 5mm の灰白色丸 25mm 以下の灰白色丸 25mm 以下の灰白色粒	は、3mm以下の黒色粒を多く含むずかに含む。 立、褐灰色粒を少し含む。 立、褐灰色粒を少し含む。 立を多く含む 灰白色粒を多く含む 灰白色粒を多く含む 水白色粒を含む。 生を含む。 水色粒を含む。 生を含む。 水色粒を含む。 水色粒をがかに含む。 水色粒をがかに含む。 水色粒をがかに含む。 水色粒をがかに含む。 水色粒を分がかに含む。 水色粒をかずかに含む。 水色ないがいに含む。 水色などのがいに含む。 水色などのがいに含む。 水色などのがいに含む。 水色などのがいに含む。 水色ないがいに含む。 水色ないがいに含む。 水色ないがいに含む。 水色ないがいに含む。 水色ないがいに含む。 水色ないがいた。 水色ないがいたがいた。 水色ないがいた。 水色ないがいた。 水色ないがいた。 水色ないがいた。 水色ないがいた。 水色ないがいた。 水色ないがいた。 水色ないがいた。 水色ないた。 水色ないたいた。 水色ないたいたいたいたいたいたいたいたいたいたいたいたいたいたいたいたいたいたいた	極暗赤褐 灰褐 / 黒褐 灰褐 / 黒褐 灰褐 / 黒褐 灰褐 / 灰 灰 灰 灰 灰 灰 灰 灰 灰 灰	外面口縁に縦位の沈線あり スリメ単位 8 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 15 本以上交差スリメ スリメ単位 16 本以上 スリメ単位 10 本交差スリメ スリメ単位 10 本交差スリメ スリメ単位 7 本 スリメ単位 6 本 スリメ単位 6 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 9 本 スリメ単位 8 本以上 スリメ単位 8 本以上交差スリメ スリメ単位 10 本以上交差スリメ スリメ単位 10 本以上交差スリメ	# 2 回 2 回 + 位 2 回 2 回 回 1 回 1 回 1 回 1 回 1 回 1 回 1 回 1

第25表-2 国産陶器(備前焼)観察表

掲載Nი	出土地点			上 つ [部位	法	量 (cm 口径	1)) ID03/ IC	備考		色調	備考	注記名
	曲 F1 旧 D2			口~頸		29.4		断面はマーブル状を呈する。	3mm 以下の灰白色粒をまばらに	合む。	明黄褐 / 灰赤		D2 応 5 + II層
417	SG1-2 造成土下層	標	IV A			35.0		5mm 以下の灰白色粒、黒色	地を含む。		灰裾 / にぶい黄榾 / 裾	自然釉	F 1 700 E 143 EF 1700 E 144 E
418	水窪 川区 下層	甕	IV B	口~頸		40.6		3mm 以下の灰白色粒を少量	<u></u> 計含む		暗赤褐		谷 2 SS2 II B8層
419	水 SS1 盛土中	甕	IV B	口~頸		49.2			含み、微細橙色粒を少量含む		黒褐/にぶい褐		谷 2 SS1-S2
420	水 表土・造成土	甕	IV B	口~頸		35.6		imm 以下の灰白色粒を多く含み微細		 を呈する	にぶい赤褐		谷2川層
421	水 表土・造成土	甕	IV B	口~頸		44.2			まばらに含む		暗赤褐		谷 2
422	水SF	甕	IV B	口~頸		34		Bmm 以下の灰色粒をまばら	に含む		暗赤灰 / 暗赤褐		谷 2 SF
423	水 SF 2 層	甕	IV B	口~頸		51.4		4mm 以下の灰白色粒を多く、	2mm 以下の暗赤褐色粒をわずかり	に含む	黒褐		谷 2 SP22 層
424	水 表土・造成土	甕	IV B	口~頸				5mm 以下の赤褐m灰白色料	立をわずかに含む		黒褐/褐灰		谷 2 E19 層
425	曲 A3 1層	甕	IV B	口~頸				3mm 以下の灰白色、赤褐色	色、極赤褐色粒をわずかに含む		灰白/にぶい赤褐		A3 II層
426	堀群 横	甕	IV B	口~頸		42.8		5mm 以下の灰白色、黒褐色	地を少量含む		褐灰		タテネリ B129 ~ 32 層
427	曲 F1 旧 D2	甕	IV B	口~体				5mm 以下の浅黄色粒を少し	、、1mm 以下の灰黄色粒を多く	く含む。	暗赤褐/浅黄褐/暗赤	自然釉	F 1 9加 II 層 +G2 a / J + F2 II 層 +D2 P 238
428	曲 F1 旧 D2	甕	IV B	口~頸							暗赤褐	自然釉	D2 70
429	曲 F1 SB13	甕	٧			36.4		lmm 以下の灰白色粒をごく	わずかに含む。		褐/灰黄褐	自然釉	D 2 P142-1 G 2 E7如 f 付 7層
430	SG2-2 8層	甕	٧	口~体		28.6		2mm 以下の黒褐色粒、1mr	m 以下の灰白色粒を多く含む。		暗赤褐 / にぶい赤褐	自然釉	P I 層 P ツウロ II 層 Q ツウロ 218
431	SG1-2 造成土下層	甕	V	口~頸				5mm 以下の赤褐色粒、2mr	m 以下の灰白色粒を含む。		暗赤褐 (5YR3/4)	自然釉	F 1 ツウロ レキ 3層
432	水 SS1 盛土中	壺	V	口~頸		16.2	i	微細な灰白色粒を多く含むきめ細かい	胎土。灰褐を灰褐で挟むサンドイッチ状を	注呈する	灰	自然釉	谷 2 89 層 -9
433	曲K	壺	V	П				1mm ~ 3mm の灰白色粒を	少し含む。		灰黄褐/灰	自然釉	K b 刊下
434	曲 F2 旧 E	壺	IV A	体				Imm 以下の灰白色粒を多く、	3mm 以下の褐灰色粒をわずかに	こ含む。	暗打-ブ/明黄褐 /暗赤褐/にぶい橙/黒褐	櫛描き条線(5条)	EII層
435	SG1-2 造成土下層	壺	IV B	体				lmm 以下の灰白色粒を多く	: 含む。			櫛描き条線(6条)	F 1 ツウロ E レキ3層
436	SG1-2 造成土下層	甕	IV B	頸~体				2mm 以下の暗赤褐色粒をま	にばらに含む。		にぶい赤褐/暗赤褐/暗赤灰	自然釉	F1 がSEI+D2がD E VF4層か +G2FI a川
437	水 SS1 盛土中	甕	V B	肩				4mm 以下の灰白色粒をわす	「かに含む。		緑黒 / 暗赤褐	自然釉、ヘラ記号	谷2 67層
438	曲 G SB1	甕	IV B	体				Bmm 以下の浅黄橙粒、1mm 以下	の黒色粒を含む。断面はマーブル状を	:呈する。	にぶい黄橙/褐	ヘラ記号、継目痕、内面に櫛状工具ナデ痕あり	G1 P18
439	SG1-2 造成土下層	甕	IV B	頸~体				1mm ∼ 5mm の灰白色粒、	黒褐色粒を多く含む。		にぶい黄橙/褐	自然釉。ヘラ記号、継目痕、内面に櫛状工具ナデ痕あり	F 1 770 E 143 M F 1770 E 144 M
440	SG2-2 埋土	四耳壺	IV B	頸~体				灰白色の粘土の固まり、3mm	以下の灰白色粒、にぶい黄橙粒	を含む。	黄灰/にぶい黄/灰黄褐	自然釉※ 441 と同一個体	Q 770 98
441	SG2-2 埋土	四耳壺	IV B	体				2mm 以下の灰白色粒を含む	J.,		にぶい黄橙 (10YR7/3)	※ 440 と同一個体	Q 770 211
442	曲J1 J1-74+P516	四耳壺	IV B	体			(0.5mm 以下の灰白色粒を多	く含む。		浅黄 / 暗褐	自然釉	L P74 + P516
443	SG2-2 埋土	四耳壺	IV B	体~底			17.5	1mm ∼ 7mm の灰白色粒、	黒褐色粒を多く含む。		褐灰/灰黄/にぶい黄褐/黄灰	内面は底部を含めハケ目痕、外面胴部に工具痕あり	Q1/t0 11 + 16 + 18 + 19 + 22 + 48 + 60 + 80
444	SG1-3 埋土	甕・壺	IV B	体~底			16.4	ómm 以下の浅黄色粒を少し	、、1mm 以下の灰白色粒を多く	く含む。	明赤褐 / 赤褐 / 極暗褐	外面工具ナデ、内面底部付近 \sim 底部にかけてロクロナデか	G2 E 790 bQ 790 117G2 E 790 b V\$
445	SG3 横断1層	甕・壺	IV B	体~底			17.2	8mm 以下の灰白色粒を少し	、、1mm 以下を多く含む。		赤程/赤黒/極幅赤褐/にぶい場/黒	外面櫛状工具による縦位の工具ナデ、内面横位の工具ナデ	V פֿלעי
446	曲 E2 SB3	甕	IV B	底				1mm ~ 10mm の灰白色粒	を多く含む。		にぶい赤褐/にぶい橙	外面櫛状工具による縦位の工具ナデ、内面横位の工具ナデ	D 1 P57
447	SG1-2 造成土下層	甕・壺	IV B	底			32.0	5mm 以下の灰白色粒を含む	ぶ。断面はマーブル状を呈する。	0	灰黄褐	内面底部付近~底部にかけてロクロナデか	F 1 770 E 143 H F 1770 E 144 H
448	SG2-2 埋土	甕・壺	V	体~底			26.0	3mm 以下の明赤褐色粒、2	mm 以下の灰白色粒、黒色粒を	を含む。	にぶい赤褐/にぶい褐	内面底部付近~底部にかけてロクロナデか	Q 770 4 + 14 + 6 + 217
449	SG2-2 埋土			体~底				2mm 以下の黒褐色粒を多く				溶着痕(底面)あり。内面底部付近~底部にかけてロクロナデか	
450	SG3 横断 1 層	水屋甕	Į V	口~体		29.0		5mm 以下の灰白色粒、橙色	地を含む。		にぶい赤褐/黒褐/灰褐	451 と同一個体	V 770
451		水屋甕		体				5mm 以下~微細な灰白色料			黒褐/灰褐	粘土紐装飾の裏に指頭痕あり(内面)	V 700
452		水屋甕		体~底				2mm 以下の灰白色粒、橙色				451 と同一個体	V 770
453	SG3 横断1層	徳利		頸					以下の灰白色粒、黒褐色粒をまばら	た含む。			V 770
454		徳利		体				lmm 以下の灰白色粒、黒色			暗赤 / 赤黒 / 灰赤		V 770
	水 SF 3 層	鳶口壺		口~胴		3.8		3mm 以下の灰白色、白色粒	なわずかに含む		にぶい橙/明赤褐		谷 2 SF18 層
456	水窪 川区 下層			口~底	8.45	4.2	5.05		- A HHA OH+ 0 - A -		黄灰/黒褐	糸切痕	谷 2 SS2 II A 14層
457		八 素口壺		胴~底					1色、黒褐色の粒を少量含む		にぶい赤褐	糸切痕	A2 II 層 + 村 A2B 層
458	南	小壺		体~底		10.0		Imm 以下の灰白色粒、赤褐		-M		糸切痕、十字の線刻(底面)	表採
459	水 SE2	壺	V	口~胴		10.6			白色粒を多く含む白色粒、透明色粒をわず; * GC 中央 数 を 3 く 余 ち	かに宝む		中本自然社 以本調がに対抗の独世まれば(六学)	谷 2 SE2
460	曲 H1 旧 G2 曲 F1 旧 D2	鉢		口~体		14.0 27.0		5mm 以下の褐色粒、微細な				内面自然釉。外面胴部に斜位の線描きあり(文様?)	D2 W /IJ
461		鉢		□~1本		14.7		微細な灰白色粒を少し含む。 Imm IV下の思想免粒を極わ			灰褐	重ね焼き痘(刈売)	V 1/4
	ш. н.		V			14./		Imm 以下の黒褐色粒を極れ				重ね焼き痕(外面)	
463	SG2-2 8層 SG2-2		V	口~体		12.4		微細な赤褐色粒、灰白色粒 Pmm 以下の赤褐色 微細な			暗赤褐 / 灰褐褐灰	自然釉	Q 770 最下層 Q 770
	当 K		V	把手		12.4		2mm 以下の赤褐色、微細な きめ細かい褐灰色の胎土	K八口 E型で さむ。		灰褐	日が作	K b II
403	ид г	华	V	1C+				この何かで特別との后工			I/\160		K D II

第24表 国産陶器(瀬戸・美濃焼)観察表

掲載	出土地点	器種	分類	部位	法	量 (cn	n)	胎土	釉調	— 備考	注記名
Νo	山土地無	位计里	刀块	마깐	器高	口径	底径	色調	色調	一	/100/10
466	水切岸1 4層	折縁深皿	中期Ⅲ	口~胴		27.4		浅黄	浅黄		谷 2 钊 1 4 層
467	曲 E1 旧 D1	水滴	中期	上部				にぶい黄橙	橙/にぶい黄褐	水鳥型の水滴	D1 II層
468	西谷 1層	緑釉小皿	大窯第1前	口~底	2.8	11.8		灰白	灰白	口縁付近にオレーブ色の灰釉。糸切底	AII層
469	曲 F1 旧 D2	緑釉小皿	大窯第1前	口~体		13.0		灰白	にぶい黄褐	口縁付近にオレーブ色の灰釉	D2 スミ
470	曲M 旧P	片口小瓶	後期IV古	口~頸		6.6		灰黄	黄灰	471 と同一個体か?	PII層
471	曲 H1 H1-P73	片口小瓶	後期IV古	底			4.5	灰白	灰白 / 褐灰	470 と同一個体か? 糸切底。中央にヘラ痕?あり	G2P73-1
472	曲 A4 2層	直縁大皿	後期IV古	口~胴		33.0		灰白	浅黄		A4 II -6
473	水 表土・造成土	直縁大皿	後期IV古	口~腰		34.0		淡黄	灰オリープ	底部付近露胎	谷244層-1
474	曲 E2 旧 F1	折縁深皿	後期IV	体~底			14.6	灰白	にぶい黄橙	内面灰釉あり	F1S2 +G 2 a
475	水 SE2 上層	四耳壺	後期IV古	口~頸		12.4		灰白	灰白	口縁が垂下した端部に工具痕あり	谷 2 SE 2 上層
476	堀群 横	四耳壺	後期	肩~胴				灰白	灰白		谷 3 T5 II 層
477	水 表土・造成土	卸皿	後期IV新	胴~底			5.2	浅黄橙	緑	底部糸切り、滑らかに磨耗している	谷 2 112層-54
478	水 表土・造成土	天目碗	大窯第2後	胴〜腰				浅黄橙	暗褐/黒	下地の鉄釉薬を施釉後、黒釉を施釉	谷2II層
479	水SS1 初1 11層	天目碗	大窯第3前	口~胴		11.5		灰白	暗褐/黒	覆輪に鉄釉を重ね掛け	谷 2 刺 11 層
480	曲 F1 旧 D2	天目碗	大窯第1後	口~体				灰白	にぶい黄褐	口縁付近灰釉	D21 層
481	水 SF 6 層下層	丸皿	大窯第2後	底			5.0	灰白	淡黄	見込に印花文。高台内に溶着痕。	谷 2 SF 石沖 1
482	水 SB5	香炉	大窯第3後~第4前半	口~底	5.8	7.1	5.1	灰白	明黄褐/にぶい橙	聞香炉、底部糸切り	谷 2 10 層 -57

第 27 表 国産陶器 (常滑焼)観察表

掲載		上地点	器種	分類	部位		に に に に に に に に に に に に に に に に に に に	n)	胎土	湘湖	- 備考	注記名
N o	о ш-	LEEM	台灣生	刀規	마까	器高	口径	底径	色調	色調	- 湘与	/IBU-0
48	3 曲 D2	旧C	雞	6b 型式					にぶい褐	にぶい黄褐/黒褐/黒	常滑焼の模倣。6b型式 14 c中葉。自然釉がかかる	C2 /リ II層
48	4 SG1-2	耕作土	甕	10 型式	口~体				灰黄	暗赤灰 / 赤褐	10 型式 15c 後半。自然釉がかかる	F1 3 層 21+F1 ツウロ II 層
48	5 曲 F1	旧D2	甕・壺		頸~体				にぶい褐	褐/にぶい黄橙/にぶい赤褐		D2 W /リ+D2 W 入口
48	5 曲 F1	旧D2	甕		体				にぶい橙	にぶい黄褐/黒褐	外面縦位の櫛状工具痕あり	D2 /リ レキ +D2 E /リ II層 +D2 II層

第 28 表 近世磁器観察表

掲載 No.	出土	地点	種類	器種	部位		量 (c 口径		胎土色調	利 色調 (外面)	曲調 釉剥ぎ	文様	産地	分類 編年	. 備考	注記名
487	ЩM	旧P	青磁染付	碗	口~底	7.0	11.0	4.2	灰白	明緑灰		見込みに花文	肥前	1 -2	口縁内面から外側は青磁釉、内面は透明釉を施釉。高台露胎	P II 12 + Q II下+ P II
488	曲D	⊩A	染付	朝顔型碗	П		10.0		灰白	明緑灰		口縁外面に雷文	肥前	III		A II
489	西谷	2層	白磁	朝顔型碗	口~底	6.0	12.2	5.2	灰白	灰白	畳付		肥前	III	釉ムラあり	谷1 層
490	西谷	1層	染付	くらわんか碗	口~底	5.4	11.4	4.6	灰白	灰白	見込み蛇の目畳付	外面に手描き文	肥前	IV	重ね焼きの痕跡残る	AA Tr
491	西谷	4層	染付	くらわんか碗	口~底	4.9	10.5	4.1	灰白	灰白	見込み蛇の目畳付	外面にコンニャク印判菊花文を3つ	肥前	IV		谷14層
492	西谷	2層	染付	くらわんか碗	口~底	4.9	9.9	3.8	灰白	灰白	畳付	外面に雪輪草花文	肥前	IV	素地が部分的に赤色化、内面フリモノあり	谷12層
493	西谷	1層	染付	くらわんか碗	口~底	5.0	9.4	3.4	灰白	灰白	畳付	内面全体に菊花文 外面に二重網目文	肥前	IV		谷1
494	西谷	2層	染付	くらわんか碗	口~底	3.6	7.2	7.2	灰白	灰白	畳付	口縁部外面に粗略な笹文	肥前	IV	呉須の発色悪く、黒い	谷12層
495	西谷	2層	染付	碗	口~底	5.3	10.4	3.6	灰白	灰白	畳付	口縁外面に連続した扇文	肥前	IV		谷1 層
496	西谷		青磁染付	蓋	つまみ~口	3.2	8.8	3.6 (つまみ)	灰白	灰白	つまみ端部	口縁部内面に四方襷文、 内面中央にコンニャク印判五弁花文	肥前	IV	内面・高台内に染付釉、外面に青磁釉を施釉	谷1
497	曲 J1	旧L	青磁染付	朝顔型碗	口~胴				灰白	明オリーブ灰		口縁内面に四方襷文	肥前	IV	内面に染付釉、外面に青磁釉を施釉	L II
498	SG2-2	2	染付	蓋	口~胴		9.8		灰白	灰白		外面に山水文	肥前	V		Q II + Q 770
499	西谷	1層	染付	広東碗	胴~底			6.4	灰白	灰白	畳付	外面に山水文 見込みにもあり	肥前	V	498 と同一文様	AA Tr
500	西谷	1層	染付	広東碗	胴~底			6.0	灰白	灰白	畳付	外面・見込みにあり	肥前	V		AA T r + AA #95
501	ЩM	SX1	染付	小杯	口~底	5.0	7.2	3.3	灰白	灰白	畳付	外面にコンニャク印判松文を押す	肥前	IV		PSX 1 3層 1
502	曲 F1	SB17	白磁	小坏	口~胴				灰白	灰白	見込み蛇の目		肥前	V		D2 P260
503	曲M	SX1	染付	五寸皿	口~底	2.6	12.8	7.2	灰白	灰白	畳付	見込みにコンニャク印判五弁花文、 内面に草花文、外面に唐草文を描く	肥前	IV	二次的に被熱、フリモノ多し、器厚薄い	PSX 1 2 層 3 + P SX 1 2 層 2
504	西谷	2層	染付	五寸皿	口~底	3.8	12.8	7.4	灰白	灰白	畳付	内面に草花文、外面に唐草文、 見込みにコンニャク印判五弁花文、高台内に渦「福」	肥前	IV		谷1 II層+谷12T-1
505	西谷	2層	染付	五寸皿	口~底	3.7	12.4	7.0	灰白	灰白	畳付	内面に草花文、外面に唐草文、 見込みにコンニャク印判五弁花文、高台内に渦「福」	肥前	IV		谷1 2層
506	西谷	2層	染付	五寸皿	口~底	3.5	13.4	7.6	灰白	明緑灰	畳付	内面に矢羽根文、外面に唐草文、 見込みにコンニャク印判五弁花文、高台内に文字、やや粗略	肥前	IV	外面の呉須の発色悪く緑色	谷1 層、谷14層
507	西谷	2層	染付	五寸皿	口~底	4.4	13.2	7.2	灰白	灰白	畳付	内面に松竹梅、外面に唐草文、 見込みにコンニャク印判五弁花文、高台内に涓「福」、内外面とも相雑	肥前	IV	呉須の発色悪く、緑色 <u>畳付・高台内に離れ砂熔着</u>	谷1 層
508	西谷	2層	染付	五寸皿	口~底	3.9	12.7	6.8	灰白	灰白	畳付	内面に松竹梅、外面に唐草文、 見込みにコンニャク印判五弁花文、高台内に涓「福」、内外面とも相雑	肥前	IV	呉須の発色悪い。二次的に被熱か	谷1川層
509	SG1-2 if	妣下層	染付	五寸皿	口~底	2.8	13.8	7.9	灰白	灰白	見込み蛇の目畳付	見込みにコンニャク印判五弁花文、内面に草花文	肥前	IV	呉須の発色悪く、緑色	F1 ツウロ E レキ 3 層
510	西谷	2層	染付	手塩皿	口~底	2.5	9.4	5.4	灰白	灰白	畳付	内外面に粗略な唐草文見込みにコンニャク印判五弁花文	肥前	IV	呉須の発色悪く、黒い	谷1 層
511	西谷	2層	染付	七寸皿	口~底	4.9	21.6	11.8	灰白	灰白	畳付	内面に松竹梅?外面に唐草文	肥前	IV	呉須の発色悪く、黒い。二次的に被熱か	谷1 層
512		1層		▥	口~底	3.5	12.8	8.0	灰白	灰白	見込み蛇の目	内面に粗略な文様あり	肥前	V	蛇の目凹形高台。見込蛇の目釉剥ぎ後、アルミナ塗布	A4 I層-1
513	SG2-2	8層	染付	▥	口~底	4.1	14.5	8.0	灰白	灰白	高台内	見込みに山水家屋	肥前	V	口縁口紅装飾、蛇の目凹高台	F2 II+L計T3 II+Qが04+Qが05+H中山
514	西谷	2層	染付		口~底	5.2	29.0	18.1	灰白	灰白	畳付	内面に柳・人物	肥前	V	型押し成形による輪花皿、口縁端部に鉄釉を施釉、高台内にハリ支えによる目跡	谷1 層
515	曲G	旧 G1	染付	Ш	口~胴				灰白	明緑灰		口縁に波濤文	肥前	V	大型製品、型打ち成形による方形の鍔皿	G1
516	西谷	2層	染付	瓶	胴~底			3.8	灰白	明オリーブ灰		草文	肥前	V	外面全面施釉、畳付砂付着	谷1 II層+AA /リ
517	曲 F3	IE F2	染付	瓶	肩~底			4.2	灰白	灰白		蛸唐草文	肥前	V	外面全面施釉か、畳付砂付着	F2 II + L /IJ + N + D2
518	曲 J1	旧L	染付	瓶	胴~底			7.2	灰白	灰白	畳付		肥前		玉壺春形、素地の影響により全体に灰色である、呉須は薄く水色	L 1+L 2+L 4+L/
519	SG2-2	横断1層	染付	仏飯器	胴~底			4.0	灰白	灰白			肥前		呉須の発色悪い	V פליני
520	西谷	1層	青磁	仏花瓶	口~胴		8.7		灰白	灰白	内面		肥前	V	盤口形であり両肩部に装飾が付く。内面が赤色化	谷1
522	曲K		白磁	紅皿	口~底	4.8	1.4	1.2	灰白	灰白			肥前	V	貝殻状に内面を型打ち成形。口縁上面は平坦	K II
523	ЩM	IEΡ	染付	水滴?	胴				灰白	灰白		草文	肥前		角瓶の可能性もあり	PI

第29表-1 近世陶器観察表

掲載		106 =	00.65	÷9.44	ž	法量 (cm	1)	胎土	釉	調			分類		W=7.6
No.	出日	上地点	器種	部位	器高	口径	高台径	色調	色調 (外面)	釉剥ぎ	- 文様	産地	編年	備考	注記名
524	шM	I日 P	碗	口~胴	5.0	10.0	4.0	淡黄	にぶい黄橙		見込みに山水文 高台内に「清水」の印銘	肥前唐津	Ш	京焼風陶器Ⅱ類、貫入あり、高台断面方形	P S6
525	SG2-2	横断1層	碗	胴~底			4.5	淡黄	浅黄	畳付		肥前唐津	IV	灰釉碗、高台内はアーチ状	V "/00
526	西谷	2層	碗	胴~底			4.3	灰黄	黄褐	畳付		肥前唐津	IV	灰釉碗、高台内はアーチ状	谷1 2層
527	曲 E2	I⊟ F1	Ш	胴~底			4.5		オリーブ褐			肥前唐津	1-1	灰釉を施釉、胎土は鉱物粒多く、スが入る、貫入あり、削り出し、高台(兜巾状)	F1 N1-19 II
528	SG1-2 3	造成土下層	皿	口~底	3.7	12.6	4.8	にぶい黄橙	にぶい黄橙 オリーブ黄			肥前唐津	1 -2	灰釉を施釉、畳付に胎土目の痕跡 (4ヵ所)、貫入あり、兜巾状高台。底部露胎	F1 991 E 144層+ D1 S II 991
529	SG2-2	中央	Ш	胴~底			4.8	明黄褐	灰黄			肥前唐津	1 -2	藁灰釉を施釉、見込みに胎土目の痕跡2か所、胎土はやや赤褐色、削り出し高台	Q 770 SE
530	曲G	2層	Ш					灰黄	黄灰		鉄絵、内面に鉄釉を用いて植物を描く	肥前唐津	1 -2	透明釉を施釉	G1 II
531	SG1-2 3	造成土下層	Ш	胴~底			4.8	淡黄	褐	見込み蛇の目畳付		肥前内野山	III		F1 ツウロ E レキ3層
532	SG1-2 }	造成土下層	ш	胴~底			5.0	淡黄	明青灰 灰オリーブ	見込み蛇の目		肥前内野山	III	銅緑釉を施釉、見込み3か所及び畳付4か所に砂目の痕跡	F1 ツウロ E レキ4層
533	SG1-2 3	造成土下層	鉢	口~胴				黄灰	浅黄		刷毛目二彩唐津	肥前唐津	IV	灰釉を施釉	F1 ツウロ E レキ3層
534	曲KS	SD5	鉢	口~胴				黒褐	灰黄褐		刷毛目二彩唐津	肥前唐津	IV	灰釉碗、鰐縁の鉢	K SC6 + SC6 SW
535	水表土	・造成土	鉢	口部		30.6		灰白	青緑色			肥前内野山	IV	口縁玉縁状	谷 2 10 層
536	曲 F3	旧F2	擂鉢	体				灰褐	暗褐 にぶい褐		口縁部に鉄釉	肥前唐津	Ш	工具によるスリメ8条、擂り目の端部は未処理	F2
537	曲 F3	旧F2	土瓶	注口				にぶい黄橙	緑			肥前内野山	ı	注口と胴部の接続部分には3つの孔を開ける、体部のやや上部に付くか?	F2 T6 II
538	SG2-1	表土	碗	П				淡黄	灰白		色絵による笹文	京都信楽	4新	京焼風	P "700
539	曲 F1	旧D2	小杉碗	胴~底			3.2	淡黄	灰白			京都信楽	4	透明釉、高台露胎	D2 I
540	SG1-2 3	造成土下層	碗	口~底	5.0	9.0	3.2	灰白	明オリーブ灰			京都信楽		端反碗。高台脇より露胎、やや緑色の透明釉を施釉	F1770 E 以 3層+4層

第29表-2 近世陶器観察表

掲載	出土地	h.E	器種	部位	ž	是 (cm))	胎土		釉調	-	₹様	産地	分别	備考	注記名
No.	шти	B.M.	伯奇任里	마까	器高	口径高	高台径	色調	色調(外面)	釉剥ぎ	_ ,	C/D/K	庄地	編年		/#80/40
541	西谷 2	層	碗	口~胴		8.1	I	灰白	灰白				京都信楽		端反碗。釉はガラス質	谷1川層
542	西谷 2	層	碗	口~底	5.2	8.9	3.4	こぶい黄橙	灰黄				京都信楽		端反碗。高台内露胎。灰釉を施釉後、口縁部に縁釉を	施釉 谷1 層
543	水切岸	1	片口	口~胴		16.2		灰白	淡黄	蓋受け部			瀬戸?	18c後	半蓋受け部は釉剥ぎ	谷 2 打 1
544	西谷 1	層	坏	底			3.4	こぶい黄橙	外:にぶい黄 内:灰白	登			萩	18c	藁灰釉を施釉。渦巻き高台。胴部下半より露胎	AA 1/75
545	曲 M IE	∃P	土瓶	底					赤褐 / 灰赤				薩摩		苗代川系か	P II + Q II
546	SG2-2 横l	新1層	向付	口~胴		13.6	1	褐灰	灰オリース	ř			京焼か	18 c	c 化粧土装飾後、透明釉を施釉。在地産の可能性もあり	. V تارُات

第 30 表 -1 土師器観察表

第	30 表	-1	土	. 即名	搭街	察表						
掲載 No.	出土地点	器		法	量(cm 底径	1)	調整・文様 内面	等 底面	- 胎土	色調	備考	注記名
547	曲 E2 SR	1 标	А	LIE	8.4	回転ナデ	工具による	回転ヘラ切り	1~3mmの赤褐色粒子を含む。一部浅黄	浅黄橙	縄状圧痕?	F1 P80
548	曲口旧		A		6.6	回転ナデ	螺旋状の沈線 工具による 棚佐場の沖線	回転ヘラ切り	<u>橙と赤褐色で薄い。マーブル状を呈する</u> 1 ~ 3mmの赤褐色粒子を含む。	浅黄橙	和八江 / ()	V
549	曲 F1 旧 D	2 坏	А		4.8	風化著しい	螺旋状の沈線 工具による	欠損のため不明瞭	1~3mmの赤褐色の粒子をまばらに含む。	. 褐灰 / にぶい褐		D2W入口
550	# E2 E2-P5			12.9	7.1	3.6 ロクロ目	螺旋状の沈線 ロクロ目、見込	回転ヘラ切り後	1 mm~ 4mmの赤褐色粒子, 1mm~ 3mmの黒			F1 P53
551		坏坏	В	12.9	8.0	回転ナデ	<u>みに一方向ナデ</u> ロクロ目あり		<u> 褐粒子を多く含む。きめ細かい胎土。</u>	493	内面に炭化物付着	B4 14
552	曲 B4 曲 K 盛 下		В		8.4	 回転ナデ	回転ナデの後、	回転ナデ	2mm以下の黒色の粒 1mma・2mmの未起色の粒スをまげたに含む	橙 津 芸 母	内国に灰化物的有	K DEJT
- 332					0.4		指ナデ	板状工具のよるナデ	1mm~ 3mmの赤褐色の粒子をまばらに含む。	/艾典恒		B3
553	曲 B3 3 R	坏	В		7.8	回転ナデ	ロクロ目あり		3mm 以下の明赤褐色の粒を含む	黄橙		3 層 谷 2 却
554	曲 E2 SR	1 坏	В	14.5	8.4	3.4 ロクロ目	回転ナデ	回転ナデ	1mm以下の赤褐の粒をわずかに含む。きめ細かい胎土。	橙	底部周縁の縄状の圧痕。	F1 P 80
555	曲 B2 ツウロ	坏	В	13.0		回転ナデ	ロクロ目あり		2mm 以下の赤褐色の粒を含む	にぶい種/にぶい黄橙		B2 スロープ層
556	曲口旧名	坏	В	12.4					1~3mmの赤褐色粒子をまばらに含む。 きめ細かい胎土	浅黄橙	内外面の摩耗が激しい。 胎土が B 類に類似。	A 2
557	曲 E2 SR	1 🏛	C	9.4	7.1	1.6 回転ナデ	回転ナデ後、指 ナデ	回転へラ切り後 板状工具によるナデ	1mm~3mmの赤褐色粒子をまばらに含む きめ細かい胎土	橙	※底部内面、口縁部付近の内外面 にタールのような黒色付着物あり	F 1 P 80
558	SG3 横 17 J	g m	С		8.6	回転ナデか?	丁目に上る同転士	回転ヘラ切り	1mmリエの夫坦色の約ちまげにに合わる	橙	1-7 71 701 7 0 M C 13 E M C 7	V 7700 SE 17層
559	曲 E2 SR	1 🎹	С		8.8	 回転ナデ?	工具による回転	回転へラ切り痕	1mm以下の赤褐色の粒をまばらに含むき	にぶい橙		F 1 P 80
560	# F1 I⊟ D			8.2	6.8	1.0 回転ナデ	<u>ナデ?</u> 風化著しい	<u>工具の圧痕あり</u> ヘラ切り	<u>め細かい胎土</u> 1mm以下の赤褐色がわずかにみられるき		口縁部、摩滅しているか?	D 2 XE
561	堀群 横		С	0.2	9.0	ナデ	ロクロ目あり	<u>板状工具によるナデ</u> ヘラ切り	め細かい胎土 精良	にぶい黄橙 / にぶい橙	口歌即, 净	谷 3 T5
562	水窪 川区 中7				9.2		ロクロ目	回転ナデ	1 mm以下の黒色の粒をわずかに含む	にぶい橙		谷 2 SS2 中下層
563	堀 A3	ш	C		5.4	 回転ナデ	ロクロ目あり		1mm 以下の灰色の粒をわずかに含む	橙/黄橙		刺 A2 B 層
564	曲 B1 1層					回転ナデ	ロクロ目あり	不明	3mm 以下の明赤褐の粒を含む	外面:浅黄橙		B1 2 層
565	曲 B1 1層				7.0	 回転ナデ	ロクロ目あり	1.73	2mm 以下の明赤褐の粒を含む	内面:橙 外面:浅黄橙		B1 2 層
										内面:浅黄橙 外面:にぶい橙		
566	水窪 区 下		С		7.0	ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り後	微細な赤褐色粒を少し含む 1mm以下の灰白の粒を含む。きめ細かい	内面:にぶい黄橙		谷25S2 II B 8層
567	± Н3 Н3-Р	9 坏	D		6.2	回転ナデ	回転ナデ	板ナデ	胎土。	浅黄橙	底部周縁の縄状の圧痕。	1 P9
568	曲F3 旧F	2 坏	D		6.0	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り	1mm~ 2mmの黒褐色粒,微細な暗褐色粒をわずかに含むきめ細かい胎土。	浅黄橙	底部周縁部をナデ	F 23-1
569	曲F1 F1-P10	7 坏	D		6.4	回転ナデ	摩滅が激しい	ヘラ切りの後ナデ調整	1mm~3mmの赤褐色粒子をわずかに含む。 きめ細かい胎土。	淡橙/にぶい橙		D 2 P 107-1
570	曲 B4	Ш	D		7.2	ナデ	ロクロ目	回転ヘラ切り	暗赤褐の粒を含む	橙		B4 10
571	曲 J1 SR	2 坏	D		7.6	不明	不明	ヘラ切り後板ナデ 螺旋状沈線	1mmの赤褐色粒子をまばらに含む。	橙/黒褐		L P 12-2 P12 埋土
572	曲K盛下	層坏	D		8.5	風化著しい 回転ナデか?	風化が著しい 回転ナデか?	風化ぎみ ヘラ切りか?	1mm~3mmの赤褐色粒子を少量含む、橙色と浅 黄橙色のマーブル模様がうすく全体にある。	浅黄橙		Kモリ下
573	曲 B3 2 層	Ш	D		6.8	回転ナデ	回転ナデ		精良	浅黄橙		B3 II
574	堀群 横	Ш	D		7.2	ナデ	ナデ	回転ヘラ切り	精良	浅黄橙		谷 3 T5 2 層
575	堀群 横	Ш	D		8.6				精良	浅黄橙		竹杪 B2 29~32層
576	堀群 横	Ш	D		8.2	回転ナデ			1mm以下の灰白色の粒をまばらに含む	橙		好材 B2 29~32層
577	水 SE2 上版	I	E-1	8.2	8.2	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	精良	灰		谷 2 SE2 D上層
578	水 SF 6 f		E-1		6.4	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	1 mm以下の黒褐色粒をわずかに含む	にぶい橙		谷 2 SF
579	水 SE2 上f		E-1		8.4	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り後	2mm 以下の赤褐色の粒を含む 1mm~3mmの赤褐色粒子を少し含むきめ	浅黄橙/淡橙/にぶい橙		谷 2 SE2 上層
580	曲F1 F1-P46		E-2		7.7	摩滅激しいが回 転ナデか?		ナデ調整	細かい胎土	橙		D2 P 461
581	水表土・造成	Е Ш	E-2		9.7	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	1mm以下の灰白色の粒をわずかに含む	浅黄橙		谷 2 10 層 42
582	曲 A1 3 層		E-3		6.0		見込みに一方向 のナデ	「ヘラ切り	2mm以下の黒色の粒をわずかに含む	橙		A13層
583	曲 B4 SR1		E-3		6.4	回転ナデ		回転ヘラ切り	1mm以下の赤褐色粒を少し含む	浅黄橙		B4 P33
584	水 SE2 上		E-3		6.0	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	精良	浅黄橙/にぶい橙		谷 2 SE2 西上層
585	水 SS1 盛土		E-3		6.4	ナデ	ナデ	回転ヘラ切り	微細な赤褐色粒を含む	橙 津井樹 / 沙松舟		谷 2 SS1 47
586 587	水 SF 6 / 曲 B3 5 /		E-3 E-3		7.4 6.8	回転ナデ 回転ナデ	ロケロ目あり	出転ノア	精良 3mm 以下の明赤褐色の粒を含む	浅黄橙 / 淡橙色		谷 2 SF B3 T12 5 層
				10.2			回転ナデ	回転へうわり	3mm 以下の明赤褐色の粒を含む 1mm以下の黒色粒, 明赤褐色粒を少し含		箱形坏	F 2 S I 2
	曲形旧			10.3	5.6	3.3 回転ナデ	摩滅あり	回転ヘラ切り 回転ヘラ切り痕(ナデ調整か?)	む、さらつきをもつ胎土。		4日/12年1.	
589			F	7.2	5.0	1.7 回転ナデ?	回転ナデか?	摩滅の為, 不明瞭	1mm程の赤褐色の粒をまばらに含む	橙にかぬかが悪		G 2E P37
	堀 A3		F	7.0	5.8	ナデ	指頭圧痕	ヘラ切り	精艮	にぶい橙/にぶい黄橙		杉 A2 C 層
591 592	堀群 横		F F	7.9 9.5	4.8 5.6	1.9 ナデ	ナデ、指頭圧痕回転ナデ		きめ細かい胎土 微細た表現免粒 里提免粒を含む	橙		谷 3 T5 2 層 北 A3 T2 18 層
592		坏	F	7.0	4.6	回転ナデ ナデ	二半4.7 ア	ヘラ切り	微細な赤褐色粒、黒褐色粒を含む 精良	橙		在 A3 12 18 層 谷 3 T5
594	曲D 旧		F		6.8	回転ナデ	風化が著しい	回転ヘラ切り	1 mm以下の赤褐色の粒子含む。	橙	ヘラ切り失敗作	A1
595	曲D旧		F		7.2	風化著しいが一部	回転ナデ	回転ヘラ切り		橙/淡橙		ASC-1
596	曲 E2 旧 F		F		•	転ナデがみえる 5.7 回転ナデ	風化著しい		1mm以下の赤褐色の粒がわずかにみられる			F1N2 T3
597			Α			<u> </u>	見込みに一方向		微細な赤褐色粒、黒褐色粒を含む	にぶい橙		B4 P26
598	ш В4		A	8.4	6.0	2.0 回転ナデ	<u>のナデ</u> 回転ナデ	回転ヘラ切り	1mm以下の赤褐色粒を少し含む	にぶい黄橙		B4 12
599	曲 B4 17			11.8	0.0	回転ナデ	回転ナデ	LW . 7 37 7	2mm以下の黒色の粒、明赤褐の粒を含む	橙/浅黄橙		B4 T4-17 層
					60		回転ナデ	回転ヘラ切り痕	1mm以下の去現免粉を含われる細かいい!		麻ばの為 口線がて叩応	
600	曲E	Ш	A	8.6	6.0	1.1	摩滅あり	摩滅が激しい	1mm以下の赤褐色粒を含むきめ細かい胎土	/2.男位	摩滅の為、口縁部不明瞭	F1SI //J

第30表-2 土師器観察表

掲載	出土地	占 架鐇	分類-	法	量(cr	n)		調整・文様	等	- 胎土	色調	備考	注記名
No.	шти	· 位的生	/J XR -	口径	底径	器高	外面	内面	底面	加工		VH2	/III-11
601	曲 F1 SE	817 小皿	Α	8.8	5.5	1.5	回転ナデ、口唇部:若- 剥離ぎみ、タール付着	タール付着	回転ヘラ切りの後, ナデ調整	1mm~ 2mmの赤褐色の粒、1mm~ 2mmの黒褐 色の粒をわずかに含む、きめ細かい胎土	にぶい褐/黒褐 /黒		D 2 P 381-1
602	曲 H3	旧小皿	Α	9.7	7.3		全体的に摩滅してい るが回転ナデか?	全体的に摩滅しているが回転ナデか?	A = 4TI (1 do 2	1 金む まは細かい服士	にぶい黄橙/橙		1 11
603	水 SS1 盛	土中小皿	В		7.0		ナデ	ナデ	回転ヘラ切り	微細な赤褐色粒をわずかに含む。内面は 浅黄橙と淡橙のマーブル状を呈する	橙/浅黄橙/淡橙		谷 2 SS1 38
604	水 SF 6	層 小皿	В	8.1	6.2	1.2	ナデ	ナデ	ヘラ切り	きめ細かい胎土	橙		谷 2 SF
605	曲K 盛	下層小皿	В	8.6	6.0	1.2	回転ナデのち調整	, 回転ナデのち調 整?一部摩滅	回転ヘフ切り限のちナナ	1mm以下の赤褐色粒をまばらに含む部分 的に浅黄橙と赤褐色のマーブル状	橙	摩滅の為, 口縁部不明瞭	KCモリ下
606	曲K	小皿	В	7.7	5.5	1.2	回転ナデ	回転ナデ		1mm~ 2mmの赤褐色の粒、褐灰の粒をごくわずかに含む きめ細かい胎土	淡橙 / 浅黄橙	※内外面とも摩滅が激しい	K b 刊下
607	曲 B3 3	層小皿	В	8.4	5.2	1.1	ナデ		ヘラ切り	1mm 以下の褐を少し含む	黄橙		B3 3 層
608	堀 A3	Ш			8.0					1mm 以下の灰白の粒をわずかに含む	浅黄橙		ホリ A2 B-1 層
609	水 SF 6	層皿			8.0	- 1	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	2mm 以下の黒褐色の粒を含む	橙		谷 2 SF
610	水 SF 2	1層皿		13.8		I	回転ナデ	回転ナデ		精良	にぶい黄橙/灰黄		谷 2 SF 注下 27 層
611	SG1-2 造成土	7層 坏			5.5				糸切り	1mm~ 4mmの赤褐色粒子が多く, 1mm以下 の光沢を持つ粒子をわずかに含む。	恒		F 1 770 E V + 4 層
612	SG1-3 表	土皿			8.2		摩滅が激しいが 回転ナデか?	「摩滅が激しいが回転ナデか?	回転糸切り	1mm~ 2mmの黒褐色粒子を少し、1mm以下 の白色透明粒子を多く含む	明褐/橙		G 2 E 770 1
613	SG1-3 耕f	作土皿			6.2				回転糸切り	1mm以下の灰色の粒を含む ざらつきのある胎土	浅黄橙		G2 E 770 C II
614	堀 A3	Ш					ナデ	回転ナデ	糸切り	黒褐色のきめ細かい胎土きめ細かい胎 土、精良	黒褐 / 灰黄褐		ホリ A2 B 層
615	带 A3a	Ш			5.6	- 1	回転ナデ		糸切り	精良	橙		北 A2 II層
616	水表土・造	成土 皿			9.0	- 1	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	精良	浅黄橙		谷 2 10 層
617	曲GSB	2 🔟		16.0	9.0	2.2	摩滅激しい	回転ナデのち指 頭のよる横ナデ	摩滅あり	1mm以下の黒褐の粒	灰黄褐/にぶい黄橙	京都系土師器の影響ありか	G 1 P 59
618	水 SF 21	層皿		19.0	8.0	3.0	ナデ、ケズリ	ナデ、見込みは 螺旋状のナデ	糸切り	微細な石英粒を密に含む精製粘土	にぶい橙	見込みがやや赤色化	谷2 SE2 上層 谷2 SF 石洋下 27 層

第31表-1 土師質・瓦質土器観察表

<i>אס</i> .	J 1 12	' -	느미만드	₹ .	心只			九六1人					
掲載	出土地点	種別	器種	部位		量(cm		調生		- 色調	胎土	備考	注記名
No.		1223			口径	高さ	器厚	外面	内面		r d fine common	NO 3	7230 1
619		瓦質	羽釜	頸~胴		4.7		ケズリ	ハケメ	褐灰	1mm 以下の灰白色粒を含む	和泉河内型	Q II
620		瓦質	羽釜	口~胴	17.1	5.8		ケズリ	ハケメ	灰白	2mm 以下の灰白粒、黒粒をごくわずかに含む	和泉河内型	谷 2 SE2 西 上層
621	曲L旧Q	瓦質	羽釜			3.2		ケズリ	ハケメ	黒	1mm 未満の長石・石英粒を密に含む	和泉河内型	Q
622	SG2-2 8層		羽釜	胴	40.2	4.2		ケズリ	ハケメ ナデ	黒褐	3mm以下の灰白色粒を含む	和泉河内型か?	Q 990埋土
623		瓦質	羽釜	頸~胴		4.3		ハケメ	指頭圧痕	灰白/黄灰	1mm以下の灰白色粒を多く含み、1mm以下の透明な粒をわずかに含む		Q II
624	曲 H3 旧 I	土師質			24.0	4.2	1.0	ナデ	ナデ	黄橙	1 mm 未満の長石、石英、赤色粒を密に含む	播磨型	1 11
625	SG2-2 埋土		鍋	口~胴		6.9	8.0		ハケメ		5mm 以下の灰白色粒を多く含む	防長型	Q 770 64 + Q 770 65
626	SG1-2 造成土下層	瓦質	足鍋		25.2	5.8	0.8	ハケメ/ナデ	/ナデ	浅黄	1mm 程度の長石粒を含む	防長型、焼成不良	ツウロ E レキ 4 層+ G1 カ T2
627	曲K	土師質	鍋	胴		5.4	0.6	格子目タタキ	ハケメ	にぶい黄橙	2mm 未満の長石、石英粒を多く含む	防長型か?	KI
628	水切岸1	土師質	鍋	胴		5.4		格子目タタキ		淡橙 / 灰白	2mm 以下の灰白粒を多く含む	防長型か?	谷2 北川 II層
629	曲 G 旧 G1	瓦質	鍋		26.0	3.6	0.6	ハケメ / ナデ	ハケメ <u>/ ナデ</u>	にぶい黄橙/灰白	1mm以下の微細な鉱物粒を多く含む	西長門型鍋bか	G1
630	西谷 2層	瓦質	鍋	口~胴	14.6	3.5	0.8	ナデ	ナデ	暗灰	灰白色のきめ細かい胎土	受け口状口縁	谷1 層
631	曲J1 旧V	瓦質	鍋			2.5	0.6	ハケメ / ナデ	ハケメ / <i>ナデ</i>	浅黄/灰黄/黒	1mm以下の灰色、灰、黒色の粒を含み、微細な黒色、透明光沢粒を含む	瓦質土器鍋 B に類似	V3 T4
632	曲K	瓦質	鍋		26.8	2.8	1.0	ハケメ/ナデ	ハケメ / ナデ	黒褐 / にぶい黄橙	微細な灰白色粒、透明光沢色粒を含む	瓦質土器鍋 B に類似	Kb II
633	曲L 旧Q	瓦質	双耳釜	口~胴	15.0	5.0	0.9	ハケメ/ナデ	ナデ	灰	1mm 以下の白色粒を含む		QII
634	曲 E1 旧 D1	土師質	双耳釜	口~頸	15.0	3.8	1.0	ナデ / 指頭押圧	ナデ	オリープ褐 / にぶい黄橙	2mm以下の灰白色粒、褐色粒、微細な透明光沢色粒を多く含む		D1 S-ST
635	SG2-2 埋土	瓦質	双耳釜	口~胴	14.4	5.0	0.7	ハケメ / ナデ	ハケメ	灰黄褐/にぶい褐	3mm以下の灰白色粒を多く、1mm以下の赤褐色粒を少し含む		Q ツウロ 21
636	SG1-3 側溝 2層	瓦質	双耳釜	口~胴	14.0	5.5	0.8	ナデ	ハケメ / ナデ	褐灰 / にぶい黄褐	1mm以下の黒褐色粒、灰白色粒、暗褐色粒を含み、赤褐色粒をまばらに含む		G2 E ツウロ b SE1 2 層
637	SG2-2 横断 1層	瓦質	双耳釜?	口~胴	12.8	3.4	1.0	ナデ	ナデ	にぶい橙 / 橙	微細な灰白色粒を少量含むきめ細かい胎土		V פליני
638	西谷 2層	瓦質	双耳釜?	口~胴	14.6	3.2	1.0	ナデ	ナデ 指頭圧痕	橙	1mm 以下の灰白色の粒をわずかに含む		谷1
639	曲 A4 2層	瓦質	双耳釜?	口~胴	17.2	4.2	1.0	ナデ	ナデ 指頭圧痕	明赤褐/橙	黒色粒をわずかに含む		A4 T2 2層
640	曲 E2 SE1	瓦質	双耳釜	肩		2.6	1.1	ナデ	ナデ	灰黄	1mm 以下の灰白色粒を多く含む		F1 /IJ II
641	SG1-2 側溝	瓦質	双耳釜	肩	25.6	4.7	1.1	ハケメ / ナデ	ハケメ / ナデ	灰黄/黄灰	1mm 程度の灰白色粒、微細な透明粒をわずかに含む	肩部に沈線文様	F1 S2 770 SE1
642	SG2-2	瓦質	双耳釜	肩		4.5	0.7	ナデ	ハケメ / ナデ	灰/にぶい黄褐/黒	2mm 以下の灰白色粒を含む		Q 770 B
643	曲K 盛 下層	瓦質	双耳釜	肩	23.2	3.6	0.6	ナデ	ナデ	にぶい黄褐 / 褐灰	1mm 以下の灰白色粒、褐色粒を含む		Kb 刊下
644	曲 J2 旧 N	瓦質	双耳釜	頸~胴	33.4	6.9	1.2	ケズリ	ハケメ / ナデ	灰黄褐/橙	3mm 以下の赤褐色粒を含む		NW /9 II
645	曲 A4 1層	瓦質	双耳釜	胴	30.0	4.9	1.0	ケズリ	ナデ	にぶい褐/にぶい黄褐	1mm 未満の長石・石英粒をごくわずかに含む		A4 I層-4
646	水SFC期控積	瓦質	双耳釜	胴	26.6	7.8	1.0	ケズリ	ナデ	にぶい黄橙/橙	1mm 未満の長石・石英粒をごくわずかに含む		谷 2 SF1
647	水 SF1b 期 石敷	瓦質	擂鉢	胴~底	18.6	5.8	0.8	ナデ / 指頭圧痕	ナデ スリメ	灰白/黒	1mm 以下の灰白色の粒をわずかに含む	スリ目9条	谷 2 SE2 石シキ
648	水 表土・造成土	瓦質	擂鉢	口~胴	27.6	4.7	0.9	ナデ・指頭圧痕	ナデスリメ	灰/灰白	3mm以下の灰色の粒、黄橙の粒を少量含む		谷2 E 19層
649	SG2-2 埋土	瓦質	擂鉢		29.2	5.0		ハケメ ナデ	ナデ	黒/黄灰	4.5mm 以下の灰白色粒、3.5mm 以下の灰色粒をわずかに含む。1mm 以下の灰色、灰褐色粒を含む。微細な白色、黒色、透明光沢色粒を含む	スリ目8条	Q 770 39
650	曲 F3 旧 F2	瓦質	擂鉢	口~胴	16.4	3.5		ハケメ/ナデ	ハケメ	灰	1 mm ~ 2mm の長石粒、石英粒を多く含む	防長型	F2 a II
651	水 切岸 1	瓦質	擂鉢	底			0.8	ナデ	スリメ	浅黄	2mm 以下の黒褐粒、灰白粒をわずかに含む	見込みに波状のスリメ	谷2 キリ1
652	水切岸1	土師質	擂鉢	胴~底	15.6	4.1		ナデ、底部付 近ケズリか?	ナデ スリメ	浅黄橙	4mm 以下の灰白色粒を少量含み、稀に 1cm 程度の 石英粒を含む		
653	堀群 横	土師質	擂鉢	口~胴	30.6	4.7	1.1		ナデ	浅黄橙	1mm 以下の黒褐色粒を少し含む	備前模倣の擂鉢	谷3 T5 II層
654	水 SS1 堀 1	土師質	擂鉢	胴~底	13.2	5.8	1.2	ナデ	ナデ	浅黄橙	1mm 以下の黒褐色粒を少し含む	備前模倣の擂鉢、10条スリ目	
655	SG1-2 石敷	瓦質	火鉢	口~底	42.4	33.0	1.5	ケズリ	ナデ	にぶい橙/褐灰/赤橙	1mm 以下の灰白色粒、透明光沢粒暗褐色粒を多く 含む。1mm 以下の黒色粒をわずかに含む	口縁部外面に菊花文のスタンプ	F1 701 E14 4 8 8 - 3 + F2 6 8 8 + G2 E 9 701 F T6+G2 E 9 701 F (7) 1 8 + 7 9 0 F (7) 7 8 + G2 9 701 F (7) 5 8 + L 9 70 T 78
656	水切岸1	瓦質	浅鉢	胴~底	24.6	4.5	0.9	ミガキ	ミガキ	橙 / 浅黄橙	1mm 以下の黒色光沢の粒をわずかに含む	底部に離れ砂	谷2 キリ1
657	水窪 区上層	瓦質	浅鉢	口~底	30.6	10.7	0.8	ミガキ	ミガキ	にぶい黄橙/褐灰/灰	1mm以下の微細な長石・石英粒・赤褐色粒を含む。	底部に離れ砂	谷 2 SS2 II A4
658	曲 A3 2層	瓦質	風炉か?	口~胴	29.0	8.1	1.4	ミガキ	ミガキ ハケメ	褐灰	1mm以下の微細な長石・石英粒・赤褐色粒を含む。		A3 II層+谷2 キリ1
659	曲 A3 2層	瓦質		脚				ミガキ	ナデ	黒褐	1mm以下の灰白色粒を多く含み、微細な透明光沢粒を少し含む		北/リ A層
660	堀群 横	瓦質		脚				ミガキ	ナデ	浅黄橙/黒	3mm 以下の灰白の粒をわずかに含む	外面被熱して赤くなっている	谷3 T5 II層
661	曲 A2 SB2	瓦質		脚						浅橙	1mm 以下の灰白色粒をわずかに含む		A2 P37-1

掲載	出土地点	種別	器種	部位	1/2	里 (C	111/	NOI	Ĕ	- 色調	胎土	備考	注記名
No.	山土地無	1里力リ	拉拉住	마까	口径	高さ	器厚	外面	内面		加工	v#*5	/±8L/D
662	水 表土・造成土	瓦質	風炉か?	底				ミガキ	ミガキ	黒褐/黒	微細な黒褐色粒、灰白色粒、透明光沢粒を多く含む	中空脚部	SE2 上層
663	SG1-2 造成土下層	瓦質	火鉢	口~胴	36.4	12.5	1.1	粗いミガキ	ハケメ	灰/黄灰/にぶい黄褐/明黄褐	5mm 以下のオリーブ黒粒、2mm 以下の灰白粒を少量含む	防長型、口縁部外面に小口スタンプ	F1 ツウロE レキ4層
664	曲K	瓦質	火鉢	底	15.6	5.4	1.3	指頭圧痕	ハケメ / ナデ	灰/淡黄	4mm 以下の灰白色粒を含む	防長型か?	K II 14
665	水 切岸 1	瓦質	火鉢	胴				粗いミガキ	ハケメノナデ	浅黄	1mm 以下の黒褐粒をわずかに含む	防長型か?	谷2 北川 2層
666	水 SE1 B区	瓦質	火鉢	胴				粗いミガキ	ハケメノナデ	灰白/黄灰/淡黄/黒	2mm 以下の灰白粒をごくわずかに含む	防長型か?	谷 2 SE1 B-1
667	SG1-2 造成土下層	瓦質	火鉢	口~胴		4.9	1.3	不明	ハケメ	灰	1 mm 程度の黒褐色粒、灰色粒を少量含む	防長型か?	F1 ツウロ E レキ 4 層
668	曲K	瓦質	香炉か	口~底	15.2	4.0	8.0	ハケメ/ナデ	ハケメ	橙/黄灰	1mm~2mm大の赤色粒、長石粒、石英粒を密に含む	外面に沈線による葉脈文	Kb 刊下
669	曲M 旧P	瓦質	甕	胴		6.1	0.6	平行タタキ	指頭圧痕	オリーブ黒 / 淡黄	微細な灰白色粒、黒褐色粒を多く含む		P II
670	曲 F3 旧 F2	土師質		底				ナデ	ナデ	明赤褐	2mm 以下の灰白色粒を含む。2mm 未満の石英、 長石粒を密に含む		F2 d II

拘載	出土地	か 占	器種	部位 :	広里 (CIII	NOTE:		- 色調	胎土	注記名
No.	Щ.	O/III	HIL 13E	141-142	径	外面	内面	□ 199	I Jiid subu	7250 []
671	曲Ⅰ		深鉢	口~胴		貝殻条痕 口縁部に刺突文	貝殻条痕	にぶい橙 / にぶい黄橙	微細な灰白色粒、透明光沢粒を多く含む	QII
672	SG2	下層	深鉢	胴		貝殻条痕	ナデ	橙/にぶい橙	1mm ~ 4mm の赤褐色、灰褐色、鉱物の粒を多く含む	Q ツウロ 122
673	西		深鉢 (角筒形)	胴		貝殻複縁文		にぶい橙/黒/橙/明赤褐	2mm 以下の半透明光沢、透明光沢、黒色光沢の粒を多く含む	表採
674	曲K盛	下層	甕	底	6.2	ナデ		橙	4mm以下の暗赤褐の粒、3mm以下のオリーブ黒の粒を多数含む	Kb モリ下
675	SG3		甕	底	6.0	ナデ		明黄褐/橙/にぶい黄橙	4mm 以下の灰白の粒、4mm 以下の黒褐の粒を多く含む	V V 700
676	SG1-3		壺	胴~底	5.2	ナデ	ナデ	橙/灰/黄橙/暗灰	3mm 以下の灰白の粒、3mm 以下の褐色の粒、5mm 以下の灰白の粒を含む	G2 E 7700 b 5
677	曲F		壺	胴~底	5.60			にぶい橙/にぶい黄橙	5mm 以下のにぶい褐色、暗灰黄の粒を多く含む	F2 6 層
678	曲F		二重口縁壺			ナデ	ナデ	にぶい橙/にぶい黄橙	1mm 以下の灰白色、黒褐色、透明光沢粒を含む	D2 1 層
679	曲F		鉢	口~胴				にぶい黄橙	1mm~4mmの赤褐色、灰褐色の粒を多く含む	D2 XE
680	曲K		壺か鉢?	底	3.43	ナデ	ナデ	にぶい黄橙/黒/褐灰	5mm 以下の灰 , 茶色の粒を含む、微細な透明光沢、黒色光沢の粒を含む	K ^* ルト
681	曲 A3		高坏	坏		櫛描波状文あり	自然釉	黄灰 / 灰褐		A3 II層

第33表 瓦観察表

1	注記名
1	/III-11
684 曲	E ツウロ レキ4層
685 曲	⁰ 0 35
686 SG2 下層 丸瓦 17.5 10.2 2.9 浅黄/灰黄 Smm 以下の無褐を多く 2mm 以下の灰色の粒を含む 目以 吊り細の痕跡 Q 2 687 曲 F 丸瓦 20.0 14.1 3.5 にぶい黄種 Smm 以下の陽視の粒。4mm 以下の灰色の粒を含む 目い 吊り細の痕跡 Q 1 687 曲 F 丸瓦 20.0 14.1 3.5 にぶい黄種 Smm 以下の場底色粒を含む 目い 吊り細の痕跡 Q 1 688 曲 M SA2 丸瓦 11 8.4 2.2 灰白/黄灰/阴黄褐 Imm 以下の風・粒を多く含む 良好 P 5 689 曲 k 平瓦 7.55 6.75 2.1 にぶい黄/黒褐/黒褐 細かな黒 灰白を多く 5mm 以下の灰白をわずかに含む 良好 K c 690 SG1・2歳辻 下屋 平瓦 8.55 6.85 1.95 にぶい黄褐/黒/褐/黒褐 Imm 以下の灰白を多く 4mm 以下の灰白をわずかに含む 良好 F1 691 曲 L 平瓦 15.1 11.7 2.1 明黄褐 / オーリフ黒・卵黄褐 含む 含む Imm 以下の灰白をわずかに含む 良好 Q 1 692 SG2 下層 平瓦 10.25 10.0 2.0 明黄褐 / にぶい黄樹 Imm 以下の灰白を和まか下の食んの粒、 1mm 以下の灰白の粒、 1mm 以下の灰白の粒 良好 E 1 694 水・麦辻・造址 平瓦 4.8 4.1 1.85 にぶい黄橙 Imm 以下の灰白色粒、 1mm 以下の馬相色粒を含む 良好 はなれ砂の痕跡 合2 695 堀 84 平瓦 12.9 13.5 2.0 橙 / 浅黄橙 4mm 以下の灰白色粒、 1mm 以下の馬相色粒を含む 良好 がら 5 6 6 8 8 8 8 8 8 8 8 9 8 9 8 9 8 9 8 9 8	I
687 曲F 丸瓦 20.0 14.1 3.5 にぶい黄橙 5mm以下の褐灰色粒を含む 甘い E / 688 曲M SA2 丸瓦 11 8.4 2.2 灰白/黄灰/明黄褐 1mm以下の黒い粒を多く含む 良好 P S 689 曲k 平瓦 7.55 6.75 2.1 にぶい黄/黒褐/黒 細かな黒、灰白を多く 5mm以下の灰白をわずかに含む 良好 K G 690 SGI-2連試工層 平瓦 8.55 6.85 1.95 にぶい黄/黒褐/黒 細かな黒、灰白を多く 5mm以下の灰白をわずかに含む 良好 F1 691 曲 L 平瓦 15.1 11.7 2.1 明黄褐/オーリア黒/明黄褐 含む 1mm以下の灰白の粒、6mm以下の灰白の粒、1mm以下の灰黄の粒を 良好 Q I 652 下層 平瓦 10.25 10.0 2.0 明黄褐/にぶい黄橙 1mm以下の灰色の粒、6mm以下の灰白の粒、1mm以下の灰黄の粒を 良好 Q I 653 曲F 平瓦 18.5 12.35 2.1 黄橙/にぶい黄橙 3mm 程の灰黄褐色の褐色の粒をわずかに含む 良好 はなれ砂の痕跡 653 編B F 平瓦 18.5 12.35 2.1 黄橙/にぶい黄橙 1mm以下の灰白色粒、1mm以下の黒褐色粒を含む 良好 はなれ砂の痕跡 62 編B 4 平瓦 12.9 13.5 2.0 橙/浅黄橙 4mm以下の灰白色粒をわずかに含む 良好 はなれ砂の痕跡 62 17.1 17.3 16.4 2.0 浅黄 3mm以下の灰白色粒をわずかに含む 良好 18.3 17.3 16.4 2.0 浅黄 3mm以下の灰白色粒をわずかに含む 良好 18.3 17.3 16.4 2.0 浅黄 3mm以下の灰白色粒をつずかに含む 1mm以下の灰白色粒をつずかに含む 1mm以下の灰白色粒をつずかに含む 1mm以下の灰白色粒をつずかに含む 1mm以下の灰白色粒をつずかに含む 1mm以下の灰白色粒をうずかに含む 1mm以下の灰白色粒をうくの粒がわずかに見られる。1~2mmほどの灰白色 1mm以下の灰白色粒をうく含む 1mm以下の灰白色粒を多く含む 1mm以下の灰白色粒を多く含む 1mm以下の灰白色粒を含む 1mm以下の灰白色粒を多く含む 1mm以下の灰白色粒を多く含む 1mm以下の灰白色粒、黒褐粒、褐色粒を多く含む 1mm以下の灰白色粒を含む 1mm以下の灰白色粒を含む 1mm以下の灰白色粒を含む 1mm以下の灰白色粒を含む 1mm以下の灰白色粒を含む 1mm以下の灰白色粒を含む 1mm以下の灰白色粒、1mm以下の灰白色粒を含む 1mm以下の灰白色粒を含む 1mm以下の灰白色粒を含む 1mm以下の灰白色粒を含む 1mm以下の灰白色粒を含む 1mm以下の灰白色粒を含む 1mm以下の灰白色粒を含む 1mm以下の灰白色粒を含む 1mm以下の灰白色粒を含む 1mm以下の灰白色粒を含む 1mm以下の灰白色板をかずかに含む 1mm以下の灰白色粒をかずかに含む 1mm以下の灰白色粒を含む 1mmの以下の灰白色板をかずかに含む 1mmの以下の灰白色板をかずかに含む 1mmの以下の灰白色板をかずかに含む 1mmの以下の灰白色板をかずかに含む 1mmの以下の灰白色板があずがに含む 1mmのよりにない皮が皮が皮が皮が皮が皮が皮が皮が皮が皮が皮が皮が皮が皮が皮が皮が皮が皮が皮が	55~ミ上
688 曲M SA2 丸瓦 11 8.4 2.2 灰白/黄灰/明黄褐 1mm以下の黒い粒を多く含む 良好 P S 689 曲k 平瓦 7.55 6.75 2.1 にぶい黄/黒褐/黒 細かな黒 灰白を多く 5mm以下の灰白をわずかに含む 良好 K 690 SGI-2連試工層 平瓦 8.55 6.85 1.95 にぶい黄/黒褐/黒褐 1mm以下の灰白を多く 4mm以下の灰白をわずかに含む 良好 FI 691 曲L 平瓦 15.1 11.7 2.1 明黄福/オーリフ黒/明黄褐 3mm以下の灰色の粒、6mm以下の灰白の粒、1mm以下の灰黄の粒を 良好 Q 692 SG2 下層 平瓦 10.25 10.0 2.0 明黄福/はぶい黄褐 1mm以下の灰色の粒、6mm以下の灰白の粒、1mm以下の灰黄の粒を 良好 Q 693 曲F 平瓦 18.5 12.35 2.1 黄橙/にぶい黄褐 3mm 程の灰黄褐色の樹をわずかに含む 良好 はなれ砂の痕跡 694 水・麦土・塩紅 平瓦 4.8 4.1 1.85 にぶい黄橙 1mm以下の灰白色粒、1mm以下の黒褐色粒を含む 良好 はなれ砂の痕跡 695 堀84 平瓦 12.9 13.5 2.0 橙/浅黄橙 4mm以下の灰白色粒をわずかに含む 良好 4mm以下の灰白色粒をわずかに含む 良好 4mm以下の灰白色粒をつずかに含む 良好 4mm以下の灰白色粒をつずかに含む 日い 日い 日い 日い 日い 日い 日い 日	. ツウロ 14
689 曲k 平瓦 7.55 6.75 2.1 にぶい黄/黒褐/黒 細かな黒 灰白を多く 5mm以下の灰白をわずかに含む 良好 K c c 690 5G1-2歳辻下屋 平瓦 8.55 6.85 1.95 にぶい黄褐/黒/褐/黒褐 1mm以下の灰白を多く 4mm以下の灰白をわずかに含む 良好 51 曲L 平瓦 15.1 11.7 2.1 明黄褐/オーソフ黒/明黄褐 3mm以下の灰色の粒、6mm以下の灰白の粒、1mm以下の灰黄の粒を 良好 Q c 692 5G2 下層 平瓦 10.25 10.0 2.0 明黄褐/にぶい黄褐 1mm以下の灰色の粒、6mm以下の灰白の粒、1mm以下の灰黄の粒を 良好	J
690 SG12達註1階 平瓦 8.55 6.85 1.95 にぶい黄褐/黒・褐 黒褐 mm以下の灰白を多く 4mm以下の灰白をわずかに含む 良好 F1 691 曲	A2 2層
691 曲	I モリ下
691 田上 平瓦 15.1 11.7 2.1	E ツウロ レキ4層
693 曲F 平瓦 18.5 12.35 2.1 黄橙/にぶい黄橙 3mm程の灰黄褐色の植色の粒をわずかに含む 良好 E 1 1 1 1 1 1 1 1 1	ı
694 水・麸・塩減土 平瓦 4.8 4.1 1.85 にぶい黄橙 1mm以下の灰白色粒、1mm以下の黒褐色粒を含む 良好 はなれ砂の痕跡 62 2 695 堀 B4 平瓦 12.9 13.5 2.0 橙/浅黄橙 4mm以下の灰白色粒、1mm以下の灰白色粒を含む 良好 が8: 696 曲 B3 平瓦 17.3 16.4 2.0 浅黄 3mm以下の灰白色粒をでくわずかに含む 甘い B3 697 5G2 下層 平瓦 12.4 12.3 2.4 灰オリーブ/灰/にぶい黄樹 1mmほどの啼灰黄色の粒がわずがに見られる。1~2mmほどの灰白色 良好 0.2 698 曲 E1 E1-198 平瓦 6.7 7.15 2.3 灰黄/黄灰/灰黄 2mm以下の灰白、灰色を多く含む 良好 G2 699 5G1-2 側溝 平瓦 6.9 8.2 1.85 褐灰/にぶい褐/赤褐/黒褐 1mm以下の灰白を多く含む 良好 D1 700 水 5S1 平瓦 17.0 9.1 23.5 にぶい黄橙/灰白 1mm以下の灰白色粒を含く含む 良好 62 701 水 5S1 平瓦 5.1 10.2 2.0 灰白	ýū 204
694 水・気・塩砂 十瓦 1.05 にふい黄檀 111111以下の灰白色粒、11111以下の灰白色粒を含む 良好 約186 12.9 13.5 2.0 檀 / 浅黄檀 4mm 以下の灰白色粒をわずかに含む 良好 約186 17.3 16.4 2.0 浅黄 3mm 以下の灰白色粒をつくわずかに含む 甘い 83 17.3 16.4 2.0 浅黄 3mm 以下の灰白色粒をつくわずかに見られる。1~2mm ほどの灰白色 良好 0.2 化にぶい黄 / 黄灰 の粒がわずかに見られる。1~2mm ほどの灰白色 良好 0.2 によい黄檀 11111以下の灰白を多く含む 良好 0.3 によい黄檀 1111以下の灰白を多く含む 良好 0.3 によい黄檀 1111以下の灰白色粒、黒褐粒、褐色粒を多く含む 良好 6.2 によい黄檀 1111以下の灰白色の砂をわまりに含む 0.3 によい黄檀 0.3 に	層
696 曲 B3 平瓦 17.3 16.4 2.0 浅黄 3mm以下の灰白色粒をごくわずかに含む 甘い B3 697 SG2 下層 平瓦 12.4 12.3 2.4 次オリーブ/灰/にぶい黄樹 1mm ほどの暗灰黄色の粒がわずかに見られる。1~2mm ほどの灰白色 良好 G2 698 曲目 E1-198 平瓦 6.7 7.15 2.3 次黄/黄灰/灰黄/黄樹 2mm以下の灰白色を多く含む 良好 G2 699 SG1-2 側溝 平瓦 6.9 8.2 1.85 褐灰/にぶい褐/赤褐/黒褐 1mm 以下の灰白色を多く含む 良好 D1 700 水 SS1 平瓦 17.0 9.1 23.5 にぶい黄樹/灰白 1mm 以下の灰白色粒を含む 良好 台2 701 水 SS1 平瓦 5.1 10.2 2.0 灰白	1
697 SG2 下層 平瓦 12.4 12.3 2.4 次オリーブ/灰/にぶい黄橙 1mm ほどの暗灰黄色の粒がわずかに見られる。1~2mm ほどの灰白色 良好 Q 2 2 次にぶい黄光 大田 12.4 12.3 2.4 次オリーブ/灰/にぶい黄樹 1mm ほどの暗灰黄色の粒がわずかに見られる。1~2mm ほどの灰白色 良好 Q 2 2 次日 2 2 2 次氏 2 3 次黄 / 黄灰 / 次数がわずかに見られる 2 2 2 2 2 3 次黄 / 黄灰 / 次数がわずかに見られる 2 2 2 2 3 2 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3	! 層
「	5
699 SG1-2側溝 平瓦 6.9 8.2 1.85 褐灰/にぶい褐/赤褐/黒褐 1mm以下の灰白を多く含む 良好 D1 700 水 SS1 平瓦 17.0 9.1 23.5 にぶい黄橙/灰白 1mm以下の灰白を珍く含む 良好 谷2 701 水 SS1 平瓦 5.1 10.2 2.0 灰白 1mm以下の白色粒、黒褐粒、褐色粒を多く含む 良好 谷2	21
700 水 SS1 平瓦 17.0 9.1 23.5 にぶい黄橙/灰白 1mm以下の灰白色粒を含む 良好 谷2 701 水 SS1 平瓦 5.1 10.2 2.0 灰白 1mm以下の灰白色粒、黒褐粒、褐色粒を多く含む 良好 谷2 3mm以下の灰白色の数 2mm以下の灰白色の数 2mm以下の灰白色の数をかずりに含む。微細	d P48-1
701 水 SS1 平瓦 5.1 10.2 2.0 灰白 1mm以下の白色粒、黒褐粒、褐色粒を多く含む 良好 谷2 3mm以下の原白色の数をおよればりに含む。像細胞	ツウロ SE
3mm 以下の応立色の粒 2mm 以下の応立色の粒をわずわに今む。微細	SS1上
3mm 以下の灰白色の粒、2mm 以下の灰白色の粒をわずかに含む。微細 guz	SS1-43
702 SG1-3 平瓦 12.9 10.9 1.8 灰/黒 おいにないのでは、 2011は、これには、 2011は、 2	E 770 T6
	打3 2層
704 西谷 不明 8.1 6.7 1.5 淡黄 3mm 以下の赤褐の粒、2mm 以下の灰白の粒を含む 良好 谷1	層
705 西谷 軒丸瓦 18.4 7.4 6.8 黒 微細な黒褐色粒を少し含む 良好 谷1	
706 曲 F 近世瓦 5.6 10.3 2.4 浅黄/黒褐/灰白/黒 1mm程の黄灰色の粒をわずかに含む 良好 イブシー部銀化 F2	
707 西谷 丸瓦 16.4 14.5 1.6 黒 3mm 以下の黒色粒をわずかに含む 良好「九州タイプ」吊紐痕あり谷1	
708 西谷 丸瓦 25.6 14.0 1.9 灰 2mm以下の黒褐色粒をごくわずかに含む 良好 台1	
709 西谷 2層 丸瓦 14.6 10.2 1.7 灰 灰色の胎土にところぎころ黄灰のマーブル状を呈する 良好	川層
710 曲J 近世瓦 8.55 8.3 2.1 黒/灰黄 3mm以下の黒褐を多く含む 良好	ı
711 西谷 熨斗瓦 25.8 25.3 2.1 黒 微細な黒褐色粒を少し含む 良好 谷1	
712 曲J 近世瓦 16.7 11 1.9 黒褐/浅黄 3mm以下の黒の粒、2mm以下の灰白の粒を含む 良好 L I	b
713 曲 k 近世瓦 11.85 11.35 1.65 灰/灰白/黒 微細な白色、黒色、光沢の粒を含む 良好 Kベル	· h
714 西谷 桟瓦 22.3 19.8 1.9 暗灰 1mm以下の黒色粒をわずかに含む 良好 宝珠唐草文 谷1	
715 西谷 栈瓦 24.4 20.1 1.9 黑 3mm以下の灰白の粒を含む 良好 栞文、巴文、宝珠唐草文 谷1	
716 * SSI スローブ桟瓦 11.4 10.9 1.7 暗灰 2mm以下の灰白の粒を多く含む 良好 谷2	水の手 スロープ
717 西谷 雁振瓦 24.5 20.3 3.4 黒 微細な黒褐色粒を少し含む 良好 内面ハケ状工具痕 谷1	

第34表 土錘観察表

掲載 No.	出土地点	長さ	^{長量} (cn 幅	n) 内径	重量 (g) f	色調	胎土	形態	焼成	備考	注記名	掲載 No.	出土地点	長さ	量 (cm 幅	n) 内径	重量 (g)	色調	胎土	形態:	焼成	備考	注記名
718	曲 D	(4.1)	1.40	0.50	(6.3) にき	ぶい橙	粗	Α -	-	被熱	A II	763	曲 A3 北ノリ A 層	(3.6)	1.2	0.45	5.2 E	ν	精	АБ	質	片側の端面が面をなす	A3 1層
719	曲 D	(3.7)	1.50	0.45	(7.8) にえ	ぶい橙	粗	Α :	土師質		A II	764	曲 A3	4.5	1.4	0.35	7.5 %	戋黄	精	АБ	質		A3 1層
720	曲D	(3.8)	1.40	0.55	(7.4) にき	ぶい橙	精	D :	瓦質	被熱	A II	765	曲 A3 P215	5.9	1.6	0.4	12.0 ki	こぶい黄橙	精	C In	質		A3 A3-P62
721	曲E	(3.1)	1.50	0.45	(6.5) にる	ぶい橙	粗	Α :	土師質		D1 S II 770	766	曲 A3 P207	(3.1)	1.3	0.3	4.4	炎黄	粗	АБ	質	孔が未貫通	A3 SB15
722	曲F	4.4	1.30	0.25	6.6 黒神	褐	精	Α :	瓦質	ミガキが顕著	D2 スミ中	767	带曲 A3a T3 4層	(3.4)	1.4	0.3	5.2	戋黄橙	粗	А±	師質		オビA2 T1 4層
723	曲F	(5.3)	1.50	0.33	(11.0) にき	ぶい橙	精	Α :	瓦質	端面が面をなす	D2 II	768	帯曲 A3a T1 8 層	3.7	1.3	0.45	5.6 E	灭褐	精	A In	質		オビA2 T1 8層
724	曲F	4.9	1.30	0.24	7.5 にき	ぶい橙	粗	Α :	瓦質		D2 E /9 II	769	帯曲 A3b 1 層	(3.3)	(1.5)	0.45	5.3 (こぶい橙	粗	А±	師質		北 A3-2 1銅
725	曲 F 3 層	(3.8)	1.60	0.50	(8.2) にる	ぶい橙	精	D :	瓦質	端面が面をなす	D2 III	770	帯曲 A3b 1 層	(2.2)	1.0	0.45	1.5 6	こぶい橙	粗	В±	師質		オピ A3
726	曲F	(3.5)	1.45	0.40	(6.1) 明神	褐灰	精	Α :	瓦質		D2 II	771	曲 B1 2 層	5.2	1.1	0.3	6.1	こぶい黄橙	粗	В±	師質		B1 2 層
727	曲 F P461-1	(2.7)	1.25	0.45	(3.7) にき	ぶい橙	粗	D :	瓦質		D2 P 461-1	772	曲 B1	3.2	1.3	0.5	5.0 1	こぶい橙	粗	D±	師質	端面が面をなす	B1
728	曲 E2	(4.7)	1.50	0.45	(9.6) にき	ぶい橙	粗	Α :	土師質	端面が面をなす	F1 S 2	773	曲 B3 I	3.9	1.6	0.7	10.5	こぶい黄橙	粗	D ±	師質	形成が雑	B3 I
729	SG1-2	(2.9)	(1.15)	0.40	(3.1) にる	ぶい橙	粗	Α :	土師質	同一個体か	F1 770	774	曲 B3 I	4.3	1.5	0.5	8.3 1	こぶい橙	粗	D ±	師質	端面が面をなす、指押さ	B3 I
730	SG1-2	(2.4)	(1.20)	0.40	(3.2) にる	ぶい橙	粗	Α :	土師質		F1 🤫 0	775	# B3	4.2	1.8	0.6	11.3 6	こぶい橙	粗	D ±	師質	え調整、形成が雑 端面が面をなす形成が雑	B3 I
731	SG1-2	(4.5)	1.20	0.32	(5.8) 灰白	白	粗	Α :	瓦質		F1 "70 II	776	# B3 I	3.2	1.3	0.4	50 6	こぶい褐	粗		師質	薄く延ばして巻いた粘土層が剥がれ	B3 I
732	曲 E2	(3.2)	1.25	0.30	(3.7) 灰神	褐	精	Α :	瓦質		F1 N 2-17 II											ている、端面が面をなす、形成が雑 端面が面をなす、形成が	
733	曲 E2	(3.1)	1.10	0.35	(3.0) 明神	褐灰	精	Α :	瓦質		F1 S 1-24 3層	777	曲 B3 I	(3.9)	1.5	0.5		こぶい橙	粗		師質	特に雑	B3 I
734	SG1-3 SE	(4.2)	1.35	0.58	(5.6) にき	ぶい橙	粗	Α :	土師質		G2 E 1/10 d SE1	778	曲 B3 I	(3.4)	1.3	0.5		こぶい黄橙	粗			形成が雑	B3 I
735	曲 H1 P13~16	4.5	1.40	0.57	7.0 明神	褐灰	粗	Α :	瓦質	同工品	G2 P 13 ~ 16	779	曲 B3 I	(1.7)	1.3	0.4		こぶい橙	粗		師質		B3 I
736	曲 H1 P13~16	(4.1)	1.40	0.58	(5.6) 明神	褐灰	粗	Α :	瓦質	-	G2 P 13 ~ 16	780	曲 B3 II	(4.3)	1.4	0.55		こぶい橙	精	D ±			B3 II
737	曲 H3	(3.7)	1.50	0.50	(7.8) 明神	褐灰	粗	D :	瓦質	端面が面をなす	111	781	曲 B3 II	(3.2)	1.3	0.4	4.8	こぶい橙	粗	D ±	師質		B3 II
738	曲K 盛 下層	4.0	1.60	0.50	9.2 にき	ぶい橙	粗	Α -		被熱	K T 1	782	曲 B3 2 層	(3.3)	1.6	0.5	7.1 🛊	8	粗	D ±	師質		B3 2 層
739	曲K 盛 下層	(3.1)	1.30	0.35	(3.0) 橙		粗	Α :	土師質	被熱	Kモリ下	783	竪堀 C1b 29~32 層	5.2	1.4	0.3	10.2 ki	こぶい黄橙	粗	Α±	師質		衍 12 29~32層
740	曲K 盛 下層	(4.0)	1.40	0.50	(6.3) 明神	褐灰	粗	Α :	瓦質		Kc 刊下	784	竪堀 C1b 2 層	4.3	1.5	0.4	8.0 \$	黄灰	粗	АБ	質		97計 B2 2 層
741	曲 K SD5	3.5	1.25	0.45	4.5 浅萝	黄橙	粗	Α :	瓦質	端面が面をなす、被熱	K SC6-NE	785	堀 B4	3.3	1.4	0.4	5.2 ki	こぶい黄橙	粗	D A	質	端面が面をなす	ホリ B2
742	曲K	(3.5)	(1.30)	0.40	(3.1) 浅黄	黄橙	精	<u> </u>	瓦質	被熱	Kb II	786	水 表土・造成土	(4.0)	1.3	0.3	5.6 A	끂	粗	Α±	師質	形成が雑	谷2 10層
743	曲K	(2.5)	(1.20)	0.36	(1.8) 褐形	灭	粗	<u> </u>	瓦質		Kb II	787	水 表土・造成土	(2.2)	(1.3)		2.2 A	끂	粗	— ±	師質		谷2 10層
744	曲」	4.1	2.90	0.55	32.1 にぶ		精	Ε :	瓦質	大型品、ミガキが顕著	N SC1	788	水 表土・造成土	(3.2)	1.5	0.6	5.0 %	线黄橙	粗	Α±	師質		谷2 10層
745	SG3	4.1	1.70	0.50	9.4 明神		粗	/ \	_	被熱	P "90 II	789	水	(4.4)	1.5	0.35	8.1 6	こぶい黄橙	粗	Α±	師質		谷 2
746	曲M	(3.1)	1.10	0.30	(3.6) にき		粗		瓦質	被熱	P/IJ II	790	水 北ノリ	(3.6)	1.4	0.4	7.1 ₹	登	粗	D±	師質	端面が面をなす	谷2 北ノリTr
747	曲 A1 P9	3.5	1.2	0.3	4.4 灰黄		粗	Α :			A1 SB2	791	水 SE2 D 上層	(6.7)	2.9	0.8	42.5 ī	赤橙	粗			大型品	谷2 D上層
748	曲 A2 P47	4.2	1.6	0.6	10.9 明礼		粗			端面が面をなす	A2 SB3	792	水	3.8	1.2	0.3	5.4 8	灭黄褐	粗	Α±	師質		谷 2
749	曲 A2 P37	4.6	1.55	0.4	10.1 にる		粗	Α :		10.1m - L 2.mah - W - 10.41	A2 SB2	793	水ホリ	(3.1)	1.5	0.35	6.1 %	5黄	粗	Α±	師質	混和材多い	谷2 ホリ
750	曲 A2 P37	4.4	1.6	0.4	9.4 淡黄	典	粗		瓦質	指押さえ調整、形成が雑		794	水 SE2 下層	(4.0)	1.2	0.35	5.1 [精	C I			谷2 SE2 下層
751	曲 A2 P37	(4.0)	1.5	0.4	6.5 黒	ぶい黄	粗	Α :			A2 SB2	795	水 SE2 下層	4.3	1.5	0.3	9.8 🕏		粗	A In		端面が面をなす	谷2 SE2 下層
752	曲 A2 P37	4.8	1.4	0.25	/-2 橙		粗	Α :		T/ - D / ****	A2 SB2	796	水 SS2 III 下層	3.7	1.5	0.4		こぶい赤褐	粗	A In			谷2 SS2 II 下層
753	曲 A2 P37	4.0	1.3	0.4	5.0 灰白		粗	Α :		形成が雑	A2 SB2	797	水 SS2 III 下層	4.4	1.0	0.3	4.8 E		精	B I			谷2 552 川 下層
754	曲 A2 II 層	4.7	1.4	0.35	7.2 にぶ		粗	Α :			A2 2層	798	水 SS2 III 上層	(3.2)	1.9	0.3	10.0 E	灭	粗	A I	質	端面が面をなす	谷2 552 川 上層
755	曲 A2 II層 -16	(4.2)	1.5	0.45	9.2 KŠ	い黄橙	粗	Α :			A2 2層	799	水 切岸 13 層	(3.9)	1.35	0.4	6.7 E	灭黄	粗	A I	質		谷2 北/リ 3層
756	堀 A3 A-1	2.7	0.8	0.35	1.2 橙		粗		土師質	小型品、巻きつけ痕		800	水 切岸 13 層	(3.6)	1.3	0.4	5.2 🖠	黄灰	粗	A I	質		谷2 北/リ 3層
757	堀 A3 3A 層	(3.5)	1.2	0.3	3.6 浅刻		粗		土師質		#J A2	801	水 切岸 13 層	(3.7)	1.2	0.4	5.0 🛊	曷灰	粗	A I	質		谷2 北ノリ 3層
758	堀 A3 A-1	(2.3)	1.1	0.45	2.8 赤.		粗		土師質		#J A2	802	水 切岸 13 層	(3.7)	1.3	0.35	5.6 E	灭黄褐	粗	A In	質	端面が面をなす	谷2 北/リ 3層
759	堀 A3 B 層	(2.4)	1.0	0.2	1.8 灰白		粗	В :			#J A2	803	水 切岸 12 層	(1.75)	1.2	0.45	2.6 🖟	Ħ.	粗	A I	質		谷3 北/リ 11層
760	堀 A3 B 層	3.8	1.0	0.4	3.9 灰白	白	粗	В :	瓦質		ホリ A2	804	水 SS1 盛土	(2.5)	1.3	0.2	3.2 🛊	曷灰	粗	— I	質		谷2 石グミ上モリ
761	曲 A3	5.0	1.7	0.4	12.8 橙		粗	C :	土師質	-	A3 1層	805	水 SS1 堀 2	(3.2)	(2.0)		6.7 E	灭黄	粗	— I	質	大型品	谷2 ホリ2
762	曲 A3	5.2	1.9	0.7	14.9 褐原	灭	精	Α :	瓦質	大型品、端面が面をなす	A3 1層	806	曲 A4	(4.5)	1.1	0.3	5.1	こぶい黄橙	粗	Α±	師質		谷4 T1

第35表 硯観察表

 掲載 Na
 出土地点
 種別
 器種
 法量 (cm)
 色調
 胎土
 焼成
 備考
 注記名

 807 水切岸
 砚 陶器砚
 4.1
 4.0
 1.85
 灰白
 灰白 精良、灰白 良好 長方形硯の左下隅部、陸部と側縁部に墨が付着 谷2 北川 2層

第 36 表 土製聖人像観察表

 掲載 Na
 | 上地点 Na

 808 左 SG1-2
 這成土屋
 53
 4.00
 1.01
 1.71
 月 20
 20
 1.01
 1.71
 月 10
 20
 1.01
 1.01
 1.01
 1.01
 1.01
 1.01
 1.01
 1.01
 1.01
 1.01
 1.01
 1.01
 1.01
 1.01
 1.01
 1.01
 1.01
 1.01
 1.01
 1.01
 1.01
 1.01
 1.01
 1.01
 1.01
 1.01
 1.01
 1.01
 1.01
 1.01
 1.01
 1.01
 1.01
 1.01
 1.01
 1.01
 1.01
 1.01
 1.01
 1.01
 1.01
 1.01
 1.01
 1.01
 1.01
 1.01
 1.01
 1.01
 1.01
 1.01
 1.01
 1.01
 1.01
 1.01
 1.01
 1.01
 1.01
 1.01
 1.01
 1.01
 1.01
 1.01
 1.01
 1.01
 1.01
 1.01
 1.01
 1.01
 1.01
 1.01

第 37 表 -1 古銭観察表 [注章(cm)

※は推定値

掲載	出土地点	銭種	素材	初鋳年·			法量 (cm)			所見(備考)	注記名
Νo	штиж	X EXIE	71173	177324	外径	内径	穿径	最大銭厚	重量 (g)	יייי (פייייי (אות) אינוער (אות) אות) אינוער (אות) אות) אינוער (אות) אינוער (אות) אינוער (אות) אינוער (אות) אונער (אות) אינוער (אות) אונער (אות) אות אות) אינוער (אות) אינוער (אות) אינוער (אות) אינוער (אות) אינוע	7.5.0.10
809	曲 B2	元佑通寶(行書)	銅	1086	2.5	1.9	0.6	0.1	1.7	1/3 が欠損。背は輪・郭ともに無い	ツウロ B1 2 層
810	曲 B4	紹聖元寶(篆書)	銅	1094	2.5	1.8	0.6	0.1	3	完形品。背は輪・郭ともに無い	B4 II層
811	曲F1 旧 D2 □	人觀通寶	銅	1107	※ 2.49	2.10	0.61	0.12	1.5	周縁部欠損	D2 西側
812	曲 K SB8	洪武通寶	銅	1368	2.24	1.80	※ 0.53	0.14	2.2	錆化激しく銭文は読みにくい。同ピットより他に3枚出土。錆化著しく銭種は不明	. K-29
813	曲H1 旧G2日	※洪武通寶	銅	1368	※ 2.28		0.58	0.12	1.2	周縁部 3/4 欠損	G2 東区 99
814	曲K旧K	区洪武通寶	銅	1368	2.24	1.80	0.49	0.14	1.8	周縁部 1/4 欠損、銭文不明瞭	K
815	曲 B3	洪武通寶	銅	1368	2.2	1.8	0.5	0.4	4.5	面と背が錆着し2枚重なる、表面がざらつき、重量も軽い、模鋳銭か?	B3 II層
816	曲 B3	洪武通寶	銅	1368	2.2	1.9	0.6	0.1	2.2	完形品	B3 P173
817	堀 A1	永楽通寶	銅	1408	2.5	2.1	0.6	0.2	4.8	完形品、輪側に斜行する削痕あり	刺 A1 2 層
818	竪 C1b	永楽通寶	銅	1408	2.4	2	0.5	0.1	1.8	一部欠損	タテネリ B12 層
819	曲H1 旧G2	永楽通寶	銅	1408	2.53	2.00	0.53	0.11	1.7	一部欠損、背の輪・郭は不明瞭	G2 東区 99
820	竪 C1b	宣徳通寶	銅	1433	2.5	1.9	0.5	0.1	2.7	一部欠損	タデホ [*] リ B1 2 層
821	曲 B3	寛永通寶①	銅	1636	2.5	1.9	0.5	0.1	3.5	完形品、背は輪・郭ともに広い	B3 表土

第 37 表 -2 古銭観察表

※は推定値

掲載	111 -11-14		±++	+m+±/=			法量 (cm)			記目 (供表)	24-57.67
Νo	出土地点	銭種	系例	初鋳年	外径	内径	穿径	最大銭厚	重量 (g)	所見(備考)	注記名
822	曲 G SD3	寛永通寶①	銅	1636	2.56	1.90	0.59	0.13	3.0	完形品	G1 SD3 埋土
823	曲K SD1	寛永通寶①	銅	1636	2.48	1.90	0.48	0.16	3.8	完形品	K SC5 20-1
824	曲 B3	寛永通寶①	銅	1636	2.5	2	0.5	0.1	4.1	完形品、背は輪・郭ともに広いが不明瞭	B3 表土
825	曲 B3	寛永通寶①	銅	1636	2.5	2	0.5	0.1	2.4	完形品、背の輪・郭は不明瞭	B3 表土
826	曲 B3	寛永通寶②背「文」	銅	1668	25	2.1	0.6	0.1	3.1	完形品	B3 表土
827	曲H1旧G2区	寛永通寶②背「文」	銅	1668	2.52	1.90	0.56	0.12	2.4	完形品。背の輪は広く、銭文は細字	G2 東 99-1
828	曲 B3	寛永通寶③	銅	1697	2.5	2	0.5	0.1	3.5	完形品	B3 直交トレンチ東側 表土
829	SG1-2 表土	寛永通寶③	銅	1697	※ 2.28	1.90	0.59	0.09	1.5	周縁部欠損、銭文は薄肉、背の輪・郭は鬆明瞭	F1 770
830	曲 B1	寛永通寶③	銅	1697	2.4	1.9	0.6	0.1	2.3	完形品、背の輪・郭は不明瞭	B1 表土
831	曲 B3	寛永通寶③	銅	1697	2.4	1.9	0.6	0.1	2.2	一部欠損	B3 直交トレンチ東側 表土
832	曲 B3	寛永通寶③	銅	1697	2.4	1.8	0.6	0.1	2.8	完形品、背の輪・郭は不明瞭	B3 表土
833	曲 A	寛永通寶③	銅	1697	2.25	1.80	0.56	0.08	1.7	穿と背の郭が一致せず、輪も下方にずれる	A1
834	曲 G SD3	寛永通寶③	銅	1697	2.48	1.90	0.54	0.15	3.0	完形品	G1 SD3 埋土
835	曲 A1 -1 層	寛永通寶③	鉄	1739	2.4	1.9	0.6	0.1	2.8	完形品、銹化激しく銭文は不鮮明	A1 ///F
836	曲G旧G1	寛永通寶③	鉄	1739	※ 2.36		※ 0.57	0.15	1.5	1/2 以上欠損、背は輪・郭ともに広い	G1 h T1 II
837	曲 B3	寛永通寶③背「元」	銅	1741	2.3	1.7	0.6	0.1	1.8	一部欠損	B3 表土
838	曲 A1	寛永通寶4文銭	銅	1768	2.83	2.10	0.62	0.10	3.4	完形品。	A II
839	曲 B4	開元通寶	銅	960	2.40	1.80	0.60	0.10	23.6	7 枚重なるが錆着強く剥離できず、残り 5 枚の銭種は不明。元祐通寶は篆書体	D4 T4 16 B
037	曲 B4	元祐通寶		1086	2.5	2	0.6	0.1		/ 作文主なるが明白強く利能できず、7次ソコ 次の政権は小明。 几何进員は家吉平	D4 14 10/B
840	曲 B4	政和通寶	銅	1111	2.4	2.1	0.6	0.1	10.6	3枚重なるが錆着強く剥離できず、残り2枚の銭種は不明。面・背・面に重なるか	?
040	曲 B4	銭種不明	到門		2.5		0.6	0.2		三枚目は背の輪・郭無い	—B4 T4 16層
841	曲 B4	至元通寶	銅	1285	2.5	1.7	0.5	0.1	3.3	完形品、銭文は行書体,面・背ともに輪が広い	—B4 14 10/B
842	曲 B4	元祐通寶	銅	1086	2.5	1.8	0.6	0.1	4.4	銭文は行書体でやや潰れる,背の輪・郭は不明瞭	_
843	曲 G SD2	寛永通寶③	銅	1697	2.31	1.80	0.57	0.12	2.7	157-2 と背合わせ	—G1 SD2
844	曲 G SD2	寛永通寶①	銅	1636	2.43	1.80	0.54	0.13	3.3	157-1 と背合わせ	-G1 3D2
845	曲 G SD2	寛永通寶①	銅	1636	2.33	1.80	0.56	0.13	3.1	完形品、六道銭1枚目、2枚目と背合わせ	_
846	曲 G SD2	寛永通寶①	銅	1636	2.42	1.90	0.56	0.12	2.3	周縁部一部欠損、六道銭2枚目、3枚目と面合わせ	_
847	曲 G SD2	寛永通寶①	銅	1636	※ 2.45	1.90	0.57	0.12	1.5	周縁部欠損、六道銭3枚目、4枚目の面と付く	—G1 SD2-1
848	曲 G SD2	寛永通寶①	銅	1636	2.50	2.00	0.55	0.15	3.9	完形品、六道銭4枚目、5枚目と背合わせ、錆化激しく銭文不鮮明	—G1 3D2-1
849	曲 G SD2	寛永通寶①	銅	1636	2.46	2.10	0.67	0.13	3.2	完形品、六道銭5枚目、6枚目と面合わせ、錆化激しく銭文不鮮明	
850	曲 G SD2	寛永通寶①	銅	1636	2.40	2.00	0.59	0.13	2.6	完形品、六道銭6枚目、銭文細字で背の輪・郭不明瞭	
851	曲 K SD5	寛永通寶①	銅	1636	2.54	2.00	0.61	0.12	2.9	完形品、銭文はやや潰れる、六道銭1枚目2枚目の面と背が付く、穿と背の郭が大きくずれ	5
852	曲 K SD5	寛永通寶①	銅	1636	2.45	2.00	0.57	0.11	2.6	完形品、銭文はやや潰れる、六道銭2枚目、3枚目と背合わせ	
853	曲 K SD5	寛永通寶①	銅	1636	2.57	2.00	0.58	0.12	2.6	完形品、六道銭3枚目、4枚目の背と付く	K SC6 20-1
854	曲 K SD5	寛永通寶①	銅	1636	2.52	1.90	0.54	0.12	3.0	完形品、六道銭4枚目、5枚目と面合わせ	
855	曲 K SD5	寛永通寶①	銅	1636	2.49	1.80	0.56	0.16	4.4	完形品、六道銭5枚目	
856	曲 K SD5	洪武通寶	銅	1368	2.29	1.90	0.62	0.14	2.4	完形品、六道銭1枚目、2枚目と背合わせ	
857	∰ KSD5	永楽通寶	銅	1408	2.50	2.10	0.49	0.13	2.8	完形品、六道銭2枚目、3枚目の背と付く	K SC6 20-2
858	曲 K SD5	洪武通寶	銅	1368	2.34	2.00	0.61	0.13	2.4	完形品、六道銭3枚目	

第 38 表 銅製品観察表 温量(cm)

※は最大径

掲載	010 T 106 E	004	n+ (1)		法重	(cm)		~-	N-=3.6
Νο	出土地点	器種	時代	最大長	最大幅	最大厚	重量(g	- 所見)	注記名
859	堀 A3	笄	中世	9.40	1.20	0.30	6.90	先端部は欠損、上部が曲がっている	圳 A2 B 層
860	水 SE2 中層	笄	中世?	(7.2)	1.10	0.20	4.50	箆状、完形品だが中程で折れ曲がっている	谷 2 SE2 D 中層
861	曲 B3	筓	近世	3.70	1.30	0.40	9.10	刀装具? 下部は欠損している、蛸か蜘蛛が浮き彫りされている	B3 表土
862	曲F3 旧F2区	目賞	近世	4.10	1.40	0.65	4.30	刀装具、花文が施される	F2 II 層
863	曲F3 旧F2区	蝶番	近世	3.00	2.85	0.40	6.70	一部を内に折り返している	層
864	曲 K SD5	飾金具	近世	※ 2.1		0.05	0.80	座金は線刻菊文、外面に鍍金、鋲は破損	SC6 No.15
865	曲 K SD5	飾金具	近世	※ 2.1		0.05	0.90	座金は線刻菊文、外面に鍍金、鋲足欠損	SC6 No.16
866	曲 K SD5	飾金具	近世	※ 1.7		0.05	0.50	座金は線刻菊文、外面に鍍金、座金の周縁部と鋲足欠損	SC6 No.22
867	曲 K SD5	飾金具	近世	※ 2.1		0.05	1.00	座金は線刻菊文、外面に鍍金、鋲足欠損	SC6 No.23
868	曲 K SD5	飾金具	近世	※ 2.0		0.05	1.40	座金は線刻菊文、外面に鍍金、鋲足残るが接合不可	SC6 No.24
869	堀 D1	環金具		※ 3.5		0.40	6.70	両端先細りの棒状製品を楕円形に成形している、鍍金	ホリ
870	曲 A3 2層	雁首	近世	4.90	1.20	0.10	4.70	雁首、根元がつぶれているが完形品	A3 II層
871	堀 D1	雁首	近世	4.40	1.60	1.00	5.30	雁首、根元がややつぶれる、首部上面に接合痕	ABTr
872	曲月 旧区区	雁首	近世	3.85	1.05	1.00	5.20	鴈首、火皿欠損	LI層

第39表-1 鉄製品観察表

掲載	出土地点		器種	時代		法	法量 (cm)		 所見	注記名	7
Νo	山土地無		位计里	PG1 C	最大長	最大幅	最大厚	重量(g) nix	/±86/€	
873	曲 K SD5	釘		近世	2.80	1.25	0.50	1	1.40 頭部は横方向、頭部から 1.1 c m以は斜め方向の木質残存	K SC6 No.1	
874	曲 K SD5	釘		近世	3.40	1.00	3.00	(0.90 釘本体は失われている、頭部は横方向、頭部から 1.0 cm以下は縦方向の木質残存	K SC6 2	
875	曲 K SD5	釘		近世	4.70	1.35	0.50	2	2.50 頭部は横方向、頭部から 1.0 c m以下は縦方向の木質残存	K SC6 No. 3	
876	曲 K SD5	釘		近世	4.30	1.00	0.50	1	1.70 頭部は横方向、頭部から 1.0 c m以下は縦方向の木質残存	K SC6 No. 4	
877	曲 K SD5	釘		近世	4.75	1.10	0.70	2	2.40 頭部は横方向、頭部から 0.9 c m以下は縦方向の木質残存	K SC6-5	
878	曲 K SD5	釘		近世	3.90	1.50	0.70	1	1.50 頭部欠損、縦方向の木質残存	K SC6-6	
879	曲 K SD5	釘		近世	4.20	1.90	0.30	2	2.50 頭部は横方向、頭部から 1.1 c m以は斜め方向の木質残存	K SC6 № 9	
880	曲 K SD5	釘		近世	3.80	0.95	0.70	2	2.20 頭部欠損、縦方向の木質残存	K SC6 No. 12	
881	曲 K SD5	釘		近世	3.40	1.55	0.60	1	1.90 先端部欠損、頭部は横方向、頭部から 1.0 c mは縦方向の木質残存	K SC6 № 13	
882	曲 K SD5	釘		近世	3.30	0.80	0.40	1	1.10 頭部欠損、縦方向の木質残存	K SC6 № 14	
883	曲 K SD5	釘		近世	2.95	0.60	0.50	(0.70 頭部欠損、縦方向の木質残存	K SC6 No. 17	
884	曲 K SD5	釘		近世	4.40	1.00	0.60	2	2.30 頭部は横方向、頭部から 1.2 c m以下は縦方向の木質残存	K SC6-18	
885	曲 K SD5	釘		近世	5.20	1.40	0.50	3	3.20 2本の細い釘が銹着している、横方向の木質残存	K SC6 № 22	
886	曲 K SD5	釘		近世	3.10	1.00	0.50	2	2.20 先端部欠損、頭部は横方向、頭部から 1.0 c mは縦方向の木質残存	K SC6 № 27	
887	曲 K SD5	釘		近世	4.50	1.20	0.70	2	2.70 頭部は横方向、頭部から 1.0 cm以下は縦方向の木質残存	K SC6 № 28	
888	曲 K SD5	釘		近世	3.70	1.15	0.40	1	1.10 頭部欠損、縦方向の木質残存	K SC6 北西部	β

第39表-2 鉄製品観察表

掲載			時代		法	量 (cm)		- 所見	注記名
Νo	山土地無	器種	PQ10	最大長	最大幅	最大厚	重量(g)	- nix	/INI-0
889	曲 K SD5	釘	近世	5.10	0.95	0.60	2.30	頭部は横方向、頭部から 0.9 c m以下は縦方向の木質残存	K SC6 北西部
890	曲 K SD5	釘	近世	4.30	0.85	0.50	1.70	頭部は横方向、頭部から 0.9 c m以下は縦方向の木質残存	K SC6 北西部
891	曲 B3 P173	釘		3.70	0.40	0.40	1.50	断面方形、先端部分は欠損	B3 P173
892	水窪 区下層	釘		4.60	0.60	0.40	2.20	先端は頭部の 1/4 の細さに先細る	谷 2 II B 22 層
893	曲 A3 1層	釘		4.50	0.80	0.50	3.10	断面方形の棒状で先が欠損している、頭部の折れは緩い	A3 (盛土)
894	曲 A3 2層	釘		3.60	0.40	0.40	1.30	両端が細くなっている、合釘か?	A3 II層
895	水 SS1 堀 2	釘		3.20			4.00	錆により中空になり、頭が膨れている	谷2 ホリ2 埋土
896	曲 A3 2層	釘		3.30	0.30	0.30	1.40	○釘、頭部は方形である	A3 II層
897	带 A3a	釘		9.70	0.60	0.40	4.30	両端欠損、下部がやや細くなるため釘か?断面方形	オビA2 T1-8層
898	SG2-2 8層	釘		3.30	1.60	0.45	7.20	断面長方形の大型釘、頭部折れる	Q 770 94
899	曲 A3 A3-P223	鎹		9.00	2.00	1.00	54.10	半分欠損	A3 P223
900	曲 B4	鎹		8.90	1.00	0.30	15.50	半分欠損	B4 13
901	曲 D2	穿孔のある鉄片		6.30	3.65	0.85	29.60	左側欠損	C T 2 S9- 1
902	曲 B3	紡錘車	中世	4.50	0.80	0.80	13.90	ドーム状鉄板の中心に軸が通る、軸の両端は欠損	B3 P21 埋土
903	曲 H1 旧 G2 🛭	₹ 鎌		6.30	2.05	0.45	11.60	上辺は弧状、下辺は直線で刃部を持つ	G 2
904	曲 B4	刀子		6.90	1.00	0.40	13.50	関無し、接合不可	B4 11
905	水 SS1 スローフ	゚゙ヤリ	中世?	15.00	5.30	1.70	525.80	錆膨れがひどく刃部は確認できない、両端部欠損。鎬はなく、関は斜めに落ちる、茎長 8.3 cm	谷2 SS1 スローブ 4層
906	曲 B3	鍋		3.30	2.80	0.30	9.00	鋳造品、口縁部内側が玉縁状となる	B3 II層
907	水 SF 24b層	板状片		5.10	5.20	0.60	28.60	鋳造品	谷 2 SF 36層
908	曲M 旧P区	轡		6.05	5.50	0.40	35.30	素環轡、断面方形の引手が衝が残る	PII層

第 40 表 鍛冶関連遺物観察表

掲載出土地点	種類	計	測値(cm)	- - -		金属分析		
No. ELTER	性規	長さ	幅	重量 (g) 佣伤	分析番	所見 所見	- 注記名	
909 曲 M M-SC1	羽口	3.8	3.1	11.0	にぶい赤褐、厚さ 5mm、内径 5.6cm。表面に鉄滓が付着している。			X SC6	
910 曲H3 旧区	羽口	2.3	4.2	18.3	内面:浅黄橙、外面:橙、厚さ 2.7cm、内径 2.1cm。			I	
911 曲H3 旧区	羽口	5.5	3.9	35.0	内面:浅黄橙、外面:にぶい褐、厚さ 1.0cm、内径 2.3cm。表面に鉄滓が付着している。 胎土はきめ細かく、断面にはスサのような繊維痕がみられる。			1	
912 南	羽口	3.9	3.3	15.1	内外面: にぶい橙、厚さ 2.3cm、内径 10.1cm。910・911 とは胎土が異なり、砂粒を多く含む。			表採	
913 SG3	炉壁 + 鉄滓	12.3	7.9	359.0	重量感がある。炉壁の反対側に面を持つ。			V 道路遺構 1	
914 SG3 SG2	炉壁	6.0	9.5	170.0	接合資料。			V道路遺構 1SE1	
915 SG3	炉壁	6.3	6.5	99.0	強い熱影響を受け内面が黒色ガラス質化。胎土部分は橙色の粘土質で、真砂や籾殻を大量に飽和している。	1	耐火度 1107℃の炉壁	V 道路遺構 1	
916 SG3	炉壁	4.2	4.8	51.0	内面は黒色ガラス質化。			V 道路遺構 1SE1	
917 SG3	炉壁 + 鉄滓	6.2	10.2	183.0	強い熱影響を受けて、内面が黒色ガラス質化。上面に面を持つ。			V 道路遺構 1	
918 曲 M M-SC1	鉄塊系遺物	3.0	3.2	11.0	表面全体を黄褐色の土砂に覆われており、表面の状態が判然としないが、全体にごく細かい凹凸がみられる。表面に木炭破片が付着する。	6	鋳鉄塊、鍛冶原料鉄(製錬鉄塊系遺物)か	X SC6	
919 曲 M M-SA2	鉄塊系遺物	2.3	2.1	4.0	小型で不整形。表面全体は黄褐色の土砂に覆われており、銹化割れが生じている。軽い 質感。	9	鋳鉄塊、鍛冶原料鉄(製錬鉄塊系遺物)か	X SA2	
920 曲 M M-SA2	鉄塊系遺物	1.9	1.5	1.4	小型で不整形。表面全体は黄褐色の土砂に覆われている。			X SA2	
921 曲 M M-SC1	鉄滓破片	3.8	4.8	14.0	海綿状になっており、軽量である。			VII SC3	
922 曲 M M-SX1	鉄片	3.9	2.8	9.0	黄褐色の土砂で覆われている。			X SX1	
923 SG3	椀形鍛冶滓	6.6	9.8	200.0	重量感がある。一側面に直線上の破面がみられる。			V 道路遺構 1	
924 SG3	椀形鍛冶滓	5.2	10.5	150.0	細長い形状で、上面は中央が窪む。側面一面が大きな直線上の破面。表面は黄褐色の土砂で覆われている。重量感があり、下面には長さ1cm 前後の木炭片が多数散在する。	4	砂鉄を始発原料とする精錬鍛冶滓	V 道路遺構 1SE1	
925 SG3	鉄塊系遺物	3.3	4.6	57.0	表面が黄褐色の土砂で覆われ、放射割れが生じている。小型椀状で重量感がある。	3		V 退路返備 ISE1	
926 SG3	鉄塊系遺物	2.3	2.9	13.0	黄褐色の土砂で覆われている。表面の一部が剥落しており、茶褐色の鉄銹化物が露出している。全体に軽い質感。	2	炭素含有量の高い鉄塊、鍛冶原料鉄(製 錬鉄塊系遺物)か	V 道路遺構 1SE1	
927 SG2	椀形鍛冶滓	4.3	6.6	74.0	小型完形の椀形鍛冶滓。表面は黄~茶褐色の土砂で薄く覆われる。上下面とも細かい木 炭痕が多く付着。表面の気孔状の穴は少なく、緻密な滓。	5	鍛錬鍛冶滓	IX道路遺構 2	
928 SG1-2	鉄滓	3.2	4.3	27.3	木炭痕による凹凸が激しい。			Ⅱ 道路遺構 1SE1	
929 SG2	鉄滓	7.2	8.6	143.0	炉壁がガラス化した部分がみられる。			IX 道路遺構 2	
930 曲 K	鉄滓	2.6	3.2	14.7	発泡している。所々、木炭痕による凹凸がみられる。			VIII t" 71	
931 曲	椀形鍛冶滓	4.3	9.4	148.0	重量感がある。平面形は長方形。底面には木炭の付着が多くみられる。			VI	
932 曲G 旧G1区	椀形鍛冶滓	6.8	7.5	130.0	やや扁平。側面一面が直線上の破面で、本来は楕円形に近い形状と推測される。表面は 黄~茶褐色の土砂で覆われている。上面は中央が窪む。	10	鍛錬鍛冶滓	IV	
933 曲6 旧61区	椀形鍛冶滓	4.2	4.8	50.0	瓦質土器が付着した状態で出土。下面一部が破面。黄~茶褐色の土砂付着。木炭痕による凹凸が著しい。	11	鍛錬鍛冶滓	IV	

第41表-1 鍛冶関連遺物観察表(未掲載分)

出土地点	種類		計測値 (c	m)	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	注記名					
штим	1至大尺	長さ	幅	重量 (g)	ב" אוע						
SG1-3	炉壁			45.5		V 道路遺構 1					
曲M SC1	鉄塊系遺物			10.0	表面を一部土が覆っている。 $2\sim4\mathrm{mm}$ の木炭が多く付着している。木が朽ちて空洞となっている箇所がある。	X SC6					
曲M SC1	鉄塊系遺物			13.0	表面を一部砂が覆っており、不明な部分が多い。2~3mmの木炭が付着している。	X SC6					
曲M SC1	銹化鉄			0.02		X SC6					
曲M SC1	鉄塊系遺物			11.0	8点。土に覆われている。	X SC6					
曲 M SC1	鉄塊系遺物・ 銹化鉄			11.0	10点。土に覆われている。炭化物が付着しているものや、炭化物が朽ちて空洞となっているものが多い。	X SC6					
曲M SC1	鉄滓			0.5	発泡しており、一部ガラス質となる。軽量。	X SC6					
曲 M SA2	鉄塊系遺物			4.0	発泡しており、軽石状である。片面は土砂で覆われている。	X SA2					
曲 M SA2	鉄塊系遺物			5.0		X SA2					
曲 M SA2	鉄塊系遺物· 鉄滓			5.5	3点。	X SA2					
曲 M SA2	鉄滓			3.9		X SA2					
曲 M SA2	鉄滓			0.3	ガラス質。	X SA2					
曲 M SA2	鉄滓破片			0.08		X SA2					
SG2-2	鉄滓破片			1.0		IX 道路遺構 2					

第41表-2 鍛冶関連遺物観察表(未掲載分)

出土地点	種類	İ	計測値 (d	:m)	備考	注記名	
ш⊥чеж		長さ	幅	重量 (g))推与	/#80/40	
шL	鉄滓破片			1.0		IX	
SG2-1	鉄滓破片			1.8		VI道路遺構 2	
шJ	鉄滓破片			4.2		VII	
SG1-3	鉄滓			4.1		V 道路遺構 1	
SG1-3	鉄滓破片			3.4		V 道路遺構 1SE1	
SG1-3	鉄滓破片			3.1		V 道路遺構 1SE1	
曲G SD1	鉄滓破片			0.6		IV SD1	
SG1-2	鉄滓			13.7 小	・ ・ ・ ・ ・ 大 ・ 大 が 付着している。	II 道路遺構 1SE1	

第42表 樹種分類表

分類	樹種
a	イスノキ科イスノキ属イスノキ
b	イネ科タケ亜科
С	カキノキ科カキノキ属
d	カツラ科カツラ属カツラ
e	クスノキ科クスノキ属
f	クスノキ科クスノキ属クスノキ
g	グミ科グミ属
h	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ

分類	樹種
i	スイカズラ科ガマズミ属
j	スギ科スギ属スギ
k	ツツジ科スノキ属シャシャンボ
-1	ツバキ科ツバキ属
m	ツバキ科サカキ属サカキ
n	ツバキ科ヒサカキ属
0	ツバキ科モッコク属モッコク
р	ブナ科クリ属クリ

分類	樹種
q	ブナ科コナラ属アカガシ亜属
r	ブナ科コナラ属コナラ亜属クヌギ節
S	ブナ科シイ属
t	マツ科マツ属〔二葉松類〕
u	マメ科イヌエンジュ属イヌエンジュ
v	ヤブコウジ科ツルマンリョウ属タイミンタチ バナ
w	ヤマザクラ or カバ
х	ヤマモモ科ヤマモモ属

第43表 木製品(生活用品)観察表

() 内は推定復元値

第4	13 表 木	:製品 (生活	明品)観察	?表			()内	は推定復元値
掲載 No.	出土地点	器種	部位	樹種 -		法量 (cm) 底径	厚さ 木取り等	備考	注記名
934	水窪Ⅲ区	漆器椀	口~底	d	(12.2)	(8.1)	1.0 板目	外面に漆、器高 (5.5cm)	水Ⅲ区
935	水窪Ⅲ区	漆器椀	口~底	d	(14.0)	(3.95)	1.1 板目	外面に漆、赤漆で桐文、器高 5.55cm	水Ⅲ区
936	水窪Ⅲ区	漆器椀		f	(15.6)		0.4 板目	内外面に漆、赤漆で木葉	水Ⅲ区
937	水窪I区中層	漆器椀		f			0.3 板目	外面黒漆、内面赤漆、外面に赤漆の文様	水 区中層
938	水窪 区	漆器椀	底	u		(8.0)	0.5 板目	高台内外、見込みに漆	水I区
939	水 SE2 上・中層	桶	蓋	j	24.6	5.3	1.6 柾目	939と結合。外面に漆、側面に木釘(イネ科タケ亜科)残存	水 SE2 上・中層
940	水 SE2 上・中層	桶	蓋	j	15.4	4.2	1.4 追柾目	939 と結合。941 と同一、外面に漆。側面に結合部	水 SE2 上·中層
941	水 SE2 上・中層	桶	蓋	j	10.1	5.9	1.4 板目	939・942 と結合。940 と同一、外面に漆。木釘(タケ亜科か)残存	水 SE2 上·中層
942	水 SE2 上・中層	桶	蓋	j	22.5	5.5	1.5 板目	941・943 と結合。外面に漆・外面中央に結合部(タケ亜科か)	水 SE2 上・中層
943	水 SE2 上・中層	桶	蓋	j	33.2	5.5	1.5 追柾目	942・944 と結合。外面に漆、側面に結合部(タケ亜科か)	水 SE2 上·中層
944	水 SE2 上・中層	桶	蓋	j	31	5.5	1.55 板目	943・945 と結合。外面に漆、木釘(イネ科タケ亜科)残存	水 SE2 上·中層
945	水 SE2 上・中層	桶	蓋	j	24.5	5.5	1.65 板目	944 と結合。外面に漆、側面に結合部	水 SE2 上・中層
946	水 SE3 検出面	桶	底板	j	19	7.3	0.65 柾目	外面に漆、刃切り痕	水 SE3 検出面
947	水 SE2 埋土上層	桶	底板	j	20.8	5.5	0.5 板目	外面に漆、端面に側板が残存	水 SE2 埋土上層
948	水 SF1 堀り方内	桶	把手	h	(18.5)		1.8 板目	孔に革が残存	水 SF1 堀り方内
949	水窪Ⅰ~Ⅲ区	折敷	底板	h	23.2	3.95	0.75 柾目	2箇所に綴皮残存	水Ⅰ~Ⅲ区
950	水窪I区中層	角切・折敷	底板	h	23.75	4.8	0.7 柾目	刃辺り痕	水 区中層
951	水 SE3 検出面	角切・折敷	底板	h	26.9	6.4	0.85 柾目	3 箇所に綴皮残存	水 SE3 検出面
952	水窪I区中層	折敷か	底板か	h	10.5	1.4	0.55 板目	2 箇所に綴皮残存	水 区中層
953	水 SE2 埋土中層	曲物	底板	h	12.1	(10.0)	0.8 追柾目		水 SE2 埋土中層
954	水窪 区上層	曲物	底板	h	11.15	11.45	0.9 追柾目	側面に三箇所の木釘跡	水 区上層
955	水窪川・川区中層	曲物	底板	h	13.4	12.3	0.9 柾目		水 川・川区中層
956	水窪I区中層	曲物	底板	h	11.9	2.9	0.5 板目	側板の綴じ革、側板の接着部に漆	水 SS2 III 区中層
957	水 SE2 検出面	曲物	底板	h	10.75	(5.0)	0.95 板目		水 SE2 検出面
958	水窪 区中層	曲物	側板		(31.9)	(3.9)	0.2 板目		水 区中層
959	水窪川区中層	曲物	側板	h	(12.8)	(3.5)	0.7 柾目	内面に刻み目	水 SS2 III 区中層
	水窪 区上層	曲物	側板		(9.1)	(2.8)	0.3 柾目	内面に刻み目	水 区上層
	水窪 区上層	曲物	側板		(10.5)	(3.6)	0.25 柾目	内面に刻み目	水 区上層
	水窪 区上層	曲物	側板		(9.2)	(2.4)	0.3 柾目	内面に刻み目、3箇所に綴皮孔、うち1箇所に綴皮残存	水 区上層
963	水窪 区中層	曲物	側板	h	(21.4)	(1.9)	0.3 柾目	内面に刻み目・一部炭化、革綴孔が2箇所	水 区中層
964	水窪川区中層	曲物	側板		(19.4)	(1.8)	0.3 柾目	内面に刻み目・表面に煤、革綴孔が2箇所	水 SS2 III 区中層
	水窪川区中層	曲物	側板		(12.0)	(4.5)	0.2 柾目	内面に刻み目	水 SS2 III 区中層
	水窪 区上層	曲物	側板		(10.6)	(2.7)	0.3 柾目	内面に刻み目	水 区上層
967	水窪 区上層	曲物	側板		(12.5)	(5.7)	0.3 柾目		水 区上層
	水窪 区上層	曲物	側板		(13.6)	(1.7)	0.2 柾目		水 区上層
	水窪 ~ 区	曲物	側板		(4.2)	(4.55)	0.25 柾目	内面に刻み目	水 1~Ⅲ区
	水窪川区中層	曲物	側板		(5.2)	(2.8)	0.2 柾目	1 Smit = 575.5 lm	水 SS2 III 区中層
	水窪川・川区下層	曲物	側板		(12.5)	(1.95)	0.15 柾目	内面に刻み目	水川・川区下層
	水窪 ・ 区下層	曲物	側板		(8.0)	(1.93)	0.13 柾目	内面に刻み目	水川・川区下層
	水窪 ~ 区	曲物	側板		(21.0)	(2.2)	0.1 征日	黒色物付着	水 ~ 区
	水窪川区	柄杓	柄	h	69.9	2.2	2.0 板目	先端から 13.3cm部分に孔あり	水川区
	水窪川区	柄杓	柄	h	(45.6)	(1.6)	1.1 板目	先端に楔を打ち込む孔あり、先端が一部欠損のため、身の法量は不明	水Ⅲ区
	水窪 区中層	糸巻き	横木	i	(14.9)	(4.2)	0.7 柾目	軸孔は2×1.8cmの楕円形	水 区中層
	水窪川区中層	株	腕木	j	(13.0)	(1.5)	1.2 柾目	中央に 2.3 × 0.8cm の長方形の孔あり	水 SS2 III 区中層
	水窪川・川区下層	綴革	meris	W	(12.1)	(1.4)	0.2	綴皮用の素材か	水 川・川区下層
	水窪 ~ 区	不明	底板か	q	(5.3)	(5.6)	1.6 板目	漆付着か	水 1~Ⅲ区
	水窪 ~ 区	不明	EVIIXA	t t	(5.0)	(2.35)	2.45	側面全体を加工	水 1~Ⅲ区
	水窪川・川区下層	不明		t	(17.2)	(4.5)	3.4 板目	角を面取り。再加工の痕跡あり	水 ・ 区下層
	水窪川区中層	不明			(12.8)	(1.7)	0.1 柾目	7 3 to page 95 7 0 1 3 3 H	水 SS2 III 区中層
702	小注□位于盾	1 73			(12.0)	(1.7)	V.1 但日		.,, JJE EC.T/E

第 44 表 木製品(木杭・柱材等)観察表

掲載			data.	nn tæ	1+1-625	法量	(cm)	/ Valent	4-10.	n+n-	
No.	出土均	1点	杌No.	器種	樹種	残存長	最大径	-分類	先端(エロばく	所見
983	水窪 SF1			井戸枠	f	54.9	54.8				1/4 は欠損
984	水窪 川区	上・中層		柱材?	t	185.1	12.3	A1	多方向、	多数面	上方を垂直に切り落とす
985	水窪 川区	上・中層		杭	t	90.2	6.2	A1	2方向、	多数面	全体を面取り
986	水窪		石積2-4	杭	q	61.1	2.9	A2	3方向、	3面	
987	水窪		SS2- No. 4	杭	- 1	76.7	4.2	С	欠損のた	め不明	
988	水窪		SS2-杭2	杭	0	88.5	3.6	C	欠損のた	め不明	枝を切り落とした跡あり
989	水窪		SS2- No. 6	杭	q	69.5	3.0	С	欠損のた	め不明	
990	水窪		SS2- No. 3	杭	٧	22.0	3.2	A1	多方向、	5面	
991	水窪			胴木	Т	154.5	6.3	A2	1方向、	3面	ツタの跡が残る
992	水窪			胴木	0	107.7	4.5	В	2面		
993	水窪			胴木	а	243.5	13.5				全面に幅3~4㎝程度の工具痕
994	水 SS2(北側)		1	杭		17.7	28.0	A2	1方向、	2面	
995	水 SS2(北側)		93	杭		22.4	2.9	A2	3方向、	3面	上部残存(接合不可)
996	水 SS2(北側)		2	杭		28.1	3.4	A1	2方向、	3面	枝を切り落とした跡あり
997	水 SS2(北側)		84	杭		26.5	4.0	A2	1方向、	3面	
998	水 SS2(北側)		85	杭		89.1	4.2	С	不明 (2	(面か)	折れにより接点が欠損
999	水 SS2(北側)		86	杭		40.9	4.0		多方向、	5面	
1000	水 SS2(北側)		87	杭		49.8	4.2	A1	3方向、	3面	
1001	水 SS2(北側)		88	杭		46.6	3.6	A2	1方向、	2面	
1002	水 SS2(北側)		89	杭		17.6	3.0		腐食のた	め不明	
1003	水 SS2(北側)		91	杭		35.7	5.3	A1	3方向、	2面	
1004	水 SS2(北側)		90	杭		56.8	4.2	A1	多方向、	5面	
1005	水 SS2(北側)		115	杭		23.6	3.6	A2	1方向、	1面	
1006	水 SS2(北側)		125	杭		23.7	4.7	A2	1方向、	4面	
1007	水 SS2(北側)		117	杭		42.4	5.0	A2	1方向、	2面	
1008	水 SS2(北側)		114	杭		33.7	3.9	A2	1方向、	1面	
1009	水 SS2(北側)		112	杭		22.2	3.8	A2	4方向、	多数面	
1010	水 SS2(北側)		119	杭		35.3	4.3	A1	多方向、	多数面	上端部が炭化
1011	水 SS2(北側)		120	杭	t	59.3	3.1	A2	3方向、	多数面	
1012	水 SS2(北側)		118- ①	杭	g	34.0	5.3	A2	3方向、	3面	
1013	水 SS2(北側)		118- ②	杭		49.6	5.0	A2	1方向、	3面	先端欠損
1014	水 SE3(北側)		4	杭		20.3	4.3		多方向、	6面	
1015	水 SE3(北側)		5	杭		41.7	5.5	A1	多方向、	多数面	
1016			8	杭	q	46.8	11.7	A1	多方向、	多方面	
1017	水 SE3(北側)		13	杭	Ė	33.0	6.3	A1	多数面、	多方向	
1018	水 SE3(北側)		9	杭	V	39.1	6.7	A1	多方向、	4面	
1019	水 SE3(北側)		12	杭		22.4	4.7	A1か	1方向、	2面	先端欠損
1020	水 SE3(北側)		15	杭	р	52.2	6.5	A2	1方向、	2面	
1021	水 SE3(北側)		16	杭		28.4	4.7	A1	多方向、	5面	
1022	水 SE3(北側)		18	杭		42.6	4.4	A1	4方向、	4面	
1023	水 SE3(北側)		19	杭	С	38.6	5.7	A1	多方向、	6面	
1024	水 SE3(北側)		20	杭		21.2	5.2	A1	多方向、	多数面	
1025	水 SE3(北側)		21- ①	杭	S	24.2	9.1	A1	多方向、	5面	
1026	水 SE3(北側)		21- ②	杭		20.0	5.3	A1	多方向、	5面	
1027	水 SE3(北側)		22	杭		49.3	7.0	A1	多方向、	6面	
1028	水 SE3(北側)		23	杭		29.5	5.3	A1	多方向、	5面	
1029	水 SE3(北側)		25	杭		37.5	5.3		多方向、	多数面	
1030	水 SE3(北側)		24	杭	р	36.6	5.6	A2	3方向、	3面	
1031	水 SE3(北側)		26	杭	<u> </u>	36.6	5.8	A1	多方向、	多数面	先端欠損
1032	水 SE3(北側)		27	杭		23.4	7.5		4方向、	5面	
1033	水 SE3(北側)		29	杭	Х	40.3	6.4		多方向、	多数面	
1034	水 SE3(北側)		30	杭	T	56.7	7.4		多方向、	多数面	
1035	水 SE3(北側)		31	杭		60.2	3.4	A1	2方向、	4面	
_	水 SE3(北側)		32	杭	m	53.8	7.5		多方向、		
1037	水 SE3(北側)		33	杭	i	51.6	4.7	A1	多方向、	多数面	
	(1090)		-		-					- confi	

第 45 表 -1 木杭観察表 (未掲載分)

出土地点	杭No.	器種 樹種	法量 (cm) 最大長 最大径		分類	先端の 加工	所見
			取八区	校八任			
水 SS2(北側)	3	杭	33.1	4.0	-	欠損のため不明	
水 SE3 北側	6	杭	19.4	3.0 (-	欠損のため不明	
水 SE3 北側	7	杭	10.4	5.4 (_	欠損のため不明	一部炭化
水 SE3 北側	10	杭	11.6	3.4 A	12	1方向、4面	
水 SE3 北側	11	杭	13.8	3.1 A	A 1	1方向、3面	
水 SE3 北側	14- ①	杭	13.5	4.0 (_	欠損のため不明	
水 SE3 北側	14- ②	杭	8.9	2.7 (-	欠損のため不明	
水 SE3 北側	17	杭	82.4	5.9 A	A 1	2方向、5面	先端部炭化
水 SE3 北側	28	杭	29.7	5.5 (-	欠損のため不明	
水 SE3 北側	39	杭	11.7	2.7 (_	欠損のため不明	
水 SE3 北側	47	杭					計測不可
水 SE3 北側	50	杭					計測不可
水 SE3 北側	52	杭					計測不可
水 SE3 北側	54	杭	13.3	3.0 A	۹2	1方向、2面	
水 SE3 北側	55	杭	12.5	2.7 <i>F</i>	\ 2	1方向、1面	

掲載 No.	出土地点	杭Na	器種	樹種	法量 残存長	(cm) 最大径	分類	先端の	力加工	所見
1038	水 SE3(北側)	34	杭		20.4	5.9 A	12	多方向、	4面	1面は先端のみの加工
1039	水 SE3(北側)	37	杭		21.6	5.0 A	\1 ·	多方向、	4面	
1040	水 SE3(北側)	35	杭		47.0	6.6 A	۸1 -	4方向、	4面	
1041	水 SE3(北側)	36	杭		34.5	5.3 A	\1 ·	多方向、	6面	大きな削りと細かい削りの組み合わせ
1042	水 SE3(北側)	42	杭	k	27.0	3.2 A	١2	1方向、	1面	
1043	水 SE3(北側)	38	杭		68.2	6.0 A	12	4方向、	多数面	
1044	水 SE3(北側)	43	杭		28.4	5.7 A	\1 ·	多方向、	多数面	
1045	水 SE3(北側)	44	杭		28.5	5.0 A	12	3方向、	多数面	
1046	水 SE3(北側)	47	杭		20.3			多方向、	多数面	
1047	水 SE3(北側)	40	杭		27.2		\1 :	方向不明	4面	上部半分が欠損
1048	水 SE3(北側)	45	杭		32.1			多方向、	5面	
1049	水 SE3(北側)	41	杭		9.2				多数面	先端のみ
1050	水 SE3(北側)	46	杭	r	28.2			多方向、	多数面	
1051	水 SE3(北側)	48	杭	٧	50.0		-	3方向、	多数面	
1052	水 SE3(北側)	49	杭	n	40.0			多方向、	多数面	
1053	水 SE3(北側)	51	杭	V	58.5			多方向、	多数面	
1054	水 SE3(北側)	56	杭		16.0			2方向、	2面	
1055	水 SE3(北側)	53	杭		18.9			4方向、	3面	
1056	水 SE3(北側)	58	杭	q	20.6			3 方向、	4面	
1057	水 SE3(北側)	59	杭		14.6			3方向、	3面	
1058	水 SE3(北側)	60	杭		15.7	5.0 /		272131	多数面	
1059	水 SE3(北側)	123	杭	_	35.6			1方向、	1面 多数面	
1060	水 SE3(北側)	61	杭	- 1	54.0			多方向、 1 方向、	少数田	AHOE H
1061	水 SE3(北側) 水 SE3(北側)	63	杭		18.7 26.6			3方向、	3面	角材の転用
1062	水 SE3(北側)	67	<u>杭</u> 杭		26.4			3 万円、 2 方向、	2面	
1064	水 SE3(北側)	68	杭		29.2				多数面	
1065	水 SE3(北側)	69	杭		23.3			多方向、	多数面	
1066	水 SE3(北側)	70	杭		17.8			3 方向、	3面	
1067	水 SE3(北側)	71	杭	t	37.3				多数面	
1068	水 SE3(北側)	72	杭		19.9			2方向、	3面	
1069	水 SE3(北側)	73	杭		24.0			方向不明。	多数面	
1070	水 SE3(北側)	79	杭		27.0	3.5 A	1	1 方向、	3面	
1071	水 SE3(北側)	80	杭		14.7	2.5 A	12	3方向、	4面	
1072	水 SE3(北側)	81	杭		10.8	4.4 A	\1 ·	多方向、	5面	
1073	水 SE3(北側)	82	杭		12.4	3.5 A	11	多方向、	6面	
1074	水 SE3(北側)	83	杭		24.0	4.8 A	\1 ·	多方向、	6面	
1075	水 SE3(南側)	92	杭	р	173.4	6.5 A	١2	4方向、	2面	加工痕(ほぞ穴)、柱材を転用した杭
1076	水 SE3(南側)	95	杭		22.2	3.9 A	۸1	3方向、	3面	先端欠損
1077	水 SE3(南側)	96	杭	t	60.8	7.4 A	12	腐食のた	め不明	
1078	水 SE3(南側)	94	杭		10.0	3.6 A	١2	1方向、	1面	先端のみ
1079	水 SE3(南側)	98	杭		36.1	5.7 A	۸1	3方向、	4面	
1080	水 SE3(南側)	99	杭		16.1	3.2 A	١2	3方向、	多数面	
1081	水 SE3(南側)	110	杭		21.4	3.9 A	\1	4方向、	4面	枝打ち痕あり
1082	水 SE3(南側)	107	杭		9.1		•••	3方向、	3面	
1083	水 SE3(南側)	110	杭		16.8		12	3方向、	3面	先端は風化し、加工の稜線が不明瞭
1084	水 SE3(南側)	103	杭		25.2			多方向、	多数面	
1085	水 SE3(南側)	106	杭		26.0			3方向、	3面	
1086	水 SE3(南側)	108	杭		17.0			多方向、	5面	
1087	水 SE3(南側)	109	杭		34.7		•••	3方向、	3面	先端のみ加工、背面は剥離時のもの
1088	水 SE2	65	杭	р	46.4	11.5 B		多方向、	1面	杭ではなく、柱材の可能性がある
1089	水 SE2	66	杭	t	33.2	9.7 B		3 方向、	多数面	杭ではなく、柱材の可能性がある
1090	水 SE2	67	杭		39.2	12.9 B		多方向、	2面	柱材の可能性あり
1091	水窪 ~ 区		杭		14.6			多方向、	5面	
1092	水窪Ⅰ~Ⅲ区		杭		45.7	4.6 A	\1 ·	多方向、	多数面	

杭No.	器種 樹種				先端の	所見
		最大長	最大径		літ	
57	杭	7.6	3.2	Α1	1方向、3面	
62	杭	8.2	1.8	C	欠損のため不明	
74	杭					計測不可
75	杭	6.7	3.3	C	欠損のため不明	
76	杭	23.0	4.3	Α1	1方向、1面	
77	杭	12.7	5.6	С	欠損のため不明	
78	杭	28.8	5.1	В	2方向、2面	
97	杭					計測不可
100	杭	10.1	2.8	В	1方向、2面	
101	杭					計測不可
102	杭					計測不可
104	杭	12.0	4.0	C	欠損のため不明	
105	杭					計測不可
111	杭					計測不可
113	杭	16.5	3.3	С	欠損のため不明	
	57 62 74 75 76 77 78 97 100 101 102 104 105 111	57	抗状の 器種 樹種 最大長	最大長 最大径 57 杭 7.6 3.2 1.8 4.4 杭 7.5 杭 6.7 3.3 7.6 杭 23.0 4.3 7.7 杭 12.7 5.6 7.8 杭 28.8 5.1 9.7 杭 10.0 杭 10.1 2.8 10.1 杭 10.2 杭 10.4 杭 12.0 4.0 10.5 杭 11.1 杭	がい 器種 樹種	杭い 器種 樹種 最大長 最大径 外間の 57 杭 3.2 Al 1.7向。3面 62 杭 8.2 1.8 C 欠損のため不明 74 杭 7 大 欠損のため不明 76 杭 23.0 4.3 Al 1.7向。1面 77 杭 12.7 5.6 C 欠損のため不明 78 杭 28.8 5.1 B 2方向。2面 97 杭 100 杭 10.1 2.8 B 1.万向。2面 101 杭 102 杭 104 杭 12.0 4.0 C 欠損のため不明 105 杭 111 杭 4.0 C 欠損のため不明

第 45 表 -2 木杭観察表 (未掲載分)

出土地点	杭No.	器種	計紙	法量	(cm)	- 分類	, 先站	岩の	所見
山土地州	4) LINU	601里 1	时性	最大長	最大径		* bo	I	пж
水 SS2(北側)	116	杭							計測不可
水 SS2(北側)	121	杭							計測不可
水 SS2(北側)	122	杭							計測不可
水 SS2(北側)	124	杭		62.8	4.2	A1	多方向、	4面	
水 SS2 前面	SS2- No. 3	杭				A2			樹皮残存(サクラか)
水 SS2 前面	SS2- No. 5	杭				Α1			
水 窪 III 区上層		杭		20.8	7.2	A2	1方向、	2面	
水窪 区中層		杭		29.7	3.9	A2	1方向、	4面	一部炭化
水窪I区中層		杭		71.7	4.8	С	腐食のた	め不明	
水窪I区中層		杭		35.9	4.5	В	2方向、	2面	
水窪I区中層		杭		20.0	4.2	В	1方向、	1面	
水窪I区中層		杭		13.8	4.5	A2	1方向、	1面	
水窪I区中層		杭		17.3	5.2	Α1	1方向、	4面	
水窪I区中層		杭		10.1	3.2	A2	2方向、	5 面	先端部のみ
水窪I区中層		杭		6.1	3.8	A1	多方向、	5 面	先端部のみ
水窪I区中層		杭		10.0	2.3	A1	1方向、	3 面	
水 窪 III 区前面		杭		14.0	2.5	A2	1方向、	1面	一部炭化
水 窪 III 区下層		杭		6.5	3.5	A1	1方向、	3面	
水窪I区中層		杭		7.8	2.5	A1	1方向、	3面	
水窪I区中層		杭		15.1	4.7	Α1	2方向、	多数面	
水窪I区中層		杭		8.2	4.0	A2	1方向、	1面	

出土地点	杭No.	器種 樹種		(cm)	- 分類	先端の	所見.
五工地点	4) LINU	岙俚 倒俚		最大径		加工	加兄
水窪Ⅲ区上層		杭	26.0	2.7	Α1	1方向、2面	
水窪Ⅲ区下層		杭	21.2	5.0	A2	1方向、1面	
水窪Ⅲ区下層		杭	19.7	5.3	Α1	1方向、2面	
水窪Ⅲ区下層		杭	35.3	5.3	Α1	1方向、6面	後端部にも加工あ り。(多方向4面)
水 窪 III 区下層		杭	36.1	4.3	Α1	1方向、2面	
水 窪 III 区下層		杭	11.8	4.4	Α1	1方向、4面	
水 窪 III 区下層		杭	13.3	3	A2	1方向、2面	
水窪Ⅲ区下層		杭	12.2	2.8	A2	1方向、2面	
水窪Ⅲ区下層		杭	30.7	2.9	A2	1方向、2面	
水 窪 III 区下層		杭	17.6	4.0	A2	1方向、2面	
水 窪 III 区下層		杭	9.8	3.5	A2	2方向、3面	
水 窪 III 区下層		杭	24.4	1.5	A2	1方向、3面	
水 窪 III 区下層		杭	7.3	2.8	Α1	1方向、3面	枝を切り落と した跡あり
水 窪 III 区下層		杭	6.6	3.3	Α1	1方向、3面	
水窪Ⅲ区下層		杭	7.8	1.5	A2	1方向、1面	
水窪Ⅲ区下層		杭	13.4	7.0	Α1	2方向、3面	後端部にも加工あり、 前面加工あり、楔状
水窪Ⅰ~Ⅲ区一括		杭					計測不可
水窪Ⅰ~Ⅲ区一括		杭					計測不可
水窪Ⅰ~Ⅲ区一括		杭					計測不可
水窪Ⅰ~Ⅲ区一括		杭					計測不可
水 SE2		不明	67.2	31			加工痕あり、 柱材転用か

第 46 表 石器観察表

掲載	出土地点	器種	長	法量	(cm)	重 (3) 石材	観察所見	注記名
No. 1093	曲 H1	ナイフ形石器	2.2	幅 1.8	-	重 (g) 1ロ17月 2.8チャート	縦長剥片素材。両側縁ともに二次加工。幅 1.5cm 程の基部が作り出される。 先端を大きく欠損。	G2 II
1093	西谷	楔形石器	2.3	1.5		2.6赤チャート	版表別が条例。阿関係ともに二次加工。幅 LJCHI 住の基部が下り出される。元輪を入さて入損。 長方形。上下端より加撃。	AB Tr
1095	# F	台形石器	1.7	1.0	0.4	0.7チャート	幅広の不定形剥片を横位に用いる。刃部側は著しく変形。	D2 II
1096	曲 H3	剥片尖頭器	6.4	3.2	1.0		基部の抉り出しは右側縁で顕著。右側縁先端側は、使用に伴うと見られる折れ・微細剥離。先端・基部欠損。	IW II
1097	SG2 下層		7.9	3.8	1.4		縦長剥片素材。剥片右側縁に腹面側より二次加工。左側縁に微細剥離。	Q 770 45
1098	曲 A3	削器	5.0	2.5	1.0	8.3黒曜石(姫島産	縦長剥片素材。剥片右側に二次加工で刃部を成形。	A3 II層
1099	SG2 埋土	掻器	6.6	4.6	2.0	52.9ホルンフェルス	幅広剥片素材。剥片左側縁を腹面側より二次加工し刃部とする。刃部は、裏面側に細かな剥離が連続。刃部は一部欠損。	Q "ÔI II
1100	曲 H1	石錐	2.5	2.0	0.3	2.3チャート	不定形剥片を切断・剥離によってギターピック状に成形。錐部は断面レンズ形。	G2
1101	SG2 埋土	打製石鏃	2.4	1.7	0.4	1.1チャート	凹基。比較的粗めの調整。先端欠損。	Q ツウロ埋土
1102	SG2 埋土	打製石鏃	2.1	1.3	0.3	0.5チャート	先端をわずかに・左半を大きく欠損。比較的粗めの調整。側縁は柊葉様。	P 770 II
1103	曲 M	打製石鏃	1.0	1.3	0.3	0.4チャート	浅い凹基。非常に細かな調整。先端・両脚を欠損。	PII
1104	曲 M	打製石鏃	1.7	1.7	0.3	0.6チャート	浅い凹基。細かな調整。完形。	PII
1105	曲 M	打製石鏃	1.3	1.3	0.3	0.4チャート	浅い凹基。細かな調整。先端より欠損あり、使用時か。	PII
		打製石鏃	1.6	1.6	0.4	1.1チャート	非常に粗い調整で、打製石鏃の未製品の可能性・石匙のつまみ部等の可能性等あり。	N II
1107	<u></u> # М	打製石鏃	1.5	1.2	0.2	0.2チャート	薄い小剥片素材で、縁辺のみ簡単に調整して仕上げる。両脚をわずかに欠損。	Q III
1108	曲F	打製石鏃未製品	2.1	2.0	0.6	2.2チャート	先端は先鋭でなく、基部成形も十分でないので、打製石鏃の未製品と見られる。分厚い。	D2 II
1109	曲K	打製石鏃	1.7	1.5	0.3	0.8チャート	でく浅い凹基。細かな調整で、特に両側縁は細かな剥離で直線的に仕上げられる。先端欠損。	Kb ti/下
1110	曲 H2	打製石鏃未製品	2.6	1.3	0.5	3.1チャート	基部成形過程で欠損あるいは先端部の成形で欠損し、その段階で廃棄されたものか。裏面には素材剥片面が大きく残る。 大ぶりの打製石鏃の先端か。欠掲著しい。	
11112	SG2 側溝	打製石鏃	1.6	1.3	0.4	0.7チャート	大ぶりの打製石鏃の先端が。欠損者しい。 本来的には凹基で先端に向かって二等辺三角形に延びる薄手の打製石鏃であったと見られる。先端欠損。	Q 990 SE G2 II
1113		打製石鏃	2.4	1.5	0.5	1.1小ルンフェルス	本来的には白巻で元端に向かりて二寺辺三月がに延びる淳子の打裂石鏃でありたと見られる。元端尺損。 打製石鏃の場合、脚部の可能性あり。石匙等の一部の可能性も残す。	D2 II
1114		打製石斧	11.5	7.3			打殺石城の場合、脚品の可能性の7。 石起寺の一品の可能性も残す。 裏下半は表面が剥落する。扁平な打製石斧の類と思われる。	N/U II
	SG1-2	打製石斧	9.7	4.6			節理に平行になるよう周縁より粗い成形の後、稜線を残しつつ細かな剥離成形をする。	F1 770
_	шK	刃部磨製石斧	14.8	5.1				Kd 刊下
1117	曲 H1	二次加工剥片	11.9	8.0		281.8砂岩	剥片の末端側の1長辺から短辺にかけて二次加工あり。二次加工部分は緩い円弧となる。裏面は礫面まま。	G2
1118	SG3	二次加工剥片	16.0	10.2	3.9	690.7頁岩	扁平な楕円礫の縁辺に粗い二次加工。礫片の末端側は裏面側にも剥離が見られ、さらに細かな二次加工が集中する。	V "700
1119	曲F	二次加工剥片	10.4	5.0	1.4	83.7砂岩	礫片の末端側の1長辺に二次加工あり。二次加工部分は緩い円弧となる。裏面は礫面まま。	F2 II
1120	SG2 下層	石核	7.0	4.7	2.1	75.0ホルンフェルス	剥片剥離の最終局面。石核周縁より内に向かって、旧剥離面を打面に打面調整なく不定形剥片を剥離。裏面に礫面が残る。	Q 770 44
1121	SG1-3 造成土下原	石核	4.3	3.6	3.1	42.1日東産黒曜石	長さ 3cm・幅 1.5cm 前後の小剥片剥離がある。全体に稜が潰れている。一部に礫面が残る。	G2E ツウロ b レキ 5
1122	曲 H3 P22	切目石錘	3.4	4.5	0.8	18.2ホルンフェルス	扁平礫の長軸に切目。	I P22
	SG1-3	微細剥離剥片	7.9	3.8	0.8		湾曲した縦長剥片の右側縁に微細剥離あり。剥片は単剥離打面より打面調整なく、作業面調整の後剥離される	。F1 770
1124		微細剥離剥片	8.0	3.7	1.4		縦長剥片の左側縁に微細剥離が連続する。縦長剥片は単剥離打面より打面調整なく、作業面調整の後に剥離される。	Q 770 2
	曲 H3	微細剥離剥片	5.3	2.1	0.9		剥片は節理の影響を大きく受ける。剥片長辺に微細剥離がある。	1 11
	SG1-3 側洋		5.9	1.5	0.5		縦長剥片。単剥離打面より、打面調整・作業面調整ともなく剥離される。	F1 770 WSE
1127	曲K	敲石	8.9			321.3砂岩	精円礫の上端・右面上側・下端に敲打痕あり。下端は敲打に伴って剥落する。	K SC4
1128		敲石	10.0	7.7			特円礫の左側面に部分的に敲打痕あり。器面は風化ぎみ。	V 770
	曲 F	凹石	9.0	7.9			金な円礫の正面・裏面にアバタ状の敲打痕あり。右面にも一部敲打痕あり。	D2 X3
	水 SS1 堀 A3 B層	凹石	10.7	8.05		667.8砂岩 542砂岩	精円礫の正面にアバタ状の敲打痕あり。下端に打痕あり。	谷 2 SS1 刺 A2 B2層
1132		凹石	9.2	7.2		372.8砂岩	楕円礫の正面にアパタ状の敲打痕あり。左面は一部欠損する。 全体に鉄サビ様のものが付着。	V 7/00
1133	曲 F P203		8.8	8.5			端正な円礫の正面・裏面中央に弱く凹む敲打痕あり。 敲打痕周辺は摩滅しているようにも見える。	D2 P203
	堀 A3 B層		9	8.7		452.8砂岩	円礫の正面にアバタ状の敲打痕あり。右面が若干欠損する。	利 A2 B2 層
	水 SF1(C期) 石敷語		11.551			941砂岩	〒10米の正面にアバタ状の敲打痕あり。 石面の名 「人頭する。 歪な円礫の正面にアバタ状の敲打痕あり。	谷 2SF 石沖 -6
1136		凹石		11.0			・ 金で平たい楕円礫の正面・裏面にアバタ状の敲打痕あり。器面は全体に赤化する。	D2 II
1137	曲 A3	台石	17.9				欠損が著しい。正面にアバタ状の敵打痕が広がる。	A3 -
	曲 B4 3層		14.85			698.2砂岩	約 1/2 が残存。平らな楕円礫の正面にアバタ状の敲打痕が広がる。	B4 III

∽	17	耒.	1	石製品額	日安主
#	47	→	- I		

	4/ 表 - I	白型	设品觀察							
掲載 No.	出土地点	器種	石材			最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	所見	注記名
1139	曲 B1 2層	石鍋	滑石		21.4		1.2		調整痕あり。突帯部分の上下には一条の溝が巡る。	B1 2 層
1140	曲K盛下層	石鍋	滑石		3.8	7.1	1.2		調整痕あり。突帯下に一条の溝。	C1 刊下
1141	曲 A2 3 層	石鍋	滑石		15.6		1.1		調整痕あり。1139、1140 のような突帯は持たない。	A2 3 層
1142	SG1-3 石敷	茶臼上臼		В	9.3	2.9	2.5	51.5	破砕著しい。推定臼面直径 18cm 前後。側面は成形による工具痕を残す。被熱により剥落したものか。破砕面を除いてよく赤化する。	G2E 990 f 49
1143	SG1-2 表土	茶臼上臼	砂岩	В	12.7	7.8	5.6	501.5	推定臼面直径 18cm 前後。上縁幅 2 cm・凹み深 2.3cm。上縁には黒色の物質が付着。側面は滑らかに磨かれ、部分的に被熱により自然に薄く剥落。	F1 "700
1144	SG2-2 埋土	茶臼上臼	砂岩	В	10.0	7.0	10.8	928.0	臼面は8分面で副溝6本。副溝幅1.5mm・溝間幅7mm。凹みから供給口内面、破砕面もよく赤化する。側面側の破砕面は本来の側面カーブに沿って剥落する。	Q "70 111
1145	SG2-2 埋土	茶臼上臼	砂岩	В	11.0	8.9	13.9	1679.2	推定臼面直径 18cm 前後。上縁幅 2 cm・凹み深 2.6cm。臼面は 8 分面で副溝 8 本。副溝幅 2 mm・溝間幅 7 mm。側面等は大変滑らかに磨かれる。破砕面は全体によく赤化する。	Q ツウロ 113
1146	SG2-2 埋土	茶臼上臼	凝灰岩	C3	8.9	9.2	5.2	583.9	推定臼面直径 17cm 前後。副溝幅 1.5mm・溝間幅 8~9 mm。台座は断面台形の方形あるいは長方形。台座直下には削り出す過程での工具痕(溝)。臼面は8分面で副溝6本。溝幅は細い。	Q 770 83
1147	SG2-2 埋土	茶臼上臼	凝灰岩	C3	20.2	18.9	12.0	2830.6	推定臼面直径 18cm 前後。台座は断面台形で 7.0 × 6.5cm 四方の平面はぼ方形である。臼面は8 分面で削湯 4 ~ 6 本で凸面をなす。溝幅は細い・太いがある。破砕面も含め、全体によく赤化する。	Q ツウロ 102 • 116
1148	SG1-2 耕作土	茶臼下臼	硬砂岩	В	15.2	14.8	5.3	1028.5	底面は平底で中央に向かって若干上げ底になる。受け皿縁~内面は平滑に磨かれる。かろうじて下臼の立ち上がりが残る。器面は全体に弱く赤化する。	F1 770 II 21
1149	SG1-2 造成土下層	茶臼	硬砂岩	В	13.6	4.9	3.0	255.7	破砕著しい。受け皿縁幅2cm。研磨は受け皿内面~縁までであり、受け皿外面は敲打成形のままである。 底面は上げ底で、軸孔は下開きで貫通する。臼面直径は18.5cmで、8分画で削溝7本。削溝幅1.5mm・溝間幅6mm。受け皿・臼面外周・	F2 ツウロ E レキ 4 層
1150	曲 E2 盛 4 層	茶臼下臼		В	29.9	30.1	11.1	12500	底面は上り底で、報元は下層でで興運する。日面原任は16.3CHIで、6万面で耐海 / 本。耐海僧 1.3HIHI 7 瀬向僧 0 HIHI 2 安り皿・日面外向・軸孔周辺の打ち欠きや臼面の敲打痕は全周をめぐることや一定方向より連続的・安定的になされていることより、廃棄に伴う意図的なものか。	F3 T2-3 層
1151	堀 A3 C層	茶臼下臼		В	28.3	27.3	12		推定直径約 18cm で、副溝 9 本構成、副溝幅 1.5mm、溝間隔 2 cm。底面は平坦で、軸孔は下半分から台形状に広く貫通。	机 A2 C層
1152	曲 A3	挽臼上臼		С	16.3	13.8			推定径 (25.4cm)	A3 P24
1153	SG1-3 表土	挽臼上臼		С	16.7	12.4			臼面8分画で副溝3。副溝幅3mm・溝間幅2cm。上凹みは供給孔に向かって漏斗状に窄まり、器面には黒色の物質が付着する。供給孔はひねりが入る。	
1154	西	挽臼上臼		С	27.5	13.5			副溝4本構成。副溝幅3mm・溝間隔2.5cm。上縁から中央に向かい凹む。供給孔は残存せず。	一括
		挽臼上臼		С	12.2	13.3	7.4		外周縁は特に強く摩滅する。臼面にはものくばりの溝が走る。上縁の立ち上がり・挽き手孔がわずかに残る。	Q 770 119
1156	SG1-2 造成土下層	挽臼上臼		С	17.0	10.0			白面は分面・副溝ともにほとんど見えなくなるまで使い込まれ、外周線にわずかに溝が残るばかりである。四みの上線は明瞭に作り出されず、断面線い山形である。 #中の事本で 1924 (7年 47年 1825 1827 1827 1828 1828 1827 1827 1828 1828	G2F 990 f 49
1157	SG1-3 石敷 SG2-2 埋土	挽臼上臼		С	14.4	10.4			推定臼面直径 28cm。白面 6分面。削減幅 3 mm・満間幅 2 ~ 3.5cm。高さ 10.5cm。上凹みは供給孔に向かって選斗状に窄まる。凹み面・側面ともに弱く研磨される。 臼面 8 分面で削潰 4、副減極 5 mm・満間幅 2 ~ 2.5cm で、選は太く雄、高さ 9.8cm で、臼面は弱い凸面である。側面・裏面は用く平滑に仕上げられ。底面に強い擦道が見られる。	O 990 103
1159	水 SF1C 期石敷	挽臼下臼		- C	18	8.1			口面の月間に到過せ、到過程3111117時間程とで2.2011 (1.7.前後入入物。同じ2.20111 (1.7.1)回過を到い口間と切り。例如"表面を仕入下がにユエリンバに表面にない"連続が完めれる。 推定径 (19cm)	谷2 井戸石敷
1160	SG1-3 石敷	挽臼下臼		C	11.8	7.6	8.9		破砕著しい。臼面の副溝幅3mm・溝間幅2cm。高さ9cm。底面・側面の成形はやや粗めながらも平滑に仕上げる。	G2F 770 T6
1161	SG2-2 埋土	挽臼下臼		C	14.5	9.9			破砕著しい。白面6分画。副溝幅3mm・溝間幅2cmで、溝は細い。高さ95cm。底面は工具痕ままで輸孔に向かって上げ底。側面の成形はやや粗めで平滑ではない。	Q 770 59
1162	SG1-3 表土	挽臼下臼		C	18.7	16.0			推定臼面直径 31cm。臼面中央には凹みがあり、強く摩滅する。高さ 7.5cm。他挽臼に比べ緻密な石質である。	G2E T2
1163	SG2-2 埋土	挽臼下臼		c	15.2	11.9			白面は分面・副溝ともにほとんど見えなくなるまで使い込まれる。外周線は特に強く療滅する。高さ9.6cm。底面は接地面のみ療滅し、雑孔に向かって漏斗状に宿まる。側面・底面ともにやや相めの成形。	Q ツウロ 104
1164	SG1-3 石敷	挽臼	凝灰岩	С	13.2	11.4	5.2	648.9	破砕著しく上下不詳。軸孔残存。副溝幅4mm・溝間幅2cmで、溝は太い。	G2E 990 T6
1165	SG1-3 石敷	挽臼	凝灰岩	С	9.9	10.4	4.4	523.5	破砕著しく上下不詳。外周付近は臼面がよく摩滅しており、使用によるもの。副溝幅4mm・溝間幅2.5cmで、断面 V字。	G2E "ウロ f イシ
1166	SG1-3 表土	挽臼	凝灰岩	С	7.3	6.6	4.7	218.3	破砕著しく上下不詳。臼面は外周寄りの方が摩滅する。副溝幅2mm・溝間幅1cm。	G2E 990
1167	SG3	石鉢	砂岩		21.6	12.7	6.2	1676.6	推定底径 10.5cm。内面は口方向より工具痕が連続し、内面底は比較的平滑に仕上げられる。外面立ち上がりは粗い工具痕のままで、底面は平滑に仕上げられる。	V 700
1168	SG2 下層	軽石製品	軽石		7.4	4.4	4.2	37.2	平面半月形の軽石に、一筆の新面V字の刻線(幅2~3mm)が施される。刻線は裏面下より上に向かって入り、正面側をグルリとめぐった後、裏面の刻線にぶつかって終了する。	Q ツウロ 223
1169	水	鞴	凝灰岩		23.6	18.2	17.55	7800	鞴中央を直径約3cmの孔が貫通する。左面ほど熱を帯び黒く融解している。中央部は赤化する。	谷2 ゲンダイ・イシガキ
1170		砥石	凝灰岩		22.2	7.0	5.1	1432.4	天草砥石。各砥面上下端側には敲打痕等よりなる砥石成形痕が残る。上下面には成形過程の組研磨が残る。	L I
1171	SG1-3 石敷	砥石	砂岩		21.7	8.3			塊石の正面に緩い凹面をなす砥面あり。裏面・右面は破砕面であり、欠損と考えられるが、成形目的で打ち欠かれた可能性も残る。	G2E ツウロ f イシ
	SG1-3	砥石	細粒砂岩		11.1	4.8	2.1		正面はやや凹面・右面は平滑な砥面で、四角柱状に研ぎ込まれる。上下面は欠損と見られるが、成形による打ち割りの可能性を残す。	GZEツウロ
1173		砥石	シルト岩		17.1	5.9	5		長方形に成形された砥石で、正面に研ぎは弱い。左右面、裏面は平滑は砥面をもつ。	B-3 P64-1
1174	曲 H1	砥石	細粒砂岩		9.4	2.4	1.4		四角柱状に研ぎ込まれ、各種面は平滑である。上側裏面は欠損したのであろうか、研磨ある不自然な平面がある。下端は欠損する。	G2 d II
	曲J P33	砥石	砂岩		7.2	2.6	1.7		成形することなく、棒状の自然礫の広い面を延面にしたもの。研ぎは弱い。下端を欠損。器面は全体に赤化する。	L P33
1176		砥石	砂岩		7	3.1	1.3		正面は一部節理による剥落をしているが、平滑な砥面をもつ。左面は平滑な砥面。 正面・裏面は平滑な砥面で、板状に研ぎ込まれる。左右両面は擦り切り成形の後、長軸方向に粗く研磨される。上面は両側面より内に	#J A2
1177	曲K	砥石	シルト岩		8.9	2.7	1.1	37.9	向かって3~4mmの溝が切られ、溝を起点に折り割っている。折り割部分は割られたままの状態で研磨等は見られない。	Kb 刊下
1178	曲 A4 2 層	砥石	シルト岩		6.5	2	0.7	16.4	正面はやや山形な砥面で、裏面は平滑な砥面をもつ。左面の研ぎは弱い。	A4 II 層
1179	南	砥石	砂岩		15.6	4.3	1.6	216.8	成形するととなく、自然機の各面を低而にしたもの。正面は平滑な極面で部分的に敲打商がある。裏面は繰い回面の極面。左右両面は 極面でなく成形に伴う研磨痕の可能性を授すものの、是非は判然としない。上下面は研磨成形される。器板は全体に赤化する 正面・裏面は平滑な極面で、板状に研ぎ込まれる。左面は成形過程の租卵磨が残る。右面は折面に部分的に卵磨が見られ、平滑に仕上	н 中山
1180	SG1-2 15層	砥石	シルト岩 (桃色)		11.6	3.4	0.8	65.4	止血・裏面は平滑な地面で、板状に研ぎ込まれる。左面は成形過程の粗研磨が残る。右面は折面に部分的に研磨が見られ、平滑に仕上がっていないことから、折損後に簡単に再加工されたか。上端を欠損。	D2 ワウロダンメン 15 層
1181	曲 M SA2	砥石	砂岩		12.0	5.5	3.5	427.2	成形することなく、やや厚みある自然礫の広い面を延面にしたものか。研ぎは大変弱い。下端を欠損。	P SA21
1182	水 切岸1	砥石	砂岩		4.5	3.8	1.25	32.7	正面・裏・左右・上下面全て平滑な砥面をもつ。裏面には数条の深い研ぎ跡がみられる。	谷 2 钊 1
1183	堀 A3 2層	砥石	砂岩		4.5	4.1	1.6	54	正面は平滑な砥面をもち、下端は打ち欠き面がみられる。	刺 A2 2 層
1184	帯 A3a 2層	砥石	シルト岩 (桃色)		2.7	2.75	0.5	5.1	正面の砥ぎは弱いが、右面は平滑な砥面をもつ。	北 A2 II層
1185	ф.с	砥石	細粒砂岩		3.2	2.8	0.9	15./	再加工を繰り返しつつ板状に研ぎ込まれる。正面は平滑な砥面で、上面との現に2条擦り切りのための条線が走る。左面は正面・裏面 両側より擦り切り溝が掘られ、折りちぎられた後、ある程度平らに研磨される。右面・下面も左面と同様の加工であり、擦り切りに伴	G1
1103	ш ч	10.11	和松砂石		3.2		0.9	13.4	同間より振り切り用が振つれ、加りらさられた後、める住民干られ明常される。 石間 「下間も左面と同様の加工であり、振り切りに下 う段差や折りちぎりによる不自然な抉れ等が見られる。	
1186	曲G	砥石	細粒砂岩		3.7	2.1	0.5	7.3	欠損著しい。正面・右面に平滑な砥面あり。	G1 II
1187	西	砥石	硅質頁岩		8.25	10.7	2.5	345.9	正面は中央がやや凹む砥面をもつ。左右面や上端は形状を整えるような、平坦な面をもつ。下端は欠損する。	H 9/15
1188	水 SF1 27層	砥石	硅質頁岩		5.4	5.35	1.45	66.6	正面の研ぎは弱いが、左右面や上端は平滑な砥面をもつ。下端は欠損する。	谷2SF 石沣 下27層
1189	曲 B4 3層	砥石	細粒砂岩		7.05	6.55	1.5	99.6	正面は平滑な砥面をもつ。右面の研ぎは弱い。	B4 III
1190	曲 F2	砥石	細粒砂岩		6.8	5.4	1.0	67.9	正面・裏面は平滑な延面で、右面もその可能性があり、全体に板状に研ぎ込まれる。左面は成形時のままで、部分的に研磨されている。上下端を欠損。	E II
1191	SG1-3 石敷横断 3 層	砥石	細粒砂岩		5.3	4.9	0.6	31.7	正面は平滑な砥面で、板状に研ぎ込まれる。左面は成形時のまま。欠損著しい。	G2E ツウロ f イシ 3 層
1192	ш В2 Р60	砥石	砂岩		10.7	7.35	1.6	196.1	正面は平滑な低面をもつが、研ぎは弱い。	B2 P60-1
1193	曲 H1	砥石	細粒砂岩		6.5	4.5	1.0	55.6	正面は平滑な延面で、板状に研ぎ込まれる。両側面は切断の後、凸部を中心に研磨される。裏面は目に沿って打ち割られた後、やはり 凸部を中心に研磨される。正面の延面は器面が部分的に剥落する。上下を欠損。	G2E /リ
1194		砥石	細粒砂岩		7.4	9.2	1.35	146.9	口部を中心に朝居される。正面の映画は蚕画が部方的に剥落する。エトを火掘。 欠損が著しいが、正面は平滑な砥面をもち、右面も残存部に平滑な砥面をもつ。左右面が並行することから四角形または長方形か。	H 沙杉
1195		砥石	砂岩		4.9	3.5	0.55		正面は平滑な砥面をもつが、研ぎは弱い。	谷2 10層
	曲 A2 2層	砥石	砂岩		6.9	3.4	0.8		正面に一条の浅い研ぎ跡がみられる。	A2 II層
1197		砥石	シルト岩(株色)		5.1	3.3	4.5		正面・左面に平滑な砥面が見られる。欠損著しいものの、板状に研ぎ込まれたものであろう。右面は成形過程の租研磨が残る。1180	A II
	水 切岸1				9.3	6.5	1		との共通点が多く、1180が分割され2つ以上の砥石となったものか、あるいは同じ規格・手法で生産された砥石であろう。 正面・裏面に平滑な砥面をもつ。左面が欠損しているが、右面に平坦な面をもつことから四角形または長方形になるものと考えられる。	
		砥石	砂岩							
	曲 A3 SB13	砥石	砂岩		5.35	3.7	0.85		正面・裏面に平滑な低面をもつ。	A3 P96
1200		砥石	凝灰岩		6.4	7.9	3.4		正面・両側面は平滑あるいはやや凸面となる砥面で、四角柱状に研ぎ込まれたものか。欠損著しい。	F2 / リ II
	堀 C2	砥石	砂岩		6	6	2.7		正面中央部の砥面は大きく凹む。右面の砥面は研ぎが弱い。	C1
1202	曲 M	砥石	砂岩		6.5	8.1	1.1	95.1	正面は緩い凹面をなす砥面であり、断面 V 字の 1 条の削り痕が走る。欠損著しく、欠損面も含めて全面赤化する。	PI
1203	曲 B2 P174	砥石	硅質頁岩		5.2	3.7	1.2	44.2	正面・裏面は平坦であるが研ぎは弱い。	B2 P174
1204	曲L	砥石	細粒砂岩		5.6	5.5	1.5	96.2	は巨粽的に捌わり、取除的に接点で折りらさるような风形となる。折りらさり夜り明若寺はない。左側は风形画に弱い明若がある。上下を欠損。	QII
1205	曲 K	砥石	粘板岩		12.7	7.7	12.0	189.9		K c 刊下
1206	SG1-3 下層	砥石	砂岩		16.5	23.0	7.6	4564.3	平たい箱状の塊石の正面に凹面をなす砥面あり。器面は全体に弱く赤化する。	G2E 🤭 10
1207	SG3	砥石	珪質頁岩		7.0	5.7	1.7	84.9	楕円形に薄く研ぎ込まれる。正面・裏面に平滑な砥面あり。周縁は礫面か否かの判別困難。	V 770
1208	SG1-2 側溝	砥石	砂岩		23.1	35.0	14.8	14500	直方体状の塊石の広い正面・裏面を中心に使用痕あり。正面は皿状に凹んだ部分に摩滅・部分的に延面と敲打痕あり。正面右の緩い凸面も摩滅する。裏面は平面に緩い凹面をなす延面、凸部には敲打痕あり。欠損あり。	D1
	水 SF1 (C期) 石敷部		砂岩		31.3	15.7		4500.0	■10 一手減りる。表現は十回に吸い口間でなり。空間には成打損の少。欠損の少。上半分が赤化。井戸石敷きとして利用されており、マンガンの影響を受けていると思われる。 極石としての利用は左側を重視して利用されているためが、断面は右肩上がりとなる。	谷 2 井戸石敷
	水 SF1 (C期) 石敷部		砂岩		32.8	26.3			表裏面ともに摩跡あり。井戸石敷きの転用材のため全体的に鉄分が付着し赤化する。	谷 2 井戸石敷
	AND MICHAEL									

第47表-2 石製品観察表

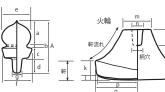
掲載 No.	出土地点	器種	石材	分類 区分	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	所見	注記名
1211	曲K	火打石	石英		2.9	2.0	1.4	7.8	右面には礫面が残る。上半欠損。稜は弱く潰れる。	Kb モリ下
1212	曲 A3 2 層	火打石	チャート		2.4	1.8	1.1	6.8	右側面の稜が弱く潰れる。	A3 II層
1213	曲 A4 2層	火打石	石英		2.8	2.4	1.9	16.1	正面・裏面の稜線が弱く潰れる。	A2 II層
1214	 E	火打石	石英		2.1	1.9	0.8	4.5	全ての稜線が潰れ丸くなる。角再生することなく廃棄されたもの。	D1 -
1215	曲 G P15	火打石	石英		2.8	2.7	1.7	11.1	上半欠損。各稜線はよく潰れる。	G1 SP15
1216	шL	火打石	チャート		3.5	2.6	1.7	14.0	右面の稜線が弱く潰れ丸くなる。	QII
1217	曲J	火打石	大田井産チャート		1.3	0.9	0.8	0.7	稜線がよく潰れる。欠損著しい。なお、未図化ながら、大田井産チャート製の火打石の破片が $G2$ カ $T5$ III より 1 点出土している(重量 $0.7g$)。	L^*J/FII
1218	曲 H1	火打石	チャート		2.9	1.4	1.2	4.7	分厚い剥片素材。稜はよく潰れ、部分的に鉄錆が付着する。	G2e II
1219	曲G	火打石	チャート		2.1	1.9	1.3	4.7	一見すると多面体の石核風で、稜線はよく潰れる。	G1カT1・2 II
1220	堀 A3 A層	火打石	チャート		4.3	3.3	2.3	21.5	正面の稜線、および右面の稜が弱く潰れる。	ホリ A2 A 層
1221	水 P117	火打石	チャート		2.6	1.9	1.3	4.8	正面の下端部分および、右面の稜線が弱く潰れる。	谷 2 P117
1222	曲 A3	火打石	チャート		2.6	1.9	1.5	10.2	四角形に打ち欠いた素材で、正面の右稜がよく潰れる。	A3 II層
1223	曲L	火打石	チャート		2.2	2.0	1.3	5.0	全ての稜線が潰れ丸くなる。角再生することなく廃棄されたもの。	QII
1224	ш Е	火打石	チャート		2.5	2.4	1.2	8.6	打ち付けた衝撃で、火打石の一部が大きく欠損したもの、あるいは綾がよく潰れることから角再生に伴う剥片である。潰れた綾の一部には鉄錆が付着する。	F1 S2 II
1225	曲 K SD5	数珠玉	水晶		0.9	0.9	0.6	0.6	断面そろばん玉で、内径 1.8mm の孔が貫通している。表面は滑らかに磨かれている。	K SD6 — 19
1226	曲 F2	硯	頁岩		7.7	2.6	0.8	15.8	欠損が著しいが、硯の左上部とみられる。上縁幅は8mm、凹みの深さは残存部で3mm である。	E II
1227	曲 F1	石筆	滑石		1.6	0.6	0.6	1.2	下端は使用により先編りの多面体となる。握り手側は欠損。軟質の石材で、爪で傷が付く。	D2 II
1228	曲 H1	石筆	石英		2.1	0.7	0.6	1.5	下端は欠損後も利用を継続している。上端は平坦に削り出してある。硬質の石材で爪で傷が付かない。	G2 II
1229	曲 F1	石盤	頁岩		3.9	2.9	0.4	7.6	欠損著しい。コーナー部分は丸く面取りされる。	D2 I
1230	SG3	石仏	凝灰岩		14.8	16.5	11.3	2125.0	左面は平滑に削り出す。縁ならびに縁内はやや平滑に削り出す。縁内にはタール状の黒褐色物質が付着する。裏面は粗い工具成形のみで平滑でない。	V שליע V

第48表 宝篋印塔計測表

掲載	11:14:4	±0.74±	車量		法量 (cm)		34-F7-A	
No.	出工地点	部位	(kg)	В	長辺	短辺	注記名	
1231	水 SS1	笠	23.0	18.0	47.0	40.6	SS1-65	

第49表 空風輪計測表

713 .7	\perp	/—VTIII) F	, L W/) .									_
掲載 No.	出土地点	重量				法量	(cm)				注記名	\mathcal{L}
押取 INU.	山土地無	(kg)	A	а	b	С	d	е	f	g	, \III.40	
1232	曲G	10.0	30.3	15.8	1.8	5.4	7.0	18.4	18.0	9.2	H中山	



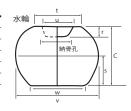


第50表 火輪計測表

掲載	出土地点	重量						法量(cm)						法量比率	分類	備考	注記名
No.	штъеж	(kg)	長辺	В	q	h	i	j	k		m	n	0	р	(B/o)	77 753	m-5	/±00-40
1233	水 SS1	28.2	36.6	18.5	4.5	11.0	6.4	1.0	5.0	2.5	10.5	7.5	18.5	18.0	1.0	1Aa α '	石積構成材	SS1-52
1234	水 SS1	22.0	33.1	17.4	3.6	11.6	5.4	0.4		2.4	17.6	9.0	18.4	18.1	1.0	1Aa β '	石積構成材	SS1
1235	水 SS2	15.5	29.1	12.0	3.8	6.2	1.6	2.9	3.0	1.6	17.6	8.2	16.6	16.1	0.7	1Aa β '	石積構成材	SS2-2
1236	水 SS1	25.0	40.0	16.8	5.9	11.1	5.4		4.2		12.6	7.8	16.2	15.2	1.0	1Ba α	石積構成材	SS1-66
1237	水 SS2	12.0	33.0	17.8	5.4	10.4	6.7	0.7	7.2	1.4	17.0	9.3	19.0	15.6	0.9	1Bb α	石積構成材・軒部欠損	SS2-4
1238	水 SE1	16.5	34.2	21.0	8.2	13.8	3.4	3.0	2.2	6.4		9.4	20.6	20.0	1.0	1Bb α	暗渠構成材・軒部欠損	SE1
1239	水 SS1	41.5	38.0	14.8	5.6	5.4	7.6	0.6	7.0	1.4	14.1	8.0	13.4	12.2	1.1	2Aa β	石積構成材	SS1-43
1240	水 SS1	24.0	35.8	18.2	2.0	11.0	5.4	1.6	3.0	5.4	11.0	4.2	13.2	12.9	1.4	2Aa β	石積構成材	SS1-41
1241	水 SS1	18.0	33.2	21.7	4.8	12.3	8.4					9.8	17.7		1.2	2Aa α	石積構成材	SS1-46
1242	水 SE1	15.0	32.0	18.8	5.8	15.8				7.0	13.4	7.4	17.6		1.1	2Aa β	暗渠構成材・軒・屋根部欠損	SE1-37
1243	水 SS2	16.5	35.9	17.2	4.0	10.5	7.0			1.1	15.0	8.6	14.8	14.0	1.2	2Aa α	石積構成材・屋根部欠損	SS2-9
1244	水 SS1	19.2	32.0	21.2	8.2	12.8	7.7		5.6			8.6	16.7		1.3	2Ab α	石積構成材・軒部欠損	SS1-40
1245	水 SS2	20.0	20.0	4.0	2.0	5.0	8.0	3.8	15.0	4.0	8.0	10.0	15.0		0.3	2Ac α	石積構成材	SS2-7
1246	水 切岸 3	47.0	41.0	24.1	5.8	13.5	5.4	0.6	8.0	1.6	18.1	9.6	16.2	16.0	1.5	2Ac α	石積構成材	SS1-47
1247	水 SS2	41.0	36.8	21.0	3.5	15.0			6.0		17.0	8.0	17.9	14.0	1.2	2Ba β '	石積構成材	切岸 3-70
1248	水 SS1	21.0	31.6	19.0	4.2	11.7	4.4	2.2	6.2	2.4	13.5	7.8	13.8	11.6	1.4	2Ba <i>β</i>	石積構成材	SS1-35
1249	水 SE1	32.0	28.6	24.7	1.5		10.4					8.4	19.5	17.3	1.3	2Ba α	暗渠構成材	SE1-71
1250	水 SS2	12.5	30.1	22.2	7.8	10.0	9.9	3.4	8.8	7.0	17.0	8.4	19.9	19.8	1.1	2Вс В	石積構成材	SS2-31
1251	水 SS1	14.0	38.9	18.8	3.2	12.8	4.2	1.4	5.8	4.2	11.0	6.6	15.2	13.0	1.2	2Ba β '	石積構成材・軒部欠損	SS1
1252	水 SS1	32.0	42.2	23.0	4.8	16.0	5.0	1.5	5.2	1.8	11.0	7.0	16.6	14.5	1.4	2Aa α	' 石積構成材	SS1-60
1253	水 SS1	15.5	31.8	19.0	5.0	12.0	4.5	2.0	7.0	2.0	11.0	8.0	18.0	16.0	1.1	2Ca α	石積構成材	SS1-77
1254	水 SS1	28.0	35.0	25.4	4.2	15.9	8.0	1.2	9.8	1.5		9.4	18.3	15.2	1.4	2Вс В	石積構成材	SS1-39
1255	水 SE1	25.9	38.4	17.2									18.0	18.0	1.0		暗渠側壁・屋根部欠損	SE1-16
1256	水 SE1	21.2	37.4	22.4	5							8.8	17.3		1.3		暗渠側壁・屋根部欠損	SE1-74
1257	水 SE1	36.0	40.2	15.0					5.4	0.6							暗渠側壁・屋根部欠損	SE1-24

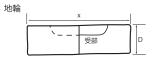
第51表 水輪計測表

	掲載	11. I 16. E	重量		-		法量(cm)				法量比	/ \ ACE	ATT - 144	W=1.6
_	No.	出土地点	(kg)	C	r	S	t	u	V	W	短辺	(D/x)	分類	備考	注記名
Ξ	1258	水 SS2	10.0	15.0			22.3		30.3		30.1	0.5	2C	石積構成材、上・下面欠損	SS2-1
Ξ	1259	水 SF1	11.0	12.0			31.7		34.3		28.6	0.4	2A	石積構成材、下面欠損	SF1
	1260	水 SE1	11.0	13.5			28.9		35.1		31.6	0.4	2A	暗渠構成材、下面欠損	SE1
	1261	水 SS1	15.5	14.5		10.0	31.3		32.8	27.2	32.6	0.5	2A	石積構成材	SS1-56
	1262	水 SS1	22.0	18.4	1.9	10.0	3.3	12.2	37.0	29.6	34.6	0.5	2B	石積構成材	SS1-64
Ξ	1263	水 SS1	11.0	12.1	4.1		21.1	9.0	36.7		36.0	0.3	1A	石積構成材、下面欠損	SS1-38



第 52 表 -1 地輪計測表

掲載 No	、出土	車量	7.	云量 (cm)		法量比	分類	備考	注記名
36) #00 TAC	" 地点	(kg)	Χ	D	短辺	(D/x)	73 75	VH*⊃	72.00-40
1264	水 SE1	20.5	41.7	12.2	33.1	0.3	1A	暗渠側壁、一辺が欠損	SE
1265	水 SE1	23.2	37.2	11.4	33.8	0.3	1A	暗渠側壁	SE1-17
1266	水 SS2	8.0	30.6	7.2	28.8	0.2	1A	石積構成材、隅部が欠損	SS2-14
1267	水 SS1	9.0	34.2	9.9	28.0	0.3	1A	暗渠側壁、一辺が欠損	SS1-68
1268	水 SE1	22.0	36.2	12.2	33.4	0.3	1A	暗渠側壁	SE1-81
1269	水 SE1	36.0	39.5	13.2	37.4	0.3	1A	暗渠側壁、隅部が欠損	SE1-3
1270	水 SS1	19.0	34.6	14.8	32.1	0.4	2A	石積構成材、隅部が欠損	SS1-51



第 52 表 -2 地輪計測表

掲載 No	出土	重量	ž	去量 (cm)		法量比	分類	備考	注記名
DET TAX INC	地点	(kg)	Χ	D	短辺	(D/x)	刀規	湘 与	/III/0
1271	水 SS2	17.7	30.8	13.8	29.1	0.5	2A	石積構成材	SS2-15
1272	水 SE1	28.0	39.2	14.1	37.8	0.4	2A	暗渠側壁、隅部・一辺が欠損	SE1-22
1273	水 SE1	45.0	42.8	16.4	41.8	0.4	2A	暗渠側壁、隅部が欠損	SE1-82
1274	水 SE1	40.5	41.2	16.4	39.7	0.4	2A	暗渠側壁	SE1-5
1275	水 SF1	30.0	39.2	14.2	36.3	0.4	2A	暗渠側壁	SE1-4
1276	水 SF1	42.0	42.2	14.0	37.4	0.3	1B	暗渠側壁、梵字「ア」?	SE1-49
1277	水 SS2	36.4	42.2	14.0	39.3	0.3	1B	石積構成材、隅部が欠損	SS2-12
1278	水 SE1	21.0	34.9	11.7	34.8	0.3	1B	暗渠側壁、隅部が欠損	SE1-25
1279	水 SE1	13.0	34.1	10.4	32.6	0.3	1B	暗渠側壁	SE1-48
1280	水 SE1	26.5	36.8	15.6	36.4	0.4	2B	暗渠側壁、梵字「ジャン」?「メチ」?、隅部が欠損	SE1-30
1281	水 SS1	29.0	39.2	16.2	34.6	0.4	2B	石積構成材、隅部が欠損	SS1-67
1282	水 SE1	21.0	34.8	12.1	33.4	0.4	2B	暗渠側壁、隅部が欠損	SE1-15
1283	水 SE1	30.5	38.2	13.5	36.9	0.4	2B	暗渠側壁、梵字「イ」?、隅部が欠損	SE1-29
1284	水 SE1	18.0	35.2	13.8	34.2	0.4	2A	暗渠側壁、隅・四辺が欠損	SE1-27
1285	水 SS1	27.0	35.7	14.7	33.0	0.4	2B	暗渠側壁	SS1-63
1286	水 SS2	38.5	39.0	18.2	37.8	0.5	2B	石積構成材、梵字「アー」「タラーン」または「アン」?	SS2-10
1287	水 SE1	48.5	41.0	19.8	39.6	0.5	2B	暗渠側壁、梵字「アー」	SE1-23
1288	水 SS1	20.0	39.8	16.7	26.7	0.4	2C	石積構成材、半分が欠損	SS1-58

第53表 板碑計測表

第 54 表 近世墓計測表

掲載 No.	出土 地点	部位	長辺	法量 cm) 短辺	残存高	- 備考	注記名
1289	水 SF1	頭部	20.0	24.0	10.2	石敷構成材、墨字「・」あり	SF1
1290	水 SF1	頭部	13.4	14.4	10.6	石敷上面埋土、墨字「一」「右?」あり	SF1
1291	水 SF1	頭部	15.0	17.3	12.0	石敷構成材	SF1
1292	水 SF1	身部	16.8	24.0	10.4	石敷上面埋土	SF1
1293	zk SF1	身部	17.0	14.8	9.6	石敷 上面埋土	SF1

掲載 No. 出	姑娘	器種	石材	最大長	<u>表量 (cm</u> 最大幅) 最大厚	-	備考	注記名
1294 曲	G	墓標	砂岩	37.5	19.8			心慧宗信士位」	G2
1295 曲	G	台座	花崗岩	26.4	30.1	14.5	墓石が据えられ 立花・線香立の	るくりこみあり。 穴が2つ	G2

第55表 火輪計測表(未掲載分)

出土地点	重量						法量 (c	:m)						法量比率	分類	備考	注記名
шт.еж	(kg)	В	長辺	q	h	i	j	k		m	n	0	р	(B/o)	73 XX	DHI (7	/186-0
水 SE1	14.0	34.8	22.4	5							8.8	17.3		2.0	2Aa β	石積構成材	SE1
水 SS1	16.5	34.1	15.5	5.5	11.0	3.5	1.0	3.5	1.0	10.5	6.5	16.0	14.0	2.1	1Ba α	石積構成材	SS1-36
水 SS1	12.5	36.0	23.0	4.8	16.0	5.0	1.5	5.2	1.8	11.0	7.0	16.6	14.5	2.2	2Ca β	石積構成材	SS1-42
水 SS1	26.0	39.5	20.2	7.8	13.4	5.4	0.6			12.0	7.4				1Ba β '	石積構成材	SS1-44
水 SS1	51.0	35.3	17.8	5.2	11.0	5.0		5.9		12.6	9.0				2Bb β	石積構成材	SS1-45
水 SS1	20.0	38.1	24.7	1.5		10.4					8.4	19.5	17.3	2.0	2Aa β	石積構成材	SS1-50
水 SS1	21.5	33.4	17.2	4.0	10.5	7.0			1.1	15.0	8.6	14.8	14.0	2.3	1Ab β	石積構成材	SS1-53
水 SS1	29.5	34.2	21.0	3.5	15.0			6.0		17.0	8.0	17.9	14.0	1.9	2Cb β	石積構成材	SS1-54
水 SS1	18.0	42.4	21.0	8.2	13.8	3.4	3.0	2.2	6.4		9.4	20.6	20.0	2.1	2Aa β '	石積構成材	SS1-55
水 SS1	14.5	37.2	19.0	5.0	12.0	4.5	2.0	7.0	2.0	11.0	8.0	18.0	16.0	2.1	1Ab β	石積構成材	SS1-57
水 SS1	28.0	53.0	24.6	10.4	16.4	4.8	1.8	6.6	3.3	20.0	13.0	21.4	18.8	2.5	2Ab β '	石積構成材	SS1-59
水 SS1	28.0	31.8	15.1	3.9	8.4	4.8	1.9	4.1	3.3		9.1	16.2	15.0	2.0	1Aa β '	石積構成材	SS1-75
水 SS1	18.5	29.8	17.6	8.0	9.0	6.4	1.8	10.5	1.0		7.0		13.2		2Ba β '	石積構成材	SS1-76
水 SS1	31.8	37.4	17.4	2.2	12.6	3.6	1.4	4.4	1.2		7.6	19.1	18.1	2.0	1Aa β '	石積構成材	SS1-78
水 SS1	22.0	33.0	18.8	3.2	12.8	4.2	1.4	5.8	4.2	11.0	6.6	15.2	13.0	2.2	2Ab β '	石積構成材	SS1-79
水 SS1	28.0	32.6	16.8	5.9	11.1	5.4		4.2		12.6	7.8	16.2	15.2	2.0	1Aa β	石積構成材	SS1-80
水 SS1	21.2	35.1	24.1	5.8	13.5	5.4	0.6	8.0	1.6	18.1	9.6	16.2	16.0	2.2	2Ba α	石積構成材	SS1-85
水 SS1	27.0	41.2	21.7	4.8	12.3	8.4					9.8	17.7		2.3	2Ab β	石積構成材	SS1
水 SS2	15.0	36.2	21.0	5.0	12.0			8.6			8.6				2Ab β	石積構成材	SS2-3
水 SS2	22.5	28.0	18.0			7.2	0.5	6.4	0.9			17.0	16.5	1.7	1Bb β	石積構成材	SS2-6
曲」	21.0	20.0	4.0	20.0	2.0	5.0	8.0	3.8	15.0	4.0	8.0	10.0	15.0	2.0	2Aa α '	中山遺跡	曲」

第56表 地輪計測表(未掲載分)

出土	重量	ž	토量 (cm)		法量比	分類	備考	注記名
地点	(kg) -	Χ	D	短辺	(D/x)			
堀 B4	5.0	27.0	9.7	23.8	0.4	2A		ホリ B2
水 SE1	26.8	38.7	14.7	36.3	0.4	2B	暗渠側壁	SE1-1
水 SE1	20.1	38.0	12.6	34.0	0.3	1A	暗渠側壁	SE1-2
水 SE1	15.5	35.4	9.8	33.4	0.3	1A	暗渠側壁	SE1-6
水 SE1	21.0	36.9	12.6	35.3	0.4	2A	暗渠側壁	SE1-7
水 SE1	21.0	38.0	11.8	36.4	0.3	1A	暗渠側壁	SE1-8
水 SE1	18.0	35.8	12.8	35.4	0.4	2A	暗渠側壁	SE1-9
水 SE1	15.5	38.2	8.2	34.8	0.2	1A	暗渠側壁	SE1-10
水 SE1	22.5	38.6	11.4	36.6	0.3	1A	暗渠側壁	SE1-11
水 SE1	16.0	33.8	10.5	30.5	0.3	1A	暗渠側壁	SE1-12
水 SE1	16.5	36.4	12.6	30.2	0.4	2A	暗渠側壁	SE1-13
水 SE1	18.0	33.6	14.5	33.4	0.4	2A	暗渠側壁	SE1-14
水 SE1	33.0	43.2	15.7	42.2	0.4	2A	暗渠側壁	SE1-18
水 SE1	27.0	35.4	16.4	35.0	0.5	2A	暗渠側壁	SE1-19
水 SE1	53.0	45.3	17.7	40.9	0.4	2A	暗渠側壁	SE1-20
水 SE1	34.5	49.8	9.4	46.9	0.2	1A	暗渠側壁	SE1-21
水 SE1	23.5	30.0	16.2	29.0	0.5	2A	暗渠側壁	SE1-26
水 SE1	23.5	38.6	12.6	35.4	0.3	1A	暗渠側壁	SE1-28
水 SE1	30.5	38.8	13.7	35.4	0.4	2A	暗渠側壁	SE1-72
水 SE1	27.0	40.6	12.6	36.7	0.3	1A	暗渠側壁	SE1-73
水 SE1	22.5	39.8	12.7	34.3	0.3	1A	暗渠側壁	SE1-83
水 SE1	22.5	43.2	10.7	36.4	0.3	1A	暗渠側壁	SE1-84
水 SS1	17.0	39.0	11.0	37.8	0.3	1A	暗渠側壁	SS1
水 SS1	20.0	35.2	12.5	34.9	0.4	2A	暗渠側壁	SS1

出土地点	重量 (kg) -	X X	t量 (cm)	短辺	法量比 (D/x)	分類	備考	注記名
水 SS1	14.5	35.0	13.6	34.0	0.4	2A	暗渠側壁	SS1
水 SS1	25.0	30.8	13.8	29.1	0.5	2A	暗渠側壁	SS1
水 SS1	12.0	39.8	12.1	30.6	0.3	1A	暗渠側壁	SS1
水 SS1	10.0	36.2	9.0	34.5	0.3	1A	暗渠側壁	SS1
水 SS1	17.0	39.2	11.0	35.1	0.3	1A	暗渠側壁	SS1
水 SS1							暗渠側壁(計測不可	SS1
水 SS1							暗渠側壁(計測不可	SS1
水 SE2	19.0	36.4	14.6	30.6	0.4	2A	石積構成材	SE2-1
水 SE2	26.5	52.2	17.8	33.2	0.4	2A	石積構成材	SE2-2
水 SS1	20.0	36.5	10.4	34.4	0.3	1A	石積構成材	SS1-33
水 SS1	19.0	35.4	13.7	33.2	0.4	2A	石積構成材	SS1-34
水 SS1	3.0	25.2	8.6		0.4	2A	石積構成材	SS1-61
水 SS1	21.5	38.1	11.1	33.7	0.3	1A	石積構成材	SS1-62
水 SS1	10.8	33.6	9.6	30.1	0.3	1A	石積構成材	SS1-69
水 SS1		15.3	9.8		0.7	2A	石積構成材	SS1
水 SS1		25.7	6.2		0.3	1A	石積構成材	SS1
水 SS1		17.2	8.9		0.5	2A	石積構成材	SS1
水 SS1	3.0	23.8	8.8	23.0	0.4	2A	石積構成材	SS1
水 SS1	13.0	31.6	11.6	29.8	0.4	2A	石積構成材	SS1
水 SS2	31.0	38.4	14.3	36.7	0.4	2A	石積構成材	SS2-8
水 SS2	10.0	37.2	15.1	33.2	0.4	2A	石積構成材	SS2-11
水 SS2	12.0	34.4	10.2	30.0	0.3	1A	石積構成材	SS2-13
水 SF1	20.5	36.0	13.0	35.4	0.4	2A	井戸石敷	SF1
水 SF1	7.0	35.6	7.6	27.8	0.2	1A	井戸構成材	SF1
水	24.0	40.1	12.2	36.3	0.3	1A	井戸構成材 (近現代)

第57表 板碑計測表(未掲載分)

出土地点	部位 -				備考	注記名	
水 SF1	身部	18.0	17.0	6.4	石敷上面埋土	SF1	•

第Ⅶ章 自然科学分析の結果

第1節 はじめに

第四章では、塩見城跡発掘調査に関連した自然科学分析の結果と概要について以下に記載する。実施した自然科学分析は放射性炭素年代測定(第2節)、樹種同定(第3節)、漆製品の塗膜構造(第4節)、金属分析(第5節)、近世人骨の鑑定(第6節)である。

第2節 放射性炭素年代測定

1 西側曲輪群における放射性炭素年代測定

(1) 試料

試料は、下記の炭化材 8 点である。

№ 1 堀切 A3, 19 層(第 11 図 f-g)

No. 2 曲輪 B2, 通路状遺構, 5層(第23図g-h)

№.3 曲輪 B4, 16 層 (第 23 図 q-r)

No. 4 水の手曲輪, SS1 スロープ部, 10 層 (第

53 図)

№5 水の手曲輪, 窪地状遺構, 6層(第39図)

№6 水の手曲輪, 窪地状遺構, 22層(第39図)

№ 7 帯曲輪 A3b, 5層 (第14図 l-m)

No. 8 帯曲輪 A3b, 2層(第14図1-m)

(2) 分析方法

各試料を超音波洗浄と酸-アルカリ-酸処理の後、AMS [加速器質量分析法 (Accelerator Mass Spectrometry)] により年代を測定し、暦年分析した。

(3) 測定結果

第58表に放射性炭素年代測定結果および暦年代 (較正年代)を示し、第176図に暦年較正結果(較 正曲線)を示す。

(4) 所見

加速器質量分析法 (AMS) による放射性炭素 年代測定の結果、No.1の炭化材では520±20年 BP (2のの暦年代でAD1400~1440年)、No.2 の炭化材では700±20年BP (AD1260~1300, 1360~1380年)、No.3の炭化材では605±20 年BP (AD1290~1370, 1380~1410年)、No.4 の炭化材では380±20年BP (AD1440~1530, 1570~1630年)、No.5の炭化材では305±20年 BP (AD1490~1650年)、No.6の炭化材では355 ±20年BP (AD1450~1530, 1550~1640年)、No.7の炭化材では300±20年BP (AD1510~1600, 1610~1650年)、№8の炭化材では340±20年 BP(AD1470~1640年)の年代値が得られた。

なお、樹木 (炭化材)による年代測定結果は、樹木の伐採年もしくはそれより以前の年代を示しており、樹木の心材に近い部分や転用材が利用されていた場合は、遺構の年代よりも古い年代値となる。

2 南側曲輪群における放射性炭素年代測定

(1) 試料

試料は、下記の15点である。

No.1 曲輪 M SA1 地床炉中央出土

No.2 曲輪 M SC1 出土

No. 3 曲輪K SC1

No. 4 曲輪 M SC1 出土

No.5 曲輪 M SX1 3層出土

No.6 曲輪 H SC1 出土

No.7 道路状遺構 1-3 地山土層出土

No.8 道路状遺構 1-2 西側溝 (法面近く)出土

No.9 曲輪 J1 土層 5a(炭化材を含む層)出土

No.10 曲輪 H 柱穴 (D-15) 出土

No.11 曲輪 J 包含層出土

No.12 道路状遺構 1-3 炭化物層出土

No.13 道路状遺構 1-3 溜枡状遺構出土

No.14 曲輪 J SA1 柱穴出土

No.15 曲輪 M SA1 出土

(2) 分析方法

各試料を超音波洗浄と酸 - アルカリ - 酸処理の後、加速器質量分析計を用いて測定した。得られた 14C 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、14C 年代、暦年代を算出した。

(3) 測定結果

第59表に放射性炭素年代測定結果および暦年代 (較正年代)を示し、第177図に暦年較正結果(較 正曲線)を示す。

(4) 所見

№ 1 は 1 3 4 4 ~ 1 3 9 4 c a l A D (5 6 . 3 %) と 1287~1326calAD(39.1%)で、14世紀中頃から14世紀末の確率が高い。

No.2は1399~1440calAD(95.4%)で、14世紀末から15世紀中頃の範囲である。

No.4は1265~1302calAD(84.8%)と1367~1383calAD(10.6%))で、13世紀中頃から14世紀初頭の確率が高い。

No.5は1539~1635calAD(56.8%)と1466~1530calAD(38.6%)で、16世紀前半から17世紀前半の年代範囲の確率が高い。

No.6は1470~1635calAD(95.4%)で、15世紀後半から17世紀前半の年代範囲である。

No.7は1454~1526calAD(49.9%)と1556~1633calAD(45.5%)で、15世紀中頃から16世紀前半と16世紀中頃から17世紀前半の年代範囲の確率がほぼ同じである。

No.8は1490~1603calAD(74.3%)と 1612~1645calAD(21.1%)で、15世紀末から17世紀 初頭の年代範囲の確率が高い。

No.9は1397~1441calAD(93.3%)と1331~1338calAD(2.1%)で、14世紀末から15世紀前半の年代範囲の確率が高い。

No.10は1540~1635calAD(54.3%)と1461~1530calAD(41.1%)で、16世紀中頃から17世紀前半と15世紀中頃から16世紀前半年代範囲の確率がほぼ同じである。

No.11は1418~1455calAD(95.4%)で、15世紀初 頭から15世紀中頃の年代範囲である。

No.12は333~435calAD(92.0%)と492~507calAD(1.8%)で、4世紀前半から5世紀前半の年代範囲の確率が高い。

No.13は1430~1482calAD(95.4%)で、15世紀前 半から15世紀後半の年代範囲である。 No.14は580~655calAD(95.4%)で、6世紀後半から7世紀中頃の年代範囲である。

No.15は1400~1442calAD(95.4%)で、15世紀前 半の年代範囲である。

以上の木材の14C年代が示すのは、その部分の年輪が形成された年代である。今回の炭化材試料は、すべて最外年輪以外の部位不明の年輪を測定試料としており、古木効果の影響を考慮する必要がある。またイネは1年生の草本植物のため、得られた年代は結実年を示している。

なお、今回測定した試料の14C年代は±20年あるいは±25年の誤差範囲であったが、1450~1600calADにかけての暦年較正曲線が比較的平坦なため、暦年較正年代(実年代)を求めると、得られた年代範囲は幅広くなるか、2つの年代範囲に分かれた(第177図)。こうした時期の高精度年代測定には、1試料について木材の年輪を5年ごとに複数測定するウィグルマッチング法が有効である。

参考文献

Paula J Reimer et al., (2004) IntCal 04 Terrestrial radiocarbon age calibration, 260 ka BP. Radiocarbon 46p.1029-1058.

Bronk Ramsey, C. (1995) Radiocarbon Calibration and Analysis of Stratigraphy: The OxCal Program Radiocarbon, 37, 425-430.

Bronk Ramsey, C. (2001) Development of the Radiocarbon Program OxCal. Radiocarbon. 43, 355-363.

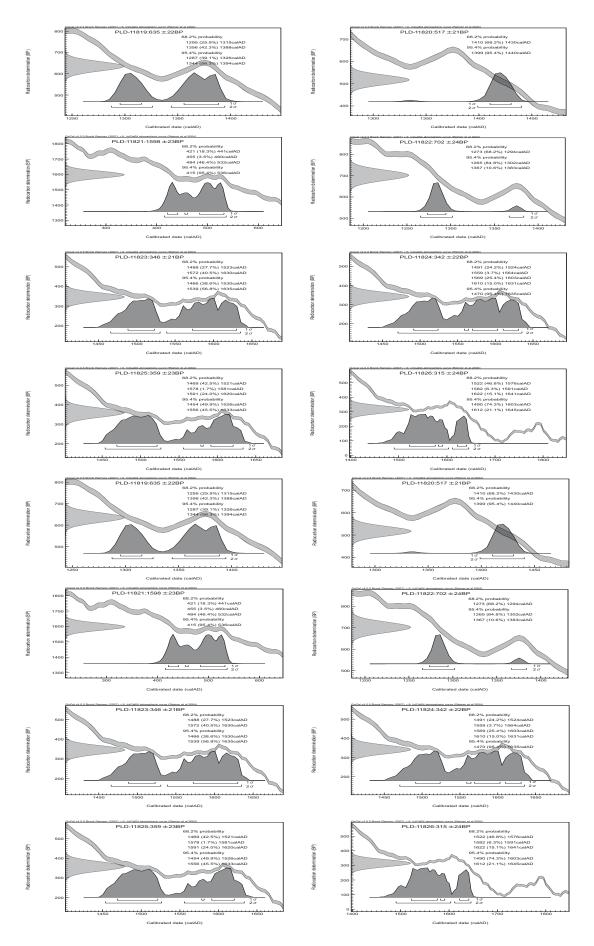
中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の14C 年代.3-20.

第58表 西側曲輪群における放射性炭素年代測定結果

試料No.	測定番号	δ 13C	14C 年代		較正年代)
市工个升NO.	PED-	(‰)	(年 BP)	1 σ(68.2%確率)	2 σ(95.4%確率)
1	14727	-26.05 ± 0.12	520 ± 20	AD 1405-1430 (68.2%)	AD 1400-1440 (95.4%)
2	14728	-25.03 ± 0.20	700 ± 20	AD 1275-1295 (68.2%)	AD 1260-1300 (89.9%) AD 1360-1380 (5.5%)
3	14729	-26.65 ± 0.19	605 ± 20	AD 1305-1330 (27.6%) AD 1335-1365 (28.5%) AD 1385-1400 (12.1%)	AD 1290-1370 (74.7%) AD 1380-1410 (20.7%)
4	14730	-25.06 ± 0.15	380 ± 20	AD 1450-1500 (54.6%) AD 1600-1620 (13.6%)	AD 1440-1530 (74.2%) AD 1570-1630 (21.2%)
5	14731	-27.51 ± 0.19	305 ± 20	AD 1520-1580 (52.1%) AD 1620-1650 (16.1%)	AD 1490-1650 (95.4%)
6	14732	-26.00 ± 0.13	355 ± 20	AD 1470-1530 (42.7%) AD 1590-1620 (25.5%)	AD 1450-1530 (49.2%) AD 1550-1640 (46.2%)
7	14733	-27.17 ± 0.18	300 ± 20	AD 1520-1570 (49.9%) AD 1630-1650 (18.3%)	AD 1510-1600 (68.9%) AD 1610-1650 (26.5%)
8	14734	-29.36 ± 0.14	340 ± 20	AD 1490-1530 (24.3%) AD 1550-1630 (43.9%)	AD 1470-1640 (95.4%)

war I		<u>論群におけるカ</u> δ º⊂	暦年較正用年代	14C 年代	14C 年代を暦年代に	較正した年代範囲
料No.	測定番号	(‰)	$(yrBP \pm 1 \sigma)$	$(yrBP \pm 1 \sigma)$	1 σ暦年代範囲	2 σ暦年代範囲
1	PLD-11819	-28.09 ± 0.25	635 ± 22	635 ± 20	1295AD(25.9%)1315AD 1356AD(42.3%)1388AD	1287AD(39.1%)1326AD 1344AD(56.3%)1394AD
2	PLD-11820	-28.10 ± 0.14	517 ± 21	515 ± 20	1356AD(42.3%)1388AD 1410AD(68.2%)1430AD	1344AD(56.3%)1394AL 1399AD(95.4%)1440AD
3	PLD-11821	-27.97 ± 0.19	1598 ± 23	1600 ± 25	421AD(18.3%)441AD 455AD(3.5%)460AD 484AD(46.4%)532AD	415AD(95.4%)536AD
4	PLD-11822	-23.70 ± 0.17	702 ± 24	700 ± 25	1273AD(68.2%)1294AD	1265AD(84.8%)1302AD
					1488AD(27.7%)1523AD	1367AD(10.6%)1383AE 1466AD(38.6%)1530AE
5	PLD-11823	-26.75 ± 0.14	346 ± 21	345 ± 20	1572AD(40.5%)1630AD	1539AD(56.8%)1635AE
6	PLD-11824	-28.20 ± 0.12	342 ± 22	340 ± 20	1491AD(24.2%)1524AD 1559AD(3.7%)1564AD 1569AD(25.4%)1603AD 1610AD(15.0%)1631AD	1470AD(95.4%)1635AE
7	PLD-11825	-28.26 ± 0.22	359 ± 23	360 ± 25	1469AD(42.5%)1521AD 1578AD(1.7%)1581AD 1591AD(24.0%)1620AD	1454AD(49.9%)1526AE 1556AD(45.5%)1633AE
8	PLD-11826	-28.32 ± 0.15	315 ± 24	315 ± 25	1522AD(46.8%)1576AD 1582AD(6.3%)1591AD 1622AD(15.1%)1641AD	1490AD(74.3%)1603AE 1612AD(21.1%)1645AE
9	PLD-11827	-28.67 ± 0.14	518 ± 23	520 ± 25	1410AD(68.2%)1430AD	1331AD(2.1%)1338AD 1397AD(93.3%)1441AE
10	PLD-11828	-25.43 ± 0.13	349 ± 22	350 ± 20	1485AD(28.7%)1523AD	1461AD(41.1%)1530AE
-					1573AD(39.5%)1629AD	1540AD(54.3%)1635AE
12	PLD-11829 PLD-11830	-26.93 ± 0.12 -24.33 ± 0.16	457 ± 22 1651 ± 23	455 ± 20 1650 ± 25	1431AD(68.2%)1448AD 382AD(68.2%)426AD	1418AD(95.4%)1455AE 265AD(0.8%)274AD 333AD(92.0%)435AD 492AD(1.8%)507AD
_	DI D	20.45.1.5.	4		4407454777777	520AD(0.7%)527AD
13	PLD-11831	-29.46 ± 0.19	431 ± 22	430 ± 20	1437AD(68.2%)1460AD	1430AD(95.4%)1482AE
14	PLD-11832	-26.10 ± 0.17	1432 ± 24	1430 ± 25	610AD(68.2%)645AD	580AD(95.4%)655AD
15	PLD-11833	-29.47 ± 0.16	514 ± 22	515 ± 20	1411AD(68.2%)1431AD	1400AD(95.4%)1442AE
800BP 700BP 500BP	1200CalAD 13	13 13 13 95	1500CalAD 1600CalAI %probability 05AD (27.6%) 1330AD 05AD (27.6%) 1356AD 8SAD (12.1%) 1400AD %probability	600E delicio sone del 400E del minimi	BP -	ted date
500BP 400BP 300BP			90AD (20.7%) 1370AD 90AD (20.7%) 1410AD	200E	BP	
	1200CalAD	1300CalAD 1400CalAD	1500CalAD		1300CalAD 1400CalAD 1500CalAI	2 1000Calcal2 1700Calcal2 1
600BP	1200CalAD	Calibrated date PFD-14731: 303±21BP		<i>em</i> e	Calibrat	ed date 357±19BP
	1200CalAD	Calibrated date PED-14731: 303±21BP 68.2 15	%probability 20AD (52.1%) 1580AD	R 600E adi: 2u 500E	Calibrat	ted date 1357±19BP 68.79% perspeciality
400BP	1200CalAD	Calibrated date PFD-14731: 303±21BP 68.2 15 16 95.4	% probability	adiocarbon 500E	Calibrat PED-14732 : 3	red date 1357±19BP 68.2% probability 1470AD (42.7%) 1530AI 1590AD (25.5%) 1620AI 95.2% probability
	1200CalAD	Calibrated date PFD-14731: 303±21BP 68.2 15 16 95.4	% probability 20AD (52, 1%) 1580AD 20AD (16, 1%) 1650AD % motability	adiocarbon 500E	Calibrat PiD-14732 : :	red date 7357±19BP 68.2% probability 1470AD (42.7%) 1530AI 1590AD (25.5%) 1620AI 95.4% probability
400BP	1200CidAD	Calibrated date PFD-14731: 303±21BP 68.2 15 16 95.4	% probability 20AD (52, 1%) 1580AD 20AD (16, 1%) 1650AD % motability	adiocarbon deter	Calibrat PDD-14732:: 3P PDD-14732::	ed date 357±19BP 68.2% probability 1470AD (42.7%) 1530AU 1590AD (25.5%) 1620AU
400BP 200BP	1200ChlAD	Calibrated date PFD-14731: 303±21BP 68.2 15 16 95.4	% probability 20AD (52, 1%) 1580AD 20AD (16, 1%) 1650AD % motability	action 500E carbon de 400E determinatio	Calibrat PDD-14732:: 3P PDD-14732:: 3P RP	red date 1357±19BP 68.2% probability 1470AD (42.7%) 1530AI 1590AD (25.5%) 1620AI 95.2% probability
400BP 200BP 0BP 200BP	1200CalAD	Calibrated date PPD-14731: 3034-21BP 68.2 15.2 16.2 17.4	% probability 20AD (52, 1%) 1580AD 20AD (16, 1%) 1650AD % motability	adi. 500E m 400E determin 300E 200E	Calibrat PDD-14732:: 3P PDD-14732:: 3P RP	ad date \$57#19BP \$2.50mm/rthilip 1470Ab; 62.7% 1530A 1530Ab (25.7% 160Ab 95.4% probability 1450Ab (46.2% 150Ab 1550Ab (46.2% 160Ab 1550Ab (46.2% 160Ab 160CslAD 170CslAD 18
400BP 200BP 0BP		Calibrated date PED-14731: 300±21BP 1600ChIAD 1800 Calibrated date PED-14733: 300±18BP PED-14733: 300±18BP	%prehability. 20A1/162.1% ISSAAD 20A2/162.1% ISSAAD 20A2/16.1% ISSAAD 20A2/16.5% ISSAAD	600 500E 500E 640E 640E 640E 640E 640E 640E 640E 6	Calibrat PED-14732:: 38 38 39 39 1300CalAD 1400CalAD 1500CalAD Calibrat	ad date 357±19BP 4570A19d; 7% 1530A 1530A0 (5.7%) 160A0 95.4% probability 1450A0 (40.2%) 150A0 1550AD (40.2%) 150A0 1550AD (40.2%) 150A0 160CslAD 1700CslAD 18 ad date
400BP 200BP 0BP 200BP		Calibrated date PPD-14731: 303±21BP 68.2 18.2 18.2 18.2 1600ChlAD 1800 Calibrated date PPD-14733: 300±18BP 68.8 18.6	%grachatiig) 20AD;162;1%;1580AD 20AD;163;1%;1580AD 20AD;163;1%;1650AD 20AD;265;4%;1650AD 20AD;265;4%;1650AD 20AD;265;4%;1570AD 20AD;265;4%;1570AD 20AD;265;4%;1650AD	600 500E 500E 640E 640E 640E 640E 640E 640E 640E 6	Calibrat PED-14732:: PED-14732:: PED-14734:: PED-14734::	ad date 857±198P 8.5% [Schrift in 1500A] 1500A) (25.7% 1500A] 1500A) (25.7% 1500A] 9.5% [probability 1500A] 1450A) (40.2% 1500A] 1500A) (40.2% 160AA] 1600CalAD 1700CalAD 18 ad date 1450A) (43.5% 1500A] 1500A) (43.5% 1500A] 1500A) (43.5% 1500A] 1500A) (43.5% 1500A]
400BP 200BP 0BP 200BP		Calibrated date PPD-14731: 303±21BP 68.2 15 95. 95. 96. 14 14 1600C±AD 1800 Calibrated date PPD-14733: 300±18BP 68.2 16.6 68.2	%probability 20(AD) (52 1%) 1580AD 20(AD) (52 1%) 1580AD 20(AD) (52 1%) 1680AD 20(AD) (53 1%) 1680AD 20(AD) (54 1%) 1680AD 20(AD) (54 1%) 1680AD 20(AD) (54 1%) 1680AD 20(AD) (54 1%) 1680AD	600 500E 500E 640E 640E 640E 640E 640E 640E 640E 6	Calibrat PED-14732:: R R R R PED-14734:: R PED-14734:: R PED-14734::	ad dite 857±198P 8.5% [Schrift 1500 a 1500
400BP 200BP 0BP 200BP 600BP		Calibrated date PPD-14731: 303±21BP 68.2 15 95. 95. 96. 14 14 1600C±AD 1800 Calibrated date PPD-14733: 300±18BP 68.2 16.6 68.2	%prehability 20AD (22 15% 1580AD 20AD (22 15% 1580AD 20AD (25 45%) 1650AD 20AD (25 45%) 1650AD 20AD (25 45%) 1650AD 20AD (26 25%) 1570AD 20AD (26 25%) 1570AD 20AD (26 25%) 1650AD 20AD (26 25%) 1650AD 20AD (26 25%) 1650AD	86 CODE 800E 100E	PED-14732 :	ad date 357±19BP 4570A19d; 7% 1530A 1530A0 (5.7%) 160A0 95.4% probability 1450A0 (40.2%) 150A0 1550AD (40.2%) 150A0 1550AD (40.2%) 150A0 160CslAD 1700CslAD 18 ad date
400BP 0BP 0BP 500BP 60BP 0BP		Calibrated date PPD-14731: 303±21BP 68.2 15 95. 95. 96. 14 14 1600C±AD 1800 Calibrated date PPD-14733: 300±18BP 68.2 16.6 68.2	%prehability 20AD (22 15% 1580AD 20AD (22 15% 1580AD 20AD (25 45%) 1650AD 20AD (25 45%) 1650AD 20AD (25 45%) 1650AD 20AD (26 25%) 1570AD 20AD (26 25%) 1570AD 20AD (26 25%) 1650AD 20AD (26 25%) 1650AD 20AD (26 25%) 1650AD	200E Radiocardon decomination Radiocardon	PED-14732 :	ad dite 857±198P 8.5% [Schrift 1500 a 1500

第 176 図 西側曲輪群暦年較正結果



第 177 図 南側曲輪群暦年較正結果

第3節 樹種同定

(1) 試料

試料は水の手から出土した生活用品 30 点、建築 部材 35 点、用途不明品 3 点の合計 68 点である。

(2) 観察方法

剃刀で木口(横断面)、柾目(放射断面)、板目(接線断面)の各切片を採取し、永久プレパラートを作製した。これを顕微鏡で観察して同定した。

(3) 結果(第60表・第178~180図)

樹種同定結果(針葉樹3種、広葉樹19種、タケ類1種、樹皮1種)の表と顕微鏡写真を示した。

参考文献

島地謙・伊東隆夫「日本の遺跡出土木製品総覧」雄山閣出版(1988) 島地謙・伊東隆夫「図説木材組織」地球社(1982)

伊東隆夫「日本産広葉樹材の解剖学的記載 $I \sim V$ 」京都大学木質 科学研究所(1999)

北村四郎・村田源「原色日本植物図鑑木本編 $I \cdot II$ 」保育社(1979) 深睪和三「樹体の解剖」海青社 (1997)

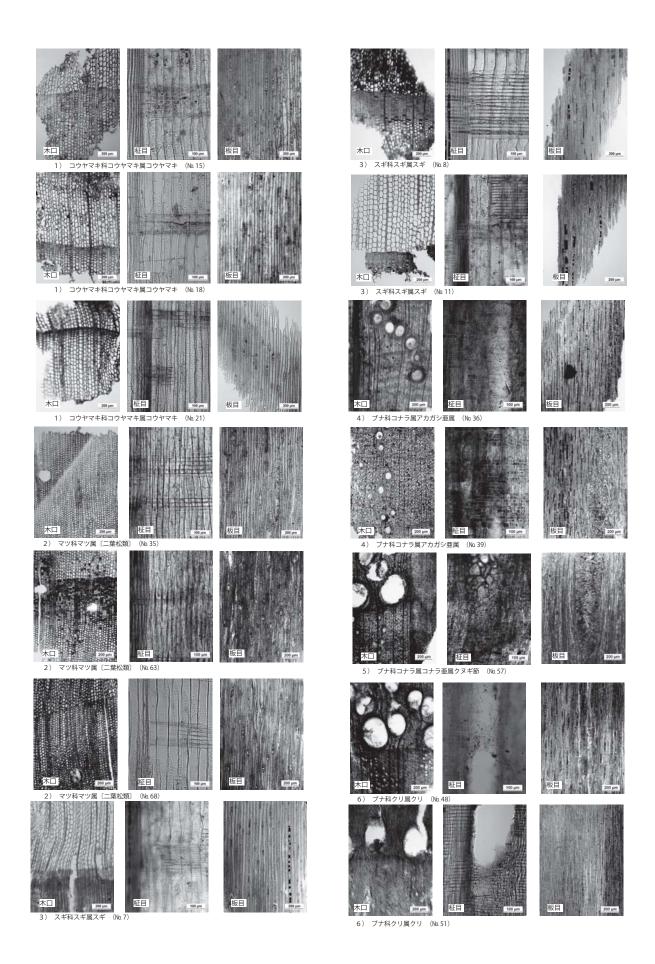
奈良国立文化財研究所「奈良国立文化財研究所 史料第 27 冊 木器 集成図録近畿古代篇」(1985)

奈良国立文化財研究所「奈良国立文化財研究所 史料第 36 冊 木器 集成図録近畿原始篇」(1993)

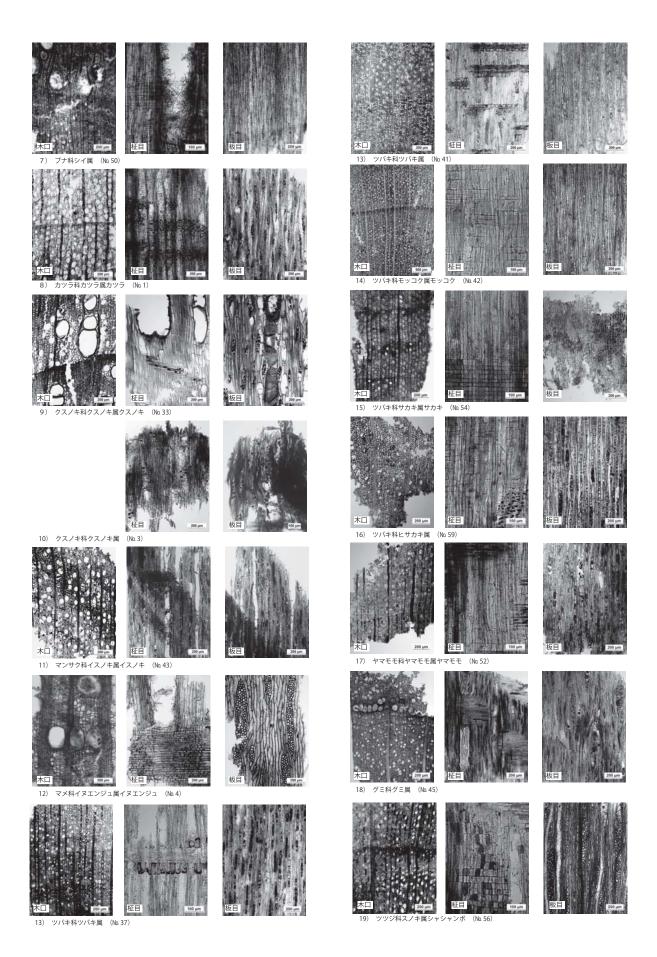
使用顕微鏡 Nikon DS-Fi1

第60表 木製品樹種同定表

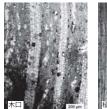
No.	掲載番号	器種	樹種	No.	掲載番号	器種	樹種
1	934 • 935	漆器碗	カツラ科カツラ属カツラ	34	984	柱材	マツ科マツ属〔二葉松類〕
2	936	漆器碗	クスノキ科クスノキ属クスノキ	35	985	胴木 杭	マツ科マツ属〔二葉松類〕
3	937	漆器碗	クスノキ科クスノキ属	36	986		ブナ科コナラ属アカガシ亜属
4	938	漆器碗	マメ科イヌエンジュ属イヌエンジュ	37	987	杭	ツバキ科ツバキ属
5	939 • 940	A 桶 (蓋)	スギ科スギ属スギ	38	988	杭	ツバキ科モッコク属モッコク
_		B // (木釘)	イネ科タケ亜科	39	989	杭	ブナ科コナラ属アカガシ亜属
6	941	桶(蓋)	スギ科スギ属スギ	40	990	杭	ヤブコウジ科ツルマンリョウ属タイミンタチバナ
7	942	桶(蓋)	スギ科スギ属スギ	41	991	胴木	ツバキ科ツバキ属
8	943	桶(蓋)	スギ科スギ属スギ	42	992	胴木	ツバキ科モッコク属モッコク
9	944	A 桶(蓋)	スギ科スギ属スギ	43	993	胴木	マンサク科イスノキ属イスノキ
Ĺ	244	B // (木釘)	イネ科タケ亜科	44	1011	杭	マツ科マツ属〔二葉松類〕
10	945	桶 (蓋)	スギ科スギ属スギ	45	1012	杭	グミ科グミ属
11	946	曲物(底板)	スギ科スギ属スギ	46	1016	杭	ブナ科コナラ属アカガシ亜属
12	947	曲物(底板)	スギ科スギ属スギ	47	1018	杭	ヤブコウジ科ツルマンリョウ属タイミンタチバナ
13	948	把手	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ	48	1020	杭	ブナ科クリ属クリ
14	949	折敷	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ	49	1023	杭	カキノキ科カキノキ属
15	950	角切折敷	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ	50	1025	杭	ブナ科シイ属
16	951	角切折敷	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ	51	1030	杭	ブナ科クリ属クリ
17	952	桶(底板か)	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ	52	1033	杭	ヤマモモ科ヤマモモ属ヤマモモ
18	953	曲物(底板)	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ	53	1034	杭	ツバキ科ツバキ属
19	954	曲物(底板)	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ	54	1036	杭	ツバキ科サカキ属サカキ
20	955	曲物(底板)	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ	55	1037	杭	スイカズラ科ガマズミ属
21	956	曲物(底板)	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ	56	1042	杭	ツツジ科スノキ属シャシャンボ
22	957	曲物(底板)	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ	57	1050	杭	ブナ科コナラ属コナラ亜属クヌギ節
23	958	曲物(側板)	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ	58	1051	杭	ヤブコウジ科ツルマンリョウ属タイミンタチバナ
24	959	曲物(側板)	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ	59	1052	杭	ツバキ科ヒサカキ属
25	974	柄杓	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ	60	1053	杭	ヤブコウジ科ツルマンリョウ属タイミンタチバナ
26	975	柄杓	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ	61	1056	杭	ブナ科コナラ属アカガシ亜属
27	976	糸巻	スギ科スギ属スギ	62	1060	杭	ツバキ科ツバキ属
28	977	桛	スギ科スギ属スギ	63	1067	杭	マツ科マツ属〔二葉松類〕
29	978	綴皮	ヤマザクラ or カバの樹皮	64	1075	杭	ブナ科クリ属クリ
30	979	不明木製品	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	65	1077	杭	マツ科マツ属〔二葉松類〕
31	980	不明木製品	マツ科マツ属〔二葉松類〕	66	1088	杭	ブナ科クリ属クリ
32	981	不明木製品	マツ科マツ属〔二葉松類〕	67	1089	杭	マツ科マツ属〔二葉松類〕
33	983	井戸枠	クスノキ科クスノキ属クスノキ	68	-	杭	マツ科マツ属〔二葉松類〕
	•				•		



第 178 図 樹種同定試料の断面写真 (1)



第 179 図 樹種同定試料の断面写真 (2)







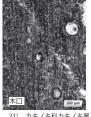
20) ヤブコウジ科ツルマンリョウ属タイミンタチバナ (No.58)







20) ヤブコウジ科ツルマンリョウ属タイミンタチバナ (No.60)











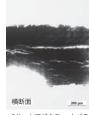


2) スイカズラ科ガマズミ属 (Na.55)





23) イネ科タケ亜科 (No.5B)







24) ヤマザクラ or カバの樹皮 (No. 29)

第4節 漆製品の塗膜構造

(1) 試料

試料は、以下の中世〜近世の漆製品 4 点である。 No.1 (樹種同定試料No.1) 漆器椀 (934・935:カツラ) 内外両面に黒色の漆の残存がみられる。

No.2 (樹種同定試料No.4) 漆器 (938: イヌエン ジュ) 内外両面とも黒色の椀。内面は炭化?

No.3 (樹種同定試料No.2) 漆器椀片 (936:クスノキ) 口縁端部内面赤色で文様が施される。外面は赤色で文様が施される。漆容器として転用されたものか、内面に漆が付着している。

No.4 (樹種同定試料No.3) 漆器椀片 (937: クスノ キ属) 内面赤色で外面は黒色の漆。

(2)調査方法

試料本体から数mm四方の破片を採取してエポキシ 樹脂に包埋し、塗膜断面の薄片プレパラートを作製 した。これを落射光ならびに透過光の下で検鏡した。

(3) 断面観察結果

塗膜断面の観察結果を第61表に示す。

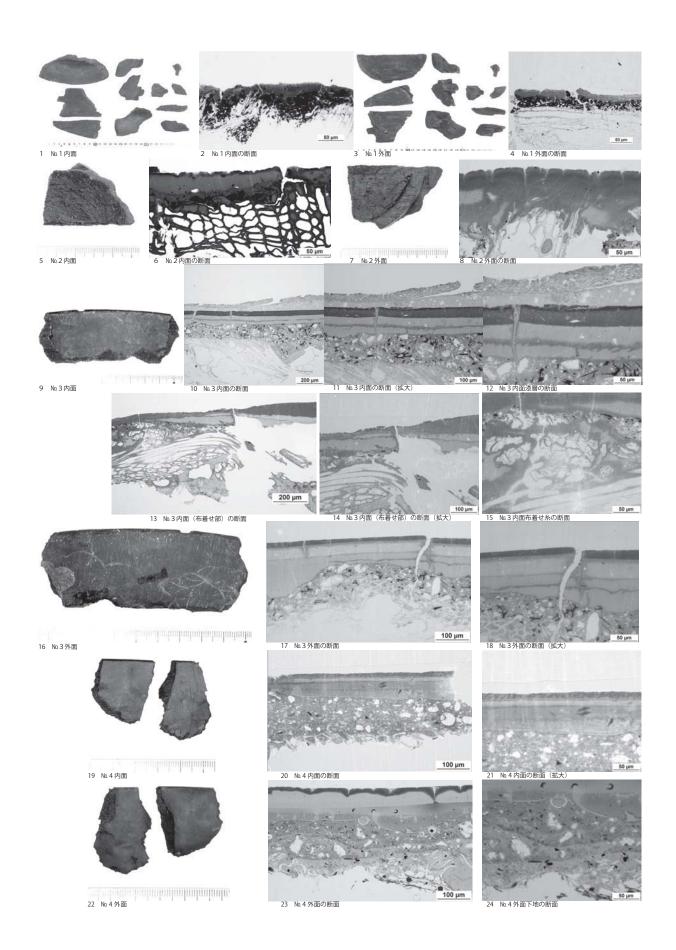
塗膜構造:下層から下地、漆層と重なる様子が 観察された。1点には、下地の下に布着せが施され ていた (No. 3内面)。また、1点 (No. 3内面)に は内面に塗装とは関係のない漆が観察された。漆容 器 (パレット?)として転用された時の漆であろう。

布着せ:No. 3内面には下地の下に布着せの様子が観察された。数単位の植物繊維がひとかたまりになり、このかたまりがいくつか集まって布の糸を構成している(第181図)。この様子は、植物の靭皮繊維の特徴をしめし、布の材質は麻の可能性が高い。

下地:褐色の柿渋に木炭粉を混和した炭粉渋下地2点と、漆に主に鉱物質を混和する漆下地2点とが認められた。漆下地のうち、No.3には炭化物も混和されていた。No.4外面の下地は、4層施されていた。

漆層:下地の上に、地色の漆層が1層のみ重なるものと、複数の漆層が重なるものとがあった。1層のみ重なるものは下地が炭粉渋下地で、複数の漆層が重なるものの下地は漆下地であった。漆層が重なるものは、透明漆が2~3層重なっていた。地色が赤色の場合には(No.4内面)、透明漆が数層重なった上に1層のみ赤色漆が見られた。

第 180 図 樹種同定試料の断面写真(3)



第 181 図 水の手曲輪出土漆製品の塗膜構造調査結果

No. 2 内面は、木胎~漆層までが茶褐色を呈している。これは全体が火を受けて炭化した結果である。 No. 4 外面最上層の透明漆の上面付近が濃褐色に変色している。これは劣化による漆の変色である。

顔料: No.3,4 には、赤色顔料の使用が認められた。 全点ともに、きわめて透明度が高い、赤色の顔料が 漆に混和されていた。この顔料はすべて朱である。

転用: No. 3 内面には椀の塗装の上に、さらに透明漆が2層観察された(赤色漆層の上)。これらの漆には、気泡や夾雑物が混じっており、精製の度合いが低いことがわかる。

(4) 摘要

炭粉渋下地の試料2点には、それぞれ透明漆1層のみが、漆下地の試料2点には複数層の塗り重ねが認められた。また、漆下地の試料には赤色顔料が使用されているが、ベンガラではなくすべて朱であった。よって下地のランクが漆層の数や顔料の種類などと関連があることが読み取れる。しかし、今回調査した漆下地の試料には、漆容器としての転用例があった。これは什器としての利用後、転用されたことを意味するので、製品のランクについては今後慎重に調査例を増やしていく必要がある。

※試料No.1 については、当時同一個体として分析したが、別個体であることが判明し、別々に図化し報告した(第VI章 木製品)。

第5節 金属分析

(1) 試料

試料は南側曲輪群から出土した次の11点である。

- No.1 炉壁(SG1-3出土)
- №2 鉄塊系遺物 (SG1-3・側溝出土)
- No.3 鉄塊系遺物(SG1-3・側溝出土)
- No.5 椀形鍛冶滓 (SG 2 出土)
- № 6 鉄塊系遺物(曲輪 M SC1 出土)
- No.7 粒状滓様遺物(曲輪 M SA2・SC1 出土)か ら3点
- No. 8 鍛造剥片様遺物(曲輪 M SA2・SC1 出土) から 6 点
- No.9 鉄塊系遺物(曲輪 M SA2 出土)
- No. 10 椀形鍛冶滓(曲輪 I 出土)
- No. 11 椀形鍛冶滓(曲輪 I 出土)
- (2) 分析項目(第62表)
- ① 肉眼観察

遺物の外観上の観察所見を行う。

② マクロ組織

ここでは顕微鏡埋込み試料の断面全体像を、投影 機の5倍で撮影した。

③ 顕微鏡組織

滓中に晶出する鉱物及び鉄部の調査を目的として、光学顕微鏡を用い観察を実施した。観察面は供試材を切り出した後、エメリー研磨紙の#150、#240、#320、#600、#1000、及びダイヤモンド粒子の 3 μ と 1 μ で順を追って研磨している。なお金属組織の調査では腐食(Etching)液に 5%ナイタル(硝酸アルコール液)を用いた。

④ ビッカース断面硬度

鉄滓中の鉱物と金属鉄の組織同定を目的として、 ビッカース断面硬度計(Vickers Hardness Tester) を用いて硬さの測定を行った。試験は鏡面研磨した

第61表 漆製品塗膜断面観察結果

	器	插				塗膊	模構造(下層から)	
No.	(掲載		部位	図版番号	下 地 膠着剤	混和材	漆 層 構 造	顔 料
1	椀 934		内面	第 181 図 2	柿渋	木炭粉	透明漆 1 層	_
<u>'</u>	198	935	外面	第 181 図 4	柿渋	木炭粉	透明漆 1 層	_
2	椀か皿	938	内面	第 181 図 6	柿渋	木炭粉	透明漆 1 層	_
2	柳刀'皿	938	外面	第 181 図 8	柿渋	木炭粉	透明漆 1 層	_
3	椀	936	内面	第 181 図 10 ~ 15	漆	鉱物、炭化物	透明漆 2 層/ 赤色漆 1 層/ 容器内:透明漆 2 層	朱
			外面	第 181 図 17,18	漆	鉱物	透明漆 3 層/赤色漆 1 層	朱
4	椀	937	内面	第 181 図 20,21	漆	鉱物	透明漆 3 層/赤色漆 1 層	朱
4	179	937	外面	第 181 図 23,24	漆4層	鉱物	透明漆 3 層	_

試料に136°の頂角をもったダイヤモンドを押し込み、生じた窪みの面積をもって、その荷重を除した商を硬度値としている。試料は顕微鏡用を併用した。

(5) EPMA (Electron Probe Micro Analyzer) 調査

化学分析を行えない微量試料や鉱物組織の微小域 の組織同定を目的とする。

分析の原理は、真空中で試料面(顕微鏡試料併用)に電子線を照射し、発生する特性 X 線を分光後に画像化し、定性的な結果を得る。更に標準試料と X 線強度との対比から元素定量値をコンピューター処理してデータ解析を行う方法である。

⑥ 化学組成分析 (第63表)

供試材の分析は次の方法で実施した。

全鉄分(Total Fe)、金属鉄(Metallic Fe)、酸化第一鉄(FeO):容量法。炭素(C)、硫黄(S)、:燃焼容量法、燃焼赤外吸収法。二酸化硅素(SiO₂)、酸化アルミニウム(Al_2O_3)、酸化カルシウム(CaO)、酸化マグネシウム(MgO)、酸化カリウム(K_2O)、酸化ナトリウム(Na_2O)、酸化マンガン(MnO)、二酸化チタン(TiO_2)、酸化クロム(Cr_2O_3)、五酸化燐(P_2O_5)、バナジウム(V)、銅(Cu)、二酸化ジルコニウム(Cr_2O_3):ICP(Inductively Coupled Plasma Emission Spectrometer)法:誘導結合プラズマ発光分光分析。

⑦ 耐火度

主に炉材の性状調査を目的とする。耐火度は、溶融現象が進行の途上で軟化変形を起こす状態度の温度で表示される。胎土をゼーゲルコーンという三角錐の試験片に作り、1分間当り10℃の速度で温度1000℃まで上昇させ、以降は4℃に昇温速度を落し、試験片が荷重なしに自重だけで軟化し崩れる温度を示している。

(3)調査結果(第64表、第182~189図)

No.1:炉壁

- a) 肉眼観察:強い熱影響を受けて、内面が黒色ガラス質化した炉壁片である。胎土部分は橙色の粘土質で、真砂(花崗岩の風化砂)や籾殻を多量に混和している。
- b)顕微鏡組織:第183図①~③に示す。内面表層のガラス質滓部分である。内部に点在する明灰色~暗灰色粒は、炉壁粘土中に含まれていた有色鉱物が、熱影響を受けて分解・滓化したものと推測される。
- c) 化学組成分析:第63表に示す。強熱減量(Ig

- loss) 2.83% とやや低めであった。熱影響を受けて、かなり結晶構造水が飛散した状態での分析である。 鉄分(Fe_2O_3)は 2.91% と高くはないが、酸化アルミニウム(Al_2O_3)が 17.06% とやや低めであり、耐火性にはやや不利な成分系といえる。
- d) 耐火度:1107℃であった。中世の鍛冶炉の炉壁としては、やや耐火性の低い性状といえる。

No. 2: 鉄塊系遺物

- a) 肉眼観察:表面が黄褐色の土砂で覆われた、13gの小型鉄塊系遺物である。表面の一部が剥落しており、茶褐色の鉄銹化物が露出している。全体に軽い質感で銹化が進んでいるが、特殊金属探知機による反応 (H○) から、内部に若干金属鉄が残存するものと推定される。
- b)マクロ組織:第186図①に示す。全体に銹化が進んでおり、観察面で金属鉄は確認できなかったが、 滓の付着のほとんどない小鉄塊であった。
- c) 顕微鏡組織:第 183 図④~⑧に示す。いずれも銹化鉄部の拡大である。④は片状黒鉛(C)が残存する、ねずみ鋳鉄組織の領域である。また⑤・⑥ は蜂の巣状のレデブライト(Ledeburite)、板状のセメンタイト(Cementite: Fe_3C)、層状のパーライト(Pearlite)痕跡が残る亜共晶組成白鋳鉄組織(C < 4.26%)領域、⑦・⑧は針状セメンタイトとパーライト痕跡の残る過共析組織(C > 0.77)部分で、表層側が僅かに脱炭されている。
- d) 所見:以上の金属組織痕跡から、当試料は炭素 含有量にばらつきをもち、過共析組織〜鋳鉄組織を 呈する小鉄塊である。刃金原料に適した、炭素含有 量の高い鍛冶原料鉄となる。

No. 3:鉄塊系遺物

- a) 肉眼観察:表面が黄褐色の土砂で覆われた、小型椀状の57gを測る鉄塊系遺物である。重量感があり、表面には放射割れが生じている。また特殊金属探知機の反応(L●)から、内部にまとまった金属鉄が残存する。
- b)マクロ組織:第186図②~④に示す。中段は断面全体像である。上側の灰色部は鍛冶滓である。また写真下側は金属鉄部である。5%ナイタルで腐食した組織を示した。芯部は比較的炭素量の低い亜共析組織(C < 0.77%)である。また細長い展伸状の非金属介在物が複数分布している〔④上側はその拡大〕。熱間で鍛打加工した痕跡と判断される。

一方金属鉄部の外周は高炭素域で、共析組織〜亜共晶組成白鋳鉄を呈する〔③および④の下側はその拡大〕。c)顕微鏡組織:第 183 図⑨〜⑰に示す。⑨は滓部の拡大である。淡灰色柱状結晶ファイヤライト(Fayalite:2FeO・SiO₂)が晶出する。なお滓部の鉱物組成は e)の項で詳述する。⑩〜⑰は金属鉄部の拡大である。⑪⑪は表層の亜共晶組成白鋳鉄組織、また⑫⑬は過共析組織、⑭⑮は共析組織、⑯⑰が亜共析組織部分の拡大である。以上の金属組織から、炭素含有量は 0.5 ~ 3% 程度のばらつきがあると推測される。

d)ビッカース断面硬度:第183図⑪⑬⑮の金属鉄部の硬度を測定した。硬度値は⑪の亜共晶組成白鋳鉄組織(レデブライト)部分は581Hv、⑬の過共析組織部分が300Hv、⑮の共析組織部分は286Hv、⑰の亜共析組織部分は172Hvであった。炭素含有量の減少と対応して硬度値も低減しており、それぞれ組織に見合った値といえる。

e) EPMA 調査:第 188 図①に、金属鉄部 (高炭素域) に多数分布する、粒状非金属介在物の反射電子像 (COMP) を示す。特性 X 線像を見ると、複数の非金属介在物はすべて、珪素 (Si)、燐 (P) に反応がある。定量分析値も 24 が 67.7%FeO -15.8%SiO₂ -13.2%P₂O₅、25 は 72.1%FeO -18.7%SiO₂ -8.9%P₂O₅、26 が 72.6%FeO -17.0%SiO₂ -10.7%P₂O₅ と、いずれも近似した組成であった。酸化鉄と燐珪酸を主成分とする化合物で、遺跡出土鉄塊系遺物中の非金属介在物としてはやや特異である。(ただしその成分系から、鍛接剤の藁灰と金属鉄が高温下で反応して生じた可能性が高いと考えられる。)

また第 188 図⑤は、金属鉄部(低炭素域)に 分布する、展伸状の大型非金属介在物の反射電子 像(COMP)である。27 の素地部分の定量分析値 は 58.9%FeO -31.6%SiO₂で、ファイヤライト (Fayalite: 2FeO·SiO₂)に近い組成でといえる。ま た 28 の白色粒状結晶の定量分析値は 103.1%FeO であった。ウスタイト(Wustite: FeO)に同定される。 これは鍛錬鍛冶滓とほぼ同じ鉱物組成であり、やは り熱間での鍛冶加工に伴う不純物といえる。

第189図①に、滓部の反射電子像(COMP)を示す。29の暗褐色多角形結晶の定量分析値は50.3%FeO - 49.8%Al₂O₃であった。ヘーシナイ

ト(Hercynite:FeO・Al₂O₃)に同定される。また 30 のごく微細な白色樹枝状結晶の定量分析値は $60.1\%FeO-19.7\%SiO_2-12.3\%Al_2O_3-3.1\%CaO-4.7\%K_2O-1.1\%Na_2O$ であった。色調や形状から、結晶本体はマグネタイト(Magnetite:Fe3O4)と推測される。しかし結晶が非常に微細なため、定量分析値は周囲のガラス質滓の影響を受けた値となった。31 の淡灰色柱状結晶の定量分析値は $71.9\%FeO-30.2\%SiO_2$ であった。ファイヤライト(Fayalite: $2FeO \cdot SiO^2$)に同定される。32 の黒色多角形結晶の定量分析値は $16.1\%K_2O-59.3\%SiO_2-24.7\%Al_2O_3$ であった。正長石(Orthoclase:KAlSi $_3O_8$)組成の化合物といえる。さらに 37 の明白色粒の定量分析値は 107.4%Fe で、金属鉄(Metallic Fe)と同定される。

f) 所見:当資料の金属鉄部は、芯部が展伸状の非金属介在物を含み、亜共析組織を呈する。一方外周部には粒状の介在物が多数分布しており、炭素含有量は高く共析組織~鋳鉄組織を呈する。以上の特徴から、この金属鉄部はもともと一つのものではなく、炭素含有量の異なる二つの鉄素材〔芯部:鍛造鉄器+外周部:銑(鋳鉄塊)または鋳造鉄器〕が、鍛冶炉内で加熱され溶着したものである可能性が高い。

こうした遺物が生じる作業内容として、一つは卸し金(炭素含有量の異なる複数の鉄素材をまとめて、 鍛造可能な鉄素材を作る)が考えられる。この場合、 本来鋳鉄部分は、より鍛打加工がしやすい状態まで 脱炭することを意図していたはずであるが、溶融状態にはなっても十分には脱炭せず、鍛造鉄器と溶着したものと考えられる。(高炭素域に 1mm 前後のごく微細な気孔が散在することや、粒状の非金属介在物が多数確認されることから、高炭素域が溶融状態になるまで加熱されたことは確実である。)

またもう一つの可能性として、鋳鉄を溶かして鉄 素材の表面に塗りつけ硬化処理する、いわゆる湯金 (ゆかね) 作りを行った可能性も挙げられる。(ただ し滓がかなり固着しているので、そうした仕上げに 近い段階のものであったかは疑問も残る。)

こうした、当試料の二つの異材が溶着したような 特徴は、今まで分析調査が実施された、近代以前の 出土鉄関連遺物と比較しても、きわめて稀なものと いえる。現時点での断定は困難であり、慎重に検討 していく必要があろう。

No. 4:椀形鍛冶滓

- a) 肉眼観察:150gの細長い椀形鍛冶滓である。 表面は広い範囲が黄褐色の土砂で覆われている。滓 の地の色調は黒灰色を呈す。上面は中央が窪む形状 で、下面には長さ1cm前後の木炭痕が多数散在する。 側面1面が大きな直線状の破面で、気孔は少なく緻 密な滓である。
- b) 顕微鏡組織:第183 図®~⑳に示す。®中央の明白色部は、滓中のごく微細な金属鉄である。5%ナイタルで腐食したところ、炭素をほとんど含まないフェライト(Ferrite:α鉄)単相の組織が確認された。⑲㉑は滓部である。淡茶褐色多角形結晶はウルボスピネル(Ulvöspinel:2FeO・TiO₂)と推測される。白色樹枝状結晶ウスタイト、淡灰色柱状結晶ファイヤライトが晶出する。これは砂鉄を始発原料とする精錬鍛冶滓に、時折り見られる鉱物組成である。
- c) ビッカース断面硬度:第183図⑩の淡茶褐色多角形結晶の硬度を測定した。硬度値は668Hvであった。この硬度値から、当結晶はウスボスピネルの可能性が高いと考えられる(注1)。
- d) EPMA調査:第189図②に、滓部の反射電子 像(COMP)を示す。17の淡茶褐色多角形結晶 は、特性 X 線像を見るとチタン (Ti)、バナジウ ム(V)、酸素(O)に反応がある。定量分析値は 64.3%FeO - 17.9%TiO₂ - 7.8%Al²O₃ - 7.6%V₂O₃ $-2.3\%Cr_2O_3$ であった。スピネル類の化合物で はあるが、純粋なウルボスピネル (Ulvöspinel: 2FeO・TiO₂)組成ではなく、他の元素を相当量含む 固溶体(注2)といえる。また18の淡灰色結晶は、 特性X線像では珪素(Si)、酸素(O)に強い反応が みられる。定量分析値は 47.8%FeO - 36.9%SiO₂ $-7.3\%Al_2O_3 - 3.7\%CaO - 3.7\%K_2O$ で あ っ た。 色調や形状から結晶はファイヤライト(Fayalite: 2FeO·SiO₂)と推測されるが、細かく晶出している ため、周囲のガラス質滓部分の影響を受けた値と なった可能性が高い。19の白色粒状結晶は、特性 X線像では鉄(Fe)、酸素(O)に強い反応がある。 定量分析値は94.8%FeO - 4.3%TiO₂ - 1.2%Al₂O₃ であった。他の元素を微量固溶する、ウスタイト (Wustite: FeO)と推定される。
- e) 化学組成分析:第63表に示す。全鉄分(Total Fe) 55.46%に対して、金属鉄(Metallic Fe) 2.42%、酸化第1鉄(FeO) 39.02%、酸化第2鉄(Fe₂O₃)

32.47% の割合であった。造滓成分 $(SiO_2 + Al_2O_3 + CaO + MgO + K_2O + Na_2O)$ 23.95% で、このうち塩基性成分 (CaO + MgO) は 2.53% と低値であった。また製鉄原料の砂鉄起源の二酸化チタン (TiO_2) は 2.11%、バナジウム (V) が 0.19% 含まれる。さらに酸化マンガン (MnO) は 0.15%、二酸化ジルコニウム (ZrO_2) 0.04%、銅 (Cu) 0.01% であった。

f) 所見:当試料は製鉄原料の砂鉄起源の脈石成分 (TiO₂、V) の影響が残る。このため、鍛冶原料(製錬鉄塊系遺物) に付着した不純物を除去する、精錬鍛冶工程で生じた滓と推定される。

No. 5:椀形鍛冶滓

- a) 肉眼観察:平面不整楕円状で74gと小型完形の 椀形鍛冶滓である。表面は広い範囲が黄~茶褐色の 土砂で薄く覆われる。滓の地の色調は黒灰色である。 上下面とも細かい木炭痕が著しい。表面の気孔は少 なく、緻密な滓である。
- b)顕微鏡組織:第183図21に示す。発達した白色粒状結晶ウスタイト、淡灰色柱状結晶ファイヤライトが晶出する。これは鍛錬鍛冶滓に最もよく見られる晶癖といえる。
- c)ビッカース断面硬度:第183図21の白色粒状結晶の硬度を測定した。硬度値は433Hvであった。測定時の亀裂の影響か、ウスタイトの文献硬度値450~500Hvより若干下回る値となったが、ウスタイトの可能性が高い。
- d)化学組成分析:第 63 表に示す。全鉄分(Total Fe)は 61.25% と高値であった。このうち金属鉄(Metallic Fe)は 0.33%、酸 化 第 1 鉄(FeO)52.74%、酸化第 2 鉄(Fe_2O_3)28.49% の割合であった。造滓成分($SiO^2 + Al_2O_3 + CaO + MgO + K_2O + Na_2O$)14.02% で、このうち塩基性成分(CaO + MgO)は 1.40% と低値であった。製鉄原料の砂鉄起源の二酸化チタン(TiO_2)は 0.12%、バナジウム(V)が< 0.01% と低値である。酸化マンガン(MnO)0.06%、二酸化ジルコニウム(ZrO_2)0.01%、銅(Cu)も< 0.01% であった。
- e) 所見:以上の特徴から、当試料は鉄素材を熱間で鍛打加工したときに生じる、鍛錬鍛冶滓と推定される。特に酸化鉄の割合が高く、鉄素材の酸化による損失(吹き減り)が大きかったものと考えられる。(ただし、当遺跡の鋳鉄の多さを配慮すると、下げ脱炭の精錬鍛冶の可能性も配慮すべきであろう。)

No.6:鉄塊系遺物

- a) 肉眼観察: 11g とごく小型の鉄塊系遺物である。 黄褐色の土砂に覆われており、表面の状態が判然と しないが、全体にごく細かい凹凸がみられる。また 表面には木炭破片が付着する。
- b)マクロ組織:第186図⑤に示す。中央の暗灰 色部は銹化鉄である。最大厚み6mm程の板状、な いしは偏平な椀形を呈する。また銹化鉄の表面には 微細な木炭が複数見られるが、これは廃棄後、二次 的に付着した可能性が高い。
- c) 顕微鏡組織:第183図22~24に示す。22 は表層に付着した木炭破片の拡大である。また23・24は銹化鉄部である。内部には片状黒鉛の痕跡が残存しており、ねずみ鋳鉄であったことが分かる。

当試料はごく小型のねずみ鋳鉄の破片であった。 鍛冶原料であった可能性が考えられる。

No.7: 粒状滓様遺物

No. 7 − 1 長径 7.8mm

- a) 肉眼観察:表面黄褐色の土砂に覆われた、歪な球状の銹化鉄である。銹化に伴い表面の一部が欠損しており、内部は大きく空洞化している。特殊金属探知機での反応はない。
- b)マクロ組織:第186図⑥に示す。約6mm径の環状の明灰色部が銹化鉄である。その両側の黒色部は表面に付着した土砂である。
- c) 顕微鏡組織:第184図①~③に示す。全体に 銹化が激しく金属組織の痕跡も不明瞭であるが、ご く一部亜共析組織(針状フェライト)のような痕が 見受けられる。

No. 7 - 2 長径 2.0mm

- a) 肉眼観察:表面黄褐色の土砂に覆われた、やや 歪な球状の微細遺物である。付着土砂によって表面 の観察が困難であり、これも銹化鉄粒の可能性が考 えられる。着磁性は強いが、特殊金属探知機での反 応はない。
- b)マクロ組織:第186図⑦に示す。7-1と同様、環状(1.5mm径)の明灰色部が銹化鉄で、外面に土砂が厚く固着している。また内部は大きく空洞化している。
- c)顕微鏡組織:第184図④に示す。銹化鉄部の拡大である。金属組織痕跡は残存しておらず、炭素含有量を推測できるような情報は得られなかった。

№ 7-3 長径 1.9mm

- a) 肉眼観察:表面黄褐色の土砂に覆われた、歪な球状の微細遺物である。地の色調は暗灰色で、細かい凹凸が目立つ。これも銹化鉄粒の可能性がある。 着磁性は強いが、特殊金属探知機での反応はない。
- b)マクロ組織:第186図®に示す。中心部に上下方向にややつぶれた楕円状(長軸1.8mm、短軸1.0mm)の銹化鉄部が存在する。その表面には土砂が厚く固着する。
- c) 顕微鏡組織:第184図⑤~⑦に示す。銹化鉄中には、ほぼ全面酸化で侵された白色パーライトと地の黒色レデブライトの亜共晶組成の白鋳鉄組織痕跡が確認された。
- d) 所見:分析調査を実施した資料№7の球状の微細遺物3点は、すべて微細な金属鉄粒が錆びたもの(鉄銹化物)であった。通常、鉄素材を加熱鍛打したときにできる粒状滓(注3)は、鍛錬鍛冶滓とほぼ同じ鉱物組成(ウスタイトとマグネタイト)であり、こうした銹化鉄粒とは異なるものである。

当試料は鍛冶原料の鋳鉄を加熱脱炭して、その表面が溶融状態になって細かく飛散したものの可能性が高い。

No. 8: 鍛造剥片様遺物

No. 8 -1 2.7 \times 2.1 \times 0.9mm

- a) 肉眼観察:薄板状の微細遺物である。表裏面に 細かい剥離痕跡があり、銹化鉄片の可能性が高い。
- b)マクロ組織:第187図①に示す。断面にも多数層状の剥離痕跡が残る銹化鉄片であった。
- c)顕微鏡組織:第184図®に示す。内部にセメンタイトの一部がバラ状黒鉛化した斑鋳鉄組織痕跡の残る銹化鉄片であった。

No. 8 -2 2.6 \times 1.1 \times 0.5mm

- a) 肉眼観察:表面黄褐色の土砂に薄く覆われた、 薄板状の微細遺物である。表裏面とも比較的平滑で、 鍛造剥片の可能性はある。
- b)マクロ組織:第187図②に示す。8-1と同様、 断面に多数層状の剥離痕跡が残る銹化鉄片であった。
- c)顕微鏡組織:第184図⑨~⑪に示す。網目状にセメンタイトの痕跡が残る個所があり、本来過共析組織であったと推測される。

No. 8 - 3 3.2 \times 2.9 \times 0.5mm

a) 肉眼観察:薄板状の微細遺物である。表裏面は 比較的平滑であるが、裏面が茶褐色の銹化物に覆わ れており、銹化鉄片の可能性が高い。

- b)マクロ組織:第187図③に示す。8-1、2と同様、 断面に層状の剥離痕跡が残る銹化鉄片であった。
- c) 顕微鏡組織:第184図⑫に示す。内部には亜共晶組成白鋳鉄組織でレデブライトの痕跡が確認された。

No. 8 - 4 1.9 \times 1.5 \times 0.3mm

- a) 肉眼観察:薄板状の微細遺物である。表裏面は やや捩れているが平滑である。全体が薄く茶褐色の 銹化物に覆われており、銹化鉄片の可能性が高い。
- b)マクロ組織:第187図④に示す。素地の黒色部は粘土鉱物で、点在する暗灰色粒はごく微細な砂粒である。
- c) 顕微鏡組織:第 184 図⑬に示す。マクロ組織の拡大である。当試料は鍛造剥片でも銹化鉄片でもなく、土砂であることが確認された。鉄塊系遺物や鉄製品の表面付着土砂が剥離したものの可能性が高い。 No.8-5 $3.9 \times 2.8 \times 0.8 mm$
- a) 肉眼観察:薄板状の微細遺物である。表裏面に 細かい凹凸があり、鉄滓または銹化鉄片の可能性が 高い。
- b)マクロ組織:第187図⑤に示す。断面に層状の 剥離痕跡が残る銹化鉄片であった。
- c)顕微鏡組織:第184図⑭~⑯に示す。小型の片 状黒鉛とバラ状黒鉛の痕跡が多数残存しており、ね ずみ鋳鉄片と推定される。

No. 8 - 6 2.7 \times 2.1 \times 0.5mm

- a) 肉眼観察:薄板状の微細遺物である。表裏面と も比較的平滑ではあるが鍛造剥片の可能性は低い。
- b)マクロ組織:第187図⑥に示す。素地の黒色部は粘土鉱物で、点在する暗灰色粒はごく微細な砂粒である。
- c) 顕微鏡組織:第184 図⑰に示す。当資料も8-4と同様、土砂であることが確認された。やはり 鉄塊系遺物や鉄製品の表面付着土砂が剥離したもの の可能性が高い。
- d) 所見:分析調査を実施した6点中に、鉄素材を 加熱鍛打した時にできる、鉄酸化物の薄膜片である 鍛造剥片(注4) は見られなかった。

4点(8-1、2、3、5)は、ごく微細な銹化鉄片で、 鉄塊系遺物または鉄製品の表面が、銹化に伴い薄く 剥離したものと推測される。なお1点は高炭素鋼(過 共析組織痕跡)、3点は鋳鉄と、炭素含有量が高い 傾向を示す。これは鉄塊系遺物(No. 2、6、9)とも 共通する特徴といえる。 残る 2 点 (8-4,6) は土砂であった。上述したように、鉄塊系遺物や鉄製品の表面付着土砂が剥離したものの可能性が高い。

No. 9:鉄塊系遺物

- a) 肉眼観察:4 gとごく小型で不定形の鉄塊系遺物である。表面全体は黄褐色の土砂に覆われており、 銹化割れも生じている。全体に軽い質感で、特殊金 属探知機での反応はなく、銹化が進んでいる。
- b)マクロ組織:第187図⑦に示す。全体に銹化が 進んでおり、断面には金属鉄が残存していない。ま た明瞭な滓部はなく、ほぼ鉄主体の遺物であった。
- c)顕微鏡組織:第184図®~⑳に示す。⑱は表面に付着した、ごく微細な木炭破片の拡大である。組織中には発達した導管が確認されるため、広葉樹材の木炭と推定される。⑲㉑は銹化鉄部の拡大である。片状黒鉛が多数残存しており、ねずみ鋳鉄であることが確認できた。
- d) 所見:当試料も鉄塊系遺物 (No. 6) とよく似た、 ねずみ鋳鉄の小鉄塊であった。やはり鍛冶原料鉄の 可能性が考えられる。

No. 10: 椀形鍛冶滓

- a) 肉眼観察:130gでやや偏平な椀形鍛冶滓である。側面1面が直線状の破面で、本来は楕円形に近い形状と推測される。表面は広い範囲が黄~茶褐色の土砂で薄く覆われている。滓の地の色調は黒灰色である。上面は中央が窪む形状で、下面は浅い皿状を呈する。表面には細かい気孔が部分的に集中するが、全体的には緻密である。
- b)顕微鏡組織:第184図21~24・第185図①に示す。発達した白色粒状結晶ウスタイト、淡灰色柱状結晶ファイヤライトが晶出する。鍛錬鍛冶滓の晶癖といえる。また第184図24・第185図①中央は滓中のごく微細な金属鉄である。5%ナイタルで腐食したところ、フェライト地にパーライトを晶出した亜共析組織が確認された。炭素含有量は0.4%程度と推測される。
- c) ビッカース断面硬度:第184 図 21 の白色樹枝 状結晶の硬度を測定した。硬度値は467Hvであっ た。ウスタイトに同定される。
- d)化学組成分析:第 63 表に示す。全鉄分(Total Fe)51.18% に対して、金属鉄(Metallic Fe)0.11%、酸化第 1 鉄(FeO)40.24%、酸化第 2 鉄(Fe_2O_3) 28.30% の割合であった。造滓成分($SiO_2+Al_2O_3+$

 $CaO + MgO + K^2O + Na_2O)$ は 25.26% で、このうち塩基性成分(CaO + MgO)は 1.40% と低値である。製鉄原料の砂鉄起源の二酸化チタン(TiO_2)は 0.20%、バナジウム(V)が< 0.01% と低値であった。また酸化マンガン(MnO)0.10%、二酸化ジルコニウム(ZrO_2)0.02%、銅(Cu)< 0.01% といずれも低い。

e) 所見:当試料は製鉄原料(砂鉄)起源の脈石成分(TiO₂、V)の低減傾向が顕著であり、高温沸し 鍛接・鍛錬鍛冶滓に分類される。

No. 11: 椀形鍛冶滓

- a) 肉眼観察:50g とごく小型の椀形鍛冶滓である。 下面の一部が破面。表面は広い範囲で黄~茶褐色の 土砂が付着する。滓の地の色調は黒灰色である。全 体に木炭痕による凹凸が著しい。
- b)顕微鏡組織:第185図②~④に示す。②中央は滓中のごく微細な金属鉄である。5%ナイタルで腐食したところ、フェライト地に少量のパーライトが晶出した亜共析組織が確認された。炭素含有量は0.3%程度と推測される。

また滓中には、白色粒状結晶ウスタイト、淡灰色柱状結晶ファイヤライトが晶出する。こちらもNo.9 椀形鍛冶滓と同様に高温沸し鍛接・鍛錬鍛冶滓の晶癖である。

- c)ビッカース断面硬度:第185図③の白色粒状結晶の硬度値は485Hvであった。ウスタイトに同定される。④の淡灰色盤状結晶は673Hvであった。ファイヤライトの文献硬度値600~700Hvの範囲内で、ファイヤライトに同定される。
- d)化学組成分析:第 63 表に示す。全鉄分(Total Fe)48.85% に対して、金属鉄(Metallic Fe)0.21%、酸化第 1 鉄(FeO)45.41%、酸化第 2 鉄(Fe $_2$ O $_3$)19.08% の割合であった。造滓成分($SiO_2+Al_2O_3+CaO+MgO+K_2O+Na_2O$)31.34% とやや高めであるが、塩基性成分(CaO+MgO)は 2.94% と低値である。製鉄原料の砂鉄起源の二酸化チタン(TiO_2)は 0.28%、バナジウム(V)<0.01% と低い。また酸化マンガン(MnO)0.10%、二酸化ジルコニウム(ZrO_2)0.03%、銅(Cu)0.02% と、いずれも少ない。
- e) 所見:当試料も製鉄原料(砂鉄)起源の脈石成分(TiO₂、V)の低減傾向が顕著で、鍛錬鍛冶滓に分類される。

(4) まとめ(第64表)

南側曲輪群から出土した鍛冶関連遺物を分析調査 した結果、遺跡内で精錬鍛冶〜鍛錬鍛冶作業が連続 して行われていたことが明らかになった。また鋳鉄 塊が多数出土するため、かなりの割合でこうした鋳 鉄を脱炭して鍛冶原料としていたと推定される。

詳細は以下の通りである。

〈1〉分析調査を実施した椀形鍛冶滓4点のうち、1点(No.4)は砂鉄起源のチタン(TiO₂)の影響が確認されたため、砂鉄を始発原料とした鉄塊の不純物(製錬滓)除去で生じた、精錬鍛冶滓と推定される。また残る3点(No.5、10、11)は、チタン(TiO₂)の影響がほとんどなく、鉄素材を熱間で鍛打加工した時に生じた鍛錬鍛冶滓と推定される。

現在までのところ、宮崎県内では中世の明瞭な製 鉄遺跡は確認されていない。ただし中~南九州地域 では、この時期火山岩起源の高チタン砂鉄を製鉄原 料として、竪形炉による鉄生産が行われている(注 5)。こうした周辺地域で生産された金属鉄(製錬 鉄塊系遺物)が、鍛冶原料であった可能性は考えら れよう。

〈2〉分析調査を実施した鉄塊系遺物(No. 2、6、9)は、全体に炭素含有量が高く、一部または全体に鋳鉄組織が確認された。また鍛冶遺構から検出した粒状・板状の微細遺物も通常の粒状滓・鍛造剥片ではなく、その大半が銹化鉄であった。やはり鋳鉄組織が確認されたものが多い。このうち鍛造剥片様遺物(No. 8 - 1 ~ 3、5)は、鉄塊系遺物の表面が二次的に銹化剥落した可能性が高いが、粒状滓様遺物(No. 7 - 1 ~ 3)は、鍛冶原料の鋳鉄を加熱脱炭した時、表面が溶融状態になって細かく飛散した可能性がある。

このような遺物群の特徴から、当遺跡では炭素含有量の高い鉄塊(高炭素鋼〜鋳鉄)が主な鍛冶原料であったと推測される〔第64表〕。なお分析調査を実施した遺物中には、鋳造鉄器片は含まれていないが、こうした製品の破片が多数共伴している場合は、その再利用が行われていた可能性も考慮する必要があろう。

〈3〉鉄塊系遺物(No.3)は、付着滓の鉱物組成から、 鍛冶処理途中の遺物と判断される。また前項でも述べたように、金属鉄部は芯部が鍛打痕跡の残る亜共 析鋼、表層は脆くて鍛打が困難な鋳鉄組織であった。 これは今まで分析調査が実施された、近代以前の鍛冶遺跡の出土鉄関連遺物と比較しても、きわめて稀な特徴といえる。

この理由として、現時点では①炭素含有量の異なる複数廃鉄器をまとめて鉄素材を作る卸し金作業の途中で生じた。②鋳鉄を溶かして鉄素材の表面に塗りつけ硬化処理する、いわゆる湯金作りを行った。などの可能性が挙げられる。他の鉄塊系遺物は鋳鉄が多いことも勘案すると、やはり融点が低い鋳鉄の性格を利用した、鍛冶技術が存在していたように見受けられる。

当地域の中世の鍛冶技術を検討するうえで、非常 に貴重な事例であり、今後も慎重に検討していく必 要があろう。

(注)

(1) 日刊工業新聞社『焼結鉱組織写真および識別法』 1968

ウスタイトは 450~500Hv、マグネタイトは 500~600Hv、ファイヤライトは 600~700Hv の範囲が提示されている。ウルボスピネルの硬度値範囲の明記はないが、マグネタイトにチタン (Ti) を固溶するので、600Hv以上であればウルボスピネルと同定している。それにアルミナ (AI) が加わり、ウルボスピネルとヘーシナイトを端成分とする固溶体となると更に硬度値は上昇する。このため 700Hv を超える値では、ウルボスピネルとヘーシナイトの固溶体の可能性がある。

(2)黒田吉益・諏訪兼位『偏光顕微鏡と造岩鉱物 [第 2版]』共立出版株式会社 1983

第5章 鉱物各論 D. 尖晶石類・スピネル類 (Spinel Group) の記載に加筆

尖晶石類の化学組成の一般式は XY₂O₄ と表記できる。 X は 2 価の金属イオン、Y は 3 価の金属イオンである。 その組み合わせでいろいろの種類のものがある。(略)

- (3) 粒状滓は鍛冶作業において凹凸を持つ鉄素材が鍛冶炉の中で赤熱状態に加熱されて、突起部が溶け落ちて酸化され、表面張力の関係から球状化したり、赤熱鉄塊に酸化防止を目的に塗布された粘土汁が酸化膜と反応して、これが鍛打の折に飛散して球状化した微細な遺物である。
- (4) 鍛造剥片とは鉄素材を大気中で加熱、鍛打したとき、表面酸化膜が剥離、飛散したものを指す。俗に鉄肌(金肌) やスケールとも呼ばれる。鍛冶工程の進行

により、色調は黒褐色から青味を帯びた銀色(光沢を発する)へと変化する。粒状滓の後続派生物で、鍛打作業の実証と、鍛冶の段階を押える上で重要な遺物となる(注6)。

この鍛造剥片や粒状滓は極めて微細な鍛冶派生物であり、発掘調査中に土中から肉眼で識別するのは難しい。通常は鍛冶趾の床面の土砂を水洗することにより検出される。鍛冶工房の調査に当っては、鍛冶炉を中心にメッシュを切って土砂を取り上げ、水洗選別、秤量により分布状態を把握できれば、工房内の作業空間配置の手がかりとなりうる重要な遺物である(注7)。

鍛造剥片の酸化膜相は、外層は微厚のヘマタイト (Hematite: Fe_2O_3)、中間層マグネタイト (Magnetite: Fe_3O_4)、大部分は内層ウスタイト (Wustite: FeO) の3層から構成される。このうちのヘマタイト相は 1450℃を 越えると存在しなく、ウスタイト相は 570℃以上で生成 されるのは Fe-O 系平衡状態図から説明される (注 8)。

鍛造剥片を王水(塩酸 3:硝酸 1)で腐食すると、外層へマタイト(Hematite: Fe_2O_3)は腐食しても侵されず、中間層マグネタイト(Magnetite: Fe_3O_4)は黄変する。内層のウスタイト(Wustite:FeO)は黒変する。

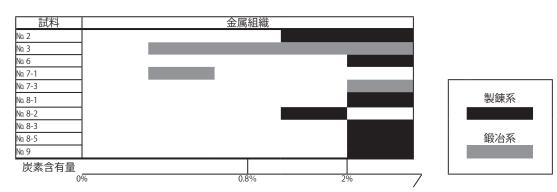
鍛打作業前半段階ではウスタイト(Wustite:FeO)が粒状化を呈し、鍛打仕上げ時になると非晶質化する。 鍛打作業工程のどの段階が行われていたか推定する手がかりともなる。

- (5) 鈴木瑞穂「九州各地の砂鉄と製鉄技術の関わりについて」『九州の古代から近代の製鉄技術発達史 社会 鉄鋼工学部会 2008 年度秋季講演大会シンポジウム論 文集』(社) 日本鉄鋼協会学会部門社会鉄鋼工学部会 2008
- (6)大澤正己「房総風土記の丘実験試料と発掘試料」『千葉県立房総風土記の丘 年報 15』(平成 3 年度)千葉県 房総風土記の丘 1992
- (7) 大澤正己「奈良尾遺跡出土鍛冶関連遺物の金属学的調査」『奈良尾遺跡』(今宿バイパス関連埋蔵文化財調査報告書 第13集)福岡県教育委員会 1991
- (8) 森岡進ら「鉄鋼腐食科学」『鉄鋼工学講座』11 朝 倉書店 1975

			l		1	計測値		メタル度			調査	項目		
試料	掲載番号	地区	出土位置	遺物名称	推定年代	大きさ (mm)	重量 (g)	メダル接	マクロ 組織	顕微鏡 組織	ビッカース 断面硬度	ЕРМА	化学分析	耐火度
No. 1	915		_	炉壁		66 × 62 × 38	99	なし		0			0	0
No. 2	926	SG1-3	_	鉄塊系遺物]	29 × 23 × 15	13	H (O)	0	0				
No. 3	925	301-3	側溝	鉄塊系遺物]	45 × 33 × 25	57	L (•)	0	0	0	0		
No. 4	924		側溝	椀形鍛冶滓]	104 × 50 × 28	150	なし		0	0	0	0	
No. 5	927	SG2	_	椀形鍛冶滓		65 × 41 × 24	74	なし		0	0		0	
No. 6	918		SA2内 SC1	鉄塊系遺物	中世	32 × 30 × 13	11	銹化(△)	0	0				
No. 7	_	曲輪 M	SA2 • SC1	粒状滓様遺物		_	_	なし	0	0				
No. 8	_	田岬 171	SA2 • SC1	鍛造剥片様遺物		_	_	なし	0	0				
No. 9	919		SA2	鉄塊系遺物		22 × 17 × 15	4	銹化(△)	0	0				
No. 10	932	曲輪Ⅰ	_	椀形鍛冶滓		68 × 64 × 18	133	なし		0	0		0	
No. 11	933			椀形鍛冶滓		50 × 39 × 26	50	なし		0	0		0	

第63表 試料の化学組成

						*	*	*	*	*	*											≥ *		
試料	遺物名称	全鉄分 (Total Fe)	金属鉄 (Metallic Fe)	酸化 第1鉄 (FeO)	酸化 第2鉄 (Fe ₂ O ₃)	二酸化 珪素 (SiO ₂)	酸化7ル ミニウム (Al ₂ O ₃)	酸化加 沙山 (CaO)	酸化マク゚ ネシウム (MgO)	酸化 がな (K ₂ O)	酸化か リウム (Na ₂ O)	酸化マン ガン (MnO)	二酸化 分) (TiO ₂)	酸化 加 (Cr ₂ O ₃)	硫黄 (S)	五酸化燐 (P ₂ O ₅)	炭素 (C)	パ ナ ジ ウム (V)	銅 (Cu)	二酸化 ジルコニウム (Zr ₂ O)	耐火度 (℃)	造滓成分	造滓成分 Total Fe	TiO ₂ Total Fe
No. 1	炉壁	2.65	0.11	0.65	2.91	63.10	17.06	1.94	0.86	3.86	4.22	0.12	0.65	<0.01	0.011	0.14	Iglos 2.83	<0.01	<0.01	0.05	1107	91.04	34.355	0.245
No. 4	椀形鍛冶滓	55.46	2.42	39.02	32.47	15.67	4.08	1.86	0.67	1.44	0.23	0.15	2.11	0.06	0.13	0.24	0.18	0.19	0.01	0.04	-	23.95	0.432	0.038
No. 5	椀形鍛冶滓	61.25	0.33	52.74	28.49	9.80	2.14	0.86	0.54	0.55	0.13	0.06	0.12	0.03	0.041	0.29	0.28	<0.01	<0.01	0.01	-	14.02	0.229	0.002
No. 10	椀形鍛冶滓	51.18	0.11	40.24	28.30	18.67	4.01	0.82	0.58	0.93	0.25	0.10	0.20	0.02	0.052	0.29	0.22	<0.01	<0.01	0.02	-	25.26	0.494	0.004
No. 11	椀形鍛冶滓	48.85	0.21	45.41	19.08	20.89	5.56	2.12	0.82	1.53	0.42	0.10	0.28	0.02	0.043	0.28	0.22	<0.01	0.02	0.03	-	31.34	0.642	0.006

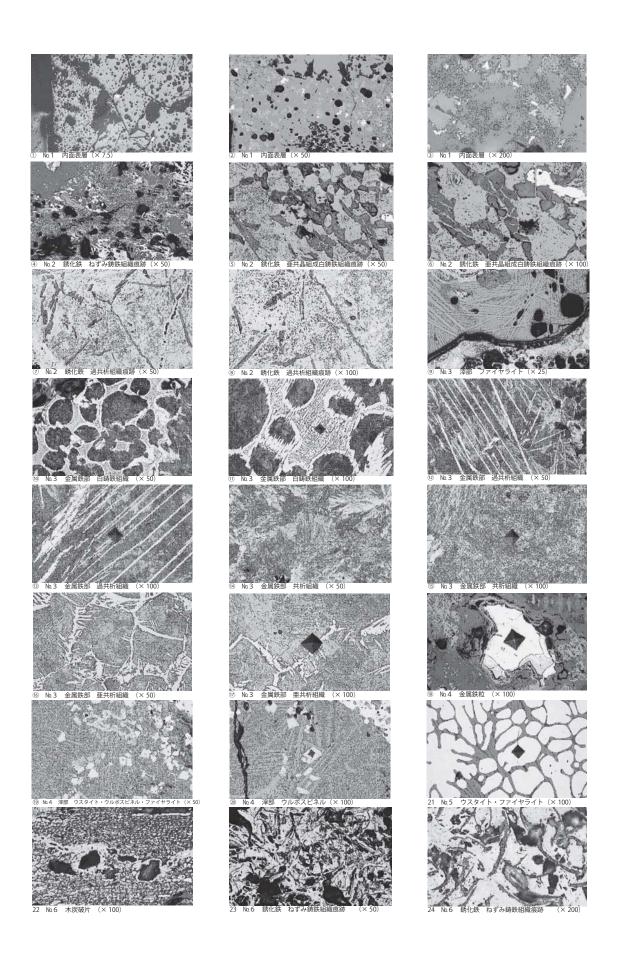


第 182 図 鉄塊系遺物の断面金属組織観察結果

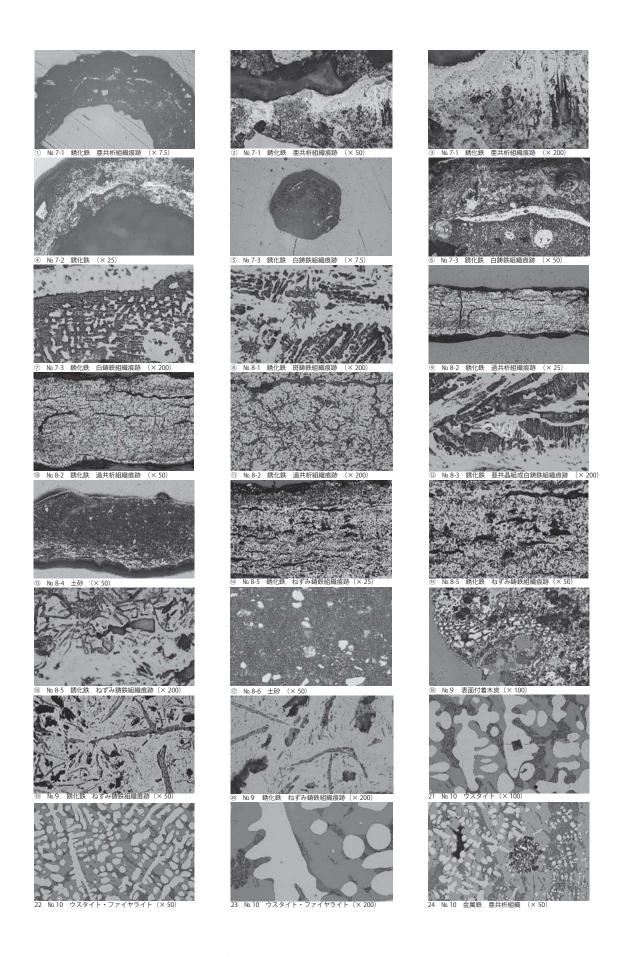
第64表 分析の結果一覧表

- Nobel	1 th 11 th 11				化	学組	或('	%)			
試料	遺物名称	顕微鏡組織	Total F e	Fe ₂ O ₃	塩基性 成分	TiO ₂	٧	Mn O	ガラス質 成分	Cu	所見
No. 1	炉壁	ガラス質滓、炉壁中の有色鉱物分解・滓化進行	2.65	2.91	2.80	0.65	<0.01	0.12	91.04	<0.01	耐火度:1107℃、中世の鍛冶炉炉壁しては、やや耐火性の低い性状
No. 2		銹化鉄:過共析組織~ねずみ鋳鉄・亜共晶組成 白鋳鉄組織痕跡	-	-	-	-	-	-	-	-	まとまりがよく炭素含有量の高い小鉄塊、鍛冶原料鉄(製錬鉄塊系遺物)か
No. 3		滓部: 微細 M+H+F、金属鉄部: 亜共析組織~ 亜共晶組成白鋳鉄組織	-	-	-			-	-		金属鉄芯部:銀打痕跡の残る銅 (亜共析組織)、外周部:共析組織へ白鋳鉄組織の高炭素層 卸し金ないしは湯金作り中途の遺物か
No. 4	椀形鍛冶滓	滓部:U+W+F、微小金属鉄:フェライト単相	55.46	32.47	2.53	2.11	0.19	0.15	23.95	0.01	精錬鍛冶滓 (始発原料:砂鉄)
No. 5	椀形鍛冶滓	滓部 :W+F	61.25	28.49	1.40	0.12	<0.01	0.06	14.02	<0.01	锻鍊鍛冶滓
No. 6	鉄塊系遺物	木炭破片、銹化鉄:ねずみ鋳鉄組織痕跡	-	-	-	-	-	-	-	-	まとまりのよいねずみ鋳鉄の小鉄塊、鍛冶原料鉄(製錬鉄塊系遺物)か
No. 7		銹化鉄、(1: 亜共析組織痕跡、2: 組織痕跡不明瞭、 3 白鋳鉄組織痕跡)	-	-	-	-	-	-	-	-	誘化鉄粒、鍛冶原料(鋳鉄)を脱炭した時に生じた可能性が考えられる
No. 8	鍛造剥片様遺物	誘化鉄 (1: 斑鋳鉄組織、2: 過共析組織、3: 白鋳 鉄組織、5: ねずみ鋳鉄組織痕跡)、土砂 (4、6)	-	-	-	-	-	-	-	-	鋳化鉄・土砂とも、鉄塊系遺物または鉄製品の表面剥離物の可能性が高い
No. 9	独抽 玄浩物	木炭破片: 広葉樹材、銹化鉄: ねずみ鋳鉄組織 痕跡	-	-	-	-	-	-	-	-	まとまりのよいねずみ鋳鉄の小鉄塊、鍛冶原料鉄 (製錬鉄塊系遺物) か
No. 10	椀形鍛冶滓	滓部 :W+F、微小金属鉄 : 亜共析組織	51.18	28.30	1.40	0.20	<0.01	0.10	25.26	<0.01	锻鍊鍛冶滓
No. 11	椀形鍛冶滓	滓部:W+F、微小金属鉄: 亜共析組織	48.85	19.08	2.94	0.28	<0.01	0.10	31.34	0.02	鍛錬鍛冶滓

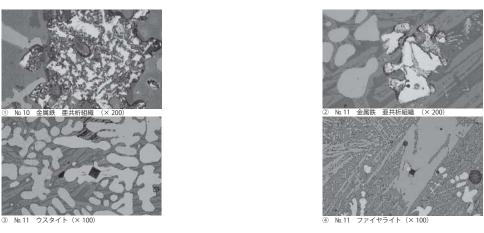
M : Magnetite (Fe₃O₄), H:Hercynite (Fe₀•Al₂O₃), F:Fayalite (2Fe₀•SiO₂), U:Ulvöspinel (2Fe₀•TiO₂), W : Wustite (Fe₀)



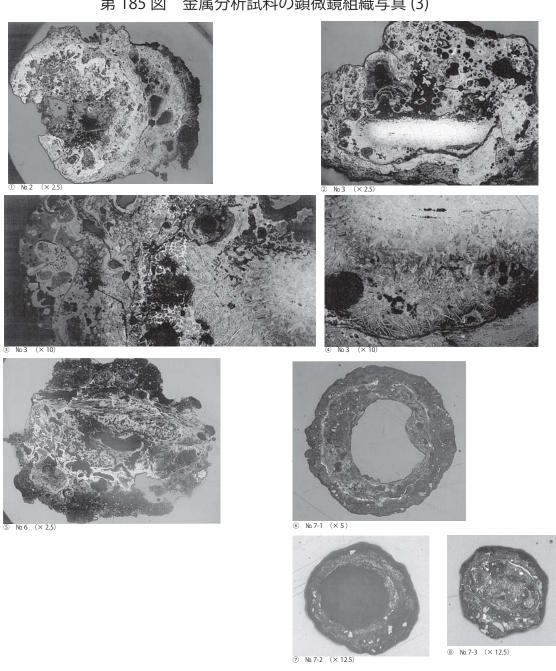
第 183 図 金属分析試料の顕微鏡組織写真 (1)



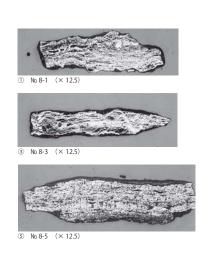
第 184 図 金属分析試料の顕微鏡組織写真 (2)

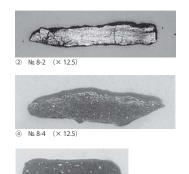


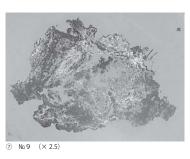
第 185 図 金属分析試料の顕微鏡組織写真 (3)



第 186 図 金属分析試料のマクロ組織写真(1)

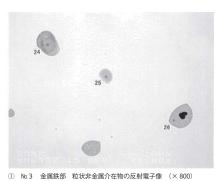


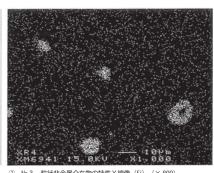




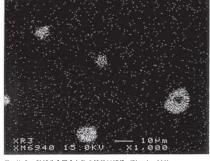
第 187 図 金属分析試料のマクロ組織写真 (2)

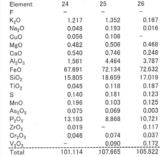
⑥ Na 8-6 (× 12.5)











③ No.3 粒状非金属介在物の特性 X 線像 (Fe) (\times 800)

④ No.3 粒状非金属介在物の特性 X 線像 (P) (×800)

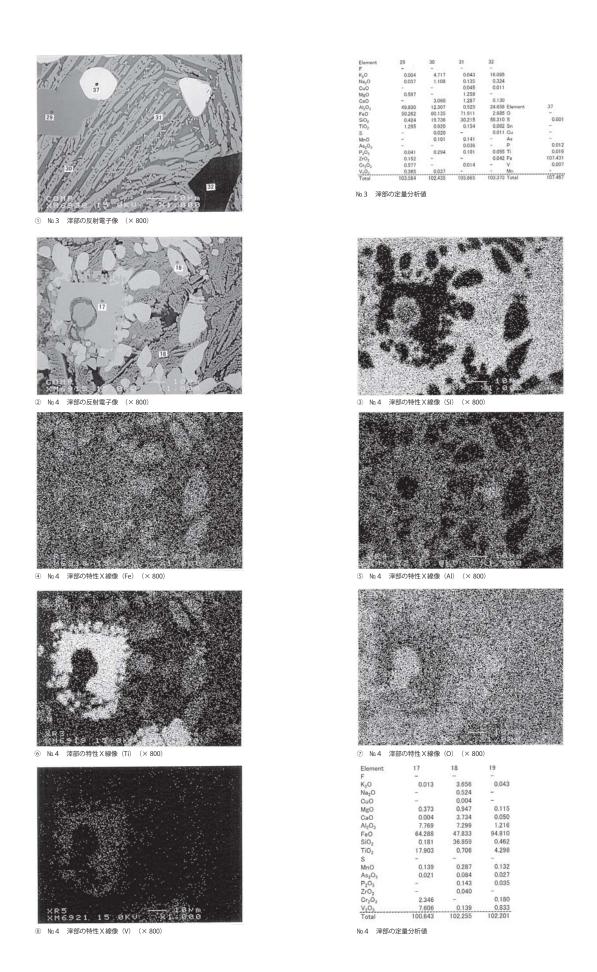
No.3 粒状非金属介在物の定量分析値



Element	27	28
F	-	
K ₂ O	1.814	-
Na ₂ O	0.315	0.082
CuO	0.014	0.020
MgO	0.505	0.231
CaO	1.070	-
Al ₂ O ₃	7.126	0.693
FeO	58.915	103.051
SiO2	31.632	0.311
TiO ₂	0.112	0.207
S	0.292	0.005
MnO	0.079	0.050
As ₂ O ₅	-	0.020
P ₂ O ₅	2.741	-
ZrO ₂	-	0.010
Cr ₂ O ₃	-	0.029
V ₂ O ₃	0.031	0.099
Total	104.646	104.808

No.3 大型非金属介在物の定量分析値

第 188 図 金属分析試料の EPMA 調査写真 (1)



第 189 図 金属分析試料の EPMA 調査写真 (2)

第6節 近世人骨の鑑定

南側曲輪群で検出された近世墓からは、人骨が出 土している。この節では、その分析結果について述 べる。

2002 年実施の中山遺跡の発掘調査では 28 基の 近世墓が検出され、13 体の人骨が出土した。体数 は多いが、保存状態は 1 例を除いてあまり良くな かった。頭蓋の保存状態が悪く、頭型や顔面の特徴 を知ることはできなかったが、男性の四肢骨は太く、 上腕骨と脛骨は扁平で、大腿骨は粗線や骨体の後方 への発達も良好であった。またこの逞しい男性は僧 侶だったことが推測されており、職種と身体的特徴 との関連を探る上では貴重な資料となった。

1 出土人骨の年齢・性別

本遺跡からは3基の近世墓から3体の人骨が検出された。3体のとも成人骨で、2体は女性骨であったが、残りの1体は性別を明らかにすることができなかった。出土人骨の性別・年齢は第65表のとおりである。年齢区分を第66表に示した。

なお、本人骨は、墓の形態や副葬品などの考古学 的所見から、近世に属する人骨である。

下肢の姿勢については第67表を参照されたい。 通常、近世墓の墓坑の形態には方形、長方形、円形 がみられるが、本遺跡では方形のみで、円形プラン は存在しなかった。

2 出土人骨についての所見

① G-SD1 人骨 (性別·年齡不明)

墓坑の形態は方形。埋葬姿勢は不明。残存していたのは左右不明の上肢骨の一部に過ぎない。頭蓋は残存していなかったが、墓坑内で上肢骨が検出された位置から推測して、頭蓋は北西に位置していたようである。性別・年齢は不明である。

② G-SD2 人骨 (女性·年齡不明)

G-SD1 のすぐ北西に位置する。墓坑の形態は方形。 残存していたのは頭蓋と左右不明の大腿骨のみである。頭蓋の位置は北西。大腿骨は後面が上を向いた 状態で検出されたことから、埋葬姿勢は仰臥で、大 腿を腹部にのせた姿勢で埋葬されていたものと思わ れる。脛骨は残存していなかったが、膝関節は強屈 状態であったと推測される。

遊離歯を歯式で示した。

//6//// ///5/// //65//// //////////

〔●:歯槽閉鎖 ○:歯槽開存 /:不明 ▽:先天性欠損、番号は歯種〕

[1:中切歯、2:側切歯、3:犬歯、4:第一小臼歯、5:第二小臼歯、6:第一大臼歯、7:第二大臼歯、8:第三大臼歯〕

咬耗度は Broca の 1 (咬耗がエナメル質のみ)~2度(咬耗が部分的に象牙質まで及ぶ)である。歯の径はかなり小さい。

大腿骨の径が小さいことから性別を女性と推定した。年齢は不明である。

- ③ K-SD5 人骨 (女性·壮年)
- a) 出土状態と埋葬姿勢

墓坑は方形で、かなり大きい。頭蓋の位置は北。 埋葬姿勢は仰臥で、膝関節は屈曲状態であった。残 存していたのは、頭蓋、左右の上腕骨、右側の寛骨、 左右の大腿骨と脛骨、右側の腓骨である。上腕骨は ほとんど痕跡状態で、泥化していた。右側膝関節は 約60度に屈曲し、左側に倒れていた。左側膝関節 も約60度に曲げられ、左側に倒れていたが、膝は 床からやや高い位置にあった。

なお、墓坑の四隅から釘が検出されいることから、 被葬者は木棺(箱棺)に納められて埋葬されたもの と思われる。頭頂部や頭蓋の周辺から銅製金具も出 土しており、副葬品として銅銭(寛永通宝)も見つ かっている。

なお、本墓坑はかなり大きい。近世墓でこれほど 大きい墓坑はこれまでみたことがない。副葬品が多 いこと銅製金具に金メッキが施されていることと墓 坑が大きいことはこの被葬者の所属する階層がかな り高かったことを示唆している。

b) 人骨の形質

取り上げが可能だった頭蓋は、前頭骨、左右の側頭骨、左右の頭頂骨の一部、上顎骨の一部である。 前頭鱗は垂直に立ち上がり膨隆している。乳様突起はやや大きい。左右の外耳道の観察が可能であったが、骨腫は存在しない。現場で観察したところ、鼻骨はやや隆起し、鼻根部は狭かった。ラムダ縫合の右側部分が観察できたが、おそらく内外両板ともまだ開離していたようである。

歯が残存していたが、原形を保って取り上げることはできなかった。取り上がったのは歯冠のみである。残存していた歯冠を歯式で示した。

/ 7 6 5 / / / / / 4 5 6 7 8 8 7 / 5 4 / / / / 4 5 6 7 /

〔●:歯槽閉鎖 ○:歯槽開存 /:不明 ▽:先天性欠損、番号は歯種〕

[1:中切歯、2:側切歯、3:犬歯、4:第一小臼歯、5:第二小臼歯、6:第一大臼歯、7:第二大臼歯、8:第三大臼歯〕

歯冠の径は小さい。 咬耗度は Broca の 1 度 (咬耗 がエナメル質のみ) である。

四肢骨のうち、かろうじて取り上げることができ、 比較的原形を保っていたのは左側の大腿骨のみであ る。内側を欠いているので骨体の計測はできない。 残存部分から推測すれば長さはかなり短いようであ るが、矢状径が横径よりも大きく、骨体は後方へよ く発達している。

人骨を取り上げる際に右側寛骨の大坐骨切痕部を 観察することができたが、この角度は大きい。

大坐骨切痕の角度が大きいので、性別を女性と推 定した。年齢は観察できたラムダ縫合がまだ内外両 板とも開離していたようなので、壮年と思われる。

3 要約

今回出土した人骨の保存状態は必ずしも良好なも のではなかったが、現場での埋葬姿勢や人骨の人類 学的観察をおこない、以下の所見を得た。

- ① 人骨は成人骨3体で、そのうち2体は女性骨、残りの1体は性別を明らかにできなかった。
- ② 本人骨は考古学的所見から近世に属する。
- ③ 墓坑の形状は方形で、埋葬施設は木棺(箱棺)であった。埋葬姿勢が判明したのは2体のみであるが、2体とも埋葬姿勢は仰臥で、1体は大腿を腹部にのせた姿勢、もう1体は膝関節を約60度に 曲げて下肢を左側に倒した状態であった。
- ④ 頭蓋の保存状態が悪く、頭型や顔面の形態は不明だが、鼻根部は狭く、鼻骨はやや隆起していた。
- ⑤ 大腿骨は短く、骨体の後方へ発達は良好である。 今回の調査で出土した人骨は体数が少なく、形質 的特徴を知ることができなかったが、1基(K-SD5) は墓坑も大きく、副葬品も持っており、被葬者の形 質が注目された。残念ながら頭型や顔面の特徴は知 ることができなかったが、大腿骨は短いものの、骨 体の後方への発達は良好であった。この例は大坐骨 切痕の角度から女性骨と思われるが、副葬品から社 会的階層が高かったことが予想される。北九州での

近世人骨の調査と研究で、武家層では女性でも身体 がよく鍛えられていたことがわかっている。今回出 土した女性の大腿骨はきゃしゃではなく、むしろ頑 丈なものであり、少なくとも下半身はよく鍛えられ ていたようである。この地域の近世社会の実態がわ かってくれば、被葬者の階層と身体的特徴との関連 が明らかになるものと期待したい。

なお、宮崎県での近世人骨の出土例は、宮崎学園都市堂地東遺跡(松下・他、1982)、小林市水落遺跡(佐伯・他、1992)、高鍋町野首第1遺跡(松下、2007)、延岡市吉野遺跡(松下、2007)、中山遺跡(松下・他、2004)の調査・報告例の他に宮崎市納屋向遺跡の例があるに過ぎない。

参考文献

Takayuki MATSUSHTTA、Masami MATSUSHTTA:The Doigahama Site Anthropological Museum (土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム)

松下孝幸・他、1982:宮崎学園都市堂地東遺跡出土の近世人骨。 宮崎学園都市埋蔵文化財調査概報(Ⅲ):47-55.

松下孝幸、1997:宮崎県の古人骨。宮崎県史、通史編 原始古代1: 784-794.

松下孝幸・他、2004:宮崎県日向市中山遺跡出土の近世人骨。中山遺跡(宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第93集): 4968.

松下孝幸、2007a: 宮崎県延岡市吉野第2遺跡出土の近世人骨。吉野第2遺跡(一般国道10号延岡道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書3)(宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第155集): 160-163.

松下孝幸、2007b:宮崎県高鍋町野首第1遺跡出土の近世人骨。野首第1遺跡II(東九州自動車道(都農〜西都間)建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書50)(宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第157集):191-195.

松下孝幸・他、2008:山口県柳井市吉毛遺跡の埋葬姿勢。(投稿中) 佐伯和信・他、1992:宮崎県小林市水落遺跡出土の近世人骨。小 林市文化財報告書第5集:付篇1-20.

第65表 出土人骨一覧

人骨番号	性別	年齢	埋葬姿勢	下肢の姿勢	墓坑の形態	遺構	頭位
G-SD1	不明	不明	不明	不明	方形	不明	北東
G-SD2	女性	不明	仰臥	仰臥屈曲 I d	方形	不明	北東
K-SD5	女性	壮年	仰臥	仰臥屈曲 I b	方形	箱棺	北

第66表 人骨分析における年齢区分

	年齢区分	年 齢	
	乳児	1 歳未満	
++1	幼児	1 歳~ 5 歳	(第一大臼歯萌出直前まで)
未成人	小児	6 歳~ 15 歳	(第一大臼歯萌出から第二大臼歯歯根完成まで)
	成年	16 歳~ 20 歳	(蝶後頭軟骨結合癒合まで)
	壮年	21 歳~ 39 歳	(40 歳未満)
成人	熟年	40 歳~ 59 歳	(60 歳未満)
	老年	60 歳以上	

注)成年という用語については土井ヶ浜遺跡第14次発掘調査報告書(1996)を参照されたい。

第67表 埋葬姿勢の様式

胴部の姿勢	膝関節の角度	下肢骨の立・倒	形式
仰臥	伸展 強屈 (注 1)		仰臥伸展
	強屈 (注1)		仰臥屈曲 I a
		左右一方に倒す	仰臥屈曲 I b
		左右別々に倒す	仰臥屈曲 I c
		下肢を腹部に載せる(注2)	仰臥屈曲 I d
	屈曲(鋭角)	立膝	仰臥屈曲 II a
		左右一方に倒す	仰臥屈曲Ⅱ b
		左右別々に倒す	仰臥屈曲 II c
	屈曲(鈍角)	立膝	仰臥屈曲III a
		左右一方に倒す	仰臥屈曲Ⅲ b
(ovier)		左右別々に倒す	仰臥屈曲Ⅲ c
側臥	強屈		側臥屈曲
	屈曲(鋭角)		側臥屈曲Ⅱ
11.71	屈曲(鈍角)	L De-	側臥屈曲Ⅲ
坐位	強屈	立膝	坐位屈曲 I a
		左右一方に倒す	坐位屈曲 I b
		左右別々に倒す	坐位屈曲 I c
		下肢を腹部に載せる(注2)	坐位屈曲 I d
	(A)(A)	正坐	坐位屈曲 I e
	屈曲 (鋭角)		坐位屈曲!!
/ INE!	屈曲(鈍角)		坐位屈曲Ⅲ
伏臥	伸展強屈		<u>伏臥伸展</u>
	短屈		伏臥屈曲 I

注1:強屈というのは大腿骨と脛骨が接するほど曲げた状態 注2:踵は地面に着いていない。 強屈状態の時は踵と尻が接するぐらい近づくので、骨盤と下部腰椎は寝た状態(仰臥)になる。 坐位屈曲 | dの下半身は仰臥屈曲 | dのと同じ姿勢だが、上半身が立っているので、坐位とする。

第₩章総括

第四章では、塩見城跡全体構造の把握に必要な 縄張り図の調査記録(第四章第1節)と若山浩章氏 による塩見城跡の歴史的位置を考察した文献史学的 成果(第2節)を踏まえたうえで、遺物・遺構の様 相と遺構の変遷を検討(第3節)したうえで、現時 点における発掘調査成果の総括とする(第4節)。

第1節 塩見城跡の縄張り

塩見城跡の縄張り図は、既に図化・公表されている(宮崎県教委1999・宮崎県埋蔵文化財センター2006)。 これら先行の縄張り図に発掘調査の成果や現地踏査の結果等を加筆し、新たに作成した(第191図)。

塩見城跡の立地 塩見城跡は、戸高山から塩見川に突き出た山塊上に立地する。城の東西は小河川と湿地帯(水田面)、北は険しい山地形、南は塩見川とその氾濫原に接する。自然の障壁を巧みに利用して防御性を高めた位置取りとなる。さらに、城の南端は入郷地域(旧東郷町・東臼杵郡美郷町)に至る山陰街道に面し、交通の要衝ともなる。

塩見城の周辺 塩見城周辺には中世城館跡やその存在が想定される地名が残る。塩見城跡に程近い位置に正法寺や栗尾神社が所在する低丘陵があり、そこには塩見城成立以前の城館である「塩見之城」の存在が推定されている(『日向市史』2010)。この低丘陵の周囲は、「田淵」・「十田」の小字の如く湿田が取り巻いている。また、館や防御的な屋敷地の意である「囲(かこ)イ」の小字も現存する。

また、巨視的に見渡すならば、塩見城から東側 2 kmに石櫃山、西側約 1.7kmの地点に高平城が位置 するので (第2図)、塩見川北岸に沿った中世城館 の横軸の相互関係が読み取れる。

城域の範囲 塩見城跡の城域は、その東端を現在の城山墓地公園の入り口付近とすると、南北 0.5 km、東西 0.6 kmの範囲(約30万㎡)と考えられる。全体構造 塩見城跡の中心に位置する不整形な三角形状の平坦面(標高約70 m)は主郭と見なされ、現在の城山公園にあたる。この主郭から東・西・南側に展開する曲輪群を便宜的に「東側曲輪群」、「西側曲輪群」、「南側曲輪群」と区分する。

東側曲輪群は水月寺や城山墓地公園付近、西側 曲輪群は東川に面した丘陵と谷地形、南側曲輪群は 主郭より南側に広がる丘陵上の曲輪群とする。

このように塩見城跡は、その主郭から放射状に 延びる尾根線上に数段にわたる曲輪を設ける構造で あり、あたかも主郭を頂点として扇を開いたように 各曲輪群が展開する。

主郭の構造 この主郭の最高所は、土塁で「コ」の字形に取り囲まれている。この土塁は主郭の東側 縁に沿って延伸するが、取り付け道路により切断されるなど部分的に残存している。

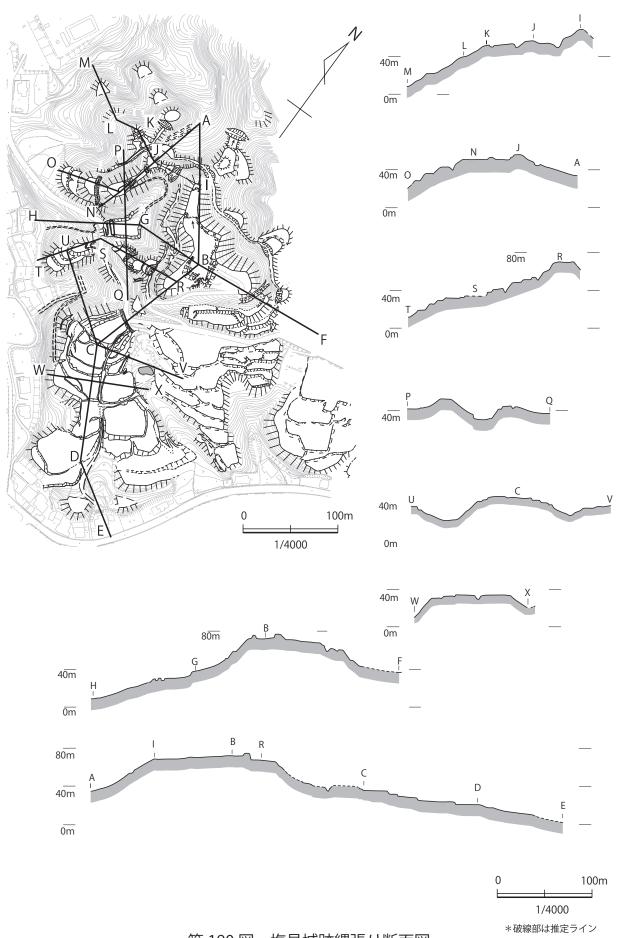
土塁の南面には、虎口部が1箇所確認された。現状では2箇所の出入り口が認められるが、本来の姿は食い違い虎口にスロープが付設された形態か、外桝形と推定される(第191図下段)。さらに虎口部の両側には土塁の張り出し等が認められるので、虎口部両側に櫓台の存在を想定できる。また、主郭の北端に位置する東西7m、南北5mの幅の狭い方形台状の高まりも櫓台と考えられる。

一方、主郭西縁のやや北よりの部分では、城戸 状の開口部が確認された。この開口部から南に斜面 を下ると石組のある狭い平坦面に行き着く。この石 組からは曲輪A・B方向に向かう通路面や細長い帯 曲輪が接続するので、石組のある平坦面(曲輪面) は「虎口受け」と考えられ、虎口受けから曲輪A・ B方向に分岐するルートが想定される。

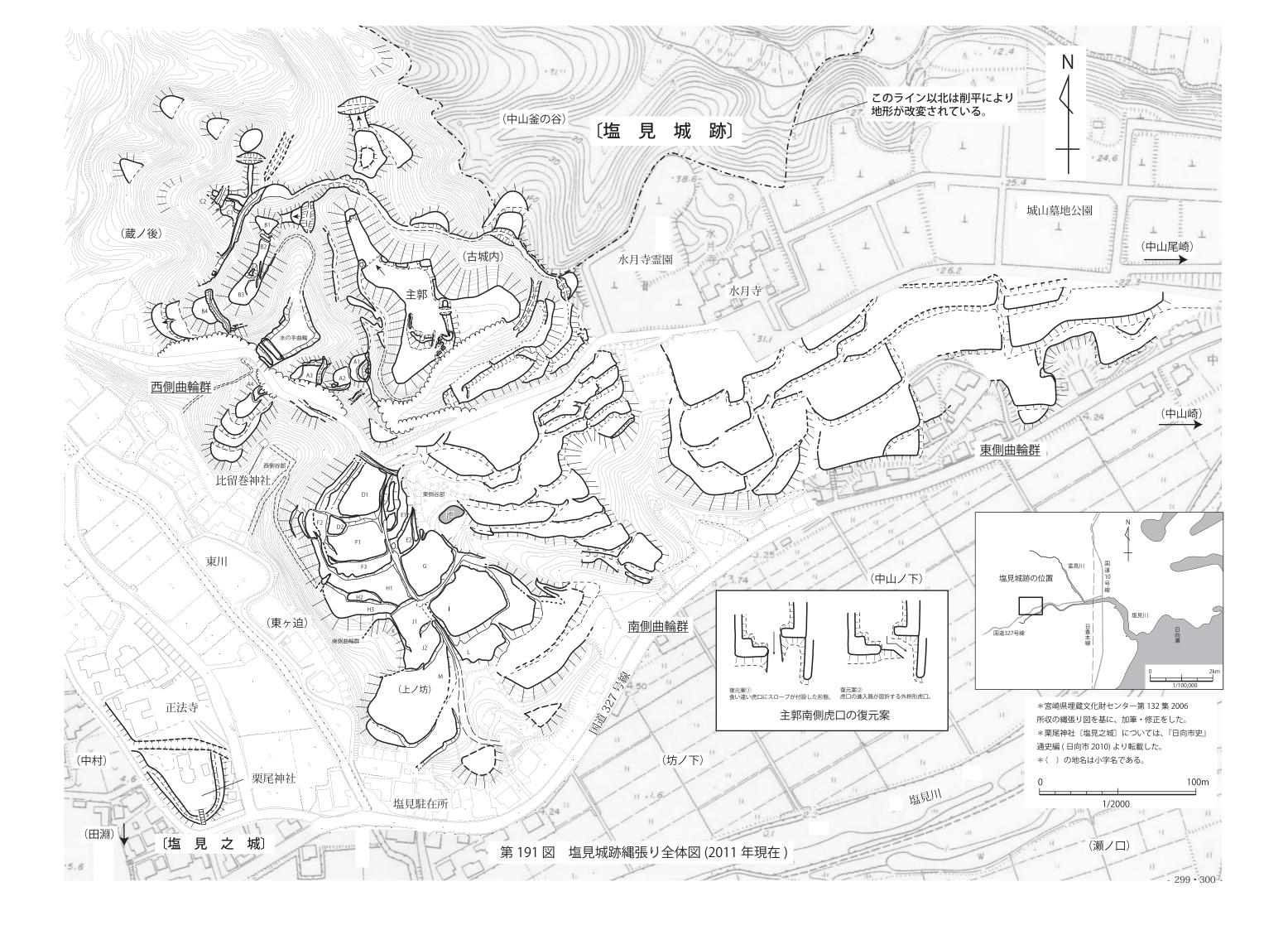
このように主郭への出入り口部は、土塁を伴う 虎口部と城戸状の開口部の2箇所と解釈される。こ の場合、主郭と城外を結ぶ主要な登城路は、水の手 曲輪や南側曲輪群(道路状遺構)および現在の城山 墓地公園の出入り口等が考えられる。

主郭周辺の防御 主郭から四方に延びる丘陵尾根を断ち切る堀切は、帯曲輪や竪堀・横堀、さらに帯状の細い平坦面(通路)とで相互に連結し、総延長0.6kmにわたって円環状に主郭周辺を取り巻く防御線となる。この防御線は城域の中核部分である「内郭」と「外郭」の境界線でもあり、塩見城跡の縄張りの大きな特徴といえる。

主郭の東南隅部分は帯曲輪を幾重にも設けた上に堀切と連結して、水月寺方面からの備えとする。一方、主郭の西側面には大きく谷地形が入り込むが、水の手曲輪における石積遺構の構築(第Ⅲ章第6節)し、さらに石積遺構を交点としたX字形に曲輪面を



第 190 図 塩見城跡縄張り断面図



数段にわたり構えることで (曲輪 $A \sim B$ 群)、谷筋からの侵入に対する防備上の弱点を補う。

城域北側の外縁部は、堀切や竪堀等で丘陵尾根を 切断し、小曲輪を効果的に配して防御となす。

東側曲輪群 主郭より東側の丘陵上は、近現代の土地利用により大きく削平されており、曲輪の状況を確認することができない。丘陵南側斜面では、宅地や墓地による後世の改変が顕著な箇所も多いが、大小様々な平坦面が多く確認できるので、曲輪群が形成されていると考えておきたい。

西側曲輪群 西側曲輪群の一部は、今回発掘調査 を実施した部分にあたる (第Ⅲ章参照)。この西側 曲輪群は高低差が極めて大きく、狭く小さい平坦面 を数段にも設ける。曲輪 A・B 群では狭い平坦面に も関わらず掘立柱建物跡が高密度に検出された。

水の手曲輪では、城の維持管理に必要不可欠な井戸跡が検出されている。さらに石積遺構は、完全に外部から遮断する時期と二つ折れの虎口構造に改変する時期が認められた。従って、水の手曲輪には、閉鎖的空間から城域内への登城ルートとして開放された空間への変化が読み取れる。

南側曲輪群 城山墓地公園から主郭直下に通じる 市道より南側の丘陵上には、方形基調の広大な平坦 面が幾重にも階段状に連なる。これら階段状の平坦 面群は、開析谷によって大きく3箇所に区分される。

中央部及び谷を挟んで東側の平坦面群は、南側曲 輪群の発掘調査の成果や平坦面に切り通し状の出入 り口部が備わることから、曲輪群であった可能性が 高いと判断し図化・記録している。今回の発掘調査 を受けたのは最も西側にあたる(第Ⅲ章参照)。

南側曲輪群の発掘調査では、直線的に縦横断する道路状遺構 (SG1~3)の両側に方形の曲輪群が階段状に左右対称に整然と連なる構造が明らかとなった。曲輪内には多数の掘立柱建物跡が検出されるなど、主郭周辺と比べて防御性よりも生活空間的要素が強い曲輪群といえる。この道路状遺構 (SG2) は、国道 327 号線のカーブ部まで延伸していたと推測されるが、既に削平されてしまっているので、詳細は不明である。直線的かつ規模も大きいので、街道筋からの主要な登城ルートであったと考えられる。

(今塩屋)

第2節 塩見城の歴史的位置

若山浩章

1 はじめに

本節では、残された史料(注 1)から塩見城がたどった歴史を概観し、その中で同城が政治・経済・社会的にどのような位置を占めていたかという点について考察する。その際、重要な視点は塩見城の近隣にある門川城と日知屋城との関係である。これらの城は、少なくとも戦国期末には「三城」と一括して呼ばれており(注 2)、当時から一体のものと認識されていた。そうなった経緯や背景について検討することは、最初に記した課題を解明する上で重要なポイントになると思われるので、門川城や日知屋城も議論の対象にしていきたい。

なお伊東氏支配以前の三城にかかわる史料はほとんど残っていないため、後世の編纂物ではあるが『日向記』を、また島津氏支配下の状況については、比較的まとまった記述のある『上井覚兼日記』(以下『覚兼日記』と略称する)を主に使用した。

2 塩見城の初見史料

塩見城の史料上の初見は、管見の限り文明6年(1474)の「文明六年三州処々領主記」(以下「領主記」と略記する)(注3)である。これは薩摩・大隅・日向3国を行脚した僧の聞き書きで、文明6年当時の、3国内の諸地域の領主と持城の状況を記している。

これによれば、塩見城は門川城・日知屋城とともに「山東城」と呼ばれる 18 の城 (注 4) に数えられている。同史料には「山東仁伊東大和守祐堯・同六郎祐国」とあって、山東城 (注 5) が伊東氏の持城であったことがわかるが、それらの中での三城は、縣の土持氏と境を接する山東という領域の北の境界の位置にあった。

しかし、これ以上のことについては「領主記」は 何も語らず、島津氏が支配する天正期まで関係史料 を見ることができないため、塩見城等三城をどのよ うに伊東氏が支配するようになったのか、また領内 の中で三城がどのような位置を占めていたのかよく わからないというのが実情である。

ここでは、その手がかりを探るため、伊東氏の家 譜ともいうべき『日向記』を中心に三城の描かれ方 を見ていきたい。

3 『日向記』に記された塩見城

(1) 土持氏と塩見城

『日向記』における塩見城の初出は、巻3「三ヶ国家人ノ御教書ヲ賜ル事」である。これによれば、康正2年(1456)10月、土持氏は伊東氏と衝突し合戦に及んだ。いわゆる小浪川の戦いと呼ばれるが、これに敗れた土持氏は長禄元年(1457)10ヶ所の城を伊東氏に譲ったとする。10城は、財部・高城・日知屋・塩見・門川・新名・野別府・山陰・田代・神門の各城であった。つまりそれまで三城は土持氏の支配下にあったということになる。この記載はどのくらい信憑性があるのだろうか。

建久8年(1197)の「日向国図田帳」(注6)によれば、弥勒寺領として塩見庄(35町)が見え、地頭は土持太郎信綱と記されている。これが土持氏との関係を示す最初の史料である。なお日知屋も当時、塩見庄に含まれていたと考えられている(注7)。その後、康永4年(1345)11月22日「開田遠長領吉田村年貢濫妨事書」(注8)によれば、「御教書を申しなさセ給候ハんする御使ニハ、日向国ニハ土持、一族ニハ土持兵衛尉、塩見左衛(門脱)太郎、北谷兵衛尉ニて候へく候」とあり、土持氏の一族として塩見氏の名を見ることができる。土持氏の一族が在地の名を名乗り土着したものとすれば、南北朝期に至ってもなお塩見が土持氏の影響下にあったということになるだろう。

一方、門川は「日向国図田帳」に記される宇佐宮 領富田庄(80 町)に含まれていたと見られているが (注9)、富田庄の地頭は故勲藤原衛門尉(工藤祐経 カ)であった。『日向記』によれば、祐経の孫(伊 東祐時の子)祐景が門川を領したとしているが(こ の祐景の一統を門川氏とする)(注10)、そうなる と、門川は伊東氏(門川氏)の支配から土持氏へ移 り、小浪川の戦いで再び伊東氏へ移ったということ になる。この間の事情について『日向記』は触れて はおらず、事実関係は不明というしかない。

詳細は検討を要しようが、重要なことは 10 城の支配が土持氏から伊東氏に移ったと、『日向記』が強調している点である。何故なら、『日向記』の編者は、この戦いで伊東氏が土持氏を破り、山東の覇権を掌握したということを後世に伝えようとしたからである。この事件はそれほどに伊東氏にとっては重要な事件と認識されていた。そのような意味では、

これについて、あからさまな脚色をほどこすとも考えにくく、この記載もあながち的はずれとは言いがたいのではないだろうか。

(2) 伊東家の家督継承争いと塩見城

「領主記」に見られるように、祐堯の代には山東の領域形成が進められた。その中で塩見城とそこを拠点にした人々(ここでは便宜上「塩見衆」などと呼ぶことにする)は、政治的にどのような位置を占めていたのだろうか。『日向記』は、伊東家の家督の継承争いについて多くの記述を残し、伊東家の家臣団の構成やその様相を描いている。その中で塩見衆・日知屋衆・門川衆の動向を見ておきたい。

【事例 1】

文明 16 年(1484)伊東祐堯は飫肥に遠征する。 その主力は子の祐国・祐邑であったが、塩見衆は門川衆、日知屋衆とともに、祐国の軍勢の中に入っていた。しかし文明 17 年(1485)に行われた 2 回目の遠征で、祐堯が陣中で病死、祐国も戦死する。こうした混乱の中で、文明 18 年 (1486)日知屋に拠点をおいた祐邑が、豊後の大友氏と手を結び島津氏に対抗しようと企図したが、逆に祐国の跡目をねらっているものとの疑いをもたれ殺される。同時に祐邑の支持者であった野村一族も粛正された(巻 3 「祐邑生害並野村乱事」)。

【事例 2】

祐国の跡を継いだのは尹祐だったが、その尹祐も 大永3年(1523)野々美谷の陣中で頓死したため、 その跡を祐充が継ぐことになった。尹祐から祐充の 代にかけて台頭したのが福永伊豆守である。福永氏 が台頭したのは、祐充・祐清(後の義祐、以下便 宜上祐清は義祐の名で統一する)・祐吉兄弟の外祖 父であったことによる(巻4「守護方若輩方争論ノ 事」)。しかし天文2年(1533)祐充が24歳で早 世すると、祐充兄弟の伯父祐武が家督を継ごうとし、 伊豆守に切腹をさせた(巻4「祐充御早世並豆州殺 宝事」)

義祐・祐吉兄弟は日知屋へ逃れ、上洛しようとするが家臣等に止められる。その後、三城はじめ財部衆が義祐兄弟に合力、山陰の米良宮内少輔らも加わり、これらの勢力に通じた荒武三省が祐武を切腹に追いやった。(巻4「武蔵守祐武殺害事」)

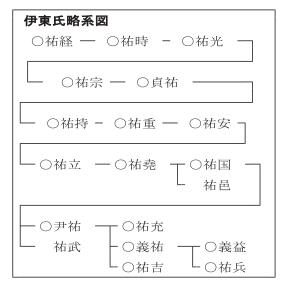
【事例 3】

その後、祐武の嫡子左兵衛佐が、米良山を頼って

平野へ落ちのび、周辺の勢力を結集して義祐等に対抗した。その勢力は渡河・雄八重・仲俣・銀鏡・小崎・神門・石尾・小河・平野・石・三納・青山衆(現在の、美郷町〜西米良村〜西都市)であった。これに対し義祐方には伊東相模守・荒武三省を中心に山陰・坪屋・田代・水志谷・塩見・日智屋など現在の日向市から入郷地域の勢力が集り、その後、穂北・三納・平野・八代・綾・本庄・木脇・穆佐・内山・高城が左兵衛佐から義祐方に移ったため、左兵衛佐の勢力は後退した。(巻4「祐清公被得御勝利事」)

【事例 4】

左兵衛佐の乱後、長倉能登守が義祐の弟祐吉を守護にしようと画策。天文4年(1535)2月宮崎城に入城し実権を掌握した。この混乱の中、12月に門川の領主たちが縣の兵を門川城に引き入れるという事件をおこす。彼等の拠点は本城(門川城カ)、鳥越、狗山・佐々宇津の四城であったが、間もなく鎮定された(巻4「門河対治並祐吉早世事」)。その後、祐吉が天文5年(1536)6月早世、出家していた義祐が還俗して富田城から佐土原城へ入城した。



これらの事例をみると、三城衆は伊東氏の家督継 承に伴う混乱の中で、都於郡を中心とするいわば主 流派とは対立する動きを示していたことがわかる。 そのうち日知屋衆と門川衆の動向は注意すべきであ ろう。

事例1のように、祐邑は日知屋を拠点にし、大友 氏との連携を模索していたが、これは日知屋衆の支 持があってのことであろう。日知屋は天然の良港を もち、海上交通によって大友氏との関係を深めてい たと推測される。しかも、その勢力は決して侮れる ものではなかったらしい。追われた義祐兄弟が日知 屋に逃げ込んだのも、そこが身を守る上で安全な場 所だったからであり、祐武なども容易に手を出せる 地域ではなかったと推測される。

また、門川衆については、事例4のように土持氏 との関係が深く、また後述するように伊東氏の豊後 落ち後には、大友氏と結び島津氏に対して挙兵する など、山東より北の勢力との関係が深かった。

一方、塩見衆は『日向記』からうかがう限り、表だった行動をしてはいない。義祐の擁立に際しては、日知屋衆に同調した行動を示しているが、その中心的な部分を占めてはいない。しかし塩見衆の同調が、山陰・坪屋・水清谷・田代など入郷地域(日向市東郷町・美郷町西郷区・南郷区)の勢力を呼応させたのは否定できないと思われる。塩見城は、これらの海の勢力と入郷地域の勢力の結節点の役割を果たしていたのではないだろうか。

このような塩見城等三城と入郷地域の関係、三城と大友氏との関係の深さを如実に示すのが、天正5年(1577)伊東氏の豊後落ち後に繰り広げられた石城の籠城戦であるが、この経過については次項で触れておきたい。

さて、これらの家督継承争いについて『日向記』は、 三城等の勢力と対立する勢力として、米良等の山間 部の勢力をあげているのは興味深いことである。福 永氏は、米良氏を近付けたため、小原・椎葉山・黒 木など山間地帯の勢力も福永氏の被官同様の活動を したとしているし(巻4「守護方若輩方争論ノ事」)、 左兵衛佐が、義祐に対抗した際には、渡河・雄八重・ 仲俣・銀鏡・小崎・神門・石尾・小河・平野・石・ 三納・青山などの勢力が呼応している。

『日向記』の著者は、義祐寄りの立場から書いているため、山間部の勢力に対しては批判的で、三城衆に対しては好意的に扱っているように見える。その意味で三城衆の行動は際だつ形になっており、多少の誇張は考慮に入れておく必要がある。しかし重要なことは、この海岸部と山間部の対立ともいうべき図式が、伊東氏の領内支配のネックになっていたということであろう。そして、その対立の軸に三城衆は位置付けられていたことである。山間部の勢力が台頭した背景は何か、また三城衆が、義祐を擁立したのは何故か、彼らの対立の背景にある利害関係はどのようなことなのか、今後、検討すべき課題も

多いが、ここでは、三城衆が伊東氏領域内で重要な位置を占めていたことを確認しておきたい。

(3) 伊東氏の豊後落ちと塩見城

天正5年(1577)、島津氏の日向侵攻によって、伊東義祐は日向を退去し豊後へ向かった。島津氏は日向に入るが、日向国内にはいまだ伊東氏の残存勢力が活動しており、大友氏もいったんは島津氏側についた伊東氏の旧家臣たちの内応を誘おうとしていた。

「日州江御発足日々記」(注 11) によれば、天正 5年12月24日、「此日豊後佐伯宗天より日知屋・門川・塩見三ヶ城江以書状、伊東物内 太守様御安 利伝説雖為必定、三ヶ城の事ハ以談合堅固才覚候ハ、、従豊後口可被加力、書状即三ヶ所より紐をもとかす使僧両三人二持セ被上、」とあって、大友氏の重臣佐伯宗天が三城に対し内応の書状を送ったことがわかる。大友氏は、島津氏の日向進出は認めるものの、三城までは大友氏が領有するという認識を持っていたことがうかがわれ、大友氏の境界認識を示すものとして興味深い。三城衆は紐もとかず島津氏にこのことを知らせたとしているが、結局は大友氏の側についた。

『日向記』(巻9「日州帰国評儀事」)によれば、 大友氏の家老佐伯宗天惟定と内通したのは、当時の 門川城主米良四郎右衛門尉、塩見城主右松四郎左衛 門尉、山陰城主米良喜内らで、天正6年(1578)2月、 先手として臼杵惣右衛門を大将とする大友勢と伊東 新助・長倉勘解由左衛門尉等豊後に身を寄せていた 伊東氏家臣等が門川城に入ったという。潜入した伊 東氏の旧臣たちには、山陰・田代(現、美郷町)・ 坪屋(現、日向市)・日知屋(現、日向市)・水清谷 (現、美郷町)・入下(現、美郷町)・神門(現、日 向市)など現在の入郷地区の勢力が合力し、新納院 石城(現、木城町)に立て篭もった。

これに対し島津氏は、同年7月、伊集院忠棟を中心にして石城攻めを開始したが、石城は山間地であり、攻撃は難航、多くの負傷者が出た(注12)。このことは石城に立て篭もる長倉勢も同様で、抵抗はしだいに弱まっていった。9月29日、島津方から城を明け渡せば、退路を開くという勧告が出されたため、長倉勢はこれを受け入れ、人質を交換し三城へ送られていった(注13)。

4 島津氏支配下の塩見城

天正6年(1578) 高城合戦で大友氏を破った島 津氏は、日向支配を本格的に進めることになった。 ここでは島津氏支配下における塩見城の状況をみて いきたい。またこの頃から「三城」という表現が顕 著に現れるようになるため、日知屋城や門川城との 関係についても言及したい。

さて、島津氏の日向支配は、旧伊東氏の地頭による城領を継承したもので、それらの城に島津氏の家臣たちを地頭としておくというものであった(注14)。日向には守護代として島津家久(義久の弟)が佐土原に在城し、その補佐として、また山東の諸地頭を統括する役目として上井覚兼が宮崎に在城することになった。三城については、門川に伊地知重政、日知屋に井尻祐貞、塩見に吉利忠澄が置かれている。

(1) 三城に配された地頭

まず「本藩人物誌」(注 15) によって三城の地頭 の略歴を追ってみたい。

伊地知丹後守重政は、義久の奏者であった伊地知 重秀の一族である。永禄9年(1566)10月三山(現、 野尻町)で軍功をあげ、天正期には軍の談合衆54 人の一人に数えられたという。三城の地頭は本来、 吉利忠澄に任じられたものだが、忠澄は彼に従って いた重政を門川地頭に任じたとする。

井尻祐貞は、伊作久逸に仕えた井尻祐秀の子とされている。「本藩人物誌」では、祐貞がもともとは伊東氏の家臣で、石城の合戦で人質となった「伊賀」という人物であるという説があることを紹介しているが、これは誤りとコメントしている。「本藩人物誌」編纂時から、由緒がよくわからない人物と見られていた。

吉利忠澄は島津久定の嫡子である。久定の祖父秀 久は薩州家2代国久の三男で、鹿籠を領地としてい たが、久定の時、島津貴久によって吉利を与えられ 移住、伊集院地頭職も得たという。しかし久定は忠 澄が9歳の時没したため、その遺跡は伯父の久金(後 の日向蔵岡地頭)に継がせるよう貴久からの指示が あったという。これに対し家臣36名が連判をもっ て反対したため、貴久は家督を忠澄に継がせ、吉利 の地を安堵した。忠澄は、永禄9年(1566)に吉 利を家号とし、その後の多くの軍功によって、高城 合戦の直前、天正6年3月下旬、日州の抑として、 塩見・門川・灘(日知屋であろう)の地頭をあわせて仰せ付けられたとする。

さて、「本藩人物誌」では、忠澄の記載は多く詳細であるが、重政・祐貞のそれは少ない。これは重政・祐貞が、同じ地頭でありながら、忠澄と違って由緒がよくわからなかったことを示している。『覚兼日記』をみると、登場する頻度に同様の傾向を見ることができ、覚兼と忠澄は頻繁に交流していることがわかるが、重政と祐貞はそうではない。また忠澄は「殿」付けがされているが、重政・祐貞はそれがないなど、重政と祐貞は忠澄より格下と見られていたことはまちがいない。このほか覚兼からの三城への連絡も忠澄に対して行われていること等(注16)を考えあわせると、忠澄が、日州の抑として三城の地頭に任じられたとする「本藩人物誌」の記載は、信憑性があるといえる。

このように、塩見城の吉利忠澄が三城の統括的立場になったが、このことは三城内における塩見城の役割が大きくなったことを意味している。島津氏は、塩見城を中心に三城支配を強化したものと考えられる。では何故にそのようなことになったのか、この時期の塩見城の果たした役割について、次項で考えてみよう。

(2) 三城の果たした役割

ここでは、紙数の関係から、特に三城の情勢が緊迫する天正 13 年 (1585)8 月以後の事例をもとに検討していきたい。

8月5日、覚兼のもとに豊臣秀吉が四国に渡海したという情報が入った。長宗我部元親が程なく降り、その後、秀吉は九州に来襲するだろうという風聞があるとのことであった(7日には細島からの情報で元親の降伏が伝えられ風聞が事実と確認されている)。

当時、島津氏は肥後から筑後攻めにかかっていたが、この新たな情勢に対し、家久・覚兼等日向勢は日向口からの豊後攻めを主張し始める。これに対し 義弘は、忠澄や都於郡地頭鎌田政親と相談して縣・三城の様子を検分し、よく考慮するよう覚兼に指示した(6 日条)。

秀吉が大友氏につけば、三城は攻撃の正面にたつ 可能性が高くなる。義弘にとっては、かつて大友氏 に内応したこの地域に対する不安をぬぐい去れず、 現地を検分するよう指示をしたのであろう(事実、 14日条には、覚兼等も敵に内応しない旨の神水を 飲み交わしている)。 8日にはさらに悪い情報が入る。阿蘇氏が大友氏と結び、高千穂の三田井親武や甲斐宗摂を取り込もうとし、縣へ着陣する時は、協力するようにと依頼したという。三城口はさらに緊迫したものとなった。

島津氏の側でも高千穂の重要性は早くから認識し ていた。天正11年(1583)11月14日条に依れ ば、伊集院忠棟や覚兼、忠澄等は、三城口から高千 穂境への計策を議論しており、この地域を取り込む もくろみがあったものと見られる。その情報収集と 調略活動に大きな役割を果たしたのが、右松備後守 であった。備後守は伊東氏時代の塩見城主右松四郎 左衛門尉の一族と見られるが、『覚兼日記』では「山 中衆」と呼ばれており、入郷地域を根拠に活動して いたらしい。天正13年8月10日条によれば、備 後守は大友義統が阿蘇に出陣して高千穂に進出しよ うとしていること、秀吉の使い菊田某がやってきて、 義統に資金提供したこと等の情報をもたらした。ま た27日条によれば、備後守は家久の指示で11年 頃から山間地帯の諸氏に計策を行っていたことが知 られる。

こうした情報によりながら閏8月、家久は自ら田代(現、美郷町)に出陣、三ヶ所(現、五ヶ瀬町)を落とし、親武に人質を出させることに成功した(閏8月29日条)。

さて、以上の経緯を見ると、塩見城とその周辺地域は、海上交通の要衝であると同時に、九州山地に入る入り口という好条件の位置にあり、島津氏はその利点を積極的に活用したことがうかがえる。

前述したように、細島を通して長宗我部氏の情報が入っていたことから、畿内や四国からの船の入津は相当数あったと思われ、様々な情報が入手できたであろう。また義久が、海路視察するために水主50人程を美々津や細島に命じたこと(天正14年(1586)2月1日条)や、覚兼が南林寺の用材を種子島に求めた際、船の水主を細島に命じたこと(同年3月16日条)などは、これらの地域が水主の動員において重視されていたことを示している。こうした条件の良さは、当然、秀吉の標的ともなり得たため、覚兼は祐貞に対し細島の普請を油断なく行い、堅固にするよう指示するとともに、船数をそろえ、四国の兵船の動向を探索し早舟で知らせるよう命じている(同年8月29日条)。

一方、高千穂攻略の経過に見られるように、塩見城は内陸交通の起点として重要な位置にあった。時期は遡るが、天正11年9月20日条には、覚兼が当時敵対していた阿蘇氏に対抗するため、縣の土持久綱や塩見の忠澄、高城の山田有信へこの方面への魚塩止めを命じた記事がある。九州山地を越える流通の実態を垣間見ることができるが、おそらく備後守のような山中衆の存在がこれらのルートを掌握していたのであろう。島津氏は、右松氏のような山中衆を抑えることで交通路や流通路を掌握することができたと思われる。

(3) 三城とその周辺地域

さて、島津氏はかつて大友氏に内応した三城や入郷地域の人々をどのように取り込んでいったのだろうか。これらの地域の人々との交流について、天正13年(1585)4月に行われた覚兼の塩見訪問の記事をもとにみていきたい。

覚兼が出発したのは4月6日であった。その目的はこの地域で狩を実施することであった。7日には穂北(現、西都市)地頭の平田宗張、高城(現、木城町)の山田有信を訪れ、8日に有信を同道して名貫(現、都農町)・美々津(現、日向市)を経由し平岩(現、日向市)に入った。覚兼等はこの日、忠澄の内衆田中市佑のところに宿泊し、翌9日塩見に着く。忠澄は城の「たれの口」(注17)で覚兼等を出迎え、饗応した。

狩が始まったのは 10 日である。この日は早朝から狩を行い、朝のうちに鹿1頭仕留めると芝屋で、日知屋・塩見衆中と酒宴。美々津からも酒が届き、侯江(現、美郷町南郷区)や坪屋(現、日向市東郷町)からも人々が参集し、狩人1000人を数えた。この日の猟果は猪・鹿50頭以上だったという。11日は、細島はた浦(現、日向市日知屋畑浦)で狩りが行われている。細島衆が桟敷を構え会釈、細島に逗留中の播州室之弥太夫という船頭から杉原紙20帖・樽1が進上された。その後、井尻祐貞を訪問し薄暮塩見へ帰った。

12日には覚兼のもとに衆中10人・光厳寺・土持 久綱の使者新名美作守・井尻祐貞・細島衆らが訪れ る。その後、覚兼は右松備後守を訪ね、山影(陰)(現、 日向市東郷町)へ出発し狩を行う。この日は、土う ち(比定地不明)という村に宿泊する。13日は早朝 から忠澄や久金のほか10人ばかりで狩に出る。鹿 10 頭ほど獲り山陰地頭吉田清長の設営した桟敷で休憩。しかし大雨になったため忠澄の宿に戻り俳諧などして閑談、深更に覚兼は宿に向かった。

14日も早朝から狩。忠澄が猪に噛みつかれ3カ 所の疵を負うという1日であったが、広瀬(現、日 向市東郷町)という村に逗留。15日は日田尾(現、 日向市東郷町)に逗留。山影衆5、6人が酒肴を持 参し、忠澄や吉田右衛門佐(清長)もやって来て朝 まで閑談。16日、早朝から吉田清長、逆瀬川豊前 拯・井尻太郎四郎等と狩りを行なった後、清長や右 松備後守と酒宴。この夜は高城の征矢原に逗留し、 翌17日、都農を経由して、18日に宮崎に着いた。

狩は、2週間近く行われた大規模なものであったが、覚兼等はこの地域のあちこちを訪れ、その先々で地頭やその家臣、地域の有力者層など実に多くの人々と交流を持った。狩は日知屋や入郷地域の各地で行われるが、特に10日に1000人が動員されたことは注目される。彼らは入郷地域から勢子として集められたのであろうが、これは忠澄によって演出された一つのデモンストレーションであったと思われる。忠澄は、かつて島津氏に反した入郷地域の人々に対し、狩に動員することで、新しい支配者として威厳を隅々に示す必要があったのではなかろうか。それと同時にまた逗留した地区ごとに数多くの宴をもったのも重要であろう。この宴も人間の鎖を強固にするための舞台となったと思われる(注18)。

宴の中に播州室之弥太夫という船頭がいたことも 注意すべきである。細島が畿内とをつなぐ港であっ たことを示す事例であり、彼らからは多くの情報や 交易品がもたらされたであろう。覚兼にとっては疲 労困憊の旅であったろうが、来るべき合戦に備えて この地域との関係を強化するためには必要な旅だっ たと思われる。

5 まとめ

以上、中世における塩見城の姿を概観し、その果たしてきた役割についてみてきた。領主の変遷にともない、三城の役割は変化するが、いずれの時代にも共通する特徴というべきものが見えてきた。

その一つは、港に近く海上交通の利点があったことである。これについては、特に大友氏との関係が深かったことは重要である。おそらく豊後方面からの交易や人々の交流が、はやくから行われており、

それらに分かちがたく結びついた広範囲なネットワークが形成されていたと思われる。また『覚兼日記』に見られるように、四国からの様々な情報が入ったり、播州の商人との交流が見られる点、さらに種子島への水主の動員があるなど、畿内方面から南西諸島に至る広範囲な交流や交易とともに、それを利用する領主層の実態が垣間見られる。

もう一つは、入郷地域との関係の深さである。伊 東氏時代においては家督継承争いの事例や石城の籠 城戦に見られるように、これらの地域が連携してい たことがわかった。また『覚兼日記』においては、 右松備後守等の山中衆の取り込みが重視されたこと を確認した。それは高千穂や椎葉方面をつなぎ、九 州山地をぬける内陸交通の起点であるという意味で 重要であった。

以上、塩見城の位置付けや役割について述べてきたが、これらの歴史が遺物上にどのように反映されているのか、また塩見城の遺構がどのような特徴をもつのか、島津氏の支配になって整備された痕跡が認められるのか等、今回の報告書をもとに詳細な検討が今後なされることを期待したい。

最後に今回の調査で発見されたキリスト教関係の 遺物について、特にキリスト教の地方伝播のあり方 という点から言及しておきたい。

1581年(天正9)のイエズス会「日本年報」(注 19) には、日向国の数少ない信者の一人を紹介し ている。彼の名はルカス(Lucas)といって日向国 のある港に住んでいた。彼には妻と娘がいたが、一 家でキリシタンとなり 18年間信仰を守っていたと いう。一家はもともとは裕福であったが、キリシタ ンとなった後、財産を失い、最後には家まで火災に 遭ってしまい、聖像付きの十字架とヂシピリナ(修 行の時使うムチ) だけが残った。特に後者はルカス が燃えさかる家屋の中から取り出したもので、ルカ スはこれらさえあれば失った財産など惜しくはない といい修道士たちを感激させた。異教徒の中にあっ て、これほどの財を失ったにもかかわらず、信仰を やめるどころか前にも増して信仰を深め、自らがキ リシタンであることを公表し、諸人からも認められ ていることに宣教師たちは大いに驚いたという。

「日本年報」には多くの誇張があり、この話もそのまま信用するわけにはいかないが、これまで述べてきた人や物の移動の観点からみれば、あながち荒

唐無稽な話ではない。ルカスが港町にいて裕福であったことを考えれば、彼が海上交易にかかわる商人であった可能性がある。教会はこうした階層を媒介にして信者を獲得していったのではあるまいか。ルカスのような信者は、「日本年報」にもあるように、決してその地域で多数派ではなく異端であったろうが、彼がすでに18年間信仰していることから、入信したのは1563年ごろと思われ、1549年ザビエルの来日から14年の間に、地方の港町にキリシタンが存在したということになる。このように考えると、ルカスのような人物が塩見城周辺にいてもおかしくはないと思われる。この遺物が、単に大友氏の進攻との関係だけでは語れない側面があるということを指摘し、擱筆したいと思う。

(若山 浩章)

- (注 1) 関係史料については、拙稿「中近世城郭関係史料目録 (2)」 『宮崎県中近世城館緊急分布調査報告書Ⅱ』(宮崎県教育委員会、 1999)を参照。
- (注2) 三城の史料上の所見は、管見の限り「川上久辰耳川日記」 (都城島津家文書 12 号『宮崎県史 史料編中世2』)の、天正6 年11月12日条であろう。
- (注3) 都城島津家文書 3 号『宮崎県史 史料編中世2』(1994) (注4) 残りの 15 の城は、穆佐・池尻・曽井・宮崎・清武・田野・山之城・木之脇・阿屋(綾)・本庄・都於郡・岡富・財部・竹篠・八代・平賀・新田・田嶋である。
- (注5) 山東とは青井岳(宮崎県都城市山之口町)以東を指す地域呼称である。詳細は拙稿「九州の「奥三ヶ国」と「山東」」(『地方史研究』340、2009)
- (注6) 島津家文書 25号『宮崎県史 史料編中世 2』
- (注7) 『宮崎県史 通史編中世』第1章第2節「日向国の荘園・ 公領」(1998)
- (注8) 相良家文書 5 号『宮崎県史 史料編中世 2』
- (注9)前掲注7参照
- (注10)『日向記』巻2「祐時男子格別之事」
- (注 11) 『鹿児島県史料 旧記雑録後編 1 』(以下『後 1 』と略記する) 948 号。
- (注 12) (年未詳) 7 月 9 日 「上井覚兼・伊集院忠棟連署書状」(『後 1 』 984 号)
- (注13) 前掲「川上久辰耳川日記」
- (注14)福島金治『戦国大名島津氏の領国形成』第3の2「戦国大名島津氏と地頭」(1988、吉川弘文館)
- (注 15) 『本藩人物誌』(鹿児島県史料集第 13 集 1973)は、15世紀中頃から 17世紀中頃までの島津氏の一族及び主な家臣などの略記をまとめたものである。成立年代不明。
- (注16) 例えば、天正13年(1585) 5月28日条で、覚兼が、八代番立ならびに京都段銭のことを諸地頭に触れた際には、三城への使いは忠澄に送られていた。
- (注17)「たれの口」は、実態は不明だが城戸の前にある何らかの防御施設と推測される。南九州の城郭には「たれ口」などの名称が残っているケースがある。拙稿「慶長期の倉岡城の普請について一「伊地知重順覚書」をもとに一」『宮崎県地域史研究』16、2003 参照。
- (注 18) 久留島典子「酒宴の空間―政事を担う場」(『朝日百科 日本の歴史別冊 歴史を読み直す』7、1994)
- (注19)『イエズス会 日本年報 上』(新異国叢書3、雄松堂出版、 1969)

第3節 遺物と遺構の検討

本節では、今回の発掘調査で得られた遺物と遺構、 及び西側・南側曲輪群における遺構の変遷過程について検討を加えることとする。

(1) 遺物とその特徴

a) 陶磁器類

中世陶磁器類とその内容 今回の調査で出土した 陶磁器類(第7・16 表参照)は、輸入品(白磁・青磁・白青磁・青花・褐釉陶器・無釉陶器・瑠璃釉・染付・華南三彩・五彩)と国産品(備前焼・瀬戸美濃焼・常滑焼・肥前系陶磁器)の2者に区分される。

食膳具・調理具・貯蔵具等の出土量全体の構成 比(推定個体数)では、陶磁器類が7割と多数を占 めていた。食膳具は輸入陶磁器が多くを占めており、 瀬戸・美濃焼は皿類と天目茶碗等があるが量的に少 ない。調理具では備前焼摺鉢、貯蔵・運搬具として は備前焼が主体的であり、常滑焼甕はわずかである。 中国南部産と考えられる褐釉陶器の四耳壺も少ない ながらも出土した。

また、龍首水注(342)や梅瓶(200・201)、瑠璃釉(340・341)、華南三彩の瓶(345)、褐釉陶器天目碗(300~309)といった上位ランクの製品を保有するのが塩見城跡の特徴であり、景徳鎮産の青花では作りや発色の良い優品も多い。なお、塩見城跡近隣の日知屋城跡(日向市教育委員会1993)では陶磁器類、高平城では中世土器(土師器坏・皿類)が卓越して出土する傾向を示している。

陶磁器類にみる曲輪の展開 第68表は、各曲輪 出土の陶磁器類の年代幅を示した一覧表である。

西側・南側曲輪群で出土した陶磁器類の量的なピークは、大きく3つと考えられる。14世紀後葉~15世紀前葉、15世紀後葉~16世紀前葉、16世紀後葉~16世紀前葉、16世紀後葉~16世紀末葉である。

調査区内出土の最古相にあたる陶磁器類は、11世紀後葉と12世紀中頃~後葉の年代を示す景徳鎮窯系白磁碗や皿である。曲輪A・E・F・道路状遺構2にて出土しており、中世塩見城内における最初期の人間活動の痕跡を示している。次いで13世紀初~中葉の段階は、西側・南側曲輪群とも陶磁器類が皆無の空白期となる。空白期の後は、南側曲輪群では13世紀後葉、西側曲輪群では14世紀初頭~中葉頃から陶磁器類の出土が確認され、17世紀

初頭まで継続的に出土する。この17世紀初頭の陶磁器類については、西側・南側曲輪群において唐津焼があまり出土しない点と、景徳鎮・漳州窯系青花のうち、芙蓉手(開光)タイプが認められない(森村健一氏御教示)ことから、塩見城は1600年よりも前に廃絶(廃城)された可能性がある。

17世紀初頭段階以後の17世紀前半~中頃の陶磁器類は、皆無に近い状態である。これは塩見城の城館としての廃絶(廃城)と連動した事象と考えられる。再び17世紀後半代から波佐見焼を主体とした近世陶磁の出土が確認されるが、量的に中世期と比べて圧倒的に少ない。この状態は19世紀末まで続き、近世墓地の存続幅と対応する。

なお、日向市教育委員会による主郭部の調査では、出土した陶磁器類の年代幅は 13~16世紀後半という(『日向市史』2010)。西・南側曲輪群出土の陶磁器類の年代的消長と対応している。

b)龍首水注

能首水注の類例 龍首水注(342)は、曲輪Mで出土した青白磁である。管見の限りではあるが、宮崎県えびの市竹之内遺跡、鹿児島県出水市木牟礼遺跡、和歌山県高野山奥之院や神奈川県鎌倉市二ノ鳥居西遺跡に類例がある。

龍首水注の時期 注口の大きさから二ノ鳥居西遺跡出土の葡萄文付水注(高さ5cm・胴部径7cm)とほぼ同じ大きさとみられる。水注は、12~14世紀後半に盛行した磁器とされるので、塩見城跡の龍首水注もその年代幅の中で製作されたとみられる。

龍首水注の位置付け 龍首水注の出土した南側曲 輪群では、12~14世紀中葉までの遺物は相対的に 少なく、当該期の遺構も不明確である。しかし、14 世紀後葉~15世紀前葉段階には、身舎面積 40㎡を 越える「主屋(主殿)」と思しき大型掘立柱建物跡 が出現する (F-SB10・17)。このことから龍首水注は 14世紀後葉以降に入手されたものと考えられる。

つまり、龍首水注は南側曲輪群における「主屋(主殿)」の出現や屋敷地としての曲輪利用が活発となる14世紀後葉以降、梅瓶(201)や香炉(195・196)や酒会壺(197~199)とともに城主の威信が表徴化された座敷飾りや室禮の道具として使用された「威信材」(小野2003)の一部との位置付けが可能である。なお、龍首水注を伝世品(骨董品)と捉えることも可能だが、道具としての意義は変わらない。

(今塩屋)

c) 中世土器と中世瓦

土師器A類 見込みに工具による螺旋状の沈線を施す土師器皿・坏を「土師器A類」として報告した。

この手法は大分県大分市の豊後府内で多く出土する「ロクロ目土師器」との特徴が合致する。しかし、土師器A類はヘラ切り手法の底部調整である点が相違する。つまり、土師器A類は螺旋状の沈線の施文という「ロクロ目土師器」の影響と、ヘラ切り技法という在地的手法の地域的優越性という二面性を併せ持つと評価できる。土師器A類の時期は、豊後府内における調査成果(坂本 2005)から、15世紀末~16世紀中葉となる。

京都系土師器 617の色調は白色系であることやその製作痕跡から、いわゆる「京都系土師器」の皿と判断される。しかし、搬入品か在地模倣製作かは不明である。年代的には九州での京都系土師器の流入時期から16世紀代と考えられる(佐藤 2003)。617は、領国支配における権力構造を具現化・示威化する武家の儀礼や饗応の器として使用されたと考えられ、それは武家儀礼という京文化の波及や受容を示した遺物とも評価される。 (渕ノ上)ケズリ調整の土師器皿 618 は、底部切り離し後

に底部周縁をヘラケズリ調整する特徴をもつ。

この種の土師器皿は、宮崎県都城市の都之城跡主 郭部や鹿児島県霧島市の富隈城跡などで確認されて おり、島津氏の本貫地である地域で特徴的な器形と いえる。土師器皿の時期は、岩元康成氏の土師器編 年案(岩元 2009)を参考にするならば、16世紀末 ~17世紀代と位置づけられる。618の出土は、戦 国時代末期における島津氏による塩見城支配、ひい ては日向国の領国化と連動したものと評価できうる。 瓦質・土師質土器 瓦質土器には、「和泉河内型」 の羽釜(619~621)や「防長型」の鍋(625・ 626)や擂鉢(650)、「西長門型」と思しき鍋 (629)、土師質土器には「播磨型」の鍋(624)など、 15世紀後半~16世紀後半にかけて畿内・瀬戸内

これら瓦質・土師質土器は、若山浩章氏のいう「細島が畿内とをつなぐ港」(第㎞章第2節)の実相を端的に示す遺物であり、西国を中心とした国内流通システム上に細島港が基地として位置し、畿内・瀬戸内各地からの土器(商品)が海上ルートを通じて塩見城跡にも流通したものと評価される。

地域からの商品としての土器群が確認された。

中世瓦 中世瓦はその特徴から 16 世紀代に属すると考えられ (第VI章第3節)、出土分布状況から 曲輪 B・E・F・L、水の手曲輪に 16 世紀代の瓦葺きの建物が存在した可能性が高い。今回の調査区内では屋根の荷重に耐えられる礎石建物は未検出であるが、掘立柱建物跡の柱穴は堅い岩盤面に掘り込まれているので、瓦葺き建物の建築は可能であったと考えられる。ただし、瓦溜りが確認されなかったことから、総瓦葺きというよりは、限定的な瓦の使用状況が想定される。 (今塩屋)

d)「土製聖人像」(円盤状土製品)の評価

円盤状土製品(808)は、SG1-2区の造成(スロープ)面で出土した。本書では、この土製品を図像のモチーフからキリスト教関連遺物として「土製聖人像」と報告し、成形技法や使用方法等についても検討した(第VI章第4節)。この項では、さらに考察を加えて歴史的評価等を図ることとする。

(i) 図像の解釈

円盤状土製品が中世に属する遺物とするならば、この図像の人物は、背地の省略された人物頭部が表現される点から「聖母マリア」とみなされる女性聖人である可能性が高いとされる(長崎純真大学 浅野ひとみ氏御教示)。この図像は、16世紀前半頃に活躍したイタリア・ルネサンス画家のラファエッロやロットの図像を原型とした可能性があり、そのモチーフはセビリア大聖堂に描かれた『セビリアの聖母』と呼ばれる壁画に類似するとされる。

この『セビリアの聖母』と円盤形土製品を比較した場合、①図像の左右が反転する、②キリストの表現が見られない、③マリアの背面には光輪等が描かれていない、といった相違点が認められる。

従って、現時点では、円盤状土製品(女性聖人像)の図像は、「セビリアの聖母」を一つのモデルとしつつも、独自にアレンジされた聖母マリア像であると考えておきたい。

また、聖母マリア像の左右が反転する点を重視すれば、『マリア十五玄義図』との類似性も考慮される。この『マリア十五玄義図』の作画年代は慶長期(1596~1615)と比定され、前述の『セビリアの聖母』は、長崎県(1597年)や中国(17世紀初頭)で摸刻されている。このことから、円盤状土製品の図像は、16世紀末葉頃から17世紀初頭にかけて日本、そして中国でのキリスト教布教に関わるモチーフの一つであったと推察される。

(ii) 製作時期の検討

共伴遺物から SG1-2 区の造成(スロープ)面からは、「土製聖人像」に伴って約130点の陶磁器類の破片が出土した。その内訳は重量比で中世(92%)、近世(7%)、近代(1%)で、中世の陶磁器がほとんどを占める(第14表参照)。陶磁器の時期は中世では14世紀前葉~17世紀初頭、近世は1650~1780年代に位置づけられる。近代の遺物はごく小破片であるので、出土陶磁器の時期幅は、中世~近世前半の間にほぼ限定される。

このことから「土製聖人像」は、遺物組成の観点 から中世〜近世前半の間に所属すると導かれる。

図像の意匠と製作技法から 図像の原型と考えられる『セビリアの聖母』の摸刻、『マリア十五玄義図』の作画年代や日本へのキリスト教布教の観点から、「土製聖人像」の製作・入手時期は少なくとも16世紀後半以降と考えられる。しかし、中世日本における中子を用いた型押し製作技法は、現時点では類例が見当たらないようなので、製作技法的側面からの検討は困難な段階である。

歴史的背景から 塩見城の位置する日向市域には、豊後府内への南蛮航路上に位置する貿易港である細島港が所在する。また、日向国の港町に住むキリシタン(第VIII章第2節)も存在することから、中世期に交易や信者を介してキリシタン関連の文物が持ち込まれた可能性は低くはないといえる。さらに、豊後国の戦国大名である大友義鎮(宗麟)は、日向侵攻(1578年)の際、日向国をキリスト教国にする意図で宣教師を伴っていた(福島 1999)ことからも、塩見城跡周辺にキリシタン関連遺物がもたらされる環境は十分に整っていたといえる。

なお、塩見城を領有した伊東氏一族にはキリシタン武将が存在するが、その洗礼は日向国の退去(1577年)以後である。

一方、禁教令 (1614年) 以降のいわゆる「隠れキリシタン」が「土製聖人像」を所有した可能性も考慮される。しかし、近世の塩見地区は寺請制度のもとで正法寺・光厳寺・水月寺に宗門統制されており、宗門改めも厳しく実施されていた。日向地方には隠れキリシタンの伝承がない状況である。さらに、「土製聖人像」が出土した塩見城跡の南側曲輪群一帯は17世紀後半から19世紀末にかけて近世墓地化したことが明らかとなっている。よって、隠れキ

リシタンの存在は想定し難く、禁教令以後に「土製聖人像」が製作・使用された可能性は低い。キリスト教の解禁(1873年)以後に敢えて瓦質の土製品を作る必要性も低いとみなされる。

類似例との比較 塩見城跡出土の「土製聖人像」の類似例は、福岡県太宰府市観世音寺出土遺物にある(九州歴史資料館 2007)。この観世音寺例は、平面がハート形で中央に女性聖人像、上部に2つの穿孔がある。女性聖人像と穿孔の点では塩見城跡例と共通する(第192図)。

しかし、①図像の女性像が上方を向く、②穿孔の位置が異なる、③中子を用いた型押し技法による製作ではない、等の相違点もある。観世音寺例は鉱物粒が多く含まれ、土師質焼成で近世以降の土人形製品に類似しており、胎土が緻密で瓦質焼成に近い塩見城跡例とは異なると判断される。なお、観世音寺例の製作年代は表土層出土遺物のために特定は困難なようである。

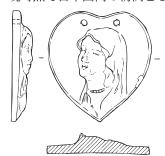
従って、観世音寺例と塩見城跡例とは、モデルとなる図像や胎土、製作技術も異なるので同一時期の製品と捉えにくいといえる。

(iii)「土製聖人像」の評価

表面中央の図像は、聖母マリアを表現したものと解釈され、土製のキリシタン遺物と評価される。この「土製聖人像」は、図像の解釈と由来、出土状況や遺跡周辺の歴史的背景から、現段階では中世末~近世初めに属すると結論づけられる。具体的には16世紀末葉から17世紀初頭までの間に製作された、あるいは持ち込まれたとみられる。

使用方法は、上部に2箇所の穿孔が存在するので、身につける「メダイ」や、壁や箱の内部に掛け垂らして崇拝の対象とする等が想定される。

「土製聖人像」は、中世日向におけるキリスト教 受容の実像を解く重要な遺物であり、中世の土製品 としては、現時点で日本国内の初例となりえる。他



第 192 図 観世音寺出土の土製品 (S=1/3)

方、ヨーロッパでもこの種の土製品は確認されておらず、世界的にも注目される遺物との評価ができうる。しかし、本来の形状や製作技法、入手経路等については不明な点は数多く、今後の検討課題として残された。 (今塩屋・田中敏・渕ノ上)

e) 鍛冶関連遺物

西側曲輪群(水の手曲輪)と南側曲輪群では鍛冶 炉及び鍛冶関連遺物が検出された。

南側曲輪群の曲輪Mで検出された土坑 (M-SC1) は鉄塊系遺物や羽口を含み、この鉄塊系遺物は鋳鉄 (鍛冶原料鉄) と分析されたので鍛冶炉と解釈される。また、土坑内出土炭化物の AMS 年代は 14世紀末~15世紀中頃の結果が得られた (第VII章)。この SC1 に隣接する SA1 埋土上面で検出された焼土層と焼土層出土の鍛冶関連遺物は、SA1 の廃絶後の鍛冶操業 (M-SC1) に伴う残滓と解釈される。

南側曲輪群内では、鍛冶炉(SC1)以外にも炉壁・鉄塊系遺物・椀形鉄滓等の鍛冶関連遺物が SG1-2・3区内やその周辺の曲輪(H・G)で多く出土した。これらの鍛冶関連遺物は、金属分析の結果、精錬鍛冶〜鍛錬鍛冶作業の途中に生成され、鍛冶原料は鋳鉄を脱炭したものと推定されている。鍛冶関連遺物には、廃鉄器の再利用または硬化処理の痕跡がある鉄塊系遺物も確認された(第VII章第5節)。

鍛冶関連遺物の分布と金属分析の結果から、南側曲輪群では曲輪H・Gと曲輪M周辺の、大きく2箇所で精錬鍛冶〜鍛錬鍛冶作業が行われたと解釈される。その作業時期は14~16世紀代となる。鍛冶作業は鍛冶工人(職人)の手によるとされるので、曲輪H・Gと曲輪Mに鍛冶工人とその工房が存在した可能性が高い。この場合、工房跡にあたる遺構は、曲輪J・Mの竪穴建物がその候補となる。さらに、曲輪Hの掘立柱建物跡とした一部(H-SB31~34)は、柱穴間距離が密なので、本来は竪穴建物と判断されるので、工房跡群とも解釈できうる。

f) 木製品

水の手曲輪では、生活用品や建築部材等の木製品が多数出土した。これらは、第 II ~ IV 期面の遺構に伴うことから 16 世紀代に帰属される。塩見城内における木材利用の様相や中世後期の日向における生活用具の組合せや土木建築技術の実態を端的に示す重要な資料と位置付けられる。

特に、生活用品においては容器類の存在が特色付

けられる。その容器類には製作技法から曲物・結物・刳物の3者が認められた。量的に多いのは桶や折敷といった曲物容器類である。木皮による綴目や木釘、ケビキ線等の製作技法の痕跡が読み取れる。結物容器は綴目のない底板(946・947)が該当すると考えられる。

刳物容器類には漆器椀(934~938)と井戸跡(SF1)の井戸枠(983)がある。漆器椀は分析結果(第四章)から、934・935・938は炭粉渋下地、936・937は漆下地という塗装工程が判明した。器厚は前者が肉厚、後者は薄手でもあるので、普及漆器と上質漆器というランク差が読み取れる。こうした漆器椀の出土は、中世日向における食器構成や食膳具のあり方、ひいては所有者の階層性を考える上で重要な資料と評価される。

さらに、木製品には漆が付着した容器も確認されている。それは漆器椀(936)や曲物の側板(973)で、漆容器として再利用されたと解釈される。わずか2点だが、紡織具の一種である木製糸巻(976)や桛(977)の存在と合わせて城域内で完結する自給的な生産活動の一端を示す遺物と評価される。このことは、塩見城跡が臨時的(戦時)ではなく恒常的に機能した城郭と意義付けることができる。

井戸枠(983)は、その上下端部の構造が腐朽しているので井戸枠専用に製作されたのか、他器種の転用なのか不明である。仮に転用品とするならば大型の桶や樽、太鼓等と考えられる。

g) 石製品

五輪塔は、空風輪1、火輪35、地輪72、水輪6、 宝篋印塔の笠1や板碑の頭身6の合計121個が出土した。そのうち115個が水の手曲輪のSS1・2、SE1・2及びSF1の石積や側壁材に利用されていた。 水の手曲輪内には、少なくとも地輪と宝篋印塔の計73基の五輪塔や石塔が墓地から持ち運ばれたことになる。そのうち、地輪が最も多く転用材に用いられるが、空風輪は皆無である。そのまま建築資材として利用可能で、再加工の必要がない地輪が好まれた結果と考えられる。

これら五輪塔の転用は、城主の交代による城破りによる城郭の破却や城郭の再構成に伴う五輪塔群の破壊によるとも解釈されるが、単に手頃で積み易く耐久性のある資材に過ぎないかもしれない。

一方、茶臼や挽臼は打ち割られて複数に分割され

たことが遺物の残存状況から読み取れた。丁寧に周縁を打ち欠かれるものもあり(1150)、臼の使用停止時点(廃棄時)には、打割・破砕行為といったある種の作法が存在したと解釈される。それは臼が単なる家財道具ではなく、神聖視されていたためと考えられる。また、堀切 A3 の埋め戻しや曲輪 E2b の再造成時に臼を据え置く場合(1150・1151)も確認されているので、打割・破砕後には地鎮の意味も付与されたと考えられる。

h) 茶の湯文化と遺物

今回の調査では、褐釉陶器・瀬戸美濃焼の天目 茶碗(300~309・478~480)や茶臼(1142~ 1151)等、茶の湯文化を象徴する遺物が出土した。 さらに、香炉(482)を聞香炉、瓦質土器の火鉢 (658・662)を風炉とするならば、これらも「茶の湯」 文化に関連する遺物といえる。

塩見城跡における茶の湯文化は、天目茶碗の編年 観(藤沢 2008)や茶臼の形態的特徴(桐山 1996)から15世紀後葉~末葉には始まり、16世紀末葉まで存続したといえる。茶の湯は、武将の文化的教養や社会的地位を示すステータスとして嗜まれたとされ、中世日向においても『上井覚兼日記』にその記述が認められる。今回の発掘調査はその実態を示す具体的な成果といえる。

(2) 遺構とその特徴

a)1号石積遺構(SS1)

SS1 の構築工法・技術と意義 SS1 は、「石積み壁体」(石積み列)を数列にわたって 1 号堀側に向けて前進的に築きあげ、その間に盛土を施す作業を繰り返す工法で構築された石積遺構である。

SS1 にこうした構築工法が用いられたのは、SS1 が水の手曲輪を外部から遮閉し、塁線の補強や曲輪を構成する造成土の崩壊を防ぐ堅牢性を確保する機能を担わされたためと考えられる。さらに、SS1 の最終段階(ii期)において、新たな土塁と堀を追加して虎口構造に改修される。大手としての機能の付与のみならず、視覚的威圧性による城主(領主)権力の誇示も意味したと解釈される。

石積み工法の評価 塩見城跡 SS1 の内部で確認 された「石積み壁体」の類似例には、群馬県太田金山城跡の「裏石積み」(宮田 2003) や北九州市小倉城跡の石垣(石積)等がある。「石積み壁体」や「裏

石積み」による構築工法は、東京都八王子城跡のように石積みが限界高に達すると、その奥手からセットバックした位置から再び積み上げていく工法(宮武 2000)とは対比的ともいえる。

SS1の石積みは 1.5~2 m程度が限界高で、ほぼ垂直に積まれる特徴を有する。これは近世城郭の特徴である建物の荷重に耐えられる「高石垣」の構築工法・技術とは異なる。その脈絡においては、SS1の存在は「石垣」の導入、つまり織豊期城郭が全国的波及する以前の地域的様相かつ、中世日向における土木技術の到達点を示すと評価される。

中世期の石積遺構は、宮崎市清武城跡や都城市都 之城跡(主郭部・中ノ城跡・池ノ上城跡)などに類 例がある。しかし、塩見城跡のSS1はその追随を 許さない突出した規模と構造的特徴を有し、石積部 と堀・土塁や排水溝を巧みに融合させた構造物とし ては初例となる。その構築工法は、SS2における胴 木構造も含めて、中世日向における土木技術の実態 解明につながる新たな知見をもたらした。SS1・2と 清武城跡や都之城跡における石積遺構の技術的相互 の関連性、つまり石積技法や構築工法といった技術 的系譜関係やその背景については今後の検討課題と しておきたい。

b)1号井戸跡(SF1)

水の手曲輪の井戸跡(SF1)の検出は、中世山城の機能維持に不可欠な「水」の確保のあり方や「給水と排水のメカニズム」(若山1999)の具体例を示す重要な成果が得られた。この井戸には台形(SF1-b期)と方形(SF1-c期)の「洗い場」に係る石敷(畳)が付設されていた。

この種の類似例は、中世城郭においては宮崎県内では都之城跡の中之城跡 (15世紀中葉~16世紀末葉)があり、県外では佐賀県名護屋城の山里丸 (16世紀末葉)、福井県福井市一乗谷朝倉氏館跡 (16世紀第3四半期)等がある。石敷を伴う井戸跡は16世紀後半代には出現した井戸の一類型といえるが、この種の井戸跡は全国的にも数少ない状況である。特に、塩見城跡の SF1-c 期の石敷形態は、初例に近いものと考えられる。

また、石敷を伴う井戸には排水路が伴う場合が多いのも特徴の一つであり、塩見城跡のSF1(b・c 期)においては、石敷の空間での作業と使用後の排水という一連のサイクルが読み取れる。 (今塩屋)

(3) 西側・南側曲輪群における遺構の変遷変遷過程と画期 今回の発掘調査で検出された遺構の主体は掘立柱建物跡である。約2,800基を数える柱穴から、掘立柱建物跡194棟が復元された。西側・南側曲輪群内では、掘立柱建物跡の主軸方向が同一方向にまとまる複数のグループ(群)が抽出できた。曲輪A3・F1・H1等では、掘立柱建物跡の「群」が主軸方向を変えながら連続的に建て替わる変遷過程を読み取れた(第Ⅲ~Ⅳ章)。

さらに、道路状遺構($SG1 \sim 2$)の改修・改変過程($SGI \sim II$) や水の手曲輪における計 5 面に及ぶ曲輪面の形成過程 (第 $I \sim$ 第V期面)も把握でき、堀群の掘削や改修等の時期もその大要を捉えられた。

これらの調査成果をもとに、西側・南側曲輪群における遺構の変遷を検討し、その画期を設定した(第69表)。なお、所属時期の捉えにくい掘立柱建物跡(群)の場合は、建物群の分布状況や建物主軸の方向性の相互比較等からその時期を推定している。

検討の結果、大きく8つの画期(塩見城 | ~VIII期)に概括される(第69表、第193~194図)。各画期における遺構のあり方について記すこととする。

a) 塩見城 | 期(11世紀後葉~12世紀末)

曲輪 A3・E2・F1 では、11 世紀後葉~12 世紀末葉に位置づけられる景徳鎮系の白磁碗や皿が出土した。塩見城跡内の中世期における最古段階の遺物群である(第6・14・68 表・第120~122 図)。しかし、当該期の遺構は確認できなかった。貿易陶磁器である白磁を持ちえた階層は、在地開発領主等の有力者層と想定されるので、この時期を中世城館成立の前段階とみて塩見城 I 期としておきたい。「土持太郎信綱」の名が『建久図田帳』に塩見35 町の地頭として登場する時期(第㎞章第2節)と対応するものと考えられる。

b)塩見城II期(13世紀後葉~14世紀中葉)

今回の調査区内においては、塩見城 I 期と II 期の間にあたる 13 世紀初頭~中葉の段階は、西側・南側曲輪群とも遺物や遺構の皆無な空白期となる。塩見城 II 期以降は遺構や遺物の存在が確実となるが、遺構(掘立柱建物跡)の時期がより明確に把握可能なのは 14 世紀後葉 (塩見城Ⅲ期)以降となるので、空白期と塩見城Ⅲ期の間である 13 世紀後葉~14

世紀中葉頃の時期を暫定的に塩見城Ⅱ期とする。

出土遺物の年代やAMS年代測定結果等から塩見城Ⅱ期に存在する可能性がある掘立柱建物跡は、曲輪A3の掘立柱建物跡①群や曲輪B3の⑤群、B4のSB1・2(第192図)がある。曲輪D~L群の柱穴では当該期の遺物が出土しており、掘立柱建物跡の存在が想定される。また、主郭部では13世紀代より遺物の存在が確認される(『日向市史』2010)。さらに、水の手曲輪の窪地状遺構では14世紀前半代より土器・陶磁器等が包含されるようになる。

この塩見城Ⅱ期の時期には、土持氏領縣(延岡)の拠点城郭の一つである井上城の築城(14世紀前半代以降)が想定されており(甲斐1999)、塩見城も中世山城として成立したものと考えられる。

c)塩見城Ⅲ期(14世紀後半~15世紀前半)

西側曲輪群の曲輪 A・B 群及び南側曲輪群の曲輪 D・F・H・J・M (群)において掘立柱建物跡や竪穴建物跡の存在が認められる。塩見城Ⅲ期は、今回の調査区内で遺構の存在とその所属時期がより確実性をもって把握できる段階とした。

西側曲輪群 曲輪 A3・B3・B4 では、塩見城Ⅲ期までには曲輪面として造成がなされ、掘立柱建物跡群が成立したとみられる。曲輪 B3 では柵列で囲まれた内部に身舎面積 10㎡と 20㎡の掘立柱建物跡が並列する関係で、曲輪 A3 では 5~7㎡の小型の建物跡が単独で建てられる。これらの掘立柱建物跡は、その重複関係から 2 小期程度に細分される。

なお、曲輪 C は曲輪面造成の時期を示す遺物に乏しいが、他の曲輪群と比べて起伏に富み、その堀切や竪堀の造作が雑な特徴を示すことから、塩見城Ⅲ期までには形成されたと考えておきたい。

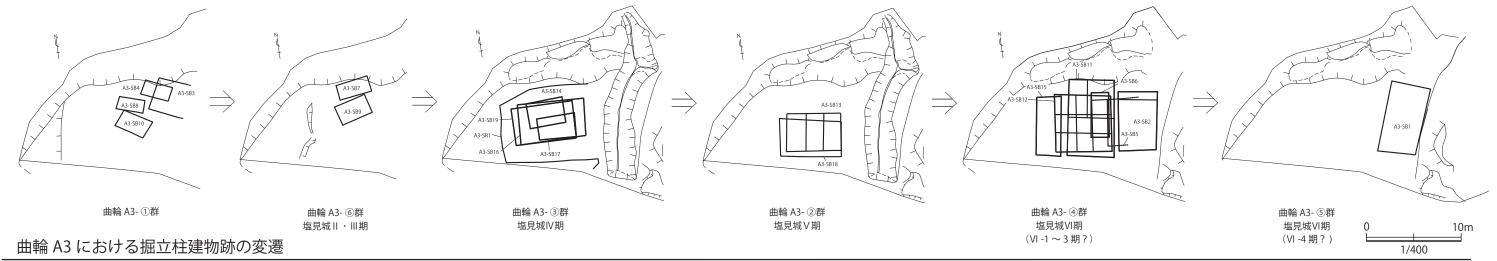
南側曲輪群 遺構主軸方向は尾根線上に平行しており、道路状遺構の掘削以前の地形に沿った遺構配置のあり方を示す。曲輪Fでは、二面庇で間仕切りを持ち、身舎面積は約40㎡を測る掘立柱建物跡(F-SB17)が出現する。曲輪F内では、主屋的建物(SB17)と身舎面積(5~6㎡)の狭くて構造の簡単な付属棟的な建物(SB25・29)の建物配置となり、曲輪内が屋敷地(居住地)として利用されたことが読み取れる。さらに、曲輪J・M群の竪穴建物跡と鉄滓を含む土坑(SC1)は、鍛冶を初めとした工房群が曲輪内に内包されていたことを示している。

第68表 陶磁器からみた曲輪の消長

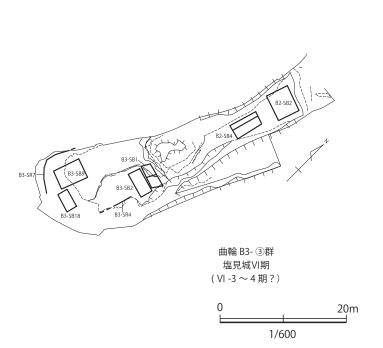
	画	期	塩見:	城I期	空日	白期	ţ	塩見城Ⅱ其	FI	ţ	蒀見城 Ⅲ其	Я	塩見坊	或IV期	塩見塩	成V期	塩見城VI期			VII其
曲輪	名	遺物の年代	11c後葉	12c後葉 ~末葉	13c初頭 ~前葉	13c中葉	13c後葉 ~末葉	14c初頭 ~前葉	14c中葉	14c後葉 ~末葉	15c初頭	15c前葉	15c中葉	15c後葉 ~末葉	16c初頭	16c前葉	16c中葉	16c後葉	16c末葉	17c初頭
主郭部	主郭				\leftarrow															>
		A1									:::::::::::::::::::::::::::::::::::::::									
	曲輪A	A2							-::::::											
	штнил	A3							::::::::											
		A4																	: : : : : :	
西側		B1																		
曲	曲輪B	B2																		1
輪群	四州田	B3																		
ni.		B4																		
	曲輪C																			
	水の手																			
	堀群																			
	曲輪D	D							:::::::											
Ľ	四年出し	帯曲輪D2																		
	曲輪目	E1																		
	III THE	E2															:::::::	-:-:-:-	-:-:-:-:	
		F3																		:::::
	曲輪F	F2																		
		F1		-:-:-:-:					:-:-:-::										:::::::	
	曲輪G						-:-:-:-		::::::::	-:-:-:-:-							.:.::::		::::::::	
_		西側帯曲輪群																		
南側	曲輪H	H1																		
曲	шти	H2																		1:::::
輪群		H3																	-:-:-:	
ы.	曲輪																			
	曲輪」	J1																		
	тптни	J2					.:										1		:::::::	
	曲輪K									.::::::										
	曲輪L																			
	曲輪M								:::::::								<u> </u>			
	-W-06-11)	SG1																		
	道路状 遺構群	SG2														1	1::::::::	.:.::::	-:-:-:-:	
		SG3														1::::::	1-1-1-1-1		:::::::	

	09 칸	ς λ	見柄り後	でと回	廾.	j									
画規	Я	年代	A 394 /	#h#A # 2\		西側曲輪群 B・C 群		1 40=		堀群	南側曲輪群				
# E # I #0	1	11C後~		曲輪 A3)				水の手			(+)				
塩見城 期		12C末		(-)		(-)		(-)		(-)	(+)				
空白期			,	—)		(-)		(-)							
塩見城Ⅱ期	1	13C後~ 14C中	,	Ì		. ,			Г		曲輪D~Lに掘立柱建物跡(SB)存在か?				
			曲輪A3(SB①群)		14C中 ~15c 初	曲輪B4(SB1・2) (AMS年代: AD1290~1370年 /1380~1410年)									
塩見城Ⅲ期	1	14C後~ 15C前	曲輪A3(SB⑥群)?		15CW	曲輪B3(SB③群)?	14C中〜 15C前	第 期面 (AMS年代: AD1450~1530年	14C前 ~15C 末		曲輪D群 (SB1~4) 曲輪F1 (SB⑤群 曲輪H (SB⑤) 曲輪J (SA1?)				
塩見城Ⅳ期]	15c中 ~末	↓ ↓ 曲輪A3(SB③群)	盟 堀切A3の掘削 (AMS年代: AD1400~1440年)	15C	⇒ 曲輪B3(SB①群)? 帯曲輪B3・曲輪B4 の埋め戻し?		/1550~1640年)	*	堀切C1·B4の 掘削?		SG I 期 ^{歯路状遺構の} 配削			
塩見城V期	(1期)	16c初 ~前	曲輪A3(SB②群)		中~ 16C 前	曲輪B1(SB1)? 曲輪B3(SB②群)?	15C中~ 16C前	第 期面 (AMS年代: AD1490~1650年)	160初	竪堀C1·B4、 横堀の掘削?	曲輪F1 (SB①・②群) = 曲輪K (SB1・2) sg 曲輪F3 (SB31~34:盛土造成) 曲輪M (SB①群) ***	SGII期 G1-2区の kris			
	(2期)					\ \		第Ⅲ期面(古段階)	160前		曲輪H1(SB③群)				
	(1期)			\ \ \ \		曲輪B2(SB1・4)?		第Ⅲ期面(新段階)	160中		₩				
	(2期)		曲輪A3(SB④群)	堀切A3の埋め 戻し (16c中~後)		曲輪B3(SB④群)? □		第IV期面	160後	堀切·竪堀·	曲輪F1 (SB③群) 曲輪F2 (SB30)				
塩見城VI期	(3a 期)	16C中~ 17C初	帯曲輪A3b AMS年代⇒ 1期: AD1510~1600年/ 1610~1650年) 2期: AD1470~1640年)		16C 中~ 17C 初頭	V (曲輪B2(SB2·3)?	16C中 ~17C 初頭	第V期面[i期] SB①群	160束	横堀の再掘削 (16 c 中〜後)	曲輪E1 (SB①群) 曲輪E2 (SB7:盛土造成) 曲輪E2 (SB1-3:成土造成)	SGIII期 SGI-3区 路面の改修			
	(3b期)		\prod			曲輪B3(SB③群)?		SB②群	~17C 初頭		曲輪日(SB31~34) 曲輪月(SB⑤群) 曲輪M(SB③•④群)				
	(4期)		曲輪A3(SB⑤群)					第V期面[ii期] SB③群			SG1-3区(SB1)				
塩見城VII期	-	17C初	(-)	(-)		(-)		SS1の破壊?	17C 初	(-)	(-)	GIV期 石積道構に よる封鎖			
空白期															
塩見城VIII期	塩見城VIII期 1		(-)	(-)		(-)		(-)		(-)	曲輪H1 (SB①·⑥群)? 曲輪J (SB①群)? 曲輪M(SB3·SX1)				
		•	+ n±8844 E/G+ ±19	リ ブハたい											

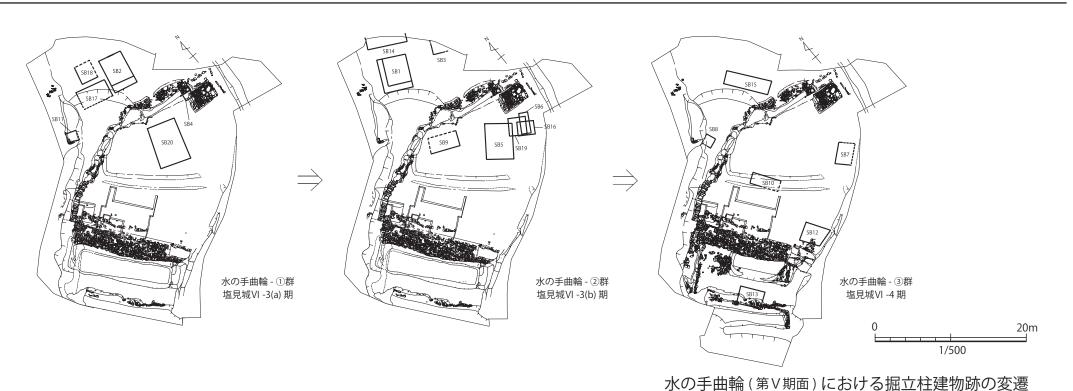
※・表内の縦の長さは必ずしも時間的長短を表現していない。 ・白抜きの矢印は遺構(堀立柱建物群等)の変遷を、網掛けの矢印は遺構(堀切等)の存続幅を示している。 ・(+)は遺構が存在する可能性があるもの、(-)はその可能性が低いものを示す。



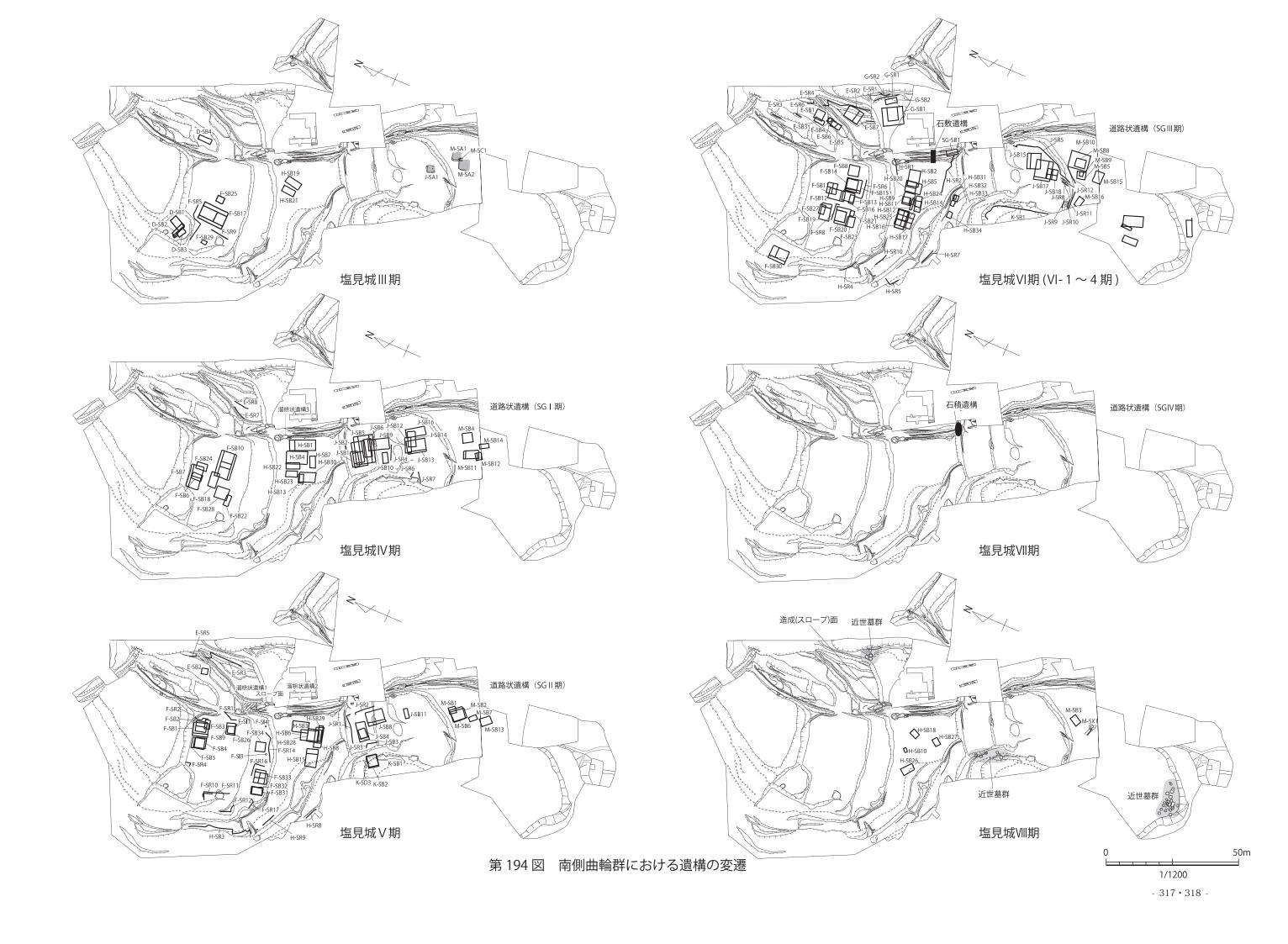
左下曲輪 B3- ③群へ 曲輪 B3- ⑤群 + 曲輪 B4 曲輪 B3- ①群 曲輪 B3- ②群 + 曲輪 B1 曲輪 B3- ④群 + 曲輪 B2 塩見城Ⅱ・Ⅲ期 (塩見城VI -1 ~ 2 期?) 塩見城IV期 塩見城V期 曲輪 B3 における掘立柱建物跡の変遷 (1) 1/600



曲輪 B3 における掘立柱建物跡の変遷 (2)



第193図 西側曲輪群における遺構の変遷 (曲輪 A3・曲輪 B 群・水の手曲輪)



塩見城間期の特質 丘陵尾根を造成した曲輪面上に掘立柱建物跡等が立地するのが確認される画期であり、F-SB17のような主屋的建物が出現する時期である。従って、塩見城Ⅲ期は、地域の政治的・軍事的拠点としての性格がより明確化した時期と理解される。15世紀中葉段階までは土持氏が塩見城を支配していたので(第四章第2節)、土持氏の主体的関与があったものといえる。

d)塩見城Ⅳ期(15世紀中頃~末)

塩見城IV期は、西側曲輪群の堀切 A3 の掘削と南側曲輪群では縦横に延びる道路状遺構 (SG1 ~ 3) で方形に区画された段状の曲輪群が形成される段階でもある。西側・南側曲輪群の掘立柱建物跡群は、その重複関係から 2~3 小期に細分される。

西側曲輪群 曲輪 A3 では、狭い曲輪面の柵列 (SR1) に囲繞された空間に $25 \sim 30$ ㎡大と 10 ㎡大 の掘立柱建物跡が建てられている。一方、曲輪 B3 では $5 \sim 10$ ㎡程度の小型建物が建てられる程度である。曲輪 B 群の西側裾部にあたる堀切 $C1 \cdot B4$ は、この塩見城IV期段階には掘削されたと考えられ、曲輪 B4 の新たな曲輪面造成も堀切 B4 の掘削と連動した土木事業であったと考えられる。

南側曲輪群 調査区全域に掘立柱建物跡群が展開する。曲輪Fの掘立柱建物跡群は塩見城Ⅲ期とは異なり、その建物主軸は等高線に直交する方向で、梁行方向を曲輪東縁中央にある道路状遺構との出入り口部に向けた建物配置をとる。一方、曲輪H以南の掘立柱建物跡群は道路状遺構の主軸方向に梁行・桁行側を揃え、整然とした建物配置をとる。このように南側曲輪群では道路状遺構の開通が建物主軸や配置を規定しており、その計画性が読み取れる。道路状遺構は大手口から主郭部に至る城道という機能のみならず、城域の区分や曲輪の役割分担を意図したものと考えられる。

また、南側曲輪群における掘立柱建物跡の規模(身舎面積)は、40 ㎡級(F-SB10、H-SB1・4、J-SB5)、30 ㎡級(F-SB7、J-SB2・9・13)、20 ㎡級(F-SB28、J-SB6・16、H-SB30)に $15\sim17$ ㎡大と $6\sim10$ ㎡大と階梯的なあり方である。40 ㎡級規模の掘立柱建物跡は庇や間仕切りを有し、曲輪F・J・Hに $1\sim2$ 棟ずつ配置されることから、各曲輪の主屋的建物と理解される。この主屋的建物と規模のより小さい掘

立柱建物跡群で構成される曲輪の集合体が塩見城IV 期段階の南側曲輪群の特徴である。決して広大では ない曲輪面に掘立柱建物跡が林立する様相は、曲輪 面が軍事・防御的機能よりも平時的な屋敷地(居住 地)の性格を強く有していたと理解される。

さらに、掘立柱建物跡の建物面積が階梯的に分離 されることは、掘立柱建物跡そのものの役割や機能 の分化、居住者の身分や経済力を反映した構造性が 表徴されたものと解釈される。

塩見城IV期の特質 塩見城域内の整備拡充という明確な意図の下に造作・普請が進む時期で、臨時的な山城ではなく、主郭部と麓に広がる屋敷・建物群が一体化して恒常的に維持機能する城郭(城館)の性格が確立した画期と捉えられる。さらに、日向市域の支配権が土持氏から伊東氏に移る転換期にあたり(第㎞章第2節)、地域支配権の交代を契機として、「日向三城」の一つとして重要拠点化が進む段階と理解される。東側曲輪群内に現存する水月寺に光厳寺(1457年創建)が存在したという伝承(第 I 章第4節)が事実ならば、中世寺院を内包した中世山城ともいえる。

e)塩見城V期(16世紀初頭~前葉)

塩見城IV期とVI期の間に位置する段階を塩見城 V期とする。西側・南側曲輪群では、前段階に引き 続いて掘立柱建物跡が展開する。その重複関係から 2~3小期に細分される。

西側曲輪群 曲輪 A3 では、塩見城Ⅲ期に引き続き 25㎡前後の掘立柱建物跡が建てられる。曲輪 B3 では、柵列に囲まれた内部に 5~8㎡と 10~15㎡程度の掘立柱建物跡が建てられる。また、曲輪 B群の西側裾部にあたる堀群 (竪堀 C1・B4 と横堀) は、塩見城 VI 期段階に箱堀状に再掘削されることから、塩見城 V段階には存在したものと考えておきたい。この竪堀 C1 の底面は階段状に削り出されて、曲輪相互を結ぶ通路の性格を有する。この竪堀 C1 の掘削に伴い、堀切 C1 は大きく形状を改変される。水の手曲輪では窪地状遺構内に石積遺構 (SS2) や木杭列が構築され (塩見城 V-1 期)、護岸面の改修 (同 V-2 期)が施される。水に関する維持管理や防御性の向上といった積極的な関与が図られる。

南側曲輪群 道路状遺構 1 (SG1-2 区) の階段状の 路面がスロープ面へと改修され、曲輪 F3 が造成さ れて曲輪面の拡張がなされる。掘立柱建物跡は塩見城IV期と同様に調査区全体に展開する。

各曲輪の掘立柱建物跡の建物主軸は、塩見城IV期ほど道路状遺構の主軸に規制されず、むしろ略方形に区画された曲輪面の主軸方向に沿う。このためか、塩見城IV期では曲輪H以南の掘立柱建物跡の建物主軸は揃えられるのに対し、塩見城IV期では曲輪E・F・Hの群と曲輪J・Mの2つのグループにわかれる。それぞれのグループの掘立柱建物跡は整然とした建物配置をとる。これら掘立柱建物跡群は重複関係からさらに2小期に細分される。身舎面積は、40㎡大の掘立柱建物跡がなくなり、30㎡大(H-SB8)が最大面積となる。次いで20~25㎡(F-SB1、H-SB6、SB15・28、J-SB4・8、M-SB2・6)と続くが、10~20㎡大の建物が主体となる。

曲輪Fは、曲輪の外縁に沿って梁行と桁行の長さが近しい正方形プランの建物跡が立ち並ぶ特徴を持つ。居宅や兵舎というより作業小屋や倉庫といった性格の掘立柱建物跡と考えられる。反対に曲輪Jでは、方形に囲まれた柵列内にL字形配置をとる主屋的建物と付属棟の建物群(J-SB3・4・8)が認められる。柵列の道路状遺構2・3の結節部側は開放されて出入り口となる。

さらに、この曲輪」の南側は、掘立柱建物跡の疎な空間が広がり、曲輪Fの中心部も空閑地となる。これらの空閑地は、広場や作業場といった様々な場面に用いられる「場」であったと解釈される。

塩見城跡における縄張りの最終形態となる時期

f) 塩見城VI期(16 世紀中葉~ 17 世紀初)

である。塩見城VI期は、曲輪構造の改変や防御的遺構の構築といった、軍事機能の強化が明確になる。 西側曲輪群 曲輪 A3 では、堀切 A3 が埋め立てられ、その上に掘立柱建物跡群が展開する(塩見城VI-1~4期)。建物群の主軸方向は南北方向となるのが特徴的で、総柱建物(A3-SB12)を含む30~40㎡の規模の大きい建物が配置される。建物群の重複関係や配置関係から3~4小期に細分される。この堀切 A3 の埋め立ては、可住地の拡大のみならず、堀底の雨水が流れ下る位置にあたる井戸跡(SF1)の構築と連動したものといえる。また、曲輪B2の掘立柱建物跡(B2-SB1~4)は、塩見城V期ないしVI期段階に位置づけられる。さらに、曲輪B群

の西側に沿う堀群 (竪堀 C1・B4 と横堀) では、塩見城 VI 期段階に断面箱堀形へと再掘削されたと考えられる。堀切 B4 も薬研堀状から箱堀状に再掘削されるので、大掛かりな改修が堀群全体に施されたものと解釈できる(第 34・35 図)。

水の手曲輪 第Ⅲ期面の新段階(塩見城Ⅵ-1期)、 第Ⅳ期面(同Ⅵ-2期)、第Ⅴ期面(同Ⅵ-3・4期) と曲輪面の変遷が追える。塩見城Ⅵ-3期は第V面 の石積遺構(SS1)の改築前、塩見城Ⅵ-4期はSS1 の改修後の段階とした。塩見城Ⅵ-3期の掘立柱建 物跡群は2小期(3a・3b期)に分かれる。

塩見城Ⅵ-1期(第Ⅲ期面新段階)において井戸とその排水施設が設置され、「井戸曲輪」としての性格が顕在化し、塩見城Ⅵ-3期(第Ⅴ期面 i 期)で防御的機能の強化と可住地の確保が図られたといえる。塩見Ⅵ-4期(第Ⅴ期面 ii 期)では、SS1に虎口構造が付設されて、主郭部に至る新たな城道が成立し、閉鎖された空間から開かれた空間へと性格の転換が図られる。この虎口構造は、鏡柱を持つSB12と礎石を用いた掛け作りのSB13という2箇所の門状遺構と柵列が組み合って堅牢性を高めるので、SS1が大手口の一つとなったと考えられる。

掘立柱建物跡は、各小期[塩見城VI - 3 (a)・(b)、-4] とも整然とした配置関係にある。塩見城VI - 3 期の建物主軸は南北方向を基調とするが、VI - 4 期では SS1 の長軸方向に揃う。これらの身舎面積は 20㎡、VI - 1 の間、 3 ~ 5 ㎡と階級的に分離される。

南側曲輪群 塩見城V期と同様に調査区全体に掘立柱建物跡が展開し、曲輪E・Gは造成されて平坦面が拡大する。掘立柱建物跡の建物主軸は、曲輪面の主軸方向に揃い、整然とした並びとなる。これら掘立柱建物跡群は重複関係からさらに2~3小期に細分される。また曲輪F・Hでは東西方向に列状に建物が並び立つ状況となる。調査区内の東西端では、物見櫓的機能のある掘立柱建物跡(E-SB7、F-SB30)が建てられたようである。道路状遺構1(SG1)の南面付近(曲輪Jの北半部)は、掘立柱建物跡のない空閑地と化す。

身舎面積は、 $35 \sim 40$ ㎡大の掘立柱建物跡が再び認められる (H-SB17、J-SB17、M-SB10)。次いで $21 \sim 25$ ㎡大 (F-SB27、H-SB2 \cdot 5 \cdot 16、J-SB15) の順となるが、 $10 \sim 20$ ㎡大の建物跡が主体的となる。 建物の規格は、梁行と桁行の長さが近しい平面方形

の建物跡が多く、曲輪F・Hに集中する。

一方、道路状遺構 1 (SG1-3 区) に改修・改変が加えられる。曲輪Hと曲輪Gを直接往来可能とする石敷遺構が設置され、曲輪面道路状遺構の南端には掘立柱建物跡 (SG-SB1) が構築される。SG-SB1 は、その建物構造と南側 (曲輪 J1) が空閑地となるので、櫓状の城戸(門)であったと位置づけられる。

このように南側曲輪群は、物見櫓的な掘立柱建物 跡や城戸(門)が構築され、軍事的・防御的機能が 強くなる。城戸(門)や石敷遺構の存在は、道路状 遺構の機能の減衰と各曲輪面の等質的な段階から機 能の分化や性格の変化が進んだ表れといえる。

城主との関係 塩見城VI期の段階は、塩見城の城主が伊東氏(右松四郎左衛門尉)、島津氏(吉利忠澄)、さらに高橋氏へと交代する(第VIII章第2節)。しかし、これら三代の城主と今回の調査成果との対応関係は、明らかにし得ない部分が多い。

ただし、水の手曲輪の第IV期面(塩見城VI-2期)と第V期面(同VI-3・4期)の間にある造成土中の土師器皿(618)が島津氏の本貫地に特有な製作技法を有する点と第V期面出土の香炉(482)の年代観(第VI章)を考慮すると、第V期面(塩見城VI-3期)時は島津氏の領有期であった可能性が高い。その場合、SS1を虎口構造に改修(塩見城VI-4期)時は島津氏または高橋氏の領有期となる。よって、第IV期面(塩見城VI-2期)までは伊東氏の領有期と考えておきたい。なお、SS1の虎口構造と主郭部土塁の虎口部の関連性等については、今後の検討課題となる。

g) 塩見城VII期(17世紀初)

今回の調査範囲内では 17世紀前半代の遺構や遺物が皆無に近く、曲輪面上の営為が唐突に終了した状況といえる。さらに、水の手曲輪の石積遺構(SS1)の崩壊と南側曲輪群 SG1-3 区の石積遺構の構築もこの時期の特徴である。SS1 では中央部の石積みと背面の盛土層が大きく損なわれ、1号堀周辺に石材が散乱する状況であり、自壊というよりは人為的な破壊行為によるものと解釈できる。同じく SG1-3区では石積遺構で道路状遺構の封鎖がなされていた。これらの破壊や封鎖行為を高橋氏の手による「城破り」の痕跡と読み取るならば、17世紀初頭頃を塩見城が廃絶(城)に至った画期(塩見城VII期)と捉えることができる。

h)塩見城VIII期(17世紀後半~19世紀末)

塩見城廃絶(城)後の土地利用が近世墓地や耕作 地等へ変化する画期である。17世紀前半代の遺物 の僅少さは、人間活動の希薄さの反映を意味するの で、塩見城跡の廃絶後は、一定期間は、城地として 保護管理または禁忌地とされていたと考えられる。

近世墓地の形成開始は、17世紀後半頃で19世紀末まで長期間造営が続けられる。古記録類や中山遺跡SX19出土の錫杖は、修験道活動の場の存在を示唆するが、発掘成果からは読み取れない。

掘立柱建物跡は数棟程度にとどまり、かつ身舎面積は6㎡と規模も小さいので居宅よりは耕作に伴う小屋的な性格と考えられる。また、曲輪面は耕地利用の際に造成等(第111図)の改変を受けるが、曲輪面の区画は基本的にそのまま地割に踏襲されて現在に至っている。(今塩屋・川俣・田中達・田中敏)

第4節 結び

a)発掘成果からみた塩見城跡の構造

頭における塩見城跡の歴史の一端を明らかにした。 特に、南側曲輪群の調査では、方形区画の曲輪(屋 敷地)群と曲輪群を貫く道路状遺構(城道)といっ た15世紀中葉段階に導入された計画的な築城プラ ンが判明した。各曲輪(屋敷地)内の身舎面積が大 きい主屋的建物を武士階級の居宅とするならば、主 郭は城主(領主)、曲輪(屋敷地)群を家臣団の居 住域と捉えられる。宮崎市宮崎城の例ではあるが、 16世紀末葉の『上井覚兼日記』では、城内の城主 館と有力家臣の屋敷の記載が残る。

今回の発掘調査では、13世紀後葉~17世紀初

従って、南側曲輪群内の各曲輪は「塩見衆」に代表される領主を補佐する有力家臣や在地の武士集団の屋敷地であったと解釈される。屋敷(居宅)に付属棟、隷属的な階級の住居や戦闘に備える兵舎(陣屋)、食糧・武器等を常備備蓄する各種の倉庫(方形・正方形)プランの掘立柱建物及び工房と思しき竪穴建物等が配置され、多目的な広場も備えたのが、南側曲輪群の姿であったと復元できる。

この南側曲輪群に特徴的な様相は、平時の館と山城の組合せの成立と軍事機能の強化と政庁機能等の一体化や「城下町の凝集」(千田 2000)にあたるといえる。西側曲輪群は、軍事機能の側面がより強化した構造性が読み取れる。

15世紀後半代以降の塩見城跡は、円環状に主郭周辺を取り巻く堀切・横堀・竪堀と帯曲輪と幅狭い平坦面で主郭を防御する内郭と、屋敷地や中世寺院や工房等で構成される外郭が結合した二元構造であったといえる。こうした曲輪の配置形態は、痩せ尾根上に鎖状に曲輪群が有機的に結合する「丘陵立地型」(北郷1999)と独立・並立的な曲輪構造を特徴とする「九州館屋敷型」(千田2000)の折衷型のような様相と理解される。

b) 塩見城の歴史的特質

塩見城跡の歴史的特質については、若山浩章氏に御寄稿を頂いている(第2節)。詳細はそちらに譲ることとし、本項では、その歴史的特質をまとめることで結びとしたい。

塩見城跡においては、輸入・国産陶磁器類や中世 土器類など日向市域以外での生産品が多く認められ た。この背景の一つには、若山氏が指摘するように 塩見城や日知屋城が細島港に近く、海上交通の利点 があったことが挙げられる(第㎞章第2節)。

つまり、畿内・瀬戸内方面から南西諸島に至る広範囲な流通ルート上に位置する細島港で織り成す交流と交易でもたらされる物資や富を、城主(領主)層が入手できたためと考えられる。この物資や富の入手に際しては対価が必要となる。これに関しては、伊東氏の菩提寺である大光寺の造営(延文3年:1358年)に伴う資材(木材)を塩見から入手した記録(『日向市史』2010)から、中世期の塩見周辺は木材の集散地であり、加工品(板材)が対価(特産品)の一つであった可能性が高い。

従って、塩見城跡は、細島港という物資の集散地と流通拠点を掌握する経済的特性を有していたといえる。さらに、地域支配の政治的拠点や日向・延岡地域の支配権をめぐる軍事戦略的な前線基地の性格を帯びていた。その活動は城主や地域支配の状況によって多岐にわたる(第'''童第2節)。それは、塩見川と街道の要所を押さえて海と山を結ぶ情報や流通の十字路に位置する立地条件に起因していたと考えられる。このように、多面的な性格を有する塩見城は、有事の際に臨時的に備えるための「詰城」的段階から恒常的に常駐・機能する中世山城へと時代背景とともに発展をとげたのである。

(今塩屋・田中敏)

【第川章第1・3・4節参考文献】

福井県教育委員会 1979『朝倉氏遺跡発掘調査報告』 I 宮崎県教育委員会 1979「城内遺跡 (清武城跡)」『九州縦貫 自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書』(3)

北郷泰道 1991「日向の中世城館跡」『宮崎県地方史研究紀要』 第 20 輯

日向市教育委員会 1993「日知屋城跡」『日向市文化財調査報告書』

鎮西町教育委員会 1994『名護屋城跡周辺遺跡』

北九州市教育文化事業団 1997『小倉城跡』 2

神庭信幸・小島道裕・横島文夫・坂本満 1998「京都大学所蔵「マリア十五玄義図」の調査」『国立歴史民俗博物館研究報告』第76 集国立歴史民俗博物館

福島金治 1999「大友・島津氏と耳川合戦」『宮崎県の歴史』 山川出版社

宮崎県教育委員会 1999『宮崎県中近世城館緊急分布調査報告書』Ⅱ 詳説編

甲斐典昭 1999「中近世の縣 (延岡)の城郭」『宮崎県中近世城館緊急分布調査報告書』Ⅱ 詳説編 宮崎県教育委員会若山浩章 1999「中世城郭の「水の手」をめぐって」『都城地域史研究』 5

千田嘉博 2000『織豊系城郭の形成』東京大学出版会

藤木久志ら編 2001 『城破りの考古学』吉川弘文館

宮武正登 2000「検出遺構 (主に石垣)から見た原城跡」『原城発掘』新人物往来社

渡辺千尋 2001『殉教の刻印』小学館

小野正敏 2003「威信材としての貿易陶磁器と場」『戦国時代の考古学』高志書院

佐藤浩司 2003 「西国における在地産土器の生産と流通」 『戦国時代の考古学』 高志書院

宮田毅 2003「東国戦国期石垣の実像」『戦国時代の考古学』 高志書院

宮武正登 2003「九州における織豊系城郭研究 10 年の現状 と課題」『織豊城郭』第 10 号 織豊期城郭研究会

外山隆之・原田亜紀子 2004「都城市における中世掘立柱建 物跡の類型化」『宮崎考古』第 19 号 宮崎考古学会

宮崎県埋蔵文化財センター 2004「中山遺跡」『宮崎県埋蔵 文化財センター発掘調査報告書』第 93 集

坂本嘉弘 2005「中世大友城下町出土の土師質土器編年」『豊後府内』 2 大分県教育委員会

都城市史編纂委員会編 2006『都城市史』資料編考古

浅野ひとみ 2008「キリシタン時代の図像受容」『フェスタ 南蛮』発表資料 大分県教育庁埋蔵文化財センター・大分 県先哲資料館・キリスト教関連遺物研究会

九州歷史資料館編 2007『観世音寺』

宮武正登 2007「中世城郭の終焉」『海路』第5号海鳥社 岩元康成 2009「鹿児島県における12~17世紀の土師器」 『南の縄文・地域文化論考 新東晃一代表還暦記念論文集』 南九州縄文研究会

日向市編 2010『日向市史』資料編

都城市教育委員会 2010「池之上城跡」『都城市文化財調査報告書』第 99 集

大石一久 2011「日野江城跡階段遺構出土の転用石塔について」 「日野江城跡 総集編 I 」『南島原市文化財調査報告書』 第6集 南島原市教育委員会

都城市教育委員会 2011「永田藤束遺跡」『都城市文化財調 查報告書』第 102 集

附編 池ノ下遺跡の調査とその成果

ここでは、平成17・18年度に実施した日向市池ノ下遺跡における発掘調査における成果を報告する。

1 調査の概要

立地と環境 池ノ下遺跡は、日向市大字塩見字権現原 山添に所在する。塩見川右岸の比良山の東山麓に広がる 海岸段丘上に立地し、標高は最高所で37mを測る。

調査の経緯と組織 平成17年11月14日から平成18年2月20日に第1次調査を行い、平成18年5月22日から同8月2日まで第2次調査を行った。

調査の組織は以下のとおりである。

【調査主体】宮崎県教育委員会

宮崎県埋蔵文化財センター

所長 宮園 淳一(平成17年度)

清野 勉 (平成18年度)

副所長 加藤 悟朗(平成18年度)

副所長兼調査第二課長

岩永 哲夫 (平成 17~18 年度)

総務課長 宮越 尊(平成17~18年度)

主幹兼総務係長 石川 恵史(平成17年度)

主幹兼総務担当リーダー 高山 正信(平成18年度)

調査第一課長 高山 富雄(平成17~18年度)

主幹兼調査第二係長・担当リーダー

菅付 和樹 (平成 17~18年度)

(調査・報告書担当)

調査第一課調査第二担当

主査 土屋 雄毅 (平成18年度)

同 主事 三品 典生 (平成17~18年度)

2 調査の成果

調査の経過と基本層序 池ノ下遺跡の調査は、第1次(平成17年度)と第2次(同18年度)にわたって、調査区A(1,200㎡)とその北側斜面の調査区B(100㎡)および南側の水田部分の調査区C(24㎡)の3地点を対象とした。遺物はトータルステーションによる記録後に取り上げた。

調査の手順は、重機による表土除去の後、第Ⅲ層上面で遺構検出を行った後、遺物包含層である第V層を中心に包含層掘削を行った。調査区Aでは小規模な山塊の崩落が頻繁に起きたことが土層断面から読み取れ、北側ではその影響からか、層の堆積が良好でなかった。

遺構は、第Ⅲ層上面でピット、溝状遺構が検出されたが、いずれも出土遺物はなく、詳細な時期及び機能の特定は困難である。遺物は、第Ⅳ層で滑石片及び土製品、第Ⅴ層で角錐状石器が出土した。

一方、調査区 B・C では層の堆積が良好ではなく、遺構及び遺物は認められなかった。

出土遺物 調査区 A の第 V 層上部より出土した角錐 状石器を図化掲載した。なお、調査区周辺では、打製石 斧や剥片、弥生土器片等が採集されている。

角錐状石器 (第195図)

後期旧石器時代の石器である。最大長 7.4cm、最大幅 2.0cm、最大厚 1.4cm の珪質頁岩製で、重量は 17.8g を量る。断面形は、三角形を呈しており、右側面に加工を施している。裏面基部に大きな剥離が見られる。右側縁上部に細かい調整が施され、右側面に裏面からの剥離と稜上からの剥離が見られる。外形は概ね左右対称である。先端部は欠損している。

3 まとめ

後期旧石器時代の遺物として第V層上部(暗褐色土)で角錐状石器が出土したが、遺構は検出されなかった。この角錐状石器は、様々な形態から船底形石器、三稜尖頭器などのいくつかの分類名称が与えられていた。最近の研究により、森先一貴氏は、角錐状石器の技術的形態的多様性を確認し、その特徴から角錐状石器を(1)角錐状尖頭器(2)複刃厚形削器(3)厚形石錐の3つに分類しているが、この分類に本遺跡の角錐状石器を当てはめると、左右対称形、正面観・側面観とも一端が尖鋭化しており、刺突機能が推定されるなどの特徴に当てはまる「角錐状尖頭器」に分類される。

日向市における角錐状石器の出土例は、寺ノ上遺跡で 流紋岩製が2点、市町村合併により日向市となった旧 東郷町の八ッ山遺跡で頁岩製が1点出土している。日向 市にも数多くの遺跡が所在するが、角錐状石器の出土例 は少ないことから、本遺跡の角錐状石器は貴重な出土例 となった。

層位	土	層の特徴
第I層	黒褐色土 (Hue10YR2/2)	表土。しまりはなく、 ボロボロと崩れやすい。 北側ほど礫を多く含む。
第Ⅱ層	黒色土 (Hue10YR2/1)	ややしまりがあり、弱い 粘性をもつ。第 I 層同 様北側は礫を多く含む。
第Ⅲ層	鬼界アカホヤ火山灰 (Hue7.5YR6/8)	しまりがあり、下部に は橙色粒を含む。
第IV層	黒色土 (Hue10YR2/1)	しまりがあり、粘性をも つ。やや湿り気がある。 砂質層
第V層	暗褐色土 (Hue10YR3/1)	しまりがあり、粘性をも つ。角錐状石器が出土。
第VI層	にぶい黄褐色土 (Hue10YR4/3)	しまりがあり、強い粘 性をもつ。白色粒子を 含む。
第V層	(Hue10YR2/1) 暗褐色土 (Hue10YR3/1) にぶい黄褐色土	つ。やや湿り気があ 砂質層 しまりがあり、粘性を つ。角錐状石器が出」 しまりがあり、強い 性をもつ。白色粒子 含む。

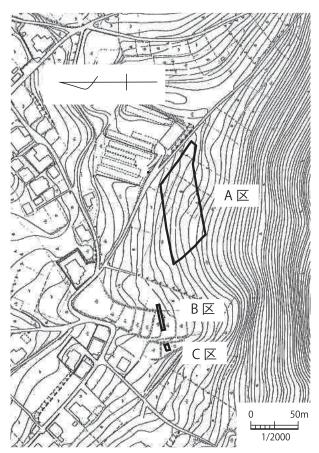
基本土層

本遺跡の角錐状石器を観察すると、わずかに先端部分が欠損しているが、欠損の状況から製作段階ではなく、使用段階に欠損した可能性がある。このような状況と周辺から剥片類の出土が認められないことを考慮すると、出土した角錐状石器は異なった場所で製作された後、本遺跡で使用され、再生されることなく遺棄されたものであると考えられる。そのような使用方法としては狩猟が考えられ、本遺跡は狩猟場として利用されていた可能性が高い。また1kmほど南の秋留遺跡からも槍先と考えられる剥片尖頭器が採集されており、周辺一帯に旧石器時代の人々の活動がうかがえる。その点では単独出土ではあるが貴重なものであると言える。 (土屋)

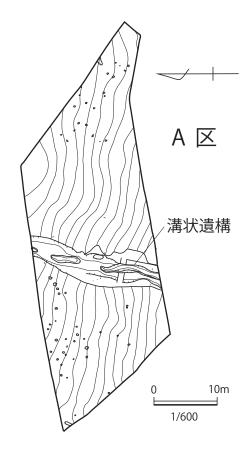
【参考文献】

宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第132集『東九州自動車道(門川〜 日向間)関連埋蔵文化財発掘調査概要報告書I』2006

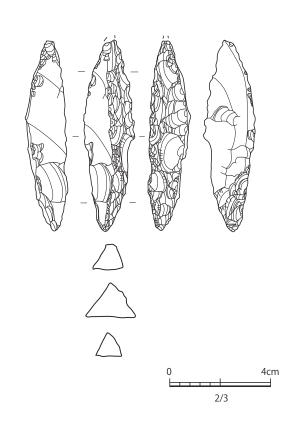
宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第139集『分蔵遺跡』2006 宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第176集『板平遺跡』2008 森先一貴「角錐状石器の広域展開と地域間異変」旧石器研究第3号2007



第195図 池ノ下遺跡 全体図



第196図 調査区A 平面図



第197図 角錐状石器 実測図

補記 コスト縮減に伴う未調査箇所について

東九州自動車道(門川〜日向間)には、7か所の 遺跡が確認されている。これまでにそのほとんどは 記録保存の措置(発掘調査)等を終えているが、遺 跡の一部が、暫定2車線化に伴うコスト縮減または その他の事情により、記録保存の措置を執らずに残 されている箇所が数箇所ある。将来の4車線化に備 えて以下に記述しておく。

分蔵遺跡 (門川町大字門川尾末)

いわゆる限定協議の結果、橋脚部分のみの発掘調査を行った。したがって、橋脚以外の用地内には遺物包含層が残存している。

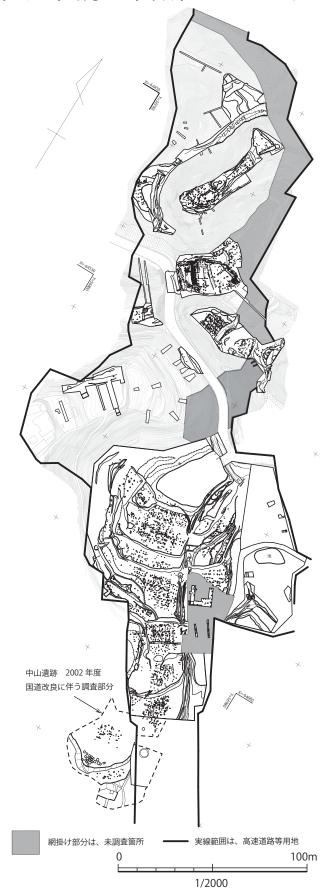
塩見城跡・中山遺跡(日向市大字塩見 第198図) この2遺跡は、本文中に記述してあるように、中世「塩見城」の城域の中にある。このうち塩見城跡(図中北半部分)は、本来4車線の高速道路が暫定2車線での開通となることから、東側のコスト縮減部分(網掛け部分)の調査を留保している。

また、中山遺跡(図中南半部分)は、オープンカットに伴う4車線幅での発掘調査中に工事の設計変更が行われ、コスト縮減により約850㎡の調査が留保された。前者には空堀、帯曲輪、曲輪等が残存し、後者には道路状遺構、曲輪及びその中に多数のピット(柱穴)が残存している。ともに将来の4車線化時には記録保存の措置が必要となる。

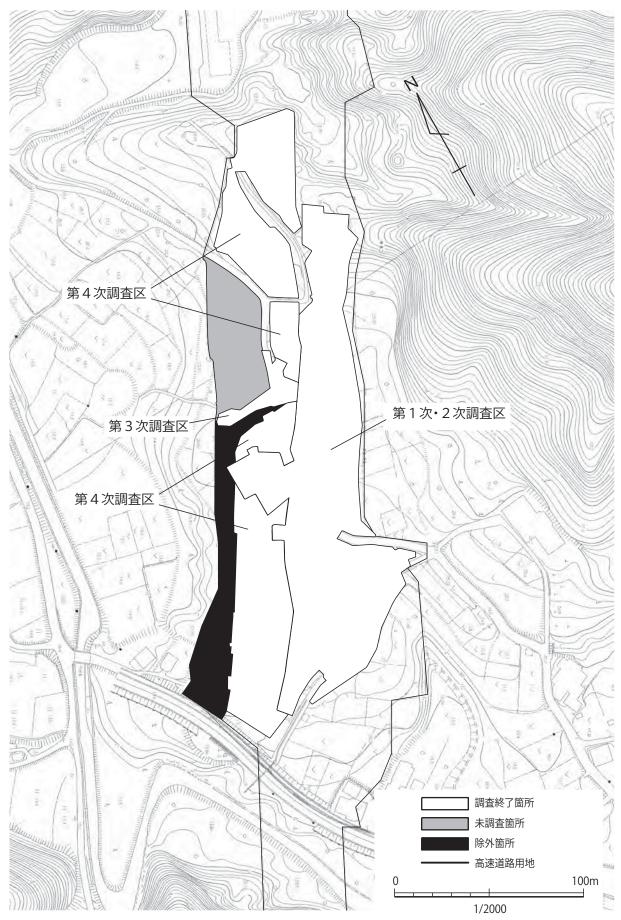
板平遺跡(日向市大字富高 第199図)

板平遺跡は、当初、暫定2車線部分及び側道部分の調査となっていた。その後、側道部分の計画変更や舗装工事に伴うソイルプラント及び材料ストックヤードの建設等追加調査が実施され、4車線幅のほとんどが調査された。ただし、側道の変更に伴う未調査か所(図中薄い網掛け部分)が一部残存している。将来、当初設計通りの側道施工や4車線化が実施される際は、記録保存の措置が必要となる。

なお、この第 199 図は、当センター刊行の発掘 調査報告書第 1 9 9 集『板平遺跡 (第 3・4 次調査)』 の第 2 図に誤謬があったため、加筆訂正したもので ある。



第 198 図 塩見城跡 未調査箇所



第199図 板平遺跡 未調査箇所



塩見城から冠岳方面を望む (2006年11月)



西側曲輪群の俯瞰 (2008年8月)

西側曲輪群の調査(1)



段状に連なる曲輪群 (曲輪 A1-A3)



曲輪 A1 の土層堆積 (北から)



曲輪 A1 検出の巨礫群と柱穴 (南から)

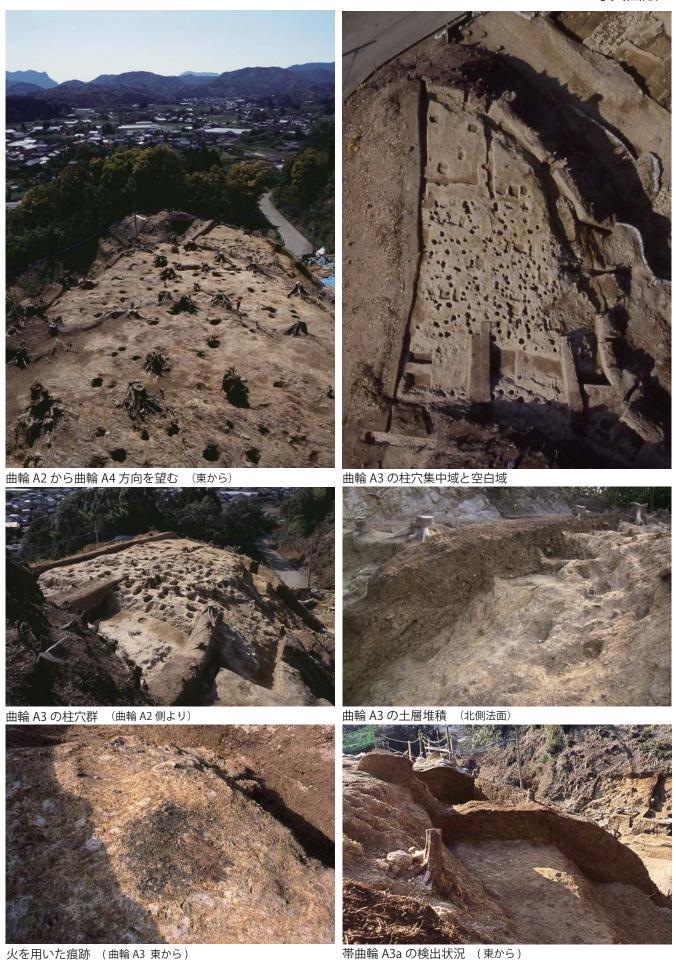


堀切 A1 の土層堆積 (南から)



曲輪 A1 に到る通路面 (南から)

西側曲輪群の調査(2)



西側曲輪群の調査(3)



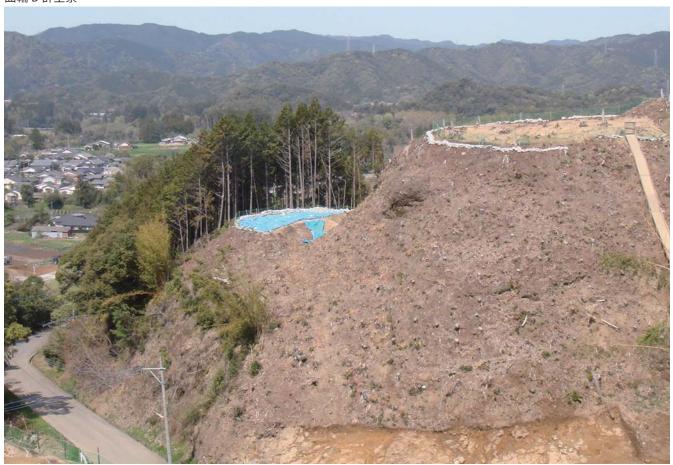
-330-



西側曲輪群の調査(5)



曲輪 B 群全景



曲輪 B3 と曲輪 B4 の位置関係 (水の手曲輪から)

西側曲輪群の調査 (6)



西側曲輪群の調査 (7)



西側曲輪群の調査 (8)

堀切 C1 の土層堆積状況 (南から)

竪堀 C1a の完掘状況 (北から)



西側曲輪群の調査 (9)



2号溝状遺構と2号石積遺構の位置関係 (西から)



木杭の上に堆積する焼土・炭化物層 (窪地状遺構 | 区)



窪地状遺構内の土層堆積状況 (|区)



窪地状遺構内の土層堆積状況 (| 区東端)



「やえん」を用いた排土の運搬 (2008年2月)

西側曲輪群の調査 (10)



2 号石積遺構 (SS2) 全景 (東から)



SS2 全面の土層堆積状況 (西から)



SS2 石積み東端部と木杭列 (西から)



SS2 石積み中央部分の状況 (南から)



SS2 の胴木施設 (南から)

西側曲輪群の調査 (11)



SE2 内出土の木製桶 (943-945)

現地説明会の様子 (南側曲輪群:2006年2月)

西側曲輪群の調査 (12)



木枠併用の石組井戸 (SF1-a 期)



台形状の石敷(畳)部をもつ井戸 (SF1-b期)*#戸枠はC期の井戸枠も含まれている。

西側曲輪群の調査 (13)



水の手曲輪 (第 V 期面) と曲輪 A 群 (西から)



曲輪 B3 からみた水の手曲輪 (第V期面)

西側曲輪群の調査 (14)



1号石積遺構 (SS1) の石積み部 (東から)



SS1 とその周辺 (東から)

西側曲輪群の調査 (15)



平面構造



立面構造 (1号堀より)



立面構造 (2号堀より)

SS1 のオルソ画像

西側曲輪群の調査 (16)